

深谷市民まちづくりアンケート

調査報告書

令和8年8月

深谷市

目次

1. I. アンケート調査結果の概要.....	2
1. アンケート調査の実施方法.....	2
2. アンケート調査結果の信頼度.....	3
3. アンケート調査結果の概要.....	4
4. 市全体、地区別の調査結果の分析.....	8
2. II. アンケート調査結果の詳細.....	18
1. 回答者属性.....	18
2. 深谷市のまちづくりについて.....	20
3. 深谷市の施策について.....	155
4. 自由記入欄（まちづくり全般について）.....	179
3. III. アンケート調査結果の単純集計結果.....	186
1. 深谷市のまちづくりについて.....	186
2. 深谷市の施策について.....	190
3. 自由記入欄（まちづくり全般について）.....	194
4. 最後に、あなた自身のことについておたずねします。.....	194

1. I. アンケート調査結果の概要

1. アンケート調査の実施方法

(1) 目的

「第2次深谷市総合計画・前期基本計画」に基づき、施策を推進するにあたり、「深谷市民まちづくりアンケート」を実施することで、今後のまちづくりの参考にするための、現在の深谷市の姿および市民の意向や市民ニーズを把握することを目的としています。

(2) アンケートの方法

- ①調査対象：深谷市に居住する18歳以上の市民2,000人を住民基本台帳から無作為抽出しました。
- ②調査方法：アンケート票を郵送により配布・回収しました。
- ③調査期間：令和8年5月1日から同年5月15日に実施しました。

注意：

- ◆ 図表の数値は回答率を表しています。
- ◆ 図表の数値は小数点第1位未満を四捨五入しており、合計が100%にならない場合があります。
- ◆ 複数回答の設問では、合計が100%を超える場合があります。
- ◆ 「Ⅲ-2 深谷市の施策」について
 - ・ 重要度：「重要である」2点、「まあ重要である」1点、「あまり重要でない」-1点、「まったく重要でない」-2点と重要度に応じて得点を設定し、この得点に各々の回答者数を乗じて総得点を算出した上、その総得点を「わからない」「無回答」を除いた回答者数で除した数値です。数値が大きいほど重要度が高く、小さいほど重要度が低いことを表します。
 - ・ 満足度：「満足である」2点、「まあ満足である」1点、「やや不満である」-1点、「不満である」-2点と満足度に応じて得点を設定し、重要度と同様に算出した数値です。数値が大きいほど満足度が高く、小さいほど満足度が低いことを表します。
- ◆ 調査報告書上の重要度・満足度の値、およびその時系列比較の結果は、小数点第3位を四捨五入した値を記載していますが、時系列比較の計算過程においては、四捨五入を行う前の値を使用しているため、紙面上の計算結果と異なる場合があります。

2. アンケート調査結果の信頼度

無作為抽出によるアンケート調査実施にあたり、一般的に統計資料として信頼できる調査結果（信頼度±95%）を確保するために必要な回収票数を、以下の計算式により算出しました。各記号の説明および設定値は下表のとおりです。

・ 計算式

$$n = \frac{N}{\left(\frac{\varepsilon}{K(\alpha)}\right)^2 \times \frac{N-1}{P(1-P)} + 1}$$

・ 各記号の説明と設定値

記号	説明	設定値
n	必要なサンプル数	
N	母数	令和8年4月1日時点の住民基本台帳人口（18歳以上）の総数（121,174人）とする
ε	信頼度の誤差範囲	±5%とする
K(α)	信頼度に基づく定数（※）	信頼度95%設定により、1.96とする
P	母比率	安全性の確保を考慮し、50%と設定する

以上より、必要な回収票数は以下のように算出され、

$$n = \frac{121,174}{\left(\frac{0.05}{1.96}\right)^2 \times \frac{121,174-1}{0.5 \times (1-0.5)} + 1} \approx 383$$

深谷市においては、383票回収すれば信頼度95%±5%の調査結果を得ることができることが分かります。

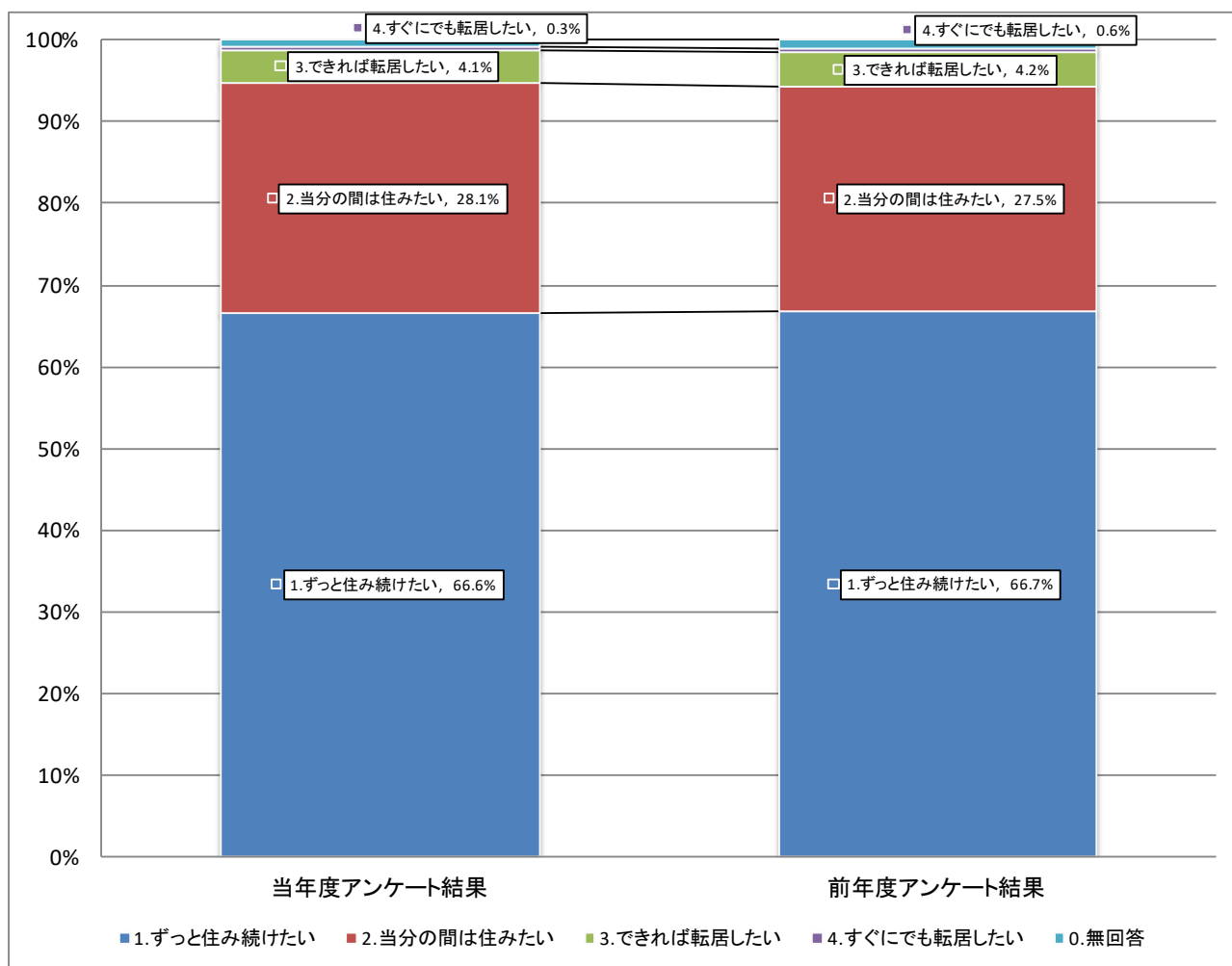
今回の調査では900票の有効回答が回収されたため、調査結果は統計的に信頼できるものと考えられます。

3. アンケート調査結果の概要

(1) 「深谷市民まちづくりアンケート」について

後期基本計画に基づき、施策を推進するにあたり、市民の市の施策に対する重要度、満足度などを把握するために、令和8年5月1日から同年5月15日までの期間にアンケート調査を実施しました。アンケート調査の対象は無作為に抽出した深谷市在住の満18歳以上の男女2,000人であり、アンケート票の有効回答数は、900人（45.0%）でした。

(2) 深谷市への定住意識について

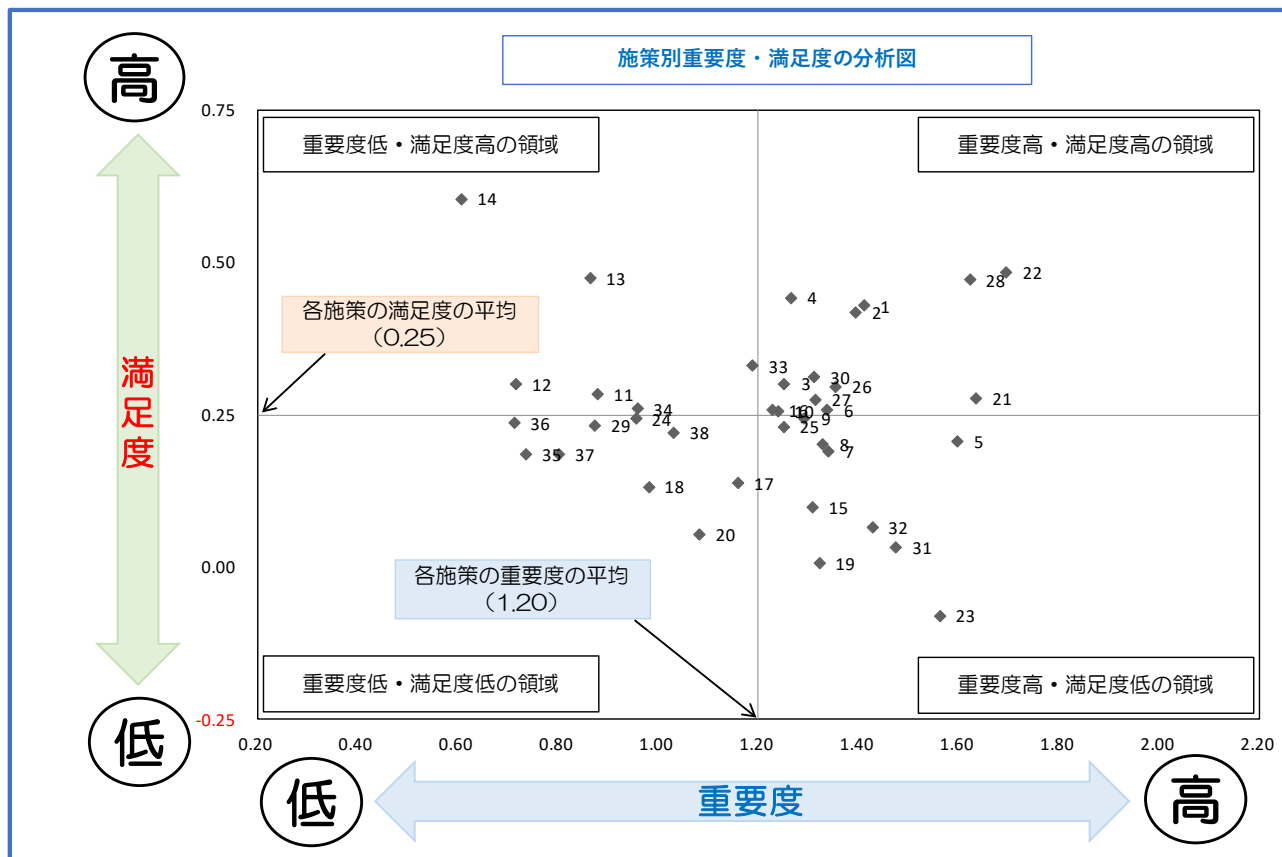


「ずっと住み続けたい」と回答した人の割合は 66.6%、「当分の間は住みたい」と回答した人の割合は 28.1%となっています。合計は 94.7%と 9 割を超えており、前年度に引き続き、深谷市民の定住意識が高いことがうかがえます。

(3) 深谷市の施策の重要度・満足度について

深谷市が実施している施策について、重要度・満足度に関する調査を行いました。

① 施策別重要度・満足度の分布状況



【重要度・満足度マトリックス表】

<重要度低・満足度高>		<重要度高・満足度高>	
11	生涯学習の推進	1	子育て支援の充実
12	スポーツ・レクリエーションの推進	2	保育環境の充実
13	郷土の歴史・文化の継承と活用	3	青少年の健全育成の推進
14	渋沢栄一の顕彰と精神の継承	4	健康づくりの推進
33	人権・個性が尊重される社会づくりの推進	6	地域福祉の推進
34	男女共同参画の実現	10	家庭・地域・学校の連携と協働による教育力の向上
		16	農畜産物の販売流通体制の充実
		21	災害に強い防災体制の推進
		22	消防・救急体制の充実
		26	環境衛生の推進
		27	良好な市街地・住環境形成の推進
		28	水の安定供給と下水処理の適正化
		30	治水対策の推進
<重要度低・満足度低>		<重要度高・満足度低>	
17	商工業の振興	5	地域医療体制の充実
18	観光資源の整備と活用	7	高齢者福祉の推進
20	産業価値の創出	8	障害者福祉の推進
24	地域コミュニティの推進	9	「生きる力」を育む学校教育の推進
29	地域の特色を生かした魅力ある景観形成	15	農地の保全・活用と安定した農業経営の支援
35	移住・定住の推進	19	就労環境の整備
36	市民との協働・交流の推進	23	防犯・空き家対策の推進
37	行政デジタル化の推進	25	自然・生活環境の保全
38	行財政運営の推進	31	道路・交通環境整備の推進
		32	公共交通の維持確保と交通安全の推進

全施策における重要度・満足度の平均値を基準とし、重要度・満足度を＜重要度高・満足度高＞、＜重要度高・満足度低＞、＜重要度低・満足度高＞、＜重要度低・満足度低＞の4つに分類し、各施策の重要度および満足度の現状値を相対的に評価しました。

＜重要度高・満足度高＞

重要度が高く、満足度も高い領域には「1. 子育て支援の充実」、「2. 保育環境の充実」、「3. 青少年の健全育成の推進」、「4. 健康づくりの推進」、「6. 地域福祉の推進」、「10. 家庭・地域・学校の連携と協働による教育力の向上」、「16. 農畜産物の販売流通体制の充実」、「21. 災害に強い防災体制の推進」、「22. 消防・救急体制の充実」、「26. 環境衛生の推進」、「27. 良好な市街地・住環境形成の推進」、「28. 水の安定供給と下水処理の適正化」、「30. 治水対策の推進」の13施策が該当します。

この領域にある施策は、他の施策と比較し、市民ニーズに即していることがうかがえ、今後も引き続き重点施策として位置づけ、取り組んでいく必要がある施策といえます。

＜重要度高・満足度低＞

重要度が高く、満足度が低い領域には、「5. 地域医療体制の充実」、「7. 高齢者福祉の推進」、「8. 障害者福祉の推進」、「9. 「生きる力」を育む学校教育の推進」、「15. 農地の保全・活用と安定した農業経営の支援」、「19. 就労環境の整備」、「23. 防犯・空き家対策の推進」、「25. 自然・生活環境の保全」、「31. 道路・交通環境整備の推進」、「32. 公共交通の維持確保と交通安全の推進」の10施策が該当します。

この領域にある施策は、他の施策と比較し、市民ニーズがあるにもかかわらず、行政としてその期待に応えられていないことがうかがえます。これらの施策については、施策のあり方を見直す必要性が高い施策であるといえます。

＜重要度低・満足度高＞

重要度が低く、満足度が高い領域には、「11. 生涯学習の推進」、「12. スポーツ・レクリエーションの推進」、「13. 郷土の歴史・文化の継承と活用」、「14. 渋沢栄一の顕彰と精神の継承」、「33. 人権・個性が尊重される社会づくりの推進」、「34. 男女共同参画の実現」の6施策が該当します。

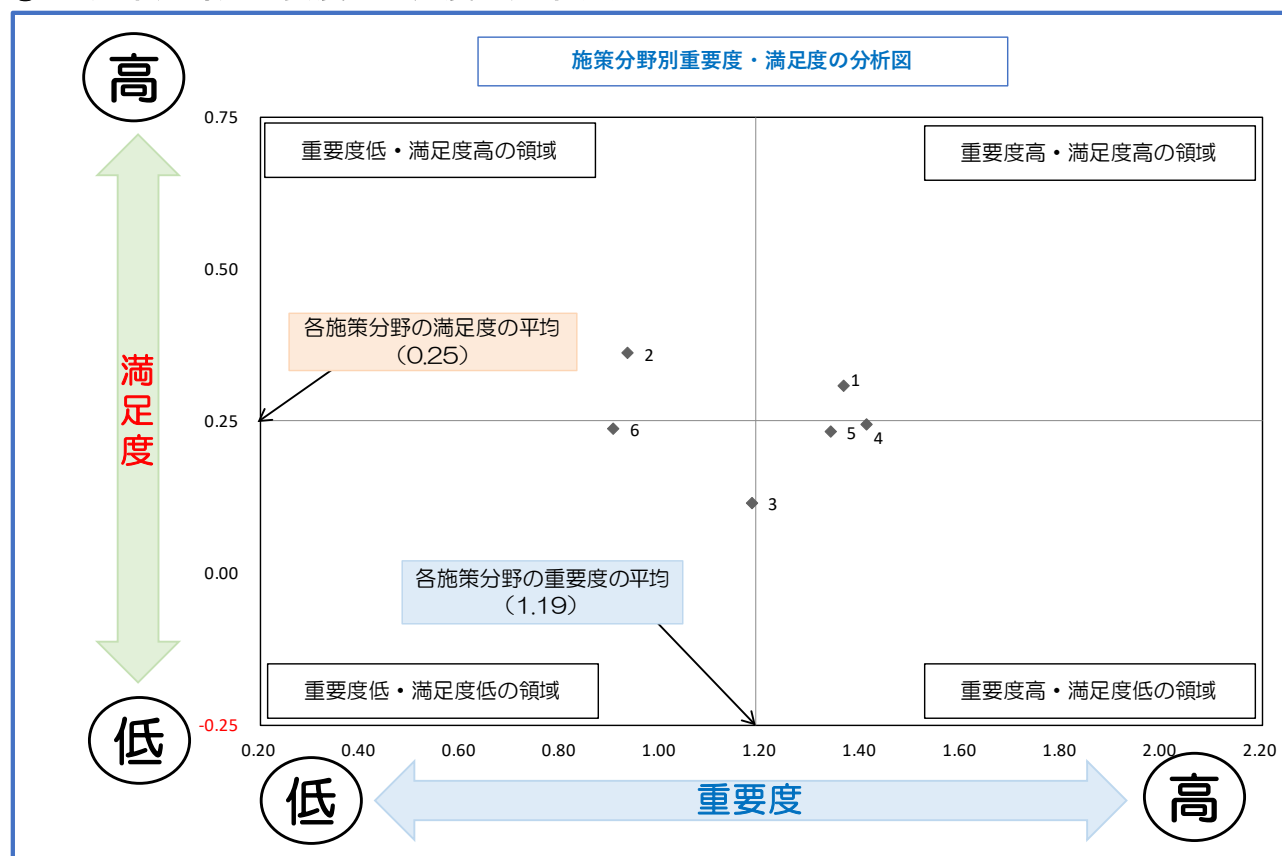
この領域にある施策は、他の施策と比較し、市民ニーズを上回る行政サービスを提供している可能性もあり、行政サービスの提供が過剰となっていないか確認する必要があります。

＜重要度低・満足度低＞

重要度が低く、満足度も低い領域には、「17. 商工業の振興」、「18. 観光資源の整備と活用」、「20. 産業価値の創出」、「24. 地域コミュニティの推進」、「29. 地域の特色を生かした魅力ある景観形成」、「35. 移住・定住の推進」、「36. 市民との協働・交流の推進」、「37. 行政デジタル化の推進」、「38. 行財政運営の推進」の9施策が該当します。

この領域にある施策は、他の施策と比較し、住民の関心度が低い施策であり、そもそも行政で対応すべきであるのかについて検討する必要があります。

② 施策分野別重要度・満足度の分布状況



【重要度・満足度マトリックス表】

	＜重要度低・満足度高＞		＜重要度高・満足度高＞
2	教育・文化	1	子育て・保健・福祉
	＜重要度低・満足度低＞		＜重要度高・満足度低＞
3	産業振興	4	暮らし・環境
6	協働・行政経営	5	都市・生活基礎

全施策分野における重要度・満足度の平均値を基準とし、重要度・満足度を＜重要度高・満足度高＞、＜重要度高・満足度低＞、＜重要度低・満足度高＞、＜重要度低・満足度低＞の4つに分類し、各施策分野の重要度および満足度の現状値を相対的に評価しました。

＜重要度高・満足度高＞に分類される施策分野は、「1. 子育て・保健・福祉」の1分野であり、＜重要度高・満足度低＞に分類される施策分野は、「4. 暮らし・環境」、「5. 都市・生活基礎」の2分野となっています。

また、＜重要度低・満足度高＞に分類される施策分野は、「2. 教育・文化」の1分野であり、＜重要度低・満足度低＞に分類される施策分野は、「3. 産業振興」、「6. 協働・行政経営」の2分野となっています。

今年度のアンケートで＜重要度高・満足度低＞に分類された、「4. 暮らし・環境」、「5. 都市・生活基礎」は、他の施策分野と比較し、市民ニーズがあるにもかかわらず、行政としてその期待に応えられていないことがうかがえます。この領域の施策分野については、施策分野のあり方を見直す必要性が高い施策分野であるといえます。

4. 市全体、地区別の調査結果の分析

アンケート調査の結果を分析し、その分析結果を市全体、地区ごとに分類すると、以下のとおりです。

(1) 調査からわかったこと（市全体）

➤ 市への定住意識

- ・「令和 7 年度深谷市民まちづくりアンケート（以下、「前年度アンケート」）」の結果から大きな変化は見られず、高い割合を維持しています。
- ・これからも深谷市に「ずっと住み続けたい」と回答した人の割合と「当分の間は住みたい」と回答した人の割合の合計は、ほとんどの地区で 9 割前後と高い数値であり、現時点において、深谷市外に転居を希望している人は少数であることがうかがえます。

➤ 子育て・保健・福祉について

- ・地域で子どもを育む活動に「参加している」または「ときどき参加している」と回答した人の割合の合計は約 2 割であり、「前年度アンケート」の結果と比較してわずかに減少しています。年齢によって差があることがうかがえます。
- ・小学生以下（小学校 6 年生まで）のお子さんを持つ保護者の方で、仕事と子育てを「両立できていると思う」または「ある程度は両立できていると思う」と回答した人の割合の合計は約 7 割であり、「前年度アンケート」の結果と比較してほぼ変化はありませんでした。
- ・中学生以下（中学校 3 年生まで）のお子さんを持つ保護者の方で、深谷市が子育てのしやすいまちだと「たいへんそう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合の合計は約 9 割であり、「前年度アンケート」の結果と比較してわずかに増加しています。
- ・普段の生活で健康づくり（運動や歩くことなど）に「日常的に取り組んでいる」または「ときどき取り組んでいる」と回答した人の割合の合計は約 6 割であり、「前年度アンケート」の結果と比較してわずかに増加しています。
- ・定期的に健康診断や人間ドック、がん検診のいずれかを「受けている」と回答した人の割合は約 8 割であり、「前年度アンケート」の結果と比較してほぼ変化はありませんでした。
- ・かかりつけのお医者さんが「いる」と回答した人の割合は約 8 割であり、「前年度アンケート」の結果と比較してわずかに減少しています。年齢によって差があることがうかがえます。

- ・健康的な食生活に「日常的に気をつけている」または「ときどき気をつけている」と回答した人の割合の合計は約 8 割であり、「前年度アンケート」の結果と比較してわずかに増加しています。
- ・悩みごとを相談できる人（家族や友人など）が「いる」と回答した人の割合は約 9 割であり、「前年度アンケート」の結果と比較してわずかに減少しています。男女や、年齢（男性）によって差があることがうかがえます。
- ・日常生活で困ったことがあった時に、手助けしてくれる人（民生委員・児童委員や自治会など）が「いる」と回答した人の割合は約 4 割であり、「前年度アンケート」の結果と比較して減少しています。男女や、地区によって差があることがうかがえます。

➤ 教育・文化について

- ・生涯学習（自発的な学習、自己啓発活動など）を「日常的に実践している」または「ときどき実践している」と回答した人の割合の合計は約 3 割であり、「前年度アンケート」の結果と比較してわずかに減少しています。
- ・この 1 年間に芸術文化や多様な文化活動に親しむ機会が「たいへんあった」または「ある程度はあった」と回答した人の割合の合計は 3 割であり、「前年度アンケート」の結果と比較して減少しています。男女によって差があることがうかがえます。
- ・スポーツやレクリエーション活動を「日常的に行っている」または「ときどき行っている」と回答した人の割合の合計は約 5 割であり、「前年度アンケート」の結果と比較して減少しています。地区によって差があることがうかがえます。

➤ 産業振興について

- ・市外の店舗で深谷産の農畜産物の販売を「よく目にする」または「たまに目にする」と回答した人の割合の合計は約 7 割であり、「前年度アンケート」の結果と比較して増加しています。男女によって差があることがうかがえます。
- ・食材等の購入の際に、深谷産の農畜産物を購入することを「いつも心掛けている」または「たまに心掛けている」と回答した人の割合の合計は 6 割であり、「前年度アンケート」の結果と比較してわずかに減少しています。男女や、年齢によって差があることがうかがえます。
- ・ご自身またはご家族の仕事と生活は「とてもバランスが取れている」または「ややバランスが取れている」と回答した人の割合の合計は 7 割であり、「前年度アンケート」の結果と比較して減少しています。

➤ 暮らし・環境について

- ・ハザードマップで自宅等の災害の危険性（自宅等の浸水想定が地震時の揺れやすさなど）について「確認した」と回答した人の割合は約 6 割であり、「前年度アンケート」の結果と比較して減少しています。
- ・ご自宅に災害に対する備え（備蓄品など）が「十分ある」または「ある程度はある」と回答した人の割合の合計は約 5 割であり、「前年度アンケート」の結果と比較してわずかに増加しています。
- ・この 1 年間で消費者トラブルに巻き込まれたことが「ある」と回答した人の割合は 1 割未満であり、「前年度アンケート」の結果と比較してわずかに減少しています。
- ・日ごろ、防犯対策を「十分行っている」または「ある程度は行っている」と回答した人の割合の合計は約 6 割であり、「前年度アンケート」の結果と比較して増加しています。地区によって差があることがうかがえます。
- ・地域活動（自治会での活動など）へ「日常的に参加している」または「ときどき参加している」と回答した人の割合の合計は約 4 割であり、「前年度アンケート」の結果と比較してほぼ変化はありませんでした。年齢や、地区によって差があることがうかがえます。
- ・環境に配慮した取組（省エネ（節電を含みます）、自然や川の保全活動など）を「日常的に行っている」または「ときどき行っている」と回答した人の割合の合計は約 6 割であり、「前年度アンケート」の結果と比較して減少しています。男女や、地区によって差があることがうかがえます。
- ・環境問題（地球温暖化問題、エネルギー問題、生態系の問題など）を「以前より意識するようになった」と回答した人の割合は 5 割であり、「前年度アンケート」の結果と比較してわずかに減少しています。年齢によって差があることがうかがえます。
- ・普段からごみの減量化やリサイクルを「いつも心がけている」または「ある程度は心がけている」と回答した人の割合の合計は約 9 割であり、「前年度アンケート」の結果と比較してほぼ変化はありませんでした。年齢によって差があることがうかがえます。

➤ 都市・生活基盤について

- ・市内の住宅、商業、工業、農業、自然などの土地利用において、相互に調和が「たいへんとれている」または「ある程度はとれている」と回答した人の割合の合計は約 6 割であり、「前年度アンケート」の結果と比較して増加しています。男女や、地区によって差があることがうかがえます。

- ・ お住まい周辺の住環境に「とても満足している」または「やや満足している」と回答した人の割合の合計は約 7 割であり、「前年度アンケート」の結果と比較してほぼ変化はありませんでした。地区によって差があることがうかがえます。
- ・ あなたの身近に、自然に親しむことができる環境が「たいへんある」または「ある程度はある」と回答した人の割合の合計は約 8 割であり、「前年度アンケート」の結果と比較してわずかに減少しています。
- ・ 市内に魅力的なまち並みや景観が「たいへんある」または「ある程度はある」と回答した人の割合の合計は 5 割であり、「前年度アンケート」の結果と比較して減少しています。男女や、年齢（男性）によって差があることがうかがえます。
- ・ 水害に対して安心した生活を送ることが「たいへんできている」または「ある程度はできている」と回答した人の割合の合計は約 8 割であり、「前年度アンケート」の結果と比較してわずかに増加しています。地区によって差があることがうかがえます。
- ・ 市内の道路を普段利用する際に、特に不便を「感じない」または「あまり感じない」と回答した人の割合の合計は約 5 割であり、「前年度アンケート」の結果と比較して増加しています。年齢によって差があることがうかがえます。
- ・ 市内の公共交通機関の利便性（時間・本数・路線・サービス）に不便を「感じない」または「あまり感じない」と回答した人の割合の合計は約 5 割であり、「前年度アンケート」の結果と比較してほぼ変化はありませんでした。年齢や、地区によって差があることがうかがえます。

➤ 協働・行政経営について

- ・ 深谷市が人権と個性の尊重されているまちであると「たいへんそう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合の合計は約 7 割であり、「前年度アンケート」の結果と比較してわずかに増加しています。年齢（男性）によって差があることがうかがえます。
- ・ この 1 年間に自分の人権が侵害されたと思ったことが「ある」と回答した人の割合は約 1 割であり、「前年度アンケート」の結果と比較して増加しています。
- ・ お互いの人権について「日常的に意識している」または「ときどき意識している」と回答した人の割合の合計は 6 割であり、「前年度アンケート」の結果と比較してわずかに減少しています。

- ・市内で、外国人とのトラブルなどを「よく聞く」または「ときどき聞く」と回答した人の割合の合計は約 1 割であり、「前年度アンケート」の結果と比較してほぼ変化はありませんでした。
- ・性別に関係なく、家庭、地域、職場で対等な役割分担がされていると「たいへんそう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合の合計は約 6 割であり、「前年度アンケート」の結果と比較してわずかに増加しています。男女によって差があることがうかがえます。
- ・男女共同参画について「以前より意識するようになった」と回答した人の割合は約 2 割であり、「前年度アンケート」の結果と比較してほぼ変化はありませんでした。年齢によって差があることがうかがえます。
- ・配偶者などによる『電話、メール等の細かい監視』『生活費を渡さない』などの行為が「どんな場合でも暴力にあたると思う」または「暴力の場合とそうでない場合がある」と回答した人の割合の合計は約 8 割であり、「前年度アンケート」と比較してほぼ変化はありませんでした。地区によって差があることがうかがえます。
- ・市役所における窓口対応について「とても満足である」または「やや満足している」と回答した人の割合の合計は約 9 割であり、「前年度アンケート」と比較してほぼ変化はありませんでした。
- ・市内において、市民と行政が互いに力を出し合い地域課題を解決すること（協働のまちづくり）ができていると「大変そう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合の合計は約 6 割であり、「前年度アンケート」と比較してわずかに増加しています。年齢（男性）によって差があることがうかがえます。
- ・市民ガーデニングボランティア、王国ボランティアを「知っている」と回答した人の割合は約 4 割であり、「前年度アンケート」の結果と比較してわずかに減少しています。男女や、年齢によって差があることがうかがえます。
- ・花と緑をいかしたまちづくり活動に「興味がある」と回答した人の割合は約 6 割であり、「前年度アンケート」と比較して減少しています。男女によって差があることがうかがえます。
- ・花と緑をいかしたまちづくり活動に「参加したい」と回答した人の割合は約 3 割であり、「前年度アンケート」と比較してほぼ変化はありませんでした。男女によって差があることがうかがえます。
- ・市のオンラインサービスを「利用したことがある」と回答した人の割合は約 4 割であり、「前年度アンケート」の結果と比較して増加しています。年齢によって差があることがうかがえます。

- ・『SDGs』という言葉が「よく理解している」または「聞いたことはある」と回答した人の割合の合計は約 9 割であり、「前年度アンケート」の結果と比較してわずかに減少しています。

（２）調査からわかったこと（地区別）

➤ 深谷地区

- ・ 日常生活で困ったことがあった時に、手助けしてくれる人（民生委員・児童委員や自治会など）がいる、と回答した人の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・ この 1 年間に芸術文化や多様な文化活動に親しむ機会があった、と回答した人の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・ 地域活動（自治会での活動など）へ参加している、と回答した人の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・ 環境に配慮した取組（省エネ（節電を含みます）、自然や川の保全活動など）を行っている、と回答した人の割合が相対的に低いことがうかがえます。

➤ 藤沢地区

- ・ 市内の住宅、商業、工業、農業、自然などの土地利用において、相互に調和がとれている、と回答した人の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・ あなたの身近に、自然に親しむことができる環境が「ある」、と回答した人の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・ 水害に対して安心した生活を送ることができている、と回答した人の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・ 市内の道路を普段利用する際に、特に不便を感じない、と回答した人の割合が相対的に低いことがうかがえます。

➤ 幡羅地区

- ・ かかりつけのお医者さんがいる、と回答した人の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・ あなたの身近に、自然に親しむことができる環境が「ある」、と回答した人の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・ 市内において、市民と行政が互いに力を出し合い地域課題を解決すること（協働のまちづくり）ができていると思う、と回答した人の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・ 市民ガーデニングボランティア、王国ボランティアを知っている、と回答した人の割合が相対的に低いことがうかがえます。

➤ 明戸地区

- ・ 日常生活で困ったことがあった時に、手助けしてくれる人（民生委員・児童委員や自治会など）がいる、と回答した人の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・ この 1 年間で消費者トラブルに巻き込まれたことがある、と回答した人の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・ 市内の住宅、商業、工業、農業、自然などの土地利用において、相互に調和がとれている、と回答した人の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・ 市内の公共交通機関の利便性（時間・本数・路線・サービス）に不便を感じない、と回答した人の割合が相対的に低いことがうかがえます。

➤ 大寄地区

- ・ 地域で子どもを育む活動に参加している、と回答した人の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・ この 1 年間に芸術文化や多様な文化活動に親しむ機会があった、と回答した人の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・ 環境に配慮した取組（省エネ（節電を含みます）、自然や川の保全活動など）を行っている、と回答した人の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・ 水害に対して安心した生活を送ることができている、と回答した人の割合が相対的に低いことがうかがえます。

➤ 八基地区

- ・この 1 年間に芸術文化や多様な文化活動に親しむ機会があった、と回答した人の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・スポーツやレクリエーション活動を行っている、と回答した人の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・地域活動（自治会での活動など）へ参加している、と回答した人の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・この 1 年間に自分の人権が侵害されたと思ったことがある、と回答した人の割合が相対的に高いことがうかがえます。

➤ 豊里地区

- ・生涯学習（自発的な学習、自己啓発活動など）を実践している、と回答した人の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・食材等の購入の際に、深谷産の農畜産物を購入することを心掛けている、と回答した人の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・ハザードマップで自宅等の災害の危険性（自宅等の浸水想定が地震時の揺れやすさなど）について確認した、と回答した人の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・環境問題（地球温暖化問題、エネルギー問題、生態系の問題など）を以前より意識するようになった、と回答した人の割合が相対的に高いことがうかがえます。

➤ 上柴地区

- ・かかりつけのお医者さんがいる、と回答した人の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・生涯学習（自発的な学習、自己啓発活動など）を実践している、と回答した人の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・市外の店舗で深谷産の農畜産物の販売を目にする、と回答した人の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・市のオンラインサービスを利用したことがある、と回答した人の割合が相対的に高いことがうかがえます。

➤ 南地区

- ・スポーツやレクリエーション活動を行っている、と回答した人の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・食材等の購入の際に、深谷産の農畜産物を購入することを心掛けている、と回答した人の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・ハザードマップで自宅等の災害の危険性（自宅等の浸水想定が地震時の揺れやすさなど）について確認した、と回答した人の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・市民ガーデニングボランティア、王国ボランティアを知っている、と回答した人の割合が相対的に高いことがうかがえます。

➤ 岡部地区

- ・地域で子どもを育む活動に参加している、と回答した人の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・ご自宅に災害に対する備え（備蓄品など）がある、と回答した人の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・環境問題（地球温暖化問題、エネルギー問題、生態系の問題など）を以前より意識するようになった、と回答した人の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・市内の道路を普段利用する際に、特に不便を感じない、と回答した人の割合が相対的に高いことがうかがえます。

➤ 川本地区

- ・地域で子どもを育む活動に参加している、と回答した人の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・市外の店舗で深谷産の農畜産物の販売を目にする、と回答した人の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・ご自宅に災害に対する備え（備蓄品など）がある、と回答した人の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・花と緑をいかしたまちづくり活動に参加したい、と回答した人の割合が相対的に高いことがうかがえます。

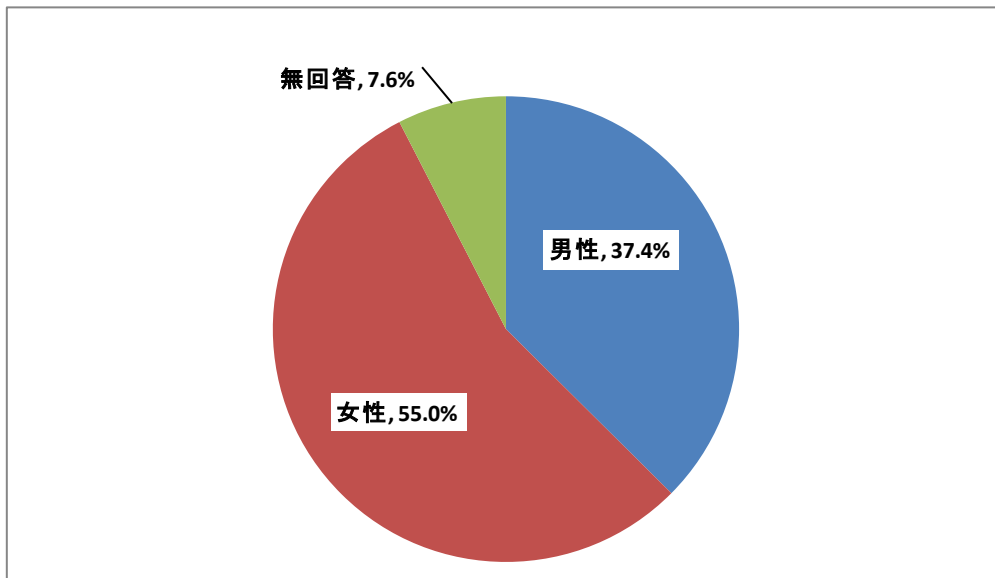
➤ 花園地区

- ・ 日常生活で困ったことがあった時に、手助けしてくれる人（民生委員・児童委員や自治会など）がいる、と回答した人の割合が相対的に高いことがうかがえます。
- ・ この 1 年間に芸術文化や多様な文化活動に親しむ機会があった、と回答した人の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・ 男女共同参画について以前より意識するようになった、と回答した人の割合が相対的に低いことがうかがえます。
- ・ 市のオンラインサービスを利用したことがある、と回答した人の割合が相対的に低いことがうかがえます。

2. II. アンケート調査結果の詳細

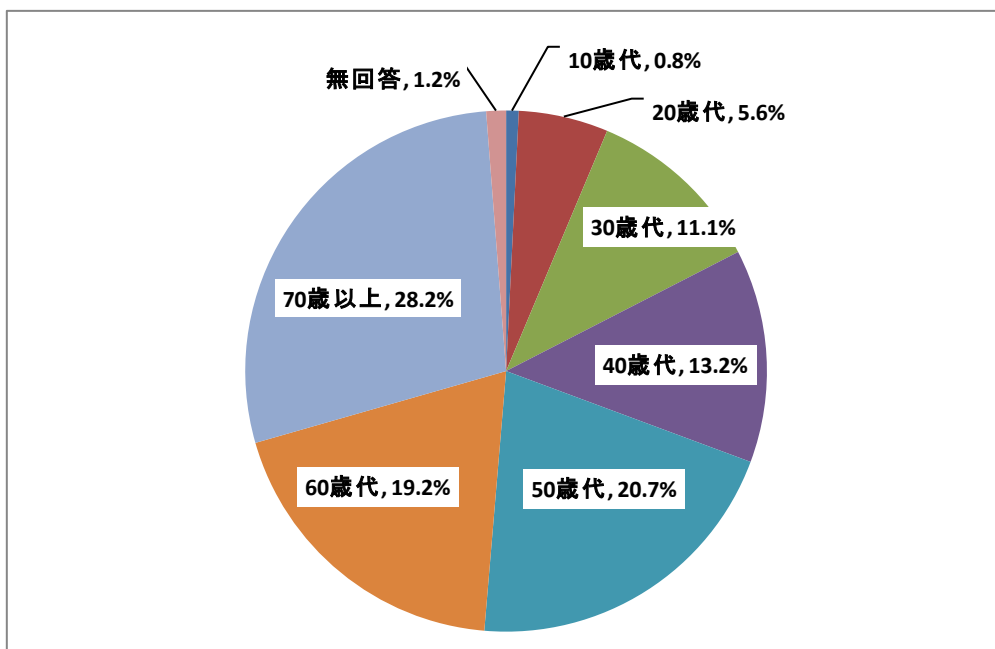
1. 回答者属性

(1) 性別



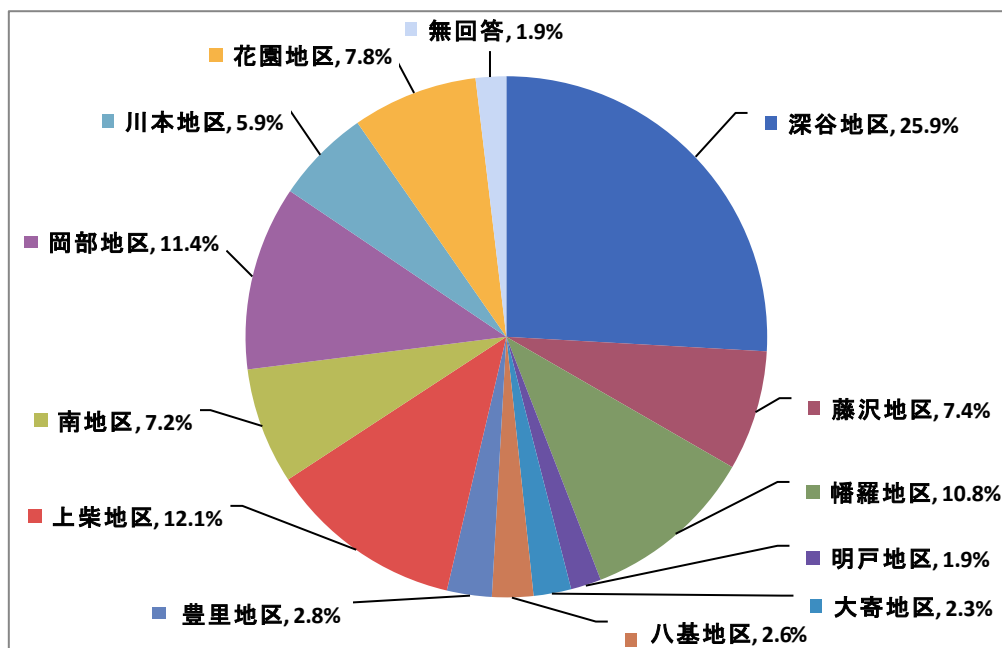
男性が 37.4%、女性が 55.0%と、回答者は女性の割合が多くなっています。

(2) 年齢



年齢では、70歳以上が最も多く、28.2%となっています。次いで、50歳代 20.7%、60歳代 19.2%、40歳代 13.2%となっており、最も少ないのは10歳代で 0.8%となっています。

(3) 居住地区

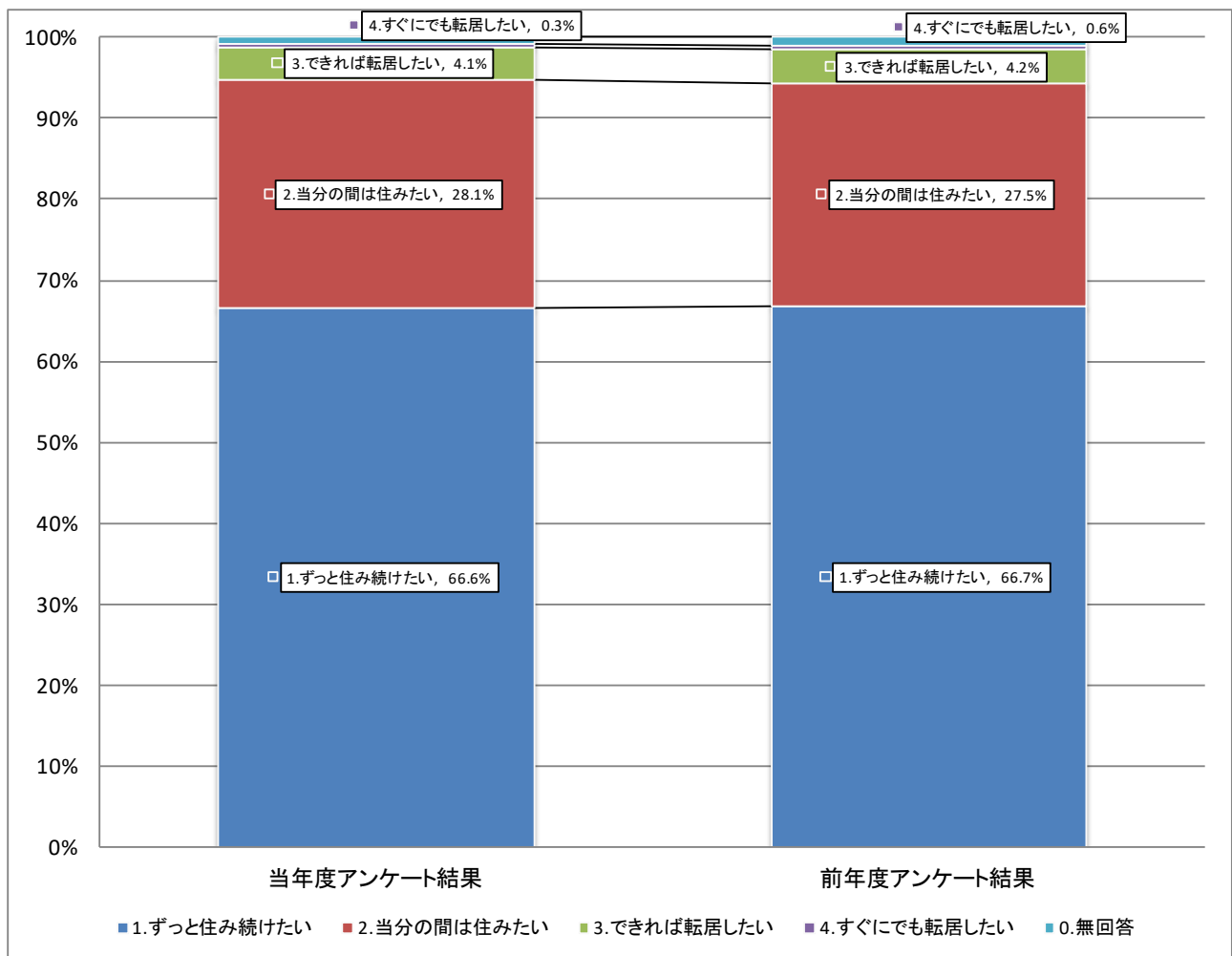


深谷地区が最も多く 25.9%となっています。次いで、上柴地区で 12.1%、岡部地区で 11.4%、幡羅地区で 10.8%となっています。最も少ないのは明戸地区であり、1.9%となっています。

2. 深谷市のまちづくりについて

(1) 深谷市のまち全体の印象について（1. 問1）

これからずっと深谷市に住み続けたいと思いますか。



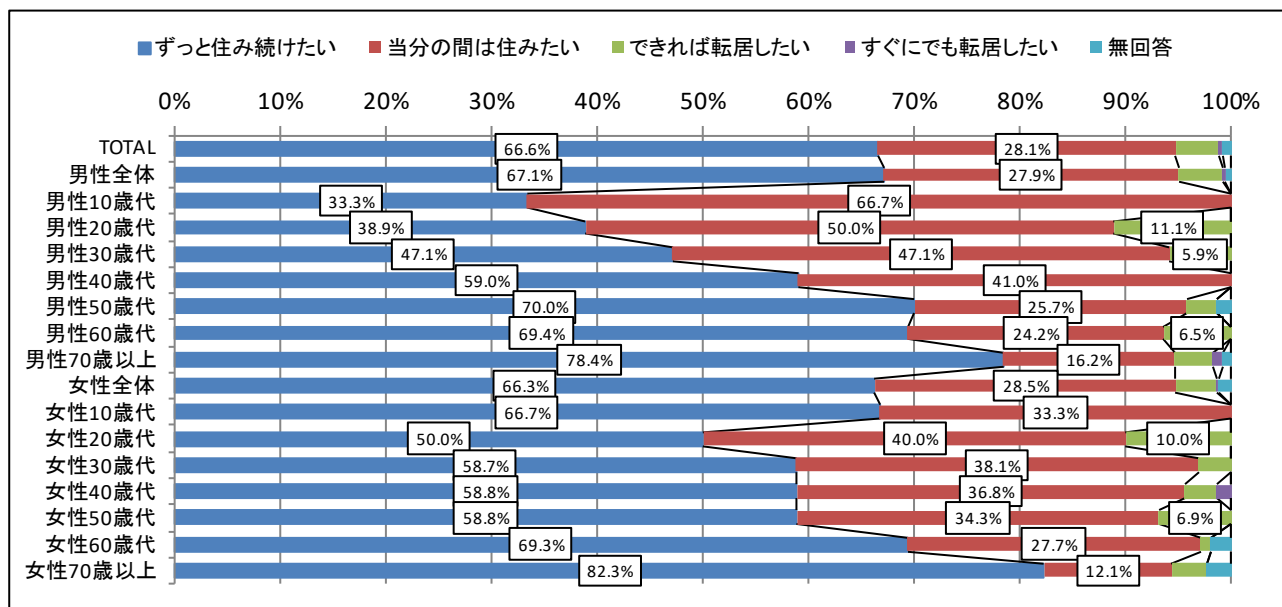
「ずっと住み続けたい」と回答した人の割合が 66.6%と最も多く、次いで「当分の間は住みたい」と回答した人の割合が 28.1%、「できれば転居したい」と回答した人の割合が 4.1%、「すぐにでも転居したい」と回答した人の割合が最も少なく 0.3%となっています。

「ずっと住み続けたい」または「当分の間は住みたい」と回答した人の割合の合計は 94.7%であり、9 割を超えていることから、深谷市民は定住意識が高いことがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「ずっと住み続けたい」または「当分の間は住みたい」と回答した人の割合の合計は 94.2%であり、「前年度アンケート」と比較してほぼ変化はありませんでした。

回答者数		ずっと住み続けたい	当分の間は住みたい	できれば転居したい	すぐにも転居したい	無回答	合計
TOTAL	900	66.6%	28.1%	4.1%	0.3%	0.9%	100.0%
男性全体	337	67.1%	27.9%	4.2%	0.3%	0.6%	100.0%
男性10歳代	3	33.3%	66.7%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
男性20歳代	18	38.9%	50.0%	11.1%	0.0%	0.0%	100.0%
男性30歳代	34	47.1%	47.1%	5.9%	0.0%	0.0%	100.0%
男性40歳代	39	59.0%	41.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
男性50歳代	70	70.0%	25.7%	2.9%	0.0%	1.4%	100.0%
男性60歳代	62	69.4%	24.2%	6.5%	0.0%	0.0%	100.0%
男性70歳以上	111	78.4%	16.2%	3.6%	0.9%	0.9%	100.0%
男性年代不明	0	—	—	—	—	—	—
女性全体	495	66.3%	28.5%	3.8%	0.2%	1.2%	100.0%
女性10歳代	3	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性20歳代	30	50.0%	40.0%	10.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性30歳代	63	58.7%	38.1%	3.2%	0.0%	0.0%	100.0%
女性40歳代	68	58.8%	36.8%	2.9%	1.5%	0.0%	100.0%
女性50歳代	102	58.8%	34.3%	6.9%	0.0%	0.0%	100.0%
女性60歳代	101	69.3%	27.7%	1.0%	0.0%	2.0%	100.0%
女性70歳以上	124	82.3%	12.1%	3.2%	0.0%	2.4%	100.0%
女性年代不明	4	50.0%	25.0%	0.0%	0.0%	25.0%	100.0%
性別無回答	68	66.2%	26.5%	5.9%	1.5%	0.0%	100.0%
深谷地区	233	62.2%	32.2%	4.7%	0.4%	0.4%	100.0%
藤沢地区	67	68.7%	31.3%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
幡羅地区	97	64.9%	32.0%	3.1%	0.0%	0.0%	100.0%
明戸地区	17	82.4%	11.8%	5.9%	0.0%	0.0%	100.0%
大寄地区	21	71.4%	14.3%	14.3%	0.0%	0.0%	100.0%
八基地区	23	87.0%	8.7%	0.0%	4.3%	0.0%	100.0%
豊里地区	25	56.0%	28.0%	12.0%	0.0%	4.0%	100.0%
上柴地区	109	67.9%	26.6%	1.8%	0.9%	2.8%	100.0%
南地区	65	76.9%	21.5%	1.5%	0.0%	0.0%	100.0%
岡部地区	103	62.1%	30.1%	6.8%	0.0%	1.0%	100.0%
川本地区	53	73.6%	20.8%	5.7%	0.0%	0.0%	100.0%
花園地区	70	67.1%	30.0%	1.4%	0.0%	1.4%	100.0%
無回答	17	47.1%	35.3%	11.8%	0.0%	5.9%	100.0%

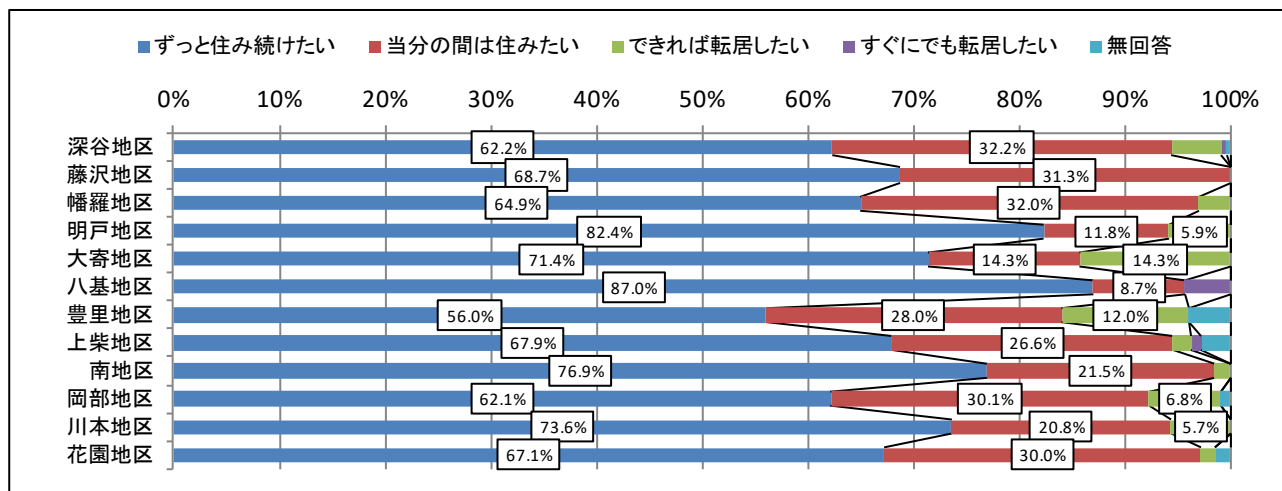
➤ 性別・年齢別



性別・年齢別にみると、「ずっと住みたい」と回答した人の割合は、男性が 67.1% であるのに対して、女性は 66.3% となっています。男女ともに多くの市民が、住みたいと考えていることがうかがえます。

また、「ずっと住みたい」と回答した人の割合が最も少ない年齢は、男性 10 歳代 (33.3%)、女性 20 歳代 (50.0%) であり、一方で最も多い年齢は、男性 70 歳以上 (78.4%)、女性 70 歳以上 (82.3%) となっています。

➤ 地区別



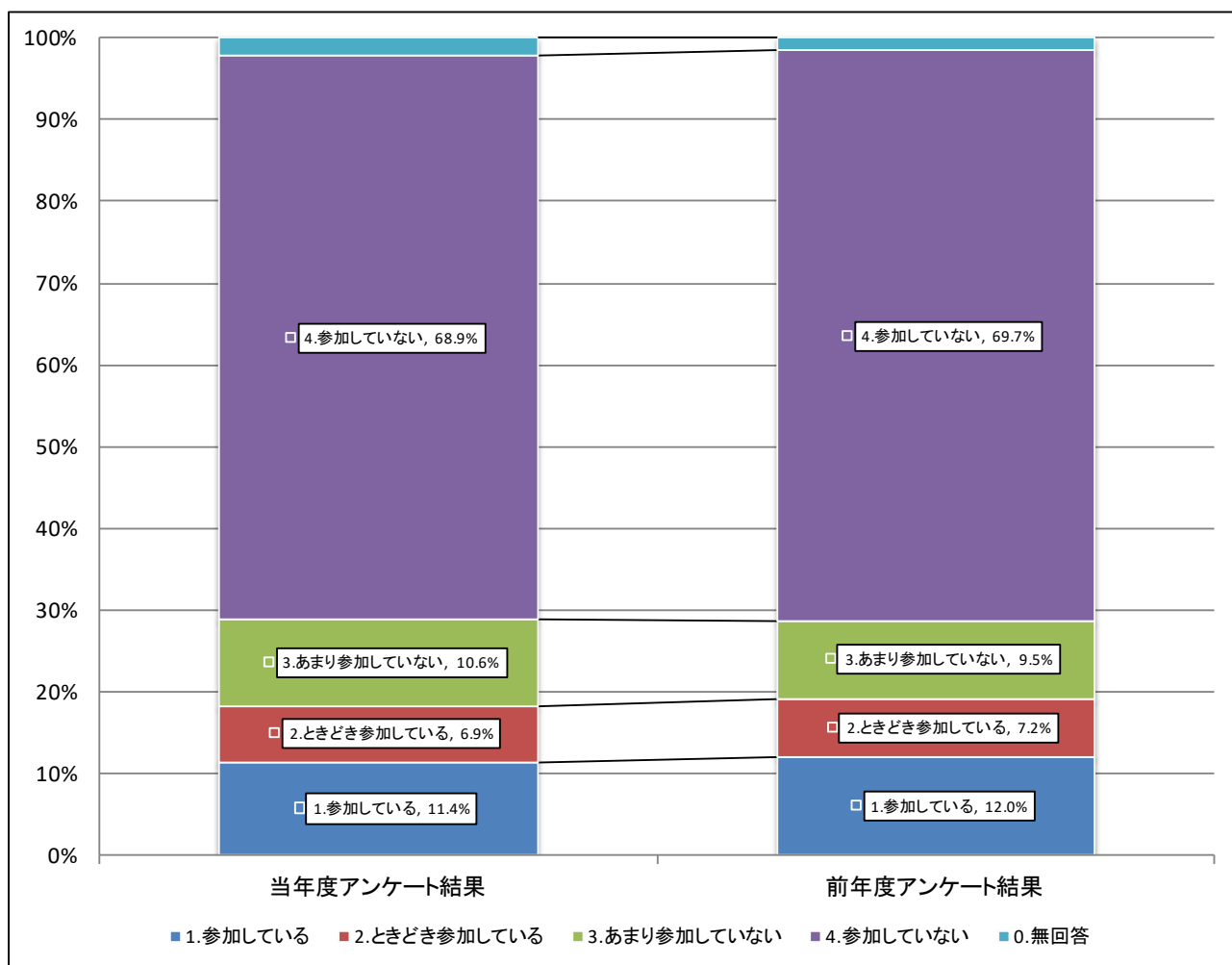
地区別にみると、「ずっと住みたい」と回答した人の割合は、豊里地区においては (56.0%) と低い数値になっている一方で、八基地区においては (87.0%) と高い数値になっています。地区によって意識に差があることがわかります。

ただし、「ずっと住みたい」と回答した人の割合と「当分の間は住みたい」と回答した人の割合の合計は、多くの地区で 9 割前後と高い数値であり、現時点において、深谷市外に転居を希望している人は少数であることがうかがえます。

（２）子育て・保健・福祉について

① 子育てについて（２．問１～３）

地域で子どもを育む活動に参加していますか。（例：ボランティア活動、スポーツの指導、子ども会やPTA活動、青少年相談員やボーイスカウト等の活動など）



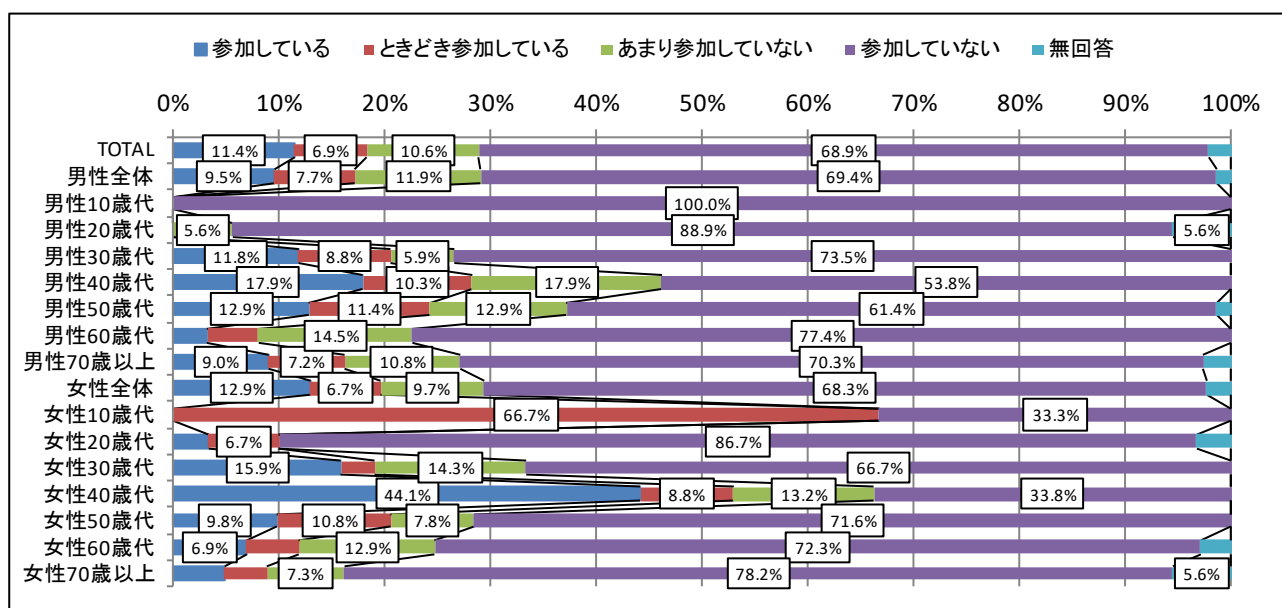
「参加していない」と回答した人の割合が 68.9%と最も多く、次いで「参加している」と回答した人の割合が 11.4%、「あまり参加していない」と回答した人の割合が 10.6%、「ときどき参加している」と回答した人の割合が最も少なく 6.9%となっています。

「参加している」または「ときどき参加している」と回答した人の割合の合計は 18.3%であり、地域で子どもを育む活動に参加している市民は 2 割未満という状況がうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「参加している」または「ときどき参加している」と回答した人の割合の合計は 19.2%であり、「前年度アンケート」と比較してわずかに減少しています。

回答者数		参加している	参加している ときどき	参加して あまり いない	参加していない	無回答	合計
TOTAL	900	11.4%	6.9%	10.6%	68.9%	2.2%	100.0%
男性全体	337	9.5%	7.7%	11.9%	69.4%	1.5%	100.0%
男性10歳代	3	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
男性20歳代	18	0.0%	0.0%	5.6%	88.9%	5.6%	100.0%
男性30歳代	34	11.8%	8.8%	5.9%	73.5%	0.0%	100.0%
男性40歳代	39	17.9%	10.3%	17.9%	53.8%	0.0%	100.0%
男性50歳代	70	12.9%	11.4%	12.9%	61.4%	1.4%	100.0%
男性60歳代	62	3.2%	4.8%	14.5%	77.4%	0.0%	100.0%
男性70歳以上	111	9.0%	7.2%	10.8%	70.3%	2.7%	100.0%
男性年代不明	0	—	—	—	—	—	—
女性全体	495	12.9%	6.7%	9.7%	68.3%	2.4%	100.0%
女性10歳代	3	0.0%	66.7%	0.0%	33.3%	0.0%	100.0%
女性20歳代	30	3.3%	6.7%	0.0%	86.7%	3.3%	100.0%
女性30歳代	63	15.9%	3.2%	14.3%	66.7%	0.0%	100.0%
女性40歳代	68	44.1%	8.8%	13.2%	33.8%	0.0%	100.0%
女性50歳代	102	9.8%	10.8%	7.8%	71.6%	0.0%	100.0%
女性60歳代	101	6.9%	5.0%	12.9%	72.3%	3.0%	100.0%
女性70歳以上	124	4.8%	4.0%	7.3%	78.2%	5.6%	100.0%
女性年代不明	4	0.0%	0.0%	0.0%	75.0%	25.0%	100.0%
性別無回答	68	10.3%	4.4%	10.3%	70.6%	4.4%	100.0%
深谷地区	233	10.7%	6.0%	7.3%	75.5%	0.4%	100.0%
藤沢地区	67	13.4%	6.0%	11.9%	67.2%	1.5%	100.0%
幡羅地区	97	8.2%	9.3%	11.3%	68.0%	3.1%	100.0%
明戸地区	17	5.9%	5.9%	11.8%	70.6%	5.9%	100.0%
大寄地区	21	4.8%	0.0%	14.3%	81.0%	0.0%	100.0%
八基地区	23	8.7%	8.7%	30.4%	47.8%	4.3%	100.0%
豊里地区	25	16.0%	4.0%	8.0%	68.0%	4.0%	100.0%
上柴地区	109	13.8%	8.3%	11.9%	64.2%	1.8%	100.0%
南地区	65	18.5%	9.2%	6.2%	64.6%	1.5%	100.0%
岡部地区	103	8.7%	4.9%	15.5%	67.0%	3.9%	100.0%
川本地区	53	17.0%	11.3%	5.7%	66.0%	0.0%	100.0%
花園地区	70	10.0%	5.7%	11.4%	67.1%	5.7%	100.0%
無回答	17	5.9%	5.9%	5.9%	76.5%	5.9%	100.0%

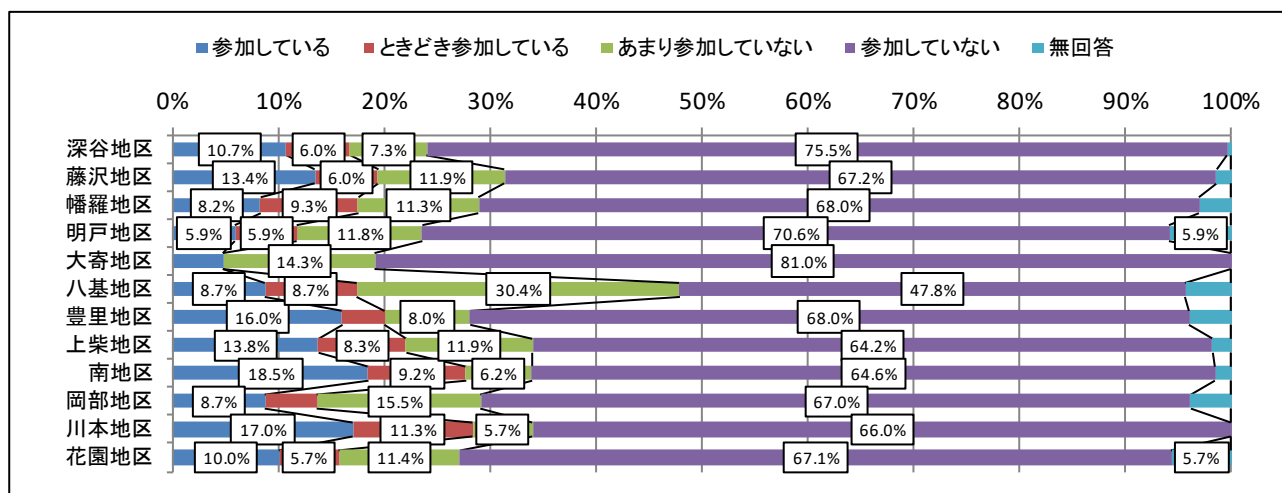
➤ 性別・年齢別



性別・年齢別にみると、「参加している」または「ときどき参加している」と回答した人の割合の合計は、男性が17.2%であるのに対して、女性は19.6%となっています。

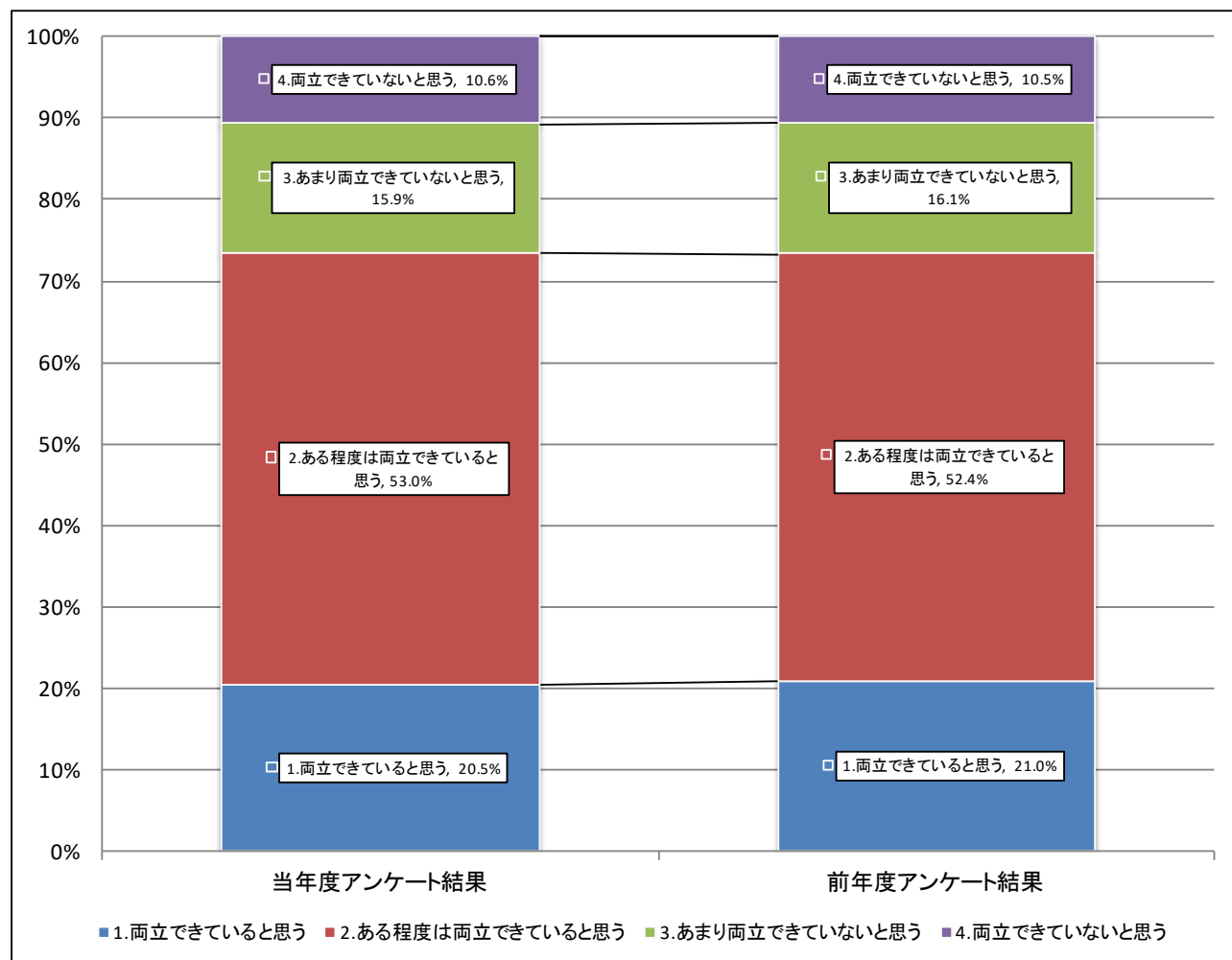
また、「参加している」または「ときどき参加している」と回答した人の割合の合計が最も少ない年齢は、男性10歳代・20歳代ともに（0.0%）、女性70歳以上（8.8%）であり、一方で最も多い年齢は、男性40歳代（28.2%）、女性10歳代（66.7%）となっています。年齢によって差があることがうかがえます。

➤ 地区別



地区別にみると、「参加している」または「ときどき参加している」と回答した人の割合の合計が最も少ない地区は、大寄地区（4.8%）であり、次いで明戸地区（11.8%）となっています。最も多い地区は、川本地区（28.3%）であり、次いで南地区（27.7%）となっています。

小学生以下（小学校6年生まで）のお子さんを持つ保護者の方にお尋ねします。
仕事と子育てを両立できていると思いますか。



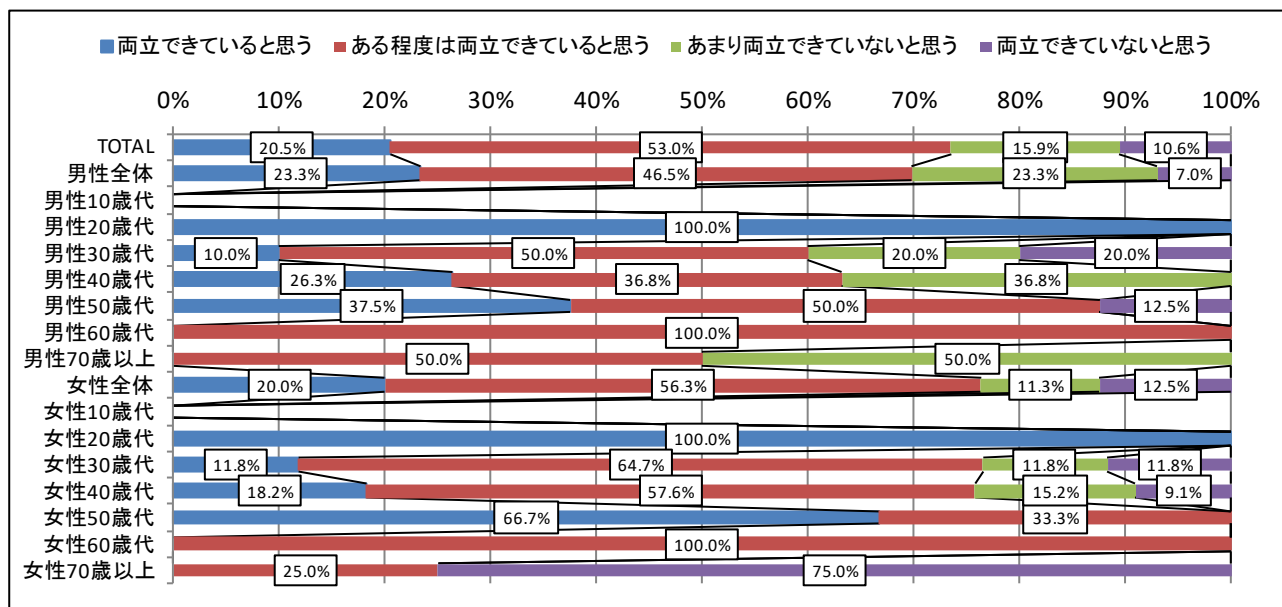
「ある程度は両立できていると思う」と回答した人の割合が 53.0%と最も多く、次いで「両立できていると思う」と回答した人の割合が 20.5%、「あまり両立できていないと思う」と回答した人の割合 15.9%、「両立できていないと思う」と回答した人の割合が最も少なく 10.6%となっています。

「両立できていると思う」または「ある程度は両立できていると思う」と回答した人の割合の合計は 73.5%であり、小学生以下（小学校6年生まで）のお子さんを持つ保護者のうち7割以上が、仕事と子育ての両立ができていることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「両立できていると思う」または「ある程度は両立できていると思う」と回答した人の割合の合計は 73.4%であり、「前年度アンケート」と比較してほぼ変化はありませんでした。

回答者数		両立できていると思う	ある程度は両立できていると思う	あまり両立できていないと思う	両立できていないと思う	無回答	合計
TOTAL	132	20.5%	53.0%	15.9%	10.6%	—	100.0%
男性全体	43	23.3%	46.5%	23.3%	7.0%	—	100.0%
男性10歳代	0	—	—	—	—	—	—
男性20歳代	1	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	—	100.0%
男性30歳代	10	10.0%	50.0%	20.0%	20.0%	—	100.0%
男性40歳代	19	26.3%	36.8%	36.8%	0.0%	—	100.0%
男性50歳代	8	37.5%	50.0%	0.0%	12.5%	—	100.0%
男性60歳代	3	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	—	100.0%
男性70歳以上	2	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	—	100.0%
男性年代不明	0	—	—	—	—	—	—
女性全体	80	20.0%	56.3%	11.3%	12.5%	—	100.0%
女性10歳代	0	—	—	—	—	—	—
女性20歳代	1	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	—	100.0%
女性30歳代	34	11.8%	64.7%	11.8%	11.8%	—	100.0%
女性40歳代	33	18.2%	57.6%	15.2%	9.1%	—	100.0%
女性50歳代	6	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	—	100.0%
女性60歳代	1	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	—	100.0%
女性70歳以上	4	0.0%	25.0%	0.0%	75.0%	—	100.0%
女性年代不明	1	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	—	100.0%
性別無回答	9	11.1%	55.6%	22.2%	11.1%	—	100.0%
深谷地区	26	26.9%	42.3%	15.4%	15.4%	—	100.0%
藤沢地区	14	14.3%	35.7%	35.7%	14.3%	—	100.0%
幡羅地区	25	20.0%	60.0%	8.0%	12.0%	—	100.0%
明戸地区	0	—	—	—	—	—	—
大寄地区	4	25.0%	25.0%	50.0%	0.0%	—	100.0%
八基地区	1	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	—	100.0%
豊里地区	3	33.3%	33.3%	33.3%	0.0%	—	100.0%
上柴地区	20	10.0%	55.0%	15.0%	20.0%	—	100.0%
南地区	8	12.5%	75.0%	0.0%	12.5%	—	100.0%
岡部地区	11	18.2%	63.6%	18.2%	0.0%	—	100.0%
川本地区	8	37.5%	62.5%	0.0%	0.0%	—	100.0%
花園地区	10	20.0%	60.0%	20.0%	0.0%	—	100.0%
無回答	2	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	—	100.0%

➤ 性別・年齢別

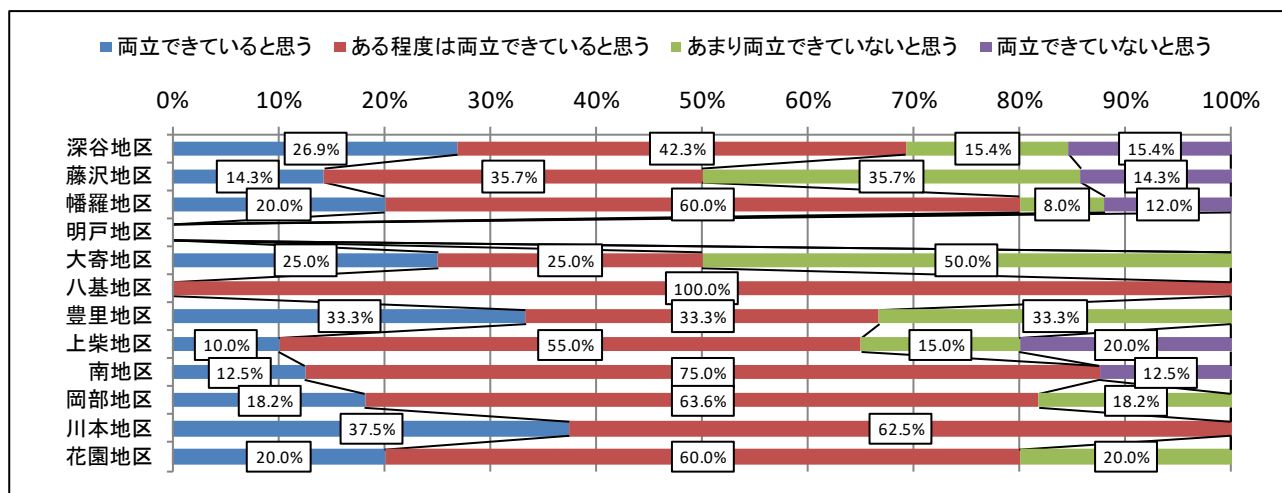


性別・年齢別にみると、「両立できていると思う」または「ある程度は両立できていると思う」と回答した人の割合の合計は、男性が 69.8%であるのに対して、女性は 76.3%となっています。

30 歳代において、「両立できていると思う」または「ある程度は両立できていると思う」と回答した人の割合の合計は、男性 60.0%、女性 76.5%であり、女性の方が両立できていると思うと回答している人の割合が高くなっています。

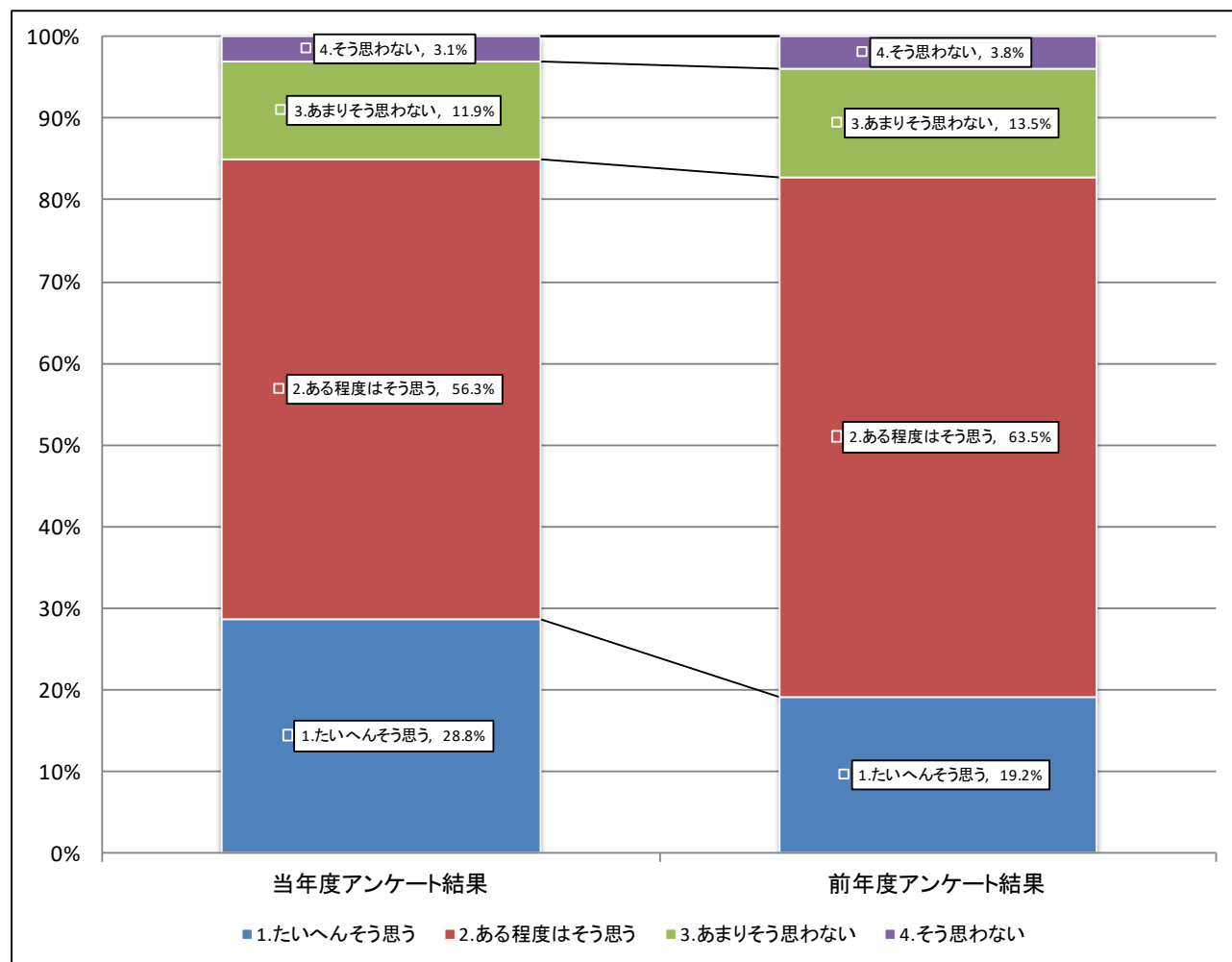
40 歳代において、「両立できていると思う」または「ある程度は両立できていると思う」と回答した人の割合の合計は、男性 63.1%、女性 75.8%であり、30 歳代と同様に女性の割合が男性を上回っています。

➤ 地区別



地区別にみると、10 人以上が回答し、かつ、「両立できていると思う」または「ある程度は両立できていると思う」と回答した人の割合の合計が最も少ない地区は、藤沢地区 (50.0%) であり、最も多い地区は、岡部地区 (81.8%) となっています。

中学生以下（中学校３年生まで）のお子さんを持つ保護者の方にお尋ねします。
 深谷市が子育てのしやすいまちだと思いますか。



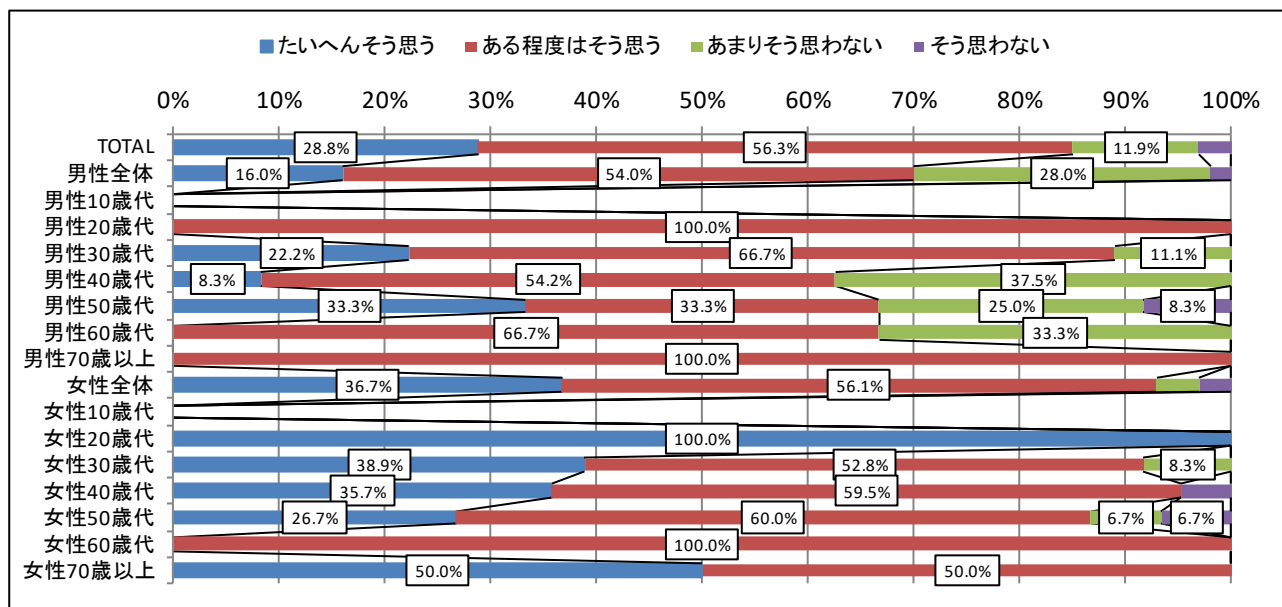
「ある程度はそう思う」と回答した人の割合が 56.3%と最も多く、次いで「たいへんそう思う」が 28.8%、「あまりそう思わない」が 11.9%、「そう思わない」と回答した人の割合が最も少なく 3.1%となっています。

「たいへんそう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合の合計は 85.1%であり、中学生以下（中学校３年生まで）のお子さんを持つ保護者のうち 9 割近くが、深谷市は子育てのしやすいまちだと感じていることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「たいへんそう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合の合計は 82.7%であり、「前年度アンケート」と比較してわずかに増加しています。

回答者数		たいへん そう思う	ある程度は そう思う	あまり そう 思わない	そう 思わない	無回答	合計
TOTAL	160	28.8%	56.3%	11.9%	3.1%	—	100.0%
男性全体	50	16.0%	54.0%	28.0%	2.0%	—	100.0%
男性10歳代	0	—	—	—	—	—	—
男性20歳代	1	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	—	100.0%
男性30歳代	9	22.2%	66.7%	11.1%	0.0%	—	100.0%
男性40歳代	24	8.3%	54.2%	37.5%	0.0%	—	100.0%
男性50歳代	12	33.3%	33.3%	25.0%	8.3%	—	100.0%
男性60歳代	3	0.0%	66.7%	33.3%	0.0%	—	100.0%
男性70歳以上	1	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	—	100.0%
男性年代不明	0	—	—	—	—	—	—
女性全体	98	36.7%	56.1%	4.1%	3.1%	—	100.0%
女性10歳代	0	—	—	—	—	—	—
女性20歳代	1	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	—	100.0%
女性30歳代	36	38.9%	52.8%	8.3%	0.0%	—	100.0%
女性40歳代	42	35.7%	59.5%	0.0%	4.8%	—	100.0%
女性50歳代	15	26.7%	60.0%	6.7%	6.7%	—	100.0%
女性60歳代	1	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	—	100.0%
女性70歳以上	2	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	—	100.0%
女性年代不明	1	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	—	100.0%
性別無回答	12	16.7%	66.7%	8.3%	8.3%	—	100.0%
深谷地区	30	23.3%	60.0%	13.3%	3.3%	—	100.0%
藤沢地区	20	30.0%	50.0%	20.0%	0.0%	—	100.0%
幡羅地区	28	39.3%	53.6%	3.6%	3.6%	—	100.0%
明戸地区	1	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	—	100.0%
大寄地区	4	25.0%	75.0%	0.0%	0.0%	—	100.0%
八基地区	1	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	—	100.0%
豊里地区	3	33.3%	66.7%	0.0%	0.0%	—	100.0%
上柴地区	22	31.8%	50.0%	18.2%	0.0%	—	100.0%
南地区	12	33.3%	58.3%	8.3%	0.0%	—	100.0%
岡部地区	16	18.8%	62.5%	12.5%	6.3%	—	100.0%
川本地区	9	11.1%	88.9%	0.0%	0.0%	—	100.0%
花園地区	13	23.1%	46.2%	23.1%	7.7%	—	100.0%
無回答	1	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	—	100.0%

➤ 性別・年齢別

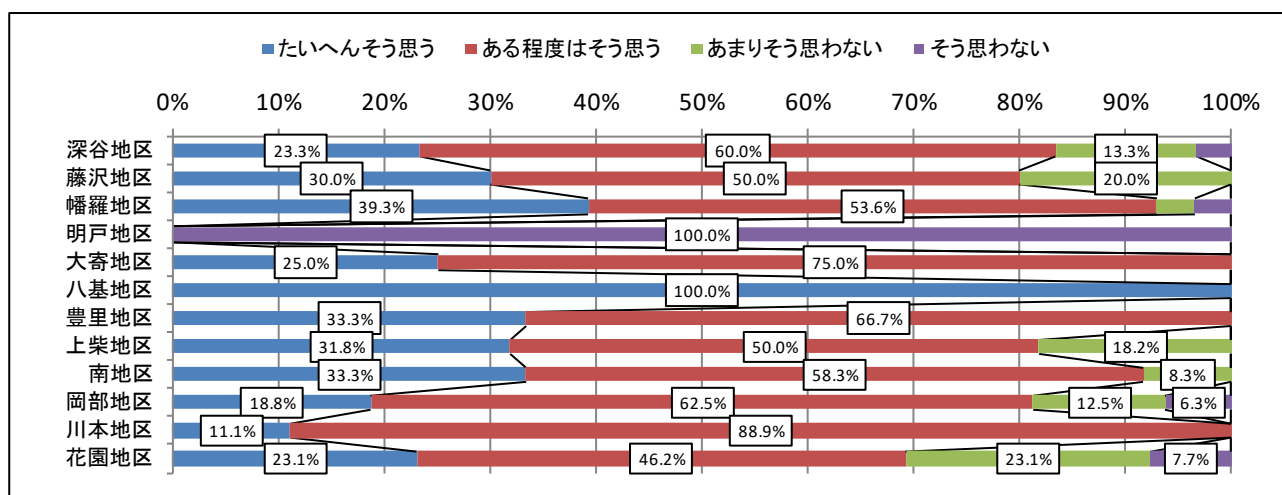


性別・年齢別にみると、「たいへんそう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合の合計は、男性が70.0%であるのに対して、女性は92.8%となっています。

30歳代において、「たいへんそう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合の合計は、男性88.9%、女性91.7%であり、30歳代は男女ともに子育てのしやすいまちだと思っていると回答している人の割合が高くなっています。

40歳代において、「たいへんそう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合の合計は、男性62.5%、女性95.2%であり、男性は年齢によって差があることがうかがえます。

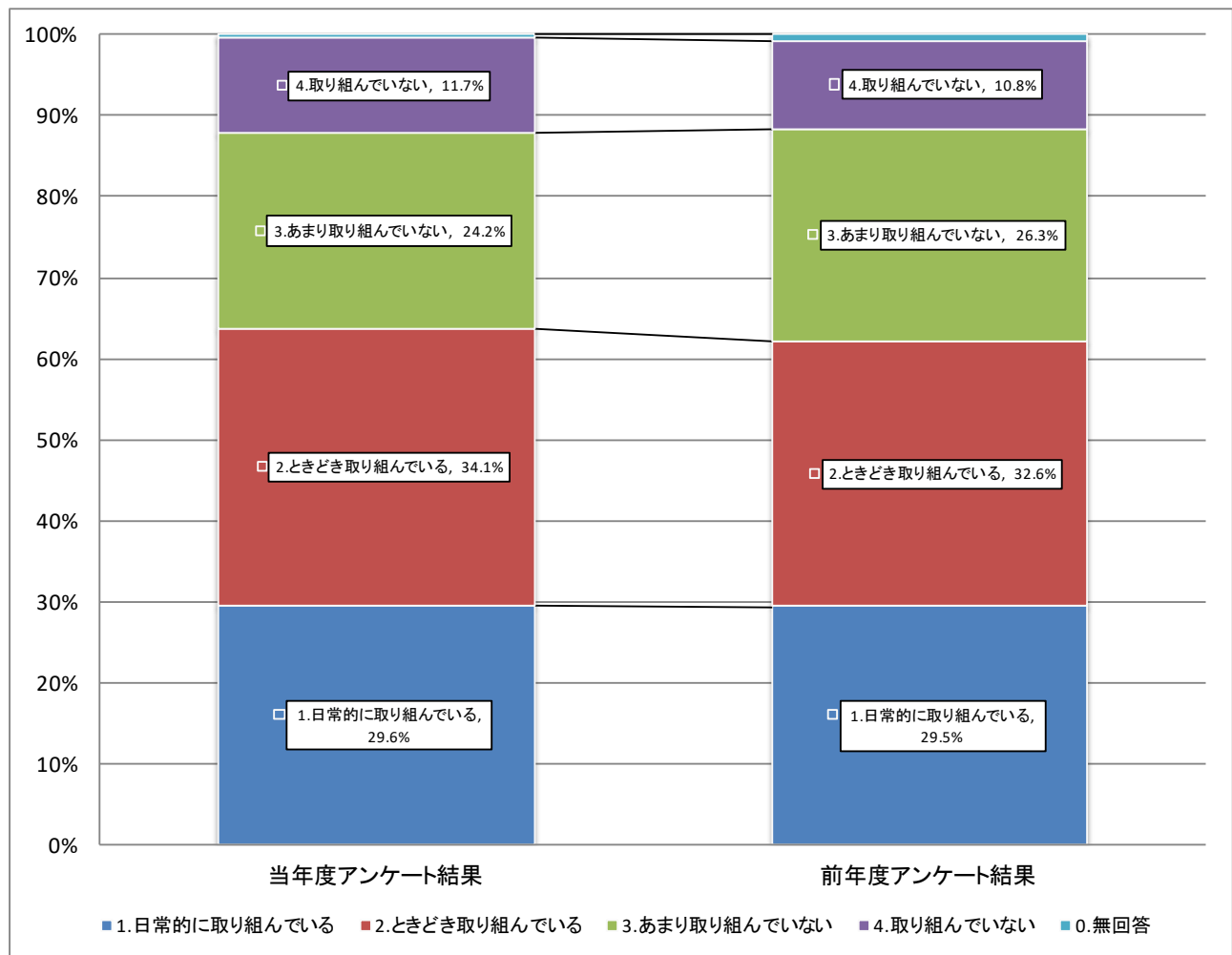
➤ 地区別



地区別にみると、10人以上が回答し、かつ、「たいへんそう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合の合計が最も少ない地区は、花園地区（69.3%）であり、最も多い地区は、幡羅地区（92.9%）となっています。

② 保健について（2. 問4～7）

普段の生活で健康づくり（運動や歩くことなど）に取り組んでいますか。



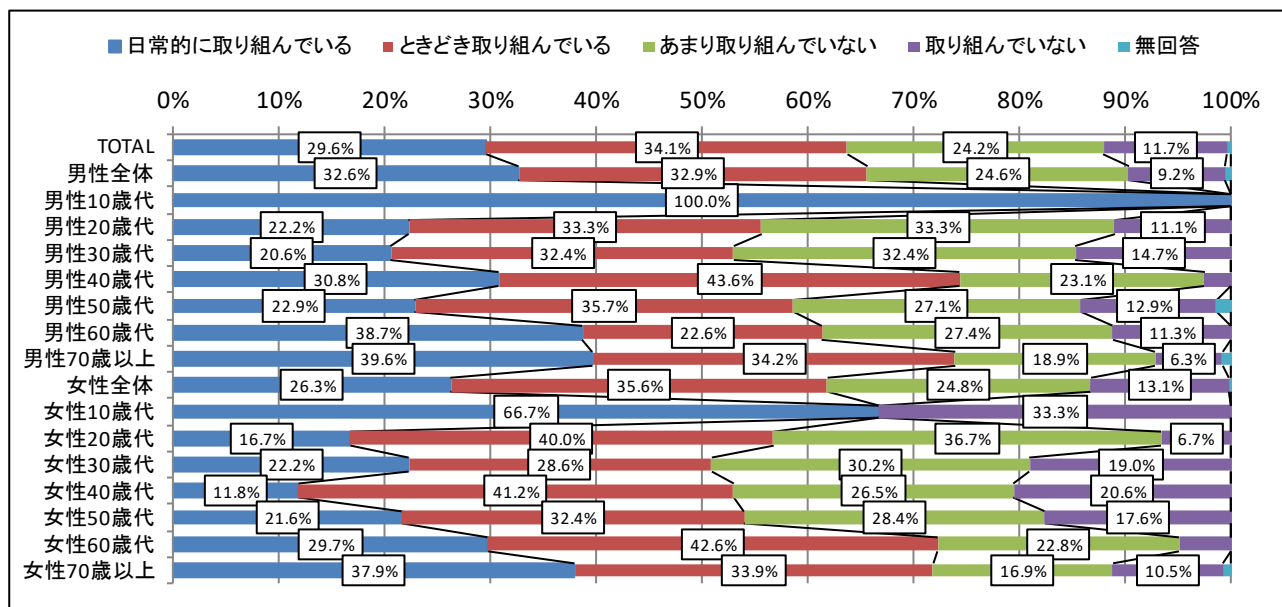
「ときどき取り組んでいる」と回答した人の割合が 34.1%と最も多く、次いで「日常的に取り組んでいる」と回答した人の割合が 29.6%、「あまり取り組んでいない」と回答した人の割合が 24.2%、「取り組んでいない」と回答した人の割合が最も少なく 11.7%となっています。

「日常的に取り組んでいる」または「ときどき取り組んでいる」と回答した人の割合の合計は 63.7%であり、6 割以上の市民が普段の生活で健康づくりに取り組んでいることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「日常的に取り組んでいる」または「ときどき取り組んでいる」と回答した人の割合の合計は 62.1%であり、「前年度アンケート」と比較してわずかに増加しています。

回答者数		日常的に取り組んでいる	ときどき取り組んでいる	あまり取り組んでいない	取り組んでいない	無回答	合計
TOTAL	900	29.6%	34.1%	24.2%	11.7%	0.4%	100.0%
男性全体	337	32.6%	32.9%	24.6%	9.2%	0.6%	100.0%
男性10歳代	3	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
男性20歳代	18	22.2%	33.3%	33.3%	11.1%	0.0%	100.0%
男性30歳代	34	20.6%	32.4%	32.4%	14.7%	0.0%	100.0%
男性40歳代	39	30.8%	43.6%	23.1%	2.6%	0.0%	100.0%
男性50歳代	70	22.9%	35.7%	27.1%	12.9%	1.4%	100.0%
男性60歳代	62	38.7%	22.6%	27.4%	11.3%	0.0%	100.0%
男性70歳以上	111	39.6%	34.2%	18.9%	6.3%	0.9%	100.0%
男性年代不明	0	—	—	—	—	—	—
女性全体	495	26.3%	35.6%	24.8%	13.1%	0.2%	100.0%
女性10歳代	3	66.7%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	100.0%
女性20歳代	30	16.7%	40.0%	36.7%	6.7%	0.0%	100.0%
女性30歳代	63	22.2%	28.6%	30.2%	19.0%	0.0%	100.0%
女性40歳代	68	11.8%	41.2%	26.5%	20.6%	0.0%	100.0%
女性50歳代	102	21.6%	32.4%	28.4%	17.6%	0.0%	100.0%
女性60歳代	101	29.7%	42.6%	22.8%	5.0%	0.0%	100.0%
女性70歳以上	124	37.9%	33.9%	16.9%	10.5%	0.8%	100.0%
女性年代不明	4	50.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	100.0%
性別無回答	68	38.2%	29.4%	17.6%	13.2%	1.5%	100.0%
深谷地区	233	29.2%	38.2%	20.6%	12.0%	0.0%	100.0%
藤沢地区	67	25.4%	35.8%	25.4%	11.9%	1.5%	100.0%
幡羅地区	97	26.8%	29.9%	26.8%	15.5%	1.0%	100.0%
明戸地区	17	64.7%	17.6%	5.9%	11.8%	0.0%	100.0%
大寄地区	21	38.1%	23.8%	28.6%	9.5%	0.0%	100.0%
八基地区	23	17.4%	47.8%	17.4%	17.4%	0.0%	100.0%
豊里地区	25	36.0%	32.0%	20.0%	12.0%	0.0%	100.0%
上柴地区	109	29.4%	36.7%	22.0%	11.9%	0.0%	100.0%
南地区	65	33.8%	32.3%	26.2%	7.7%	0.0%	100.0%
岡部地区	103	29.1%	34.0%	24.3%	11.7%	1.0%	100.0%
川本地区	53	26.4%	37.7%	28.3%	7.5%	0.0%	100.0%
花園地区	70	28.6%	30.0%	31.4%	8.6%	1.4%	100.0%
無回答	17	29.4%	5.9%	47.1%	17.6%	0.0%	100.0%

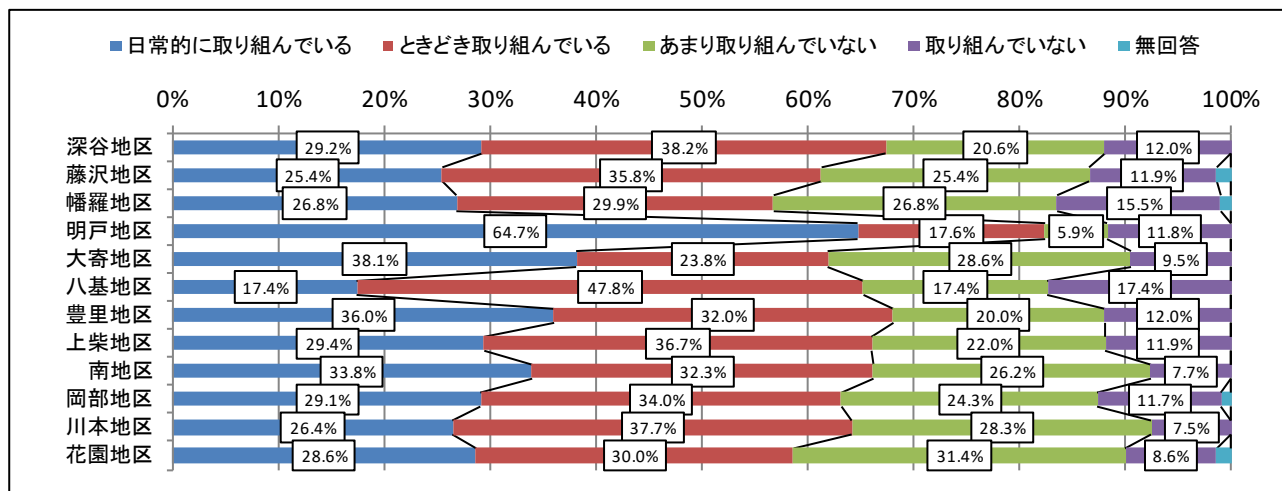
➤ 性別・年齢別



性別・年齢別にみると、「日常的に取り組んでいる」または「ときどき取り組んでいる」と回答した人の割合の合計は、男性が 65.5%であるのに対して、女性は 61.9%となっています。

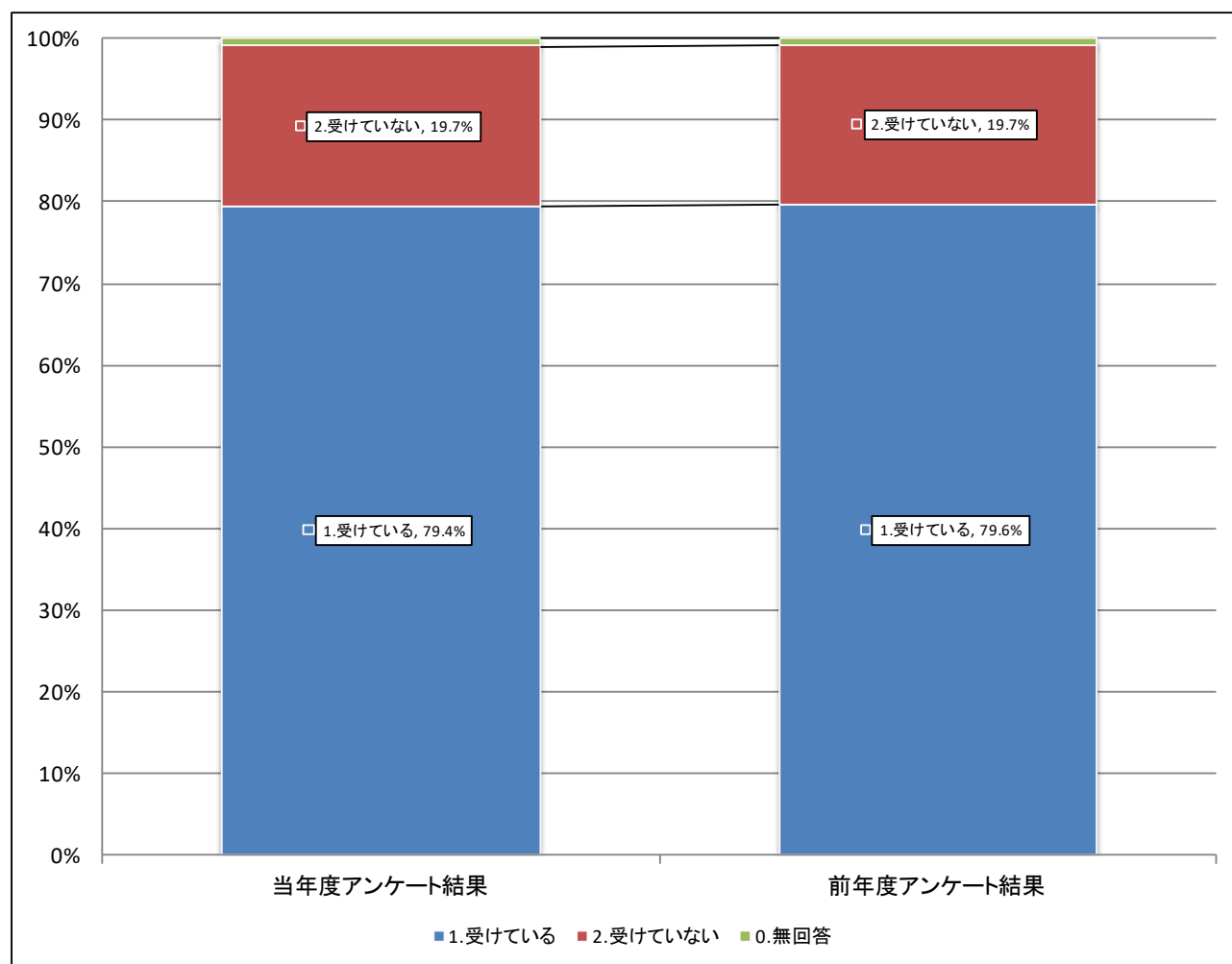
また、「日常的に取り組んでいる」または「ときどき取り組んでいる」と回答した人の割合の合計が最も少ない年齢は、男性 30 歳代 (53.0%)、女性 30 歳代 (50.8%) であり、一方で最も多い年齢は、男性 10 歳代 (100.0%)、女性 60 歳代 (72.3%) となっています。

➤ 地区別



地区別にみると、「日常的に取り組んでいる」または「ときどき取り組んでいる」と回答した人の割合の合計が最も少ない地区は、幡羅地区 (56.7%) であり、次いで花園地区 (58.6%) となっています。最も多い地区は、明戸地区 (82.3%) であり、次いで豊里地区 (68.0%) となっています。

定期的に健康診断や人間ドック、がん検診のいずれかを受けていますか。



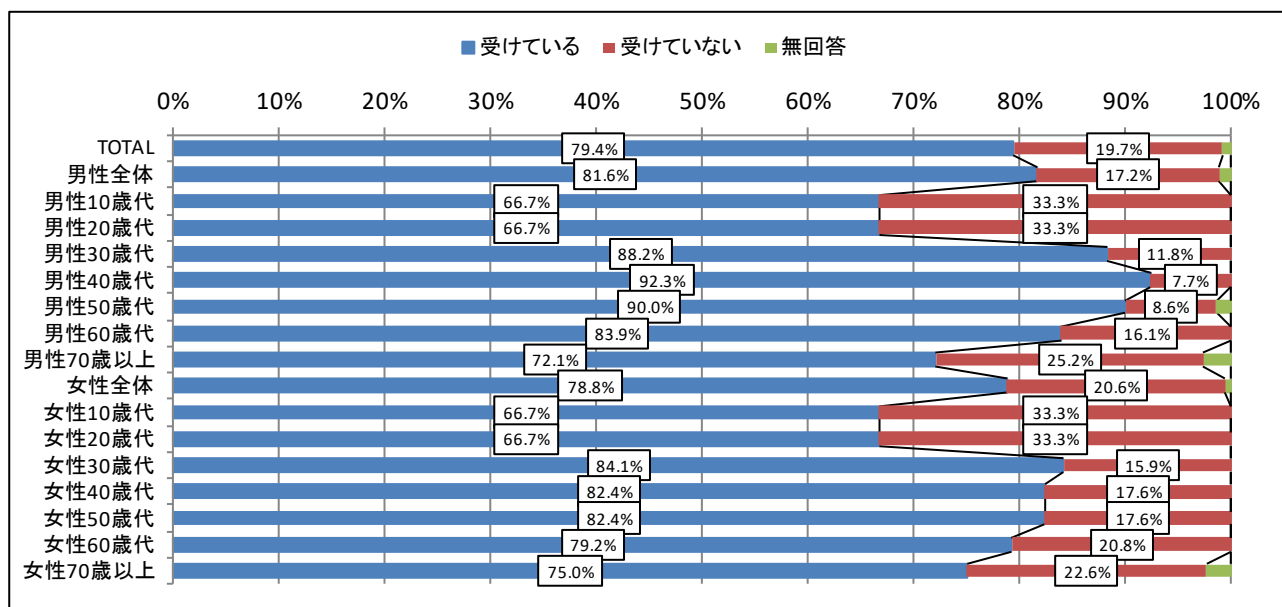
「受けている」と回答した人の割合は 79.4%、「受けていない」と回答した人の割合は 19.7%となっています。

8 割近くの市民が定期的に健康診断や人間ドック、がん検診のいずれかを受けていることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「受けている」と回答した人の割合は 79.6%であり、「前年度アンケート」と比較してほぼ変化はありませんでした。

回答者数		受けている	受けていない	無回答	合計
TOTAL	900	79.4%	19.7%	0.9%	100.0%
男性全体	337	81.6%	17.2%	1.2%	100.0%
男性10歳代	3	66.7%	33.3%	0.0%	100.0%
男性20歳代	18	66.7%	33.3%	0.0%	100.0%
男性30歳代	34	88.2%	11.8%	0.0%	100.0%
男性40歳代	39	92.3%	7.7%	0.0%	100.0%
男性50歳代	70	90.0%	8.6%	1.4%	100.0%
男性60歳代	62	83.9%	16.1%	0.0%	100.0%
男性70歳以上	111	72.1%	25.2%	2.7%	100.0%
男性年代不明	0	—	—	—	—
女性全体	495	78.8%	20.6%	0.6%	100.0%
女性10歳代	3	66.7%	33.3%	0.0%	100.0%
女性20歳代	30	66.7%	33.3%	0.0%	100.0%
女性30歳代	63	84.1%	15.9%	0.0%	100.0%
女性40歳代	68	82.4%	17.6%	0.0%	100.0%
女性50歳代	102	82.4%	17.6%	0.0%	100.0%
女性60歳代	101	79.2%	20.8%	0.0%	100.0%
女性70歳以上	124	75.0%	22.6%	2.4%	100.0%
女性年代不明	4	50.0%	50.0%	0.0%	100.0%
性別無回答	68	73.5%	25.0%	1.5%	100.0%
深谷地区	233	80.7%	19.3%	0.0%	100.0%
藤沢地区	67	76.1%	22.4%	1.5%	100.0%
幡羅地区	97	76.3%	22.7%	1.0%	100.0%
明戸地区	17	88.2%	11.8%	0.0%	100.0%
大寄地区	21	81.0%	19.0%	0.0%	100.0%
八基地区	23	69.6%	30.4%	0.0%	100.0%
豊里地区	25	80.0%	20.0%	0.0%	100.0%
上柴地区	109	78.0%	21.1%	0.9%	100.0%
南地区	65	86.2%	12.3%	1.5%	100.0%
岡部地区	103	77.7%	20.4%	1.9%	100.0%
川本地区	53	79.2%	18.9%	1.9%	100.0%
花園地区	70	80.0%	18.6%	1.4%	100.0%
無回答	17	88.2%	11.8%	0.0%	100.0%

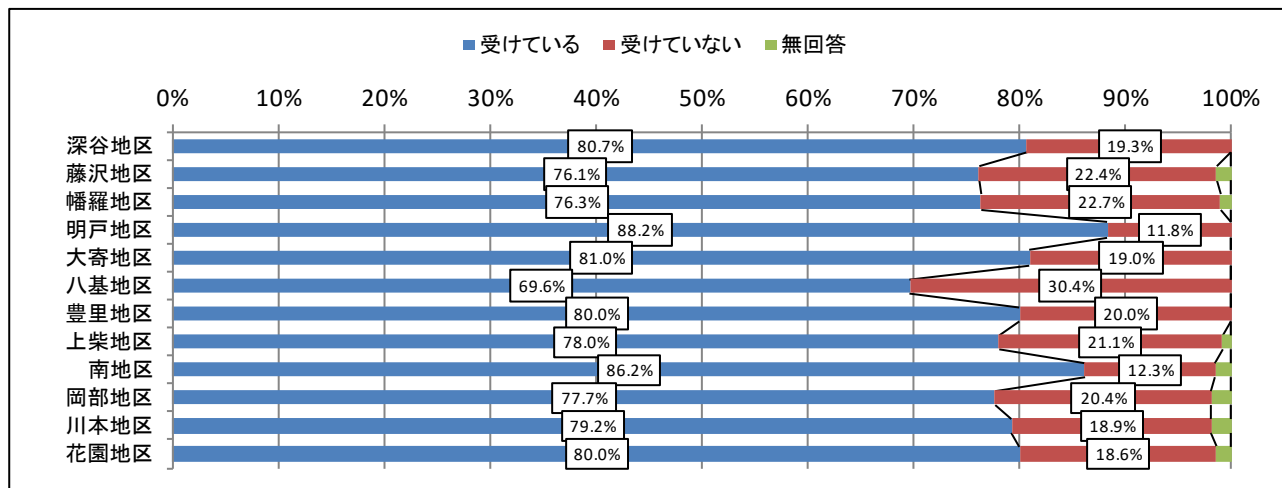
➤ 性別・年齢別



性別・年齢別にみると、「受けている」と回答した人の割合は、男性が 81.6%であるのに対して、女性は 78.8%となっています。

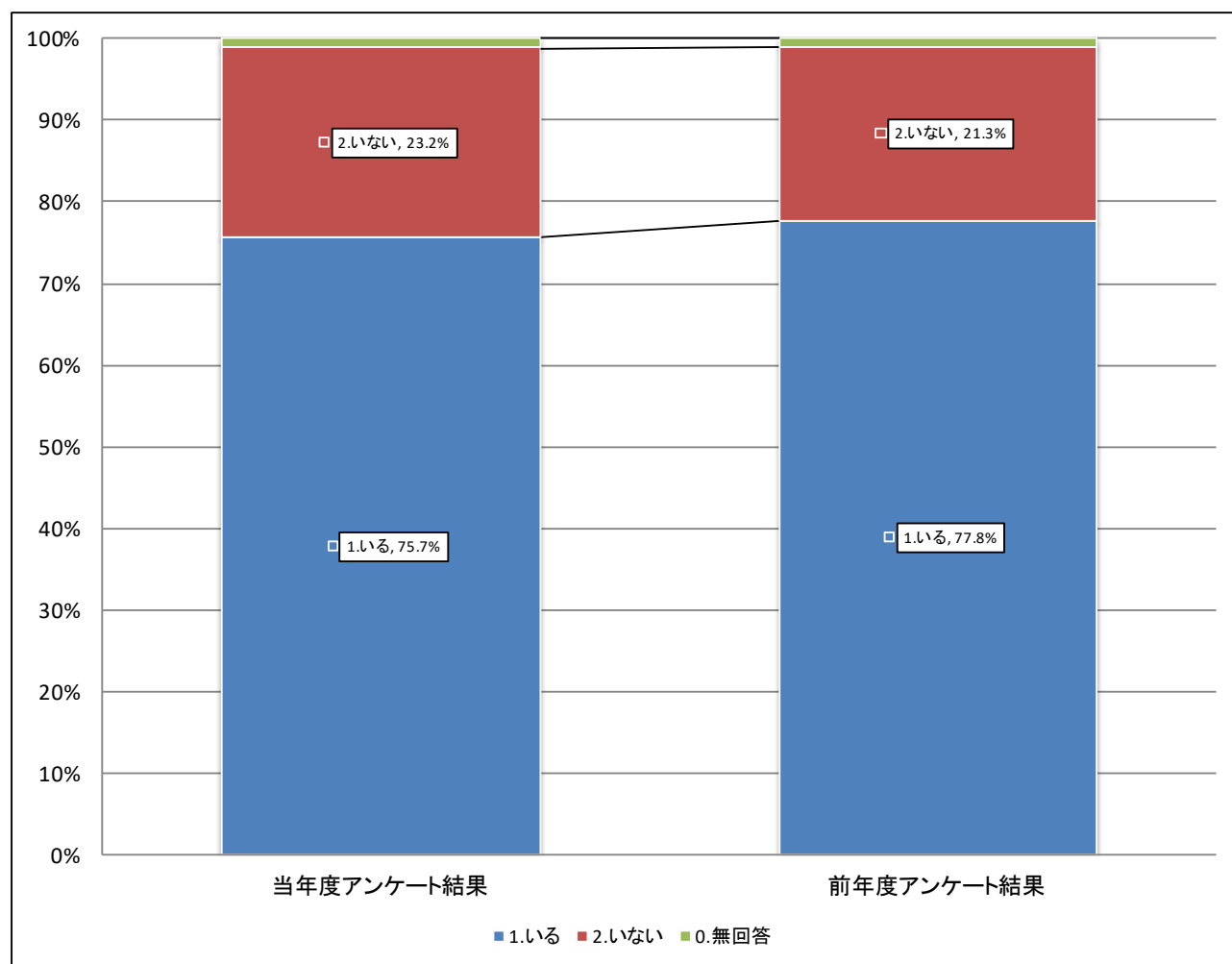
また、「受けている」と回答した人の割合が最も少ない年齢は、男性 10 歳代・20 歳代ともに (66.7%)、女性 10 歳代・20 歳代ともに (66.7%) であり、一方で最も多い年齢は、男性 40 歳代 (92.3%)、女性 30 歳代 (84.1%) となっています。

➤ 地区別



地区別にみると、「受けている」と回答した人の割合が最も少ない地区は、八基地区 (69.6%) であり、次いで藤沢地区 (76.1%) となっています。最も多い地区は、明戸地区 (88.2%) であり、次いで南地区 (86.2%) となっています。

かかりつけのお医者さんはいますか。



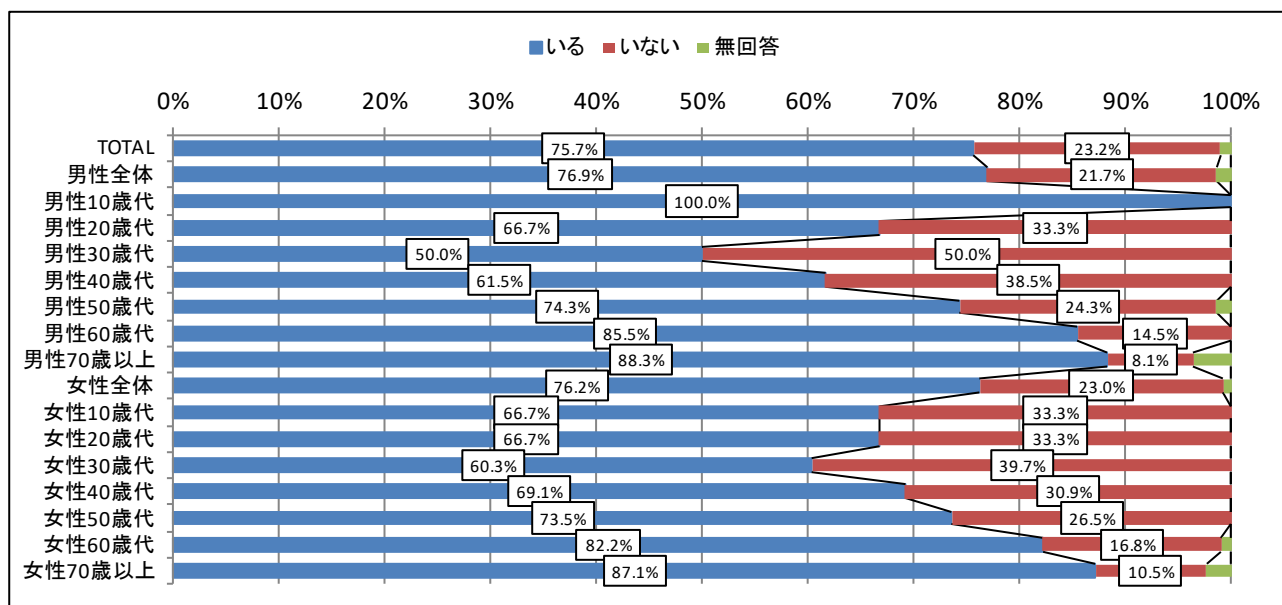
「いる」と回答した人の割合は 75. 7%、「いない」と回答した人の割合は 23. 2%となっています。

多くの市民にかかりつけ医がいる一方、約 4 人に 1 人はかかりつけ医がいないという状況がうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「いる」と回答した人の割合は 77. 8%であり、「前年度アンケート」と比較してわずかに減少しています。

回答者数		いる	いない	無回答	合計
TOTAL	900	75.7%	23.2%	1.1%	100.0%
男性全体	337	76.9%	21.7%	1.5%	100.0%
男性10歳代	3	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
男性20歳代	18	66.7%	33.3%	0.0%	100.0%
男性30歳代	34	50.0%	50.0%	0.0%	100.0%
男性40歳代	39	61.5%	38.5%	0.0%	100.0%
男性50歳代	70	74.3%	24.3%	1.4%	100.0%
男性60歳代	62	85.5%	14.5%	0.0%	100.0%
男性70歳以上	111	88.3%	8.1%	3.6%	100.0%
男性年代不明	0	—	—	—	—
女性全体	495	76.2%	23.0%	0.8%	100.0%
女性10歳代	3	66.7%	33.3%	0.0%	100.0%
女性20歳代	30	66.7%	33.3%	0.0%	100.0%
女性30歳代	63	60.3%	39.7%	0.0%	100.0%
女性40歳代	68	69.1%	30.9%	0.0%	100.0%
女性50歳代	102	73.5%	26.5%	0.0%	100.0%
女性60歳代	101	82.2%	16.8%	1.0%	100.0%
女性70歳以上	124	87.1%	10.5%	2.4%	100.0%
女性年代不明	4	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
性別無回答	68	66.2%	32.4%	1.5%	100.0%
深谷地区	233	74.7%	24.9%	0.4%	100.0%
藤沢地区	67	77.6%	20.9%	1.5%	100.0%
幡羅地区	97	67.0%	32.0%	1.0%	100.0%
明戸地区	17	82.4%	17.6%	0.0%	100.0%
大寄地区	21	81.0%	19.0%	0.0%	100.0%
八基地区	23	91.3%	8.7%	0.0%	100.0%
豊里地区	25	92.0%	8.0%	0.0%	100.0%
上柴地区	109	67.0%	30.3%	2.8%	100.0%
南地区	65	73.8%	26.2%	0.0%	100.0%
岡部地区	103	81.6%	16.5%	1.9%	100.0%
川本地区	53	81.1%	17.0%	1.9%	100.0%
花園地区	70	77.1%	21.4%	1.4%	100.0%
無回答	17	76.5%	23.5%	0.0%	100.0%

➤ 性別・年齢別

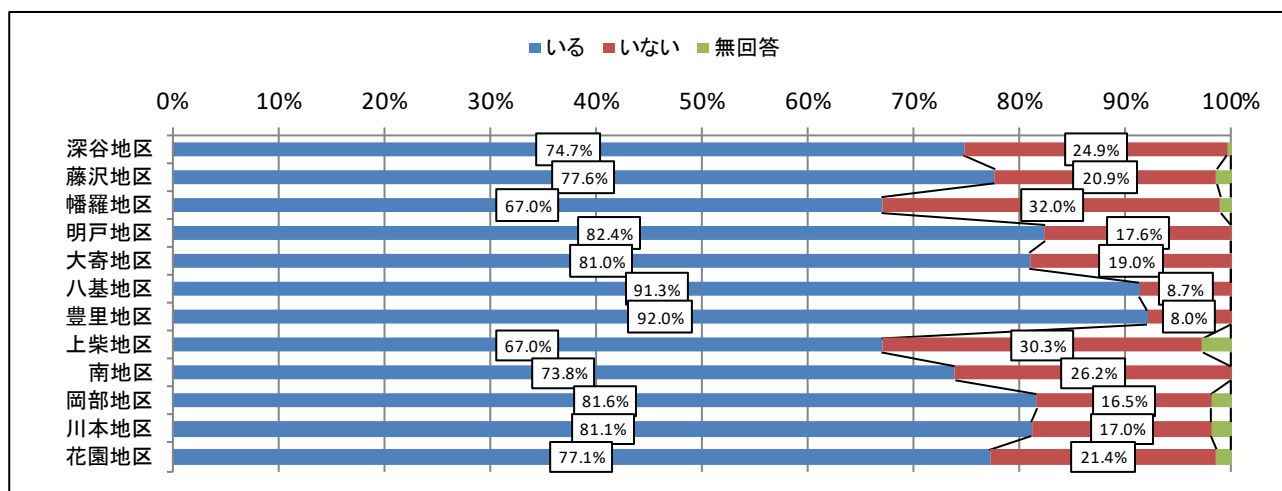


性別・年齢別にみると、「いる」と回答した人の割合は、男性が 76.9%であるのに対して、女性は 76.2%となっています。

また、「いる」と回答した人の割合が最も少ない年齢は、男性 30 歳代 (50.0%)、女性 30 歳代 (60.3%) であり、一方で最も多い年齢は、男性 10 歳代 (100.0%)、女性 70 歳以上 (87.1%) となっています。

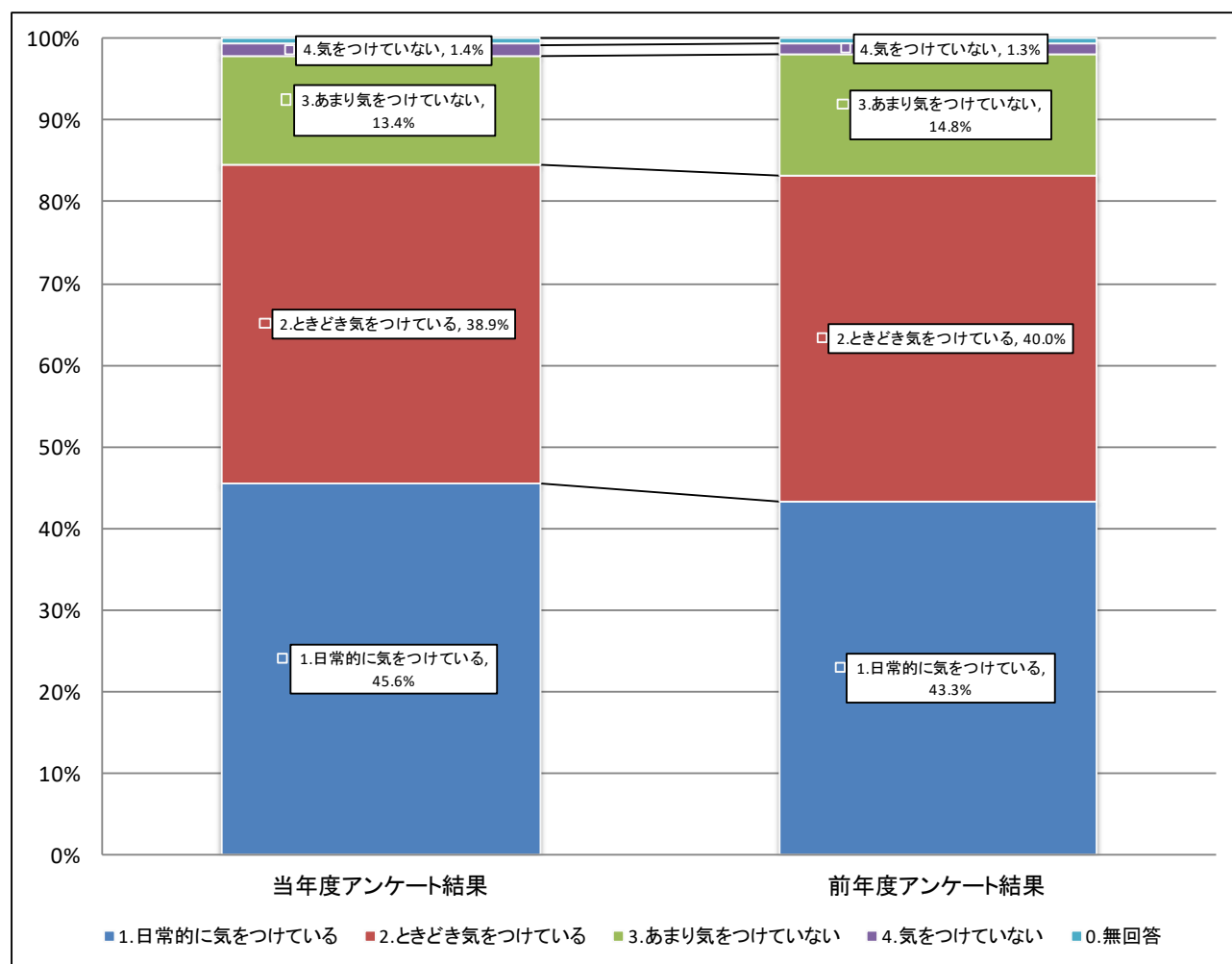
年齢によって差があることがうかがえます。

➤ 地区別



地区別にみると、「いる」と回答した人の割合が最も少ない地区は、幡羅地区・上柴地区ともに (67.0%) であり、次いで南地区 (73.8%) となっています。最も多い地区は、豊里地区 (92.0%) であり、次いで八基地区 (91.3%) となっています。

健康的な食生活に気をつけていますか。



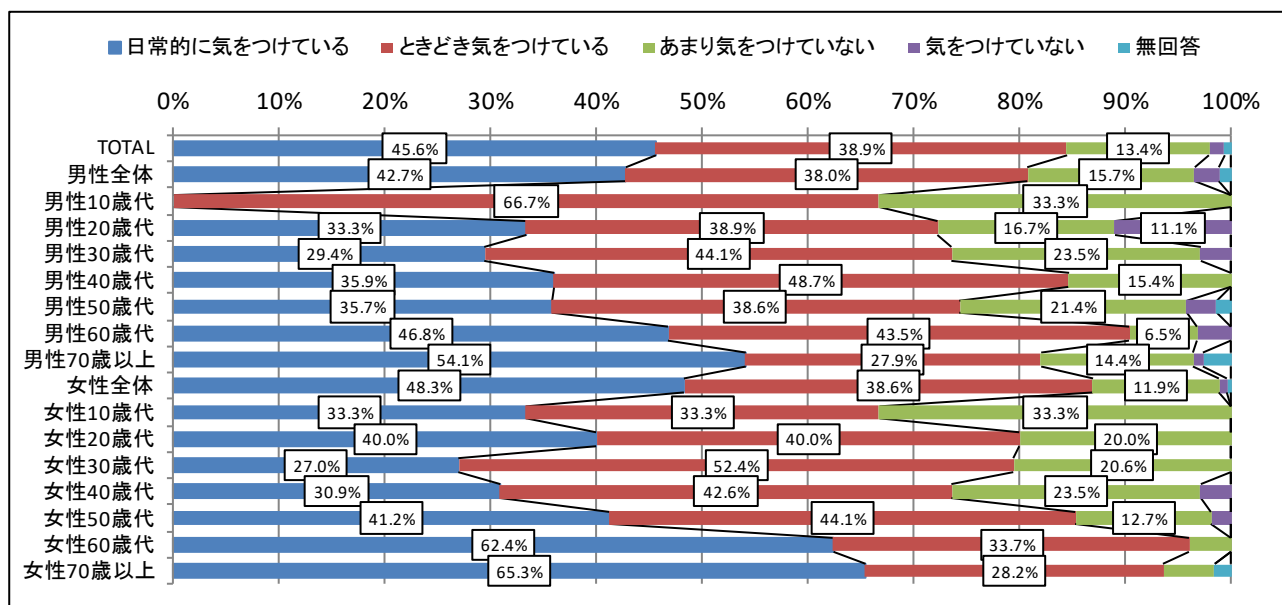
「日常的に気をつけている」と回答した人の割合が 45.6%と最も多く、次いで「ときどき気をつけている」と回答した人の割合が 38.9%、「あまり気をつけていない」と回答した人の割合が 13.4%、「気をつけていない」と回答した人の割合が最も少なく 1.4%となっています。

「日常的に気をつけている」または「ときどき気をつけている」と回答した人の割合の合計は、84.5%であり、8 割以上の市民が健康的な食生活に気をつけていることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「日常的に気をつけている」または「ときどき気をつけている」と回答した人の割合の合計は 83.3%であり、「前年度アンケート」と比較してわずかに増加しています。

回答者数		日常的に 気をつけている	ときどき 気をつけている	あまり 気をつけていない	気をつけて いない	無回答	合計
TOTAL	900	45.6%	38.9%	13.4%	1.4%	0.7%	100.0%
男性全体	337	42.7%	38.0%	15.7%	2.4%	1.2%	100.0%
男性10歳代	3	0.0%	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	100.0%
男性20歳代	18	33.3%	38.9%	16.7%	11.1%	0.0%	100.0%
男性30歳代	34	29.4%	44.1%	23.5%	2.9%	0.0%	100.0%
男性40歳代	39	35.9%	48.7%	15.4%	0.0%	0.0%	100.0%
男性50歳代	70	35.7%	38.6%	21.4%	2.9%	1.4%	100.0%
男性60歳代	62	46.8%	43.5%	6.5%	3.2%	0.0%	100.0%
男性70歳以上	111	54.1%	27.9%	14.4%	0.9%	2.7%	100.0%
男性年代不明	0	—	—	—	—	—	—
女性全体	495	48.3%	38.6%	11.9%	0.8%	0.4%	100.0%
女性10歳代	3	33.3%	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%	100.0%
女性20歳代	30	40.0%	40.0%	20.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性30歳代	63	27.0%	52.4%	20.6%	0.0%	0.0%	100.0%
女性40歳代	68	30.9%	42.6%	23.5%	2.9%	0.0%	100.0%
女性50歳代	102	41.2%	44.1%	12.7%	2.0%	0.0%	100.0%
女性60歳代	101	62.4%	33.7%	4.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性70歳以上	124	65.3%	28.2%	4.8%	0.0%	1.6%	100.0%
女性年代不明	4	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
性別無回答	68	39.7%	45.6%	13.2%	1.5%	0.0%	100.0%
深谷地区	233	46.4%	38.6%	12.9%	2.1%	0.0%	100.0%
藤沢地区	67	41.8%	43.3%	13.4%	0.0%	1.5%	100.0%
幡羅地区	97	42.3%	43.3%	12.4%	2.1%	0.0%	100.0%
明戸地区	17	64.7%	29.4%	5.9%	0.0%	0.0%	100.0%
大寄地区	21	61.9%	38.1%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
八基地区	23	34.8%	47.8%	17.4%	0.0%	0.0%	100.0%
豊里地区	25	56.0%	28.0%	12.0%	4.0%	0.0%	100.0%
上柴地区	109	45.9%	35.8%	15.6%	1.8%	0.9%	100.0%
南地区	65	43.1%	36.9%	16.9%	3.1%	0.0%	100.0%
岡部地区	103	51.5%	32.0%	14.6%	0.0%	1.9%	100.0%
川本地区	53	32.1%	52.8%	13.2%	0.0%	1.9%	100.0%
花園地区	70	44.3%	37.1%	15.7%	1.4%	1.4%	100.0%
無回答	17	47.1%	47.1%	5.9%	0.0%	0.0%	100.0%

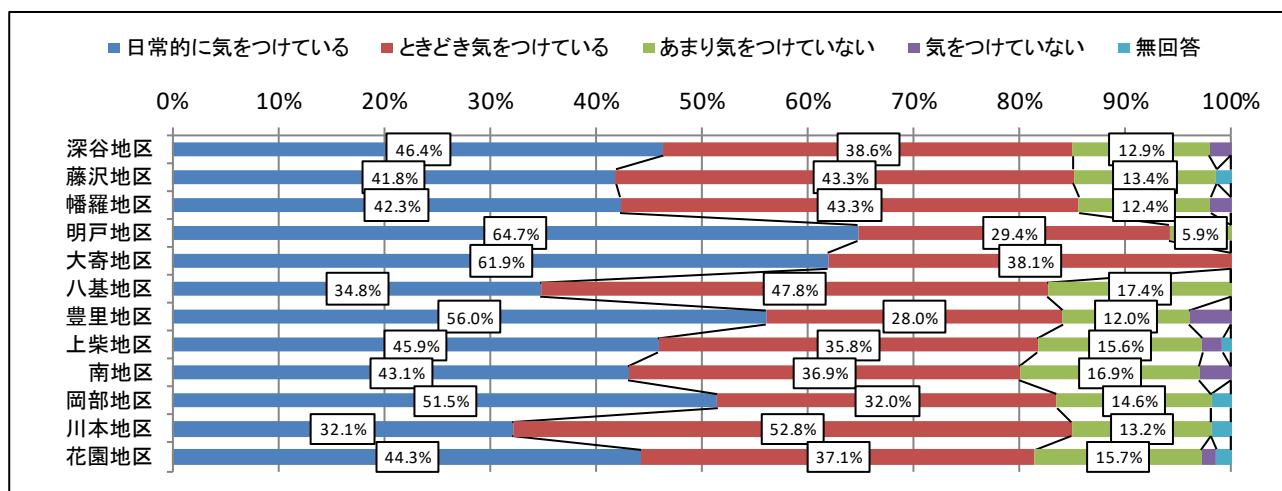
➤ 性別・年齢別



性別・年齢別にみると、「日常的に気をつけている」または「ときどき気をつけている」と回答した人の割合の合計は、男性が 80.7%であるのに対して、女性は 86.9%となっています。

また、「日常的に気をつけている」または「ときどき気をつけている」と回答した人の割合の合計が最も少ない年齢は、男性 10 歳代 (66.7%)、女性 10 歳代 (66.6%) であり、一方で最も多い年齢は、男性 60 歳代 (90.3%)、女性 60 歳代 (96.1%) となっています。

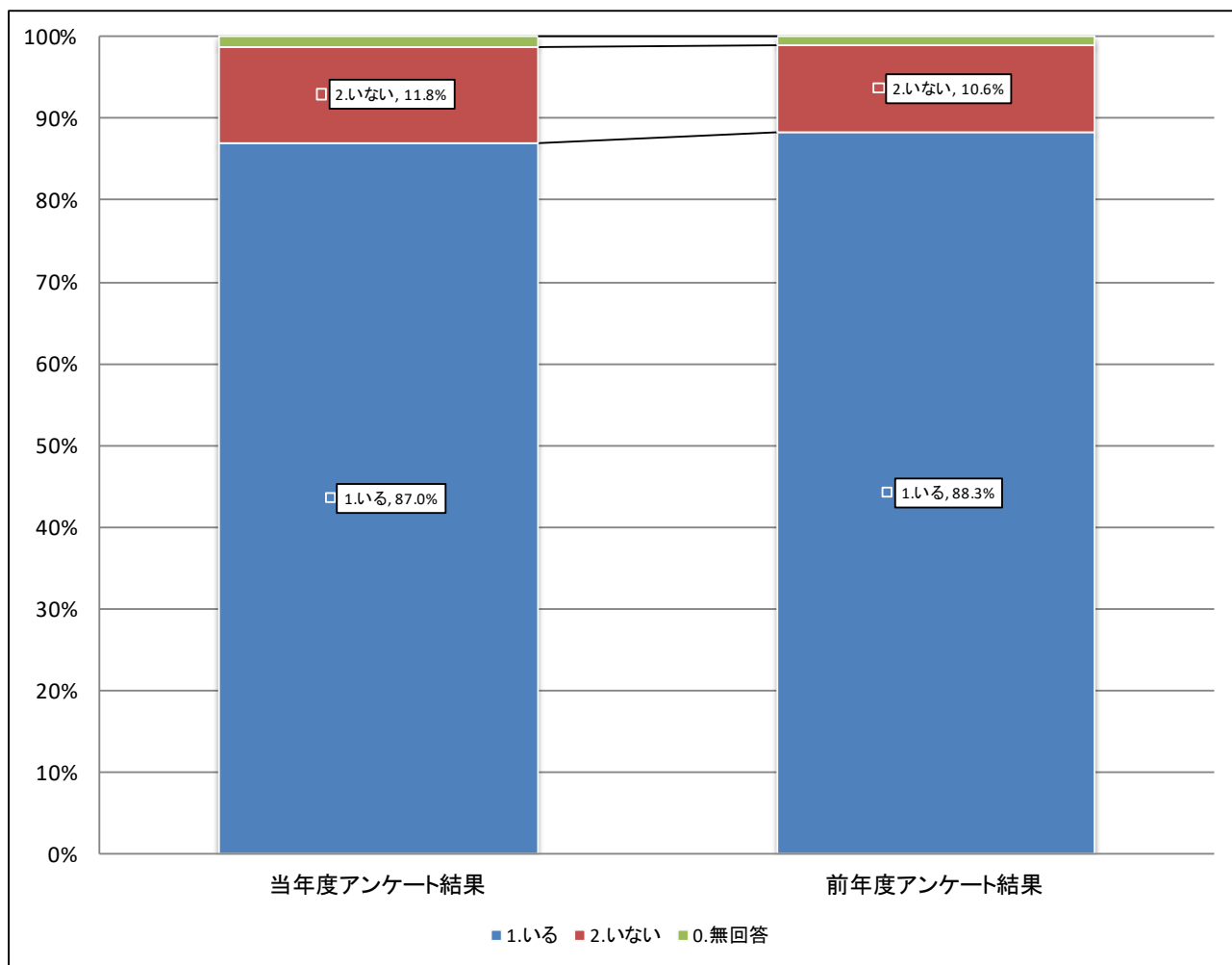
➤ 地区別



地区別にみると、「日常的に気をつけている」または「ときどき気をつけている」と回答した人の割合の合計が最も少ない地区は、南地区 (80.0%) であり、次いで花園地区 (81.4%) となっています。最も多い地区は、大寄地区 (100.0%) であり、次いで明戸地区 (94.1%) となっています。

③ 福祉について（2. 問8～9）

悩みごとを相談できる人（家族や友人など）はいますか。



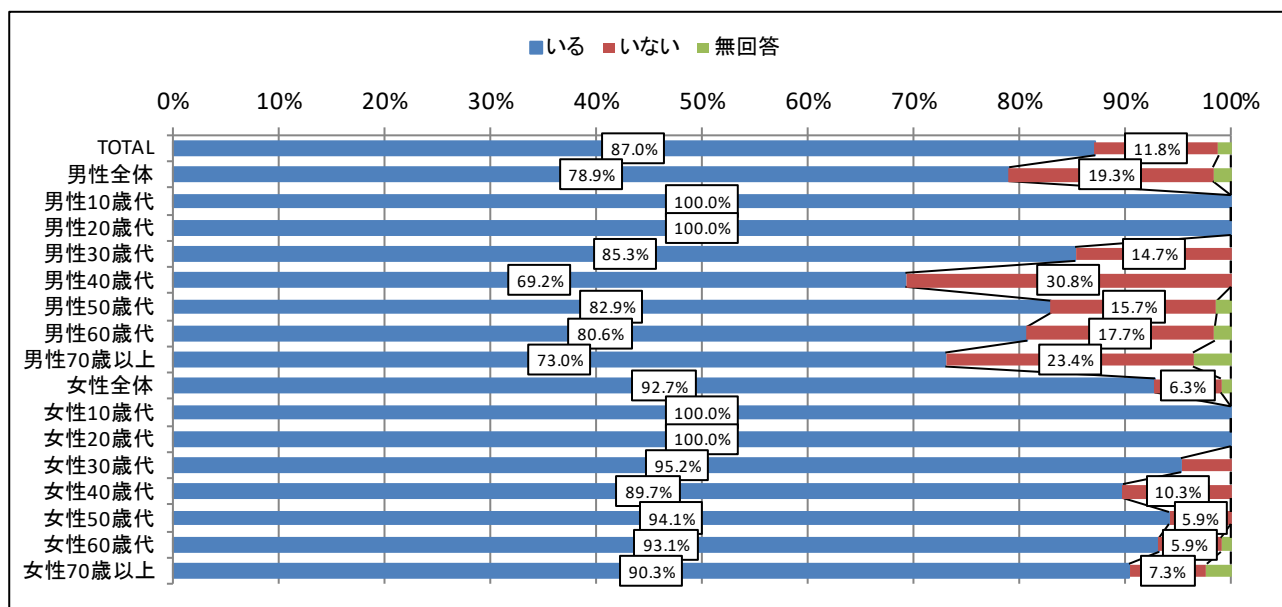
「いる」と回答した人の割合は 87.0%、「いない」と回答した人の割合は 11.8%となっています。

9 割近くの市民に悩みごとを相談できる人がいることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「いる」と回答した人の割合は 88.3%であり、「前年度アンケート」と比較してわずかに減少しています。

回答者数		いる	いない	無回答	合計
TOTAL	900	87.0%	11.8%	1.2%	100.0%
男性全体	337	78.9%	19.3%	1.8%	100.0%
男性10歳代	3	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
男性20歳代	18	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
男性30歳代	34	85.3%	14.7%	0.0%	100.0%
男性40歳代	39	69.2%	30.8%	0.0%	100.0%
男性50歳代	70	82.9%	15.7%	1.4%	100.0%
男性60歳代	62	80.6%	17.7%	1.6%	100.0%
男性70歳以上	111	73.0%	23.4%	3.6%	100.0%
男性年代不明	0	—	—	—	—
女性全体	495	92.7%	6.3%	1.0%	100.0%
女性10歳代	3	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性20歳代	30	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性30歳代	63	95.2%	4.8%	0.0%	100.0%
女性40歳代	68	89.7%	10.3%	0.0%	100.0%
女性50歳代	102	94.1%	5.9%	0.0%	100.0%
女性60歳代	101	93.1%	5.9%	1.0%	100.0%
女性70歳以上	124	90.3%	7.3%	2.4%	100.0%
女性年代不明	4	75.0%	0.0%	25.0%	100.0%
性別無回答	68	85.3%	14.7%	0.0%	100.0%
深谷地区	233	83.7%	15.5%	0.9%	100.0%
藤沢地区	67	88.1%	10.4%	1.5%	100.0%
幡羅地区	97	87.6%	12.4%	0.0%	100.0%
明戸地区	17	88.2%	11.8%	0.0%	100.0%
大寄地区	21	81.0%	19.0%	0.0%	100.0%
八基地区	23	82.6%	17.4%	0.0%	100.0%
豊里地区	25	92.0%	8.0%	0.0%	100.0%
上柴地区	109	89.0%	9.2%	1.8%	100.0%
南地区	65	89.2%	9.2%	1.5%	100.0%
岡部地区	103	88.3%	8.7%	2.9%	100.0%
川本地区	53	90.6%	7.5%	1.9%	100.0%
花園地区	70	85.7%	12.9%	1.4%	100.0%
無回答	17	94.1%	5.9%	0.0%	100.0%

➤ 性別・年齢別

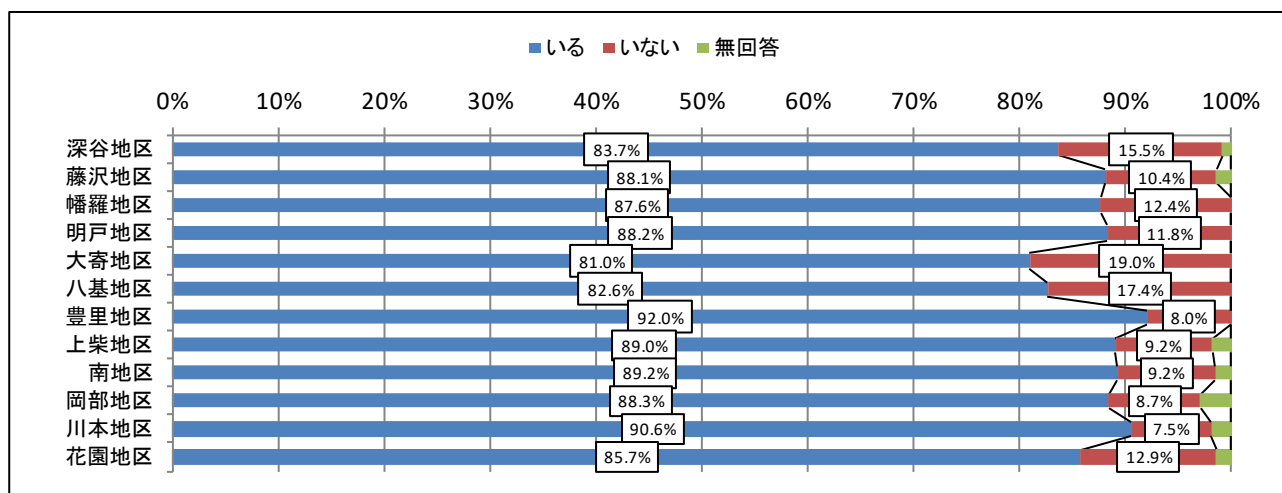


性別・年齢別にみると、「いる」と回答した人の割合は、男性が 78.9%であるのに対して、女性は 92.7%となっています。

また、「いる」と回答した人の割合が最も少ない年齢は、男性 40 歳代（69.2%）、女性 40 歳代（89.7%）であり、一方で最も割合の多い年齢は、男性 10 歳代・20 歳代ともに（100.0%）、女性 10 歳代・20 歳代ともに（100.0%）となっています。

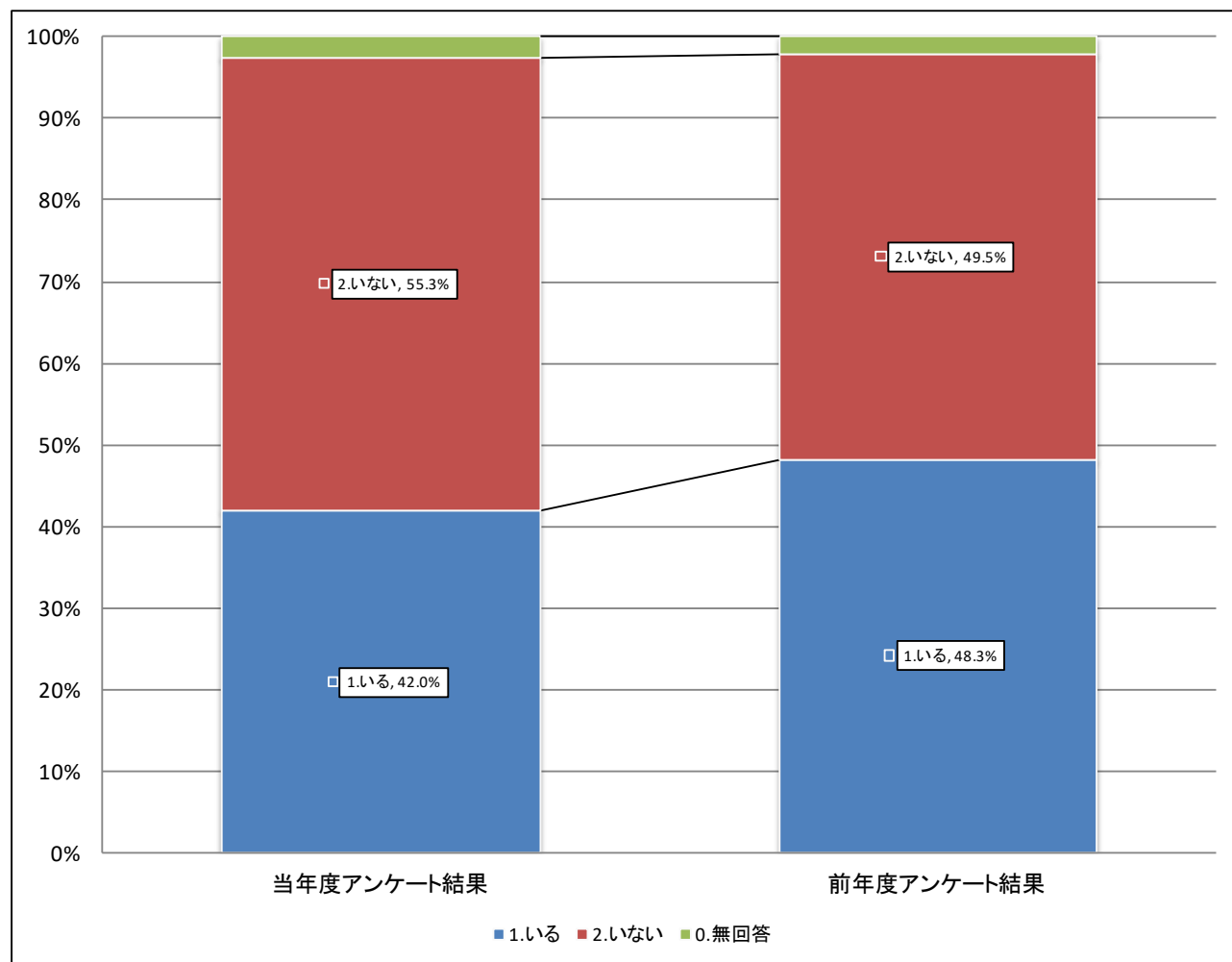
男女や、男性は年齢によって差があることがうかがえます。

➤ 地区別



地区別にみると、「いる」と回答した人の割合が最も少ない地区は、大寄地区（81.0%）であり、次いで八基地区（82.6%）となっています。最も多い地区は、豊里地区（92.0%）であり、次いで川本地区（90.6%）となっています。

日常生活で困ったことがあった時に、手助けしてくれる人（民生委員・児童委員や自治会など）はいますか。



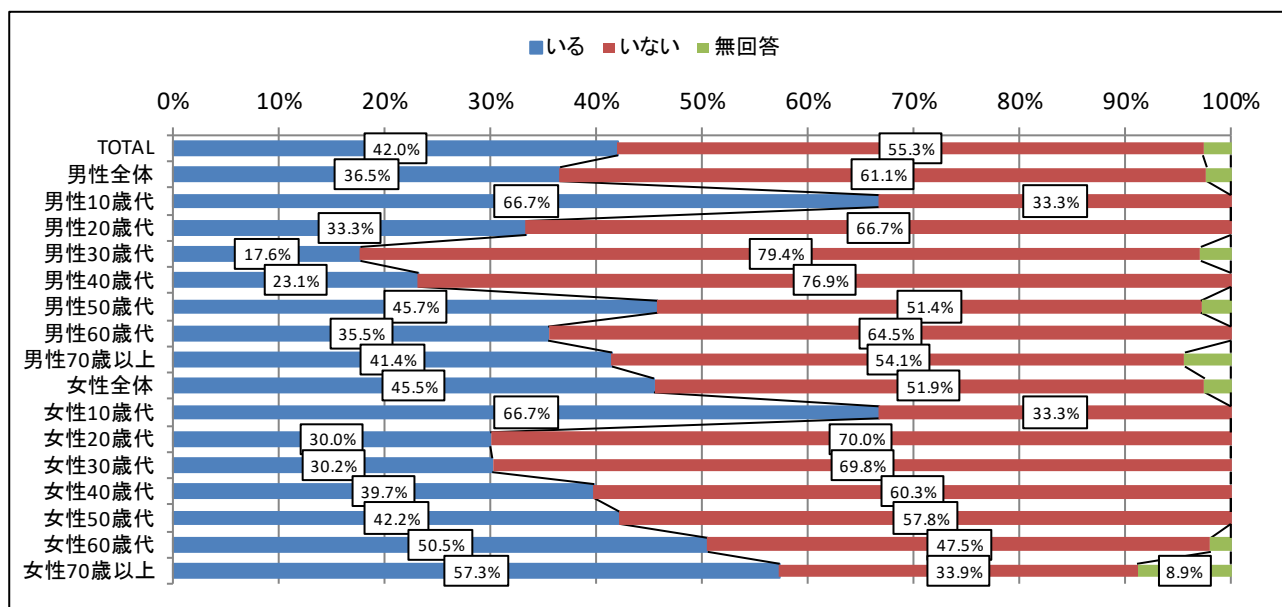
「いる」と回答した人の割合は 42.0%、「いない」と回答した人の割合は 55.3%となっています。

日常生活に困ったことがあった時に、手助けしてくれる人が「いる」市民は半数未満という状況がうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「いる」と回答した人の割合は 48.3%であり、「前年度アンケート」と比較して減少しています。

回答者数		いる	いない	無回答	合計
TOTAL	900	42.0%	55.3%	2.7%	100.0%
男性全体	337	36.5%	61.1%	2.4%	100.0%
男性10歳代	3	66.7%	33.3%	0.0%	100.0%
男性20歳代	18	33.3%	66.7%	0.0%	100.0%
男性30歳代	34	17.6%	79.4%	2.9%	100.0%
男性40歳代	39	23.1%	76.9%	0.0%	100.0%
男性50歳代	70	45.7%	51.4%	2.9%	100.0%
男性60歳代	62	35.5%	64.5%	0.0%	100.0%
男性70歳以上	111	41.4%	54.1%	4.5%	100.0%
男性年代不明	0	—	—	—	—
女性全体	495	45.5%	51.9%	2.6%	100.0%
女性10歳代	3	66.7%	33.3%	0.0%	100.0%
女性20歳代	30	30.0%	70.0%	0.0%	100.0%
女性30歳代	63	30.2%	69.8%	0.0%	100.0%
女性40歳代	68	39.7%	60.3%	0.0%	100.0%
女性50歳代	102	42.2%	57.8%	0.0%	100.0%
女性60歳代	101	50.5%	47.5%	2.0%	100.0%
女性70歳以上	124	57.3%	33.9%	8.9%	100.0%
女性年代不明	4	75.0%	25.0%	0.0%	100.0%
性別無回答	68	44.1%	51.5%	4.4%	100.0%
深谷地区	233	32.6%	64.4%	3.0%	100.0%
藤沢地区	67	53.7%	43.3%	3.0%	100.0%
幡羅地区	97	34.0%	62.9%	3.1%	100.0%
明戸地区	17	70.6%	29.4%	0.0%	100.0%
大寄地区	21	57.1%	42.9%	0.0%	100.0%
八基地区	23	65.2%	30.4%	4.3%	100.0%
豊里地区	25	64.0%	36.0%	0.0%	100.0%
上柴地区	109	44.0%	54.1%	1.8%	100.0%
南地区	65	33.8%	66.2%	0.0%	100.0%
岡部地区	103	36.9%	59.2%	3.9%	100.0%
川本地区	53	49.1%	49.1%	1.9%	100.0%
花園地区	70	51.4%	44.3%	4.3%	100.0%
無回答	17	47.1%	47.1%	5.9%	100.0%

➤ 性別・年齢別

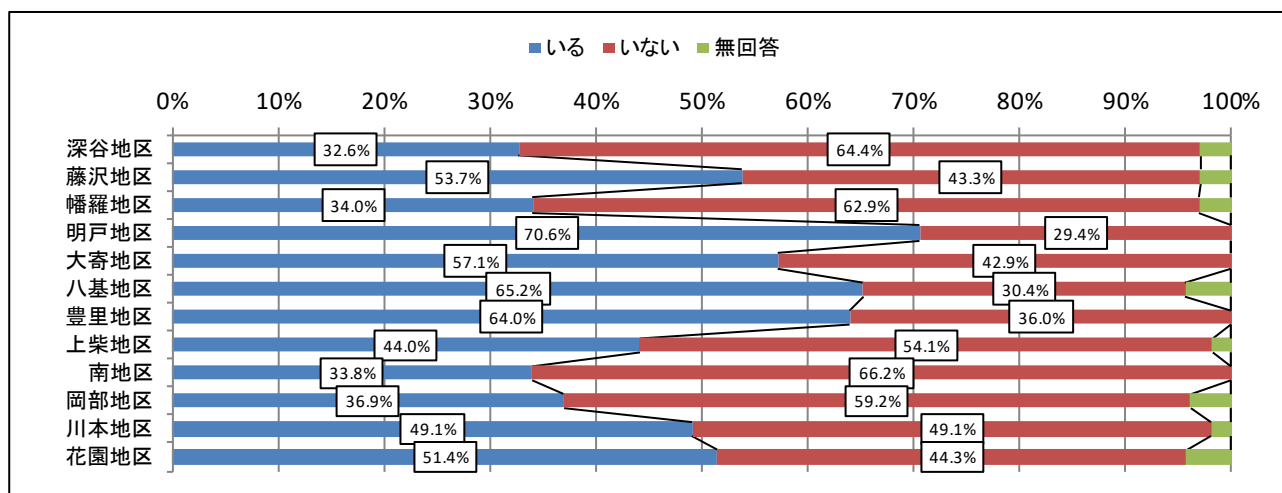


性別・年齢別にみると、「いる」と回答した人の割合は、男性が 36.5%であるのに対して、女性は 45.5%となっています。

また、「いる」と回答した人の割合が最も少ない年齢は、男性 30 歳代 (17.6%)、女性 20 歳代 (30.0%) であり、一方で最も多い年齢は、男性 10 歳代 (66.7%)、女性 10 歳代 (66.7%) となっています。

男女によって差があることがうかがえます。

➤ 地区別



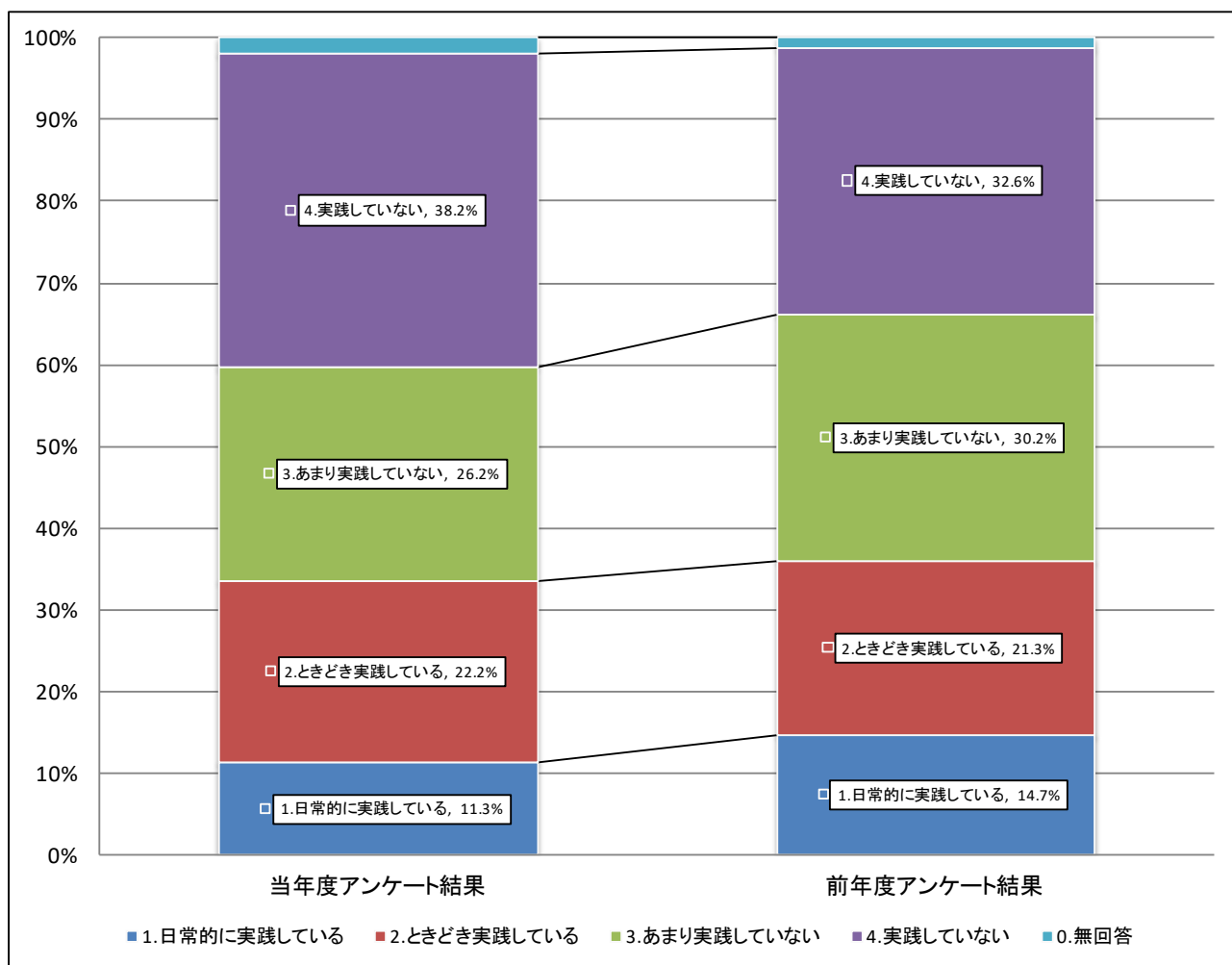
地区別にみると、「いる」と回答した人の割合が最も少ない地区は、深谷地区 (32.6%) であり、次いで南地区 (33.8%) となっています。最も多い地区は、明戸地区 (70.6%) であり、次いで八基地区 (65.2%) となっています。

地区によって差があることがうかがえます。

(3) 教育・文化について

① 生涯学習の振興（3. 問 1）

生涯学習（自発的な学習、自己啓発活動など）を実践していますか。



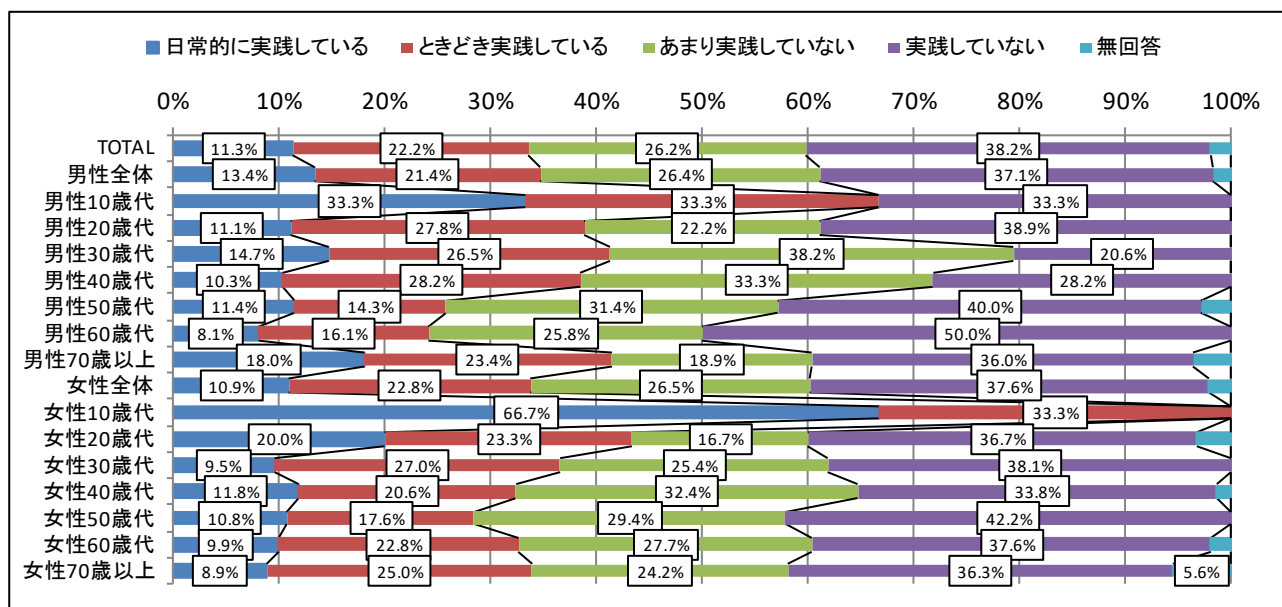
「実践していない」と回答した人の割合が 38.2%と最も多く、次いで「あまり実践していない」と回答した人の割合が 26.2%、「ときどき実践している」と回答した人の割合が 22.2%、「日常的に実践している」と回答した人の割合が最も少なく 11.3%となっています。

「日常的に実践している」または「ときどき実践している」と回答した人の割合の合計は 33.5%であり、生涯学習を実践している市民は約 3 割という状況がうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「日常的に実践している」または「ときどき実践している」と回答した人の割合の合計は 36.0%であり、「前年度アンケート」と比較してわずかに減少しています。

回答者数		日常的に実践している	ときどき実践している	あまり実践していない	実践していない	無回答	合計
TOTAL	900	11.3%	22.2%	26.2%	38.2%	2.0%	100.0%
男性全体	337	13.4%	21.4%	26.4%	37.1%	1.8%	100.0%
男性10歳代	3	33.3%	33.3%	0.0%	33.3%	0.0%	100.0%
男性20歳代	18	11.1%	27.8%	22.2%	38.9%	0.0%	100.0%
男性30歳代	34	14.7%	26.5%	38.2%	20.6%	0.0%	100.0%
男性40歳代	39	10.3%	28.2%	33.3%	28.2%	0.0%	100.0%
男性50歳代	70	11.4%	14.3%	31.4%	40.0%	2.9%	100.0%
男性60歳代	62	8.1%	16.1%	25.8%	50.0%	0.0%	100.0%
男性70歳以上	111	18.0%	23.4%	18.9%	36.0%	3.6%	100.0%
男性年代不明	0	—	—	—	—	—	—
女性全体	495	10.9%	22.8%	26.5%	37.6%	2.2%	100.0%
女性10歳代	3	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性20歳代	30	20.0%	23.3%	16.7%	36.7%	3.3%	100.0%
女性30歳代	63	9.5%	27.0%	25.4%	38.1%	0.0%	100.0%
女性40歳代	68	11.8%	20.6%	32.4%	33.8%	1.5%	100.0%
女性50歳代	102	10.8%	17.6%	29.4%	42.2%	0.0%	100.0%
女性60歳代	101	9.9%	22.8%	27.7%	37.6%	2.0%	100.0%
女性70歳以上	124	8.9%	25.0%	24.2%	36.3%	5.6%	100.0%
女性年代不明	4	0.0%	50.0%	0.0%	50.0%	0.0%	100.0%
性別無回答	68	4.4%	22.1%	23.5%	48.5%	1.5%	100.0%
深谷地区	233	7.7%	21.5%	28.3%	41.2%	1.3%	100.0%
藤沢地区	67	10.4%	29.9%	26.9%	32.8%	0.0%	100.0%
幡羅地区	97	8.2%	24.7%	26.8%	37.1%	3.1%	100.0%
明戸地区	17	11.8%	5.9%	41.2%	35.3%	5.9%	100.0%
大寄地区	21	14.3%	14.3%	38.1%	33.3%	0.0%	100.0%
八基地区	23	4.3%	21.7%	30.4%	39.1%	4.3%	100.0%
豊里地区	25	4.0%	12.0%	28.0%	56.0%	0.0%	100.0%
上柴地区	109	21.1%	24.8%	22.0%	31.2%	0.9%	100.0%
南地区	65	12.3%	26.2%	24.6%	36.9%	0.0%	100.0%
岡部地区	103	13.6%	23.3%	23.3%	35.9%	3.9%	100.0%
川本地区	53	9.4%	24.5%	20.8%	41.5%	3.8%	100.0%
花園地区	70	12.9%	14.3%	30.0%	38.6%	4.3%	100.0%
無回答	17	17.6%	17.6%	5.9%	58.8%	0.0%	100.0%

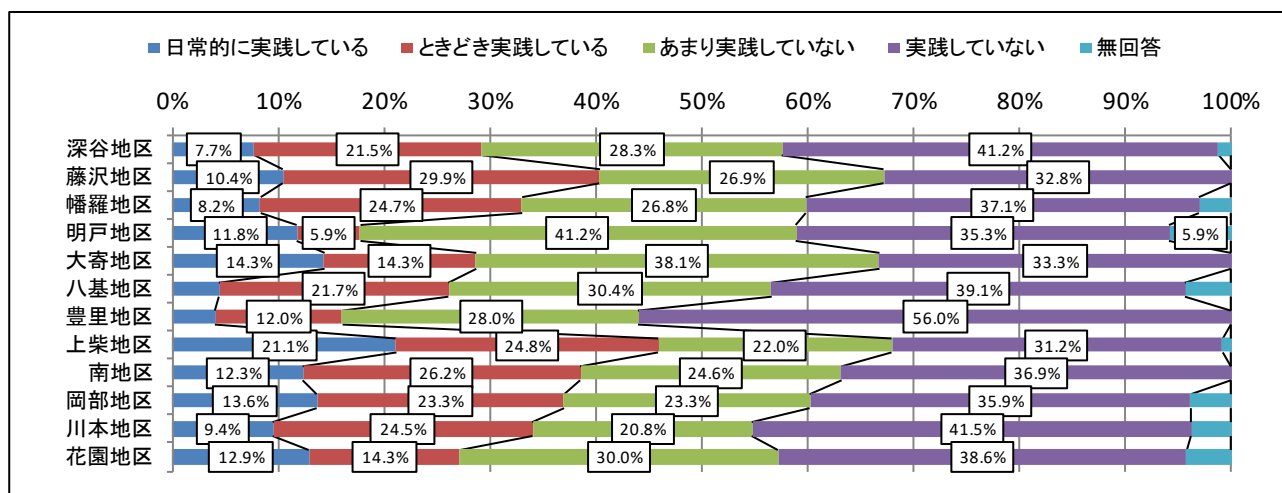
➤ 性別・年齢別



性別・年齢別にみると、「日常的に実践している」または「ときどき実践している」と回答した人の割合の合計は、男性が 34.8%であるのに対して、女性は 33.7%となっています。

また、「日常的に実践している」または「ときどき実践している」と回答した人の割合の合計が最も少ない年齢は、男性 60 歳代 (24.2%)、女性 50 歳代 (28.4%) であり、一方で最も多い年齢は、男性 10 歳代 (66.6%)、女性 10 歳代 (100.0%) となっています。

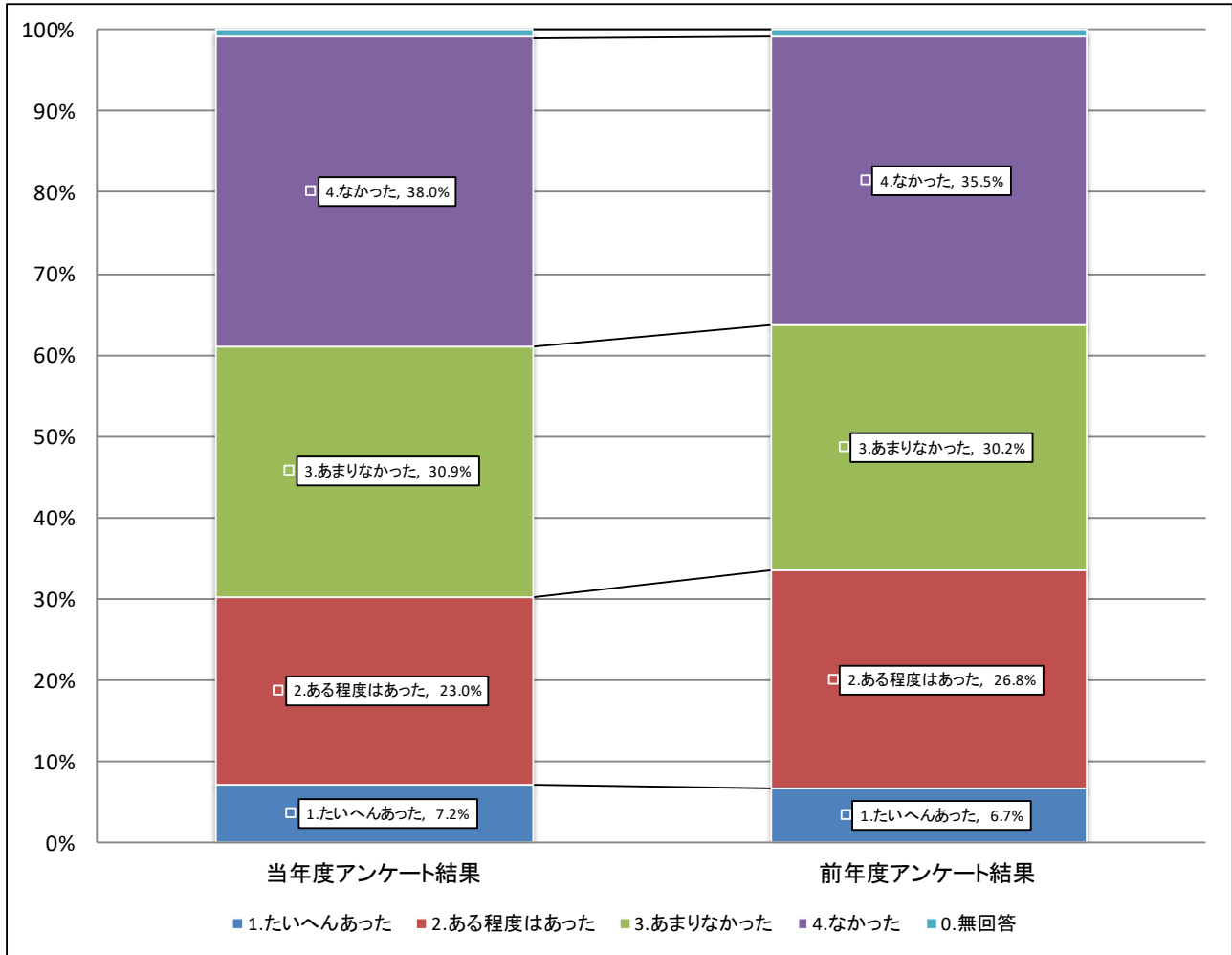
➤ 地区別



地区別にみると、「日常的に実践している」または「ときどき実践している」と回答した人の割合の合計が最も少ない地区は、豊里地区 (16.0%) であり、次いで明戸地区 (17.7%) となっています。最も多い地区は、上柴地区 (45.9%) であり、次いで藤沢地区 (40.3%) となっています。

② 文化の振興（３．問２）

この１年間に芸術文化や多様な文化活動に親しむ機会がありましたか。



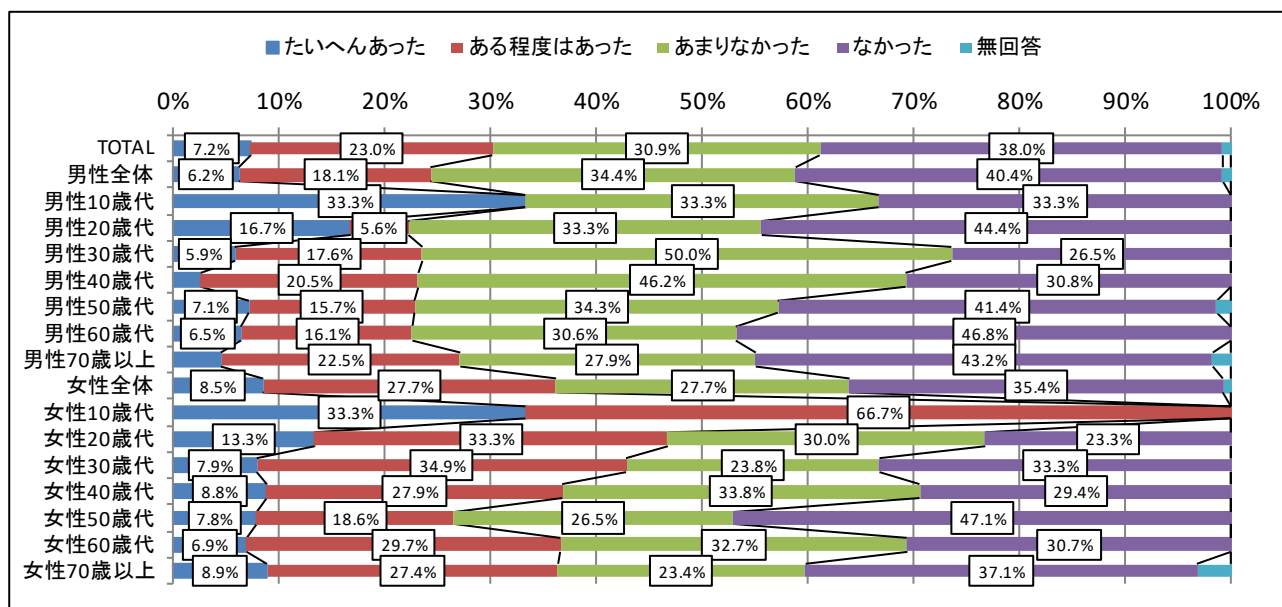
「なかった」と回答した人の割合が 38.0%と最も多く、次いで「あまりなかった」と回答した人の割合が 30.9%、「ある程度はあった」と回答した人の割合が 23.0%、「たいへんあった」と回答した人の割合が最も少なく 7.2%となっています。

「たいへんあった」または「ある程度はあった」と回答した人の割合の合計は 30.2%であり、この１年間に芸術文化や多様な文化活動に親しむ機会があった市民は３割という状況がうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「たいへんあった」または「ある程度はあった」と回答した人の割合の合計は 33.5%であり、「前年度アンケート」と比較して減少しています。

回答者数		たいへんあった	ある程度はあった	あまりなかった	なかった	無回答	合計
TOTAL	900	7.2%	23.0%	30.9%	38.0%	0.9%	100.0%
男性全体	337	6.2%	18.1%	34.4%	40.4%	0.9%	100.0%
男性10歳代	3	33.3%	0.0%	33.3%	33.3%	0.0%	100.0%
男性20歳代	18	16.7%	5.6%	33.3%	44.4%	0.0%	100.0%
男性30歳代	34	5.9%	17.6%	50.0%	26.5%	0.0%	100.0%
男性40歳代	39	2.6%	20.5%	46.2%	30.8%	0.0%	100.0%
男性50歳代	70	7.1%	15.7%	34.3%	41.4%	1.4%	100.0%
男性60歳代	62	6.5%	16.1%	30.6%	46.8%	0.0%	100.0%
男性70歳以上	111	4.5%	22.5%	27.9%	43.2%	1.8%	100.0%
男性年代不明	0	—	—	—	—	—	—
女性全体	495	8.5%	27.7%	27.7%	35.4%	0.8%	100.0%
女性10歳代	3	33.3%	66.7%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性20歳代	30	13.3%	33.3%	30.0%	23.3%	0.0%	100.0%
女性30歳代	63	7.9%	34.9%	23.8%	33.3%	0.0%	100.0%
女性40歳代	68	8.8%	27.9%	33.8%	29.4%	0.0%	100.0%
女性50歳代	102	7.8%	18.6%	26.5%	47.1%	0.0%	100.0%
女性60歳代	101	6.9%	29.7%	32.7%	30.7%	0.0%	100.0%
女性70歳以上	124	8.9%	27.4%	23.4%	37.1%	3.2%	100.0%
女性年代不明	4	0.0%	25.0%	25.0%	50.0%	0.0%	100.0%
性別無回答	68	2.9%	13.2%	36.8%	45.6%	1.5%	100.0%
深谷地区	233	8.2%	25.3%	30.5%	35.6%	0.4%	100.0%
藤沢地区	67	4.5%	31.3%	31.3%	32.8%	0.0%	100.0%
幡羅地区	97	10.3%	17.5%	33.0%	38.1%	1.0%	100.0%
明戸地区	17	5.9%	17.6%	29.4%	41.2%	5.9%	100.0%
大寄地区	21	9.5%	28.6%	33.3%	28.6%	0.0%	100.0%
八基地区	23	0.0%	13.0%	52.2%	34.8%	0.0%	100.0%
豊里地区	25	8.0%	16.0%	28.0%	48.0%	0.0%	100.0%
上柴地区	109	9.2%	22.9%	35.8%	31.2%	0.9%	100.0%
南地区	65	10.8%	23.1%	29.2%	36.9%	0.0%	100.0%
岡部地区	103	1.9%	31.1%	23.3%	41.7%	1.9%	100.0%
川本地区	53	5.7%	20.8%	28.3%	43.4%	1.9%	100.0%
花園地区	70	7.1%	11.4%	30.0%	50.0%	1.4%	100.0%
無回答	17	5.9%	17.6%	29.4%	47.1%	0.0%	100.0%

➤ 性別・年齢別

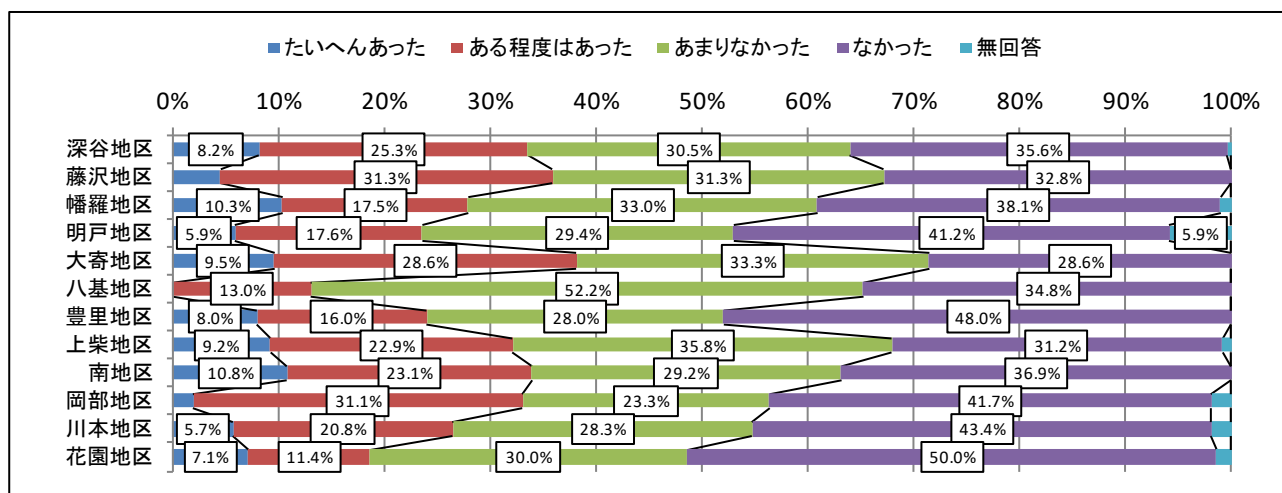


性別・年齢別にみると、「たいへんあった」または「ある程度はあった」と回答した人の割合の合計は、男性が24.3%であるのに対して、女性は36.2%となっています。

また、「たいへんあった」または「ある程度はあった」と回答した人の割合の合計が最も少ない年齢は、男性20歳代（22.3%）、女性50歳代（26.4%）であり、一方で最も多い年齢は、男性10歳代（33.3%）、女性10歳代（100.0%）となっています。

男女によって差があることがうかがえます。

➤ 地区別



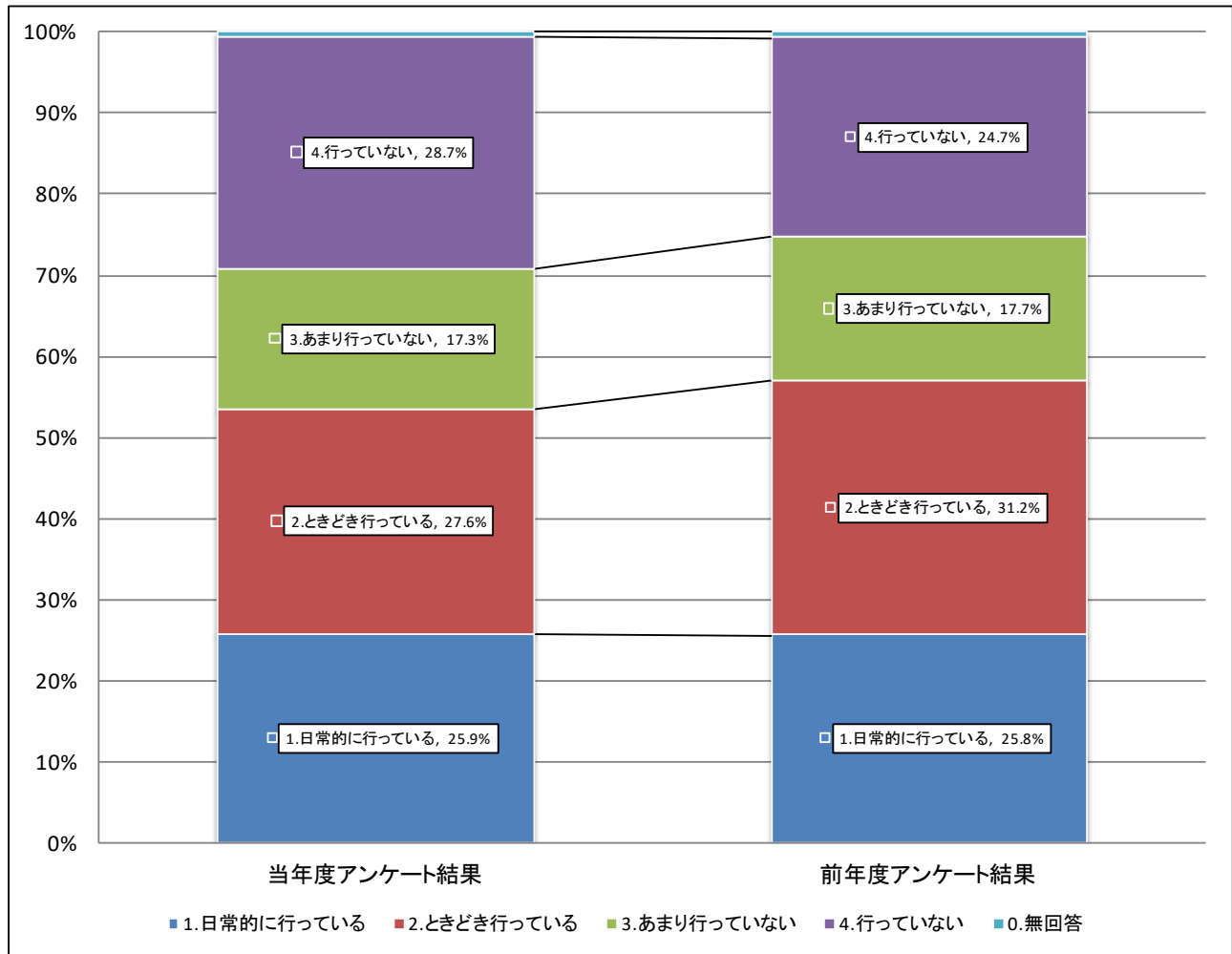
地区別にみると、「たいへんあった」または「ある程度はあった」と回答した人の割合の合計が最も少ない地区は、八基地区（13.0%）であり、次いで花園地区（18.5%）となっています。最も多い地区は、大寄地区（38.1%）であり、次いで藤沢地区（35.8%）となっています。

③ スポーツの振興（3. 問3）

スポーツやレクリエーションをどの程度行っていますか。

※スポーツ・レクリエーション活動は、以下のような活動も含みます。

散歩・ウォーキング、ジョギング・ランニング、軽い体操、筋力トレーニング、ヨガ、ゲートボール、フォークダンス、民謡踊りなど



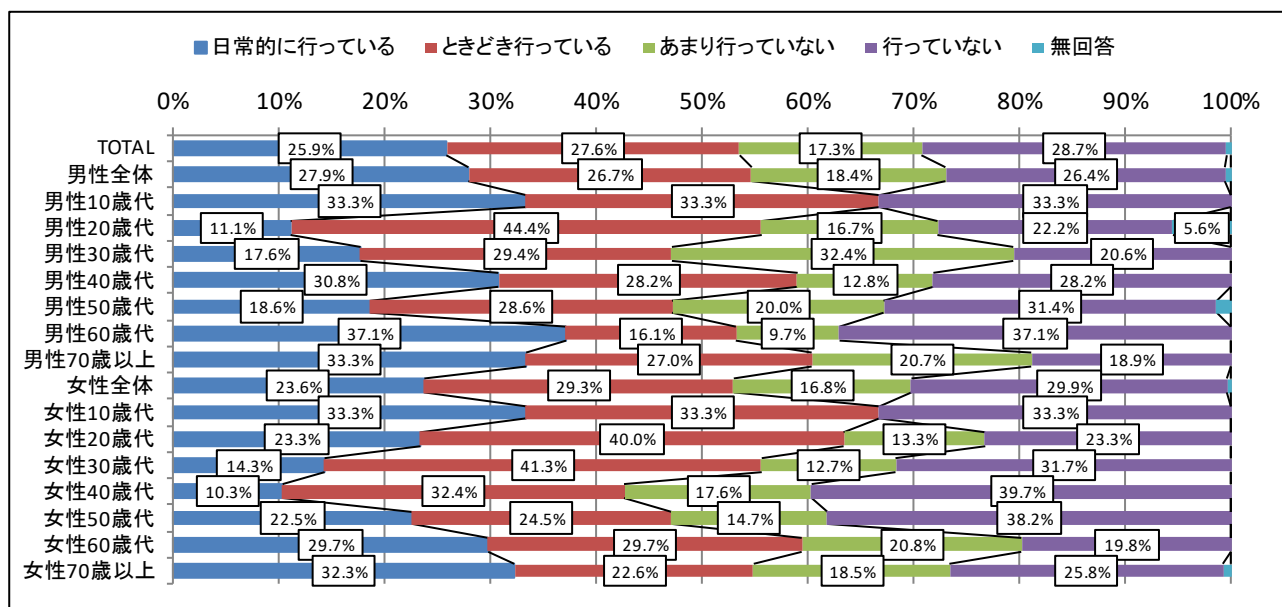
「行っていない」と回答した人の割合が 28.7%と最も多く、次いで、「ときどき行っている」と回答した人の割合が 27.6%、「日常的に行っている」と回答した人の割合が 25.9%、「あまり行っていない」と回答した人の割合が最も少なく 17.3%となっています。

「日常的に行っている」または「ときどき行っている」と回答した人の割合の合計は 53.5%であり、5 割以上の市民がスポーツやレクリエーション活動を行っていることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「日常的に行っている」または「ときどき行っている」と回答した人の割合の合計は 57.0%であり、「前年度アンケート」と比較して減少しています。

回答者数		日常的に行っている	ときどき行っている	あまり行っていない	行っていない	無回答	合計
TOTAL	900	25.9%	27.6%	17.3%	28.7%	0.6%	100.0%
男性全体	337	27.9%	26.7%	18.4%	26.4%	0.6%	100.0%
男性10歳代	3	33.3%	33.3%	0.0%	33.3%	0.0%	100.0%
男性20歳代	18	11.1%	44.4%	16.7%	22.2%	5.6%	100.0%
男性30歳代	34	17.6%	29.4%	32.4%	20.6%	0.0%	100.0%
男性40歳代	39	30.8%	28.2%	12.8%	28.2%	0.0%	100.0%
男性50歳代	70	18.6%	28.6%	20.0%	31.4%	1.4%	100.0%
男性60歳代	62	37.1%	16.1%	9.7%	37.1%	0.0%	100.0%
男性70歳以上	111	33.3%	27.0%	20.7%	18.9%	0.0%	100.0%
男性年代不明	0	—	—	—	—	—	—
女性全体	495	23.6%	29.3%	16.8%	29.9%	0.4%	100.0%
女性10歳代	3	33.3%	33.3%	0.0%	33.3%	0.0%	100.0%
女性20歳代	30	23.3%	40.0%	13.3%	23.3%	0.0%	100.0%
女性30歳代	63	14.3%	41.3%	12.7%	31.7%	0.0%	100.0%
女性40歳代	68	10.3%	32.4%	17.6%	39.7%	0.0%	100.0%
女性50歳代	102	22.5%	24.5%	14.7%	38.2%	0.0%	100.0%
女性60歳代	101	29.7%	29.7%	20.8%	19.8%	0.0%	100.0%
女性70歳以上	124	32.3%	22.6%	18.5%	25.8%	0.8%	100.0%
女性年代不明	4	0.0%	25.0%	0.0%	50.0%	25.0%	100.0%
性別無回答	68	32.4%	19.1%	16.2%	30.9%	1.5%	100.0%
深谷地区	233	27.0%	26.6%	18.0%	28.3%	0.0%	100.0%
藤沢地区	67	25.4%	32.8%	19.4%	22.4%	0.0%	100.0%
幡羅地区	97	25.8%	22.7%	16.5%	34.0%	1.0%	100.0%
明戸地区	17	35.3%	17.6%	17.6%	17.6%	11.8%	100.0%
大寄地区	21	33.3%	14.3%	23.8%	28.6%	0.0%	100.0%
八基地区	23	13.0%	8.7%	39.1%	39.1%	0.0%	100.0%
豊里地区	25	24.0%	24.0%	24.0%	28.0%	0.0%	100.0%
上柴地区	109	23.9%	36.7%	16.5%	22.9%	0.0%	100.0%
南地区	65	33.8%	29.2%	15.4%	21.5%	0.0%	100.0%
岡部地区	103	21.4%	33.0%	10.7%	35.0%	0.0%	100.0%
川本地区	53	20.8%	30.2%	17.0%	32.1%	0.0%	100.0%
花園地区	70	28.6%	24.3%	14.3%	31.4%	1.4%	100.0%
無回答	17	29.4%	11.8%	23.5%	29.4%	5.9%	100.0%

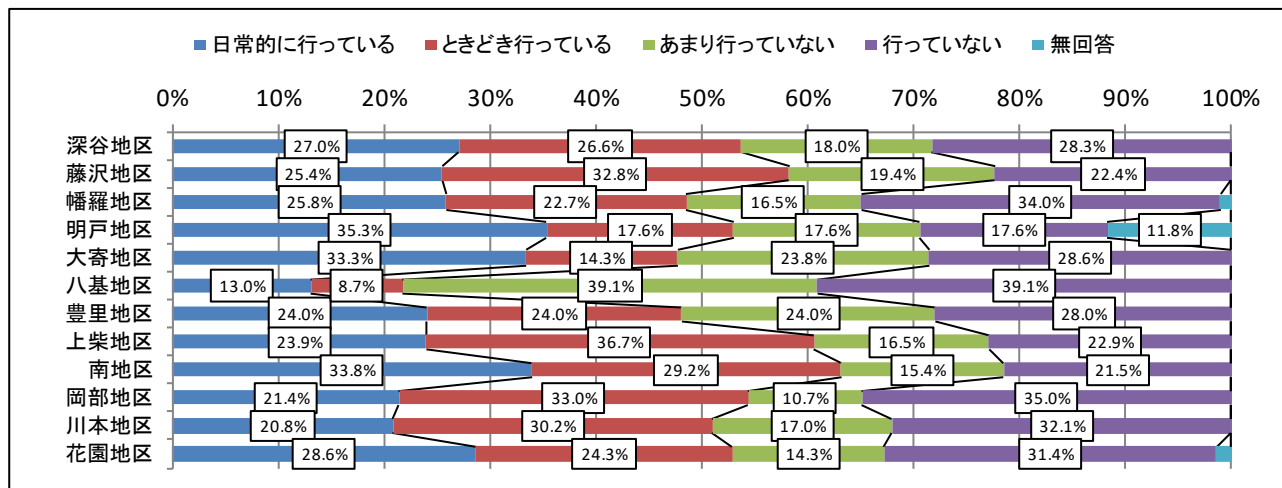
➤ 性別・年齢別



性別・年齢別にみると、「日常的に行っている」または「ときどき行っている」と回答した人の割合の合計は、男性が54.6%であるのに対して、女性は52.9%となっています。

また、「日常的に行っている」または「ときどき行っている」と回答した人の割合の合計が最も少ない年齢は、男性30歳代（47.0%）、女性40歳代（42.7%）であり、一方で最も多い年齢は、男性10歳代（66.6%）、女性10歳代（66.6%）となっています。

➤ 地区別



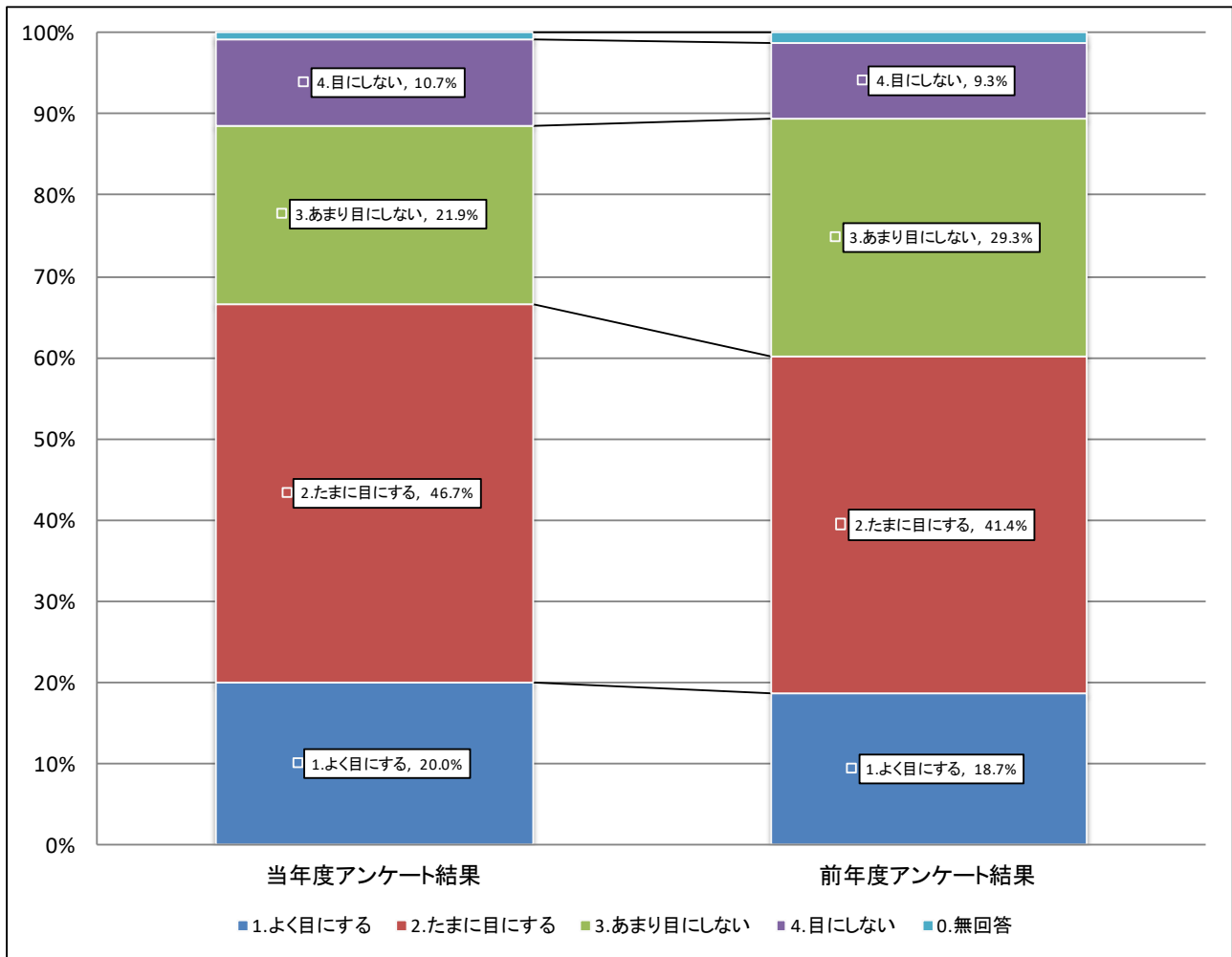
地区別にみると、「日常的に行っている」または「ときどき行っている」と回答した人の割合の合計が最も少ない地区は、八基地区（21.7%）であり、次いで大寄地区（47.6%）となっています。最も多い地区は、南地区（63.0%）であり、次いで上柴地区（60.6%）となっています。

地区によって差があることがうかがえます。

(4) 産業振興について

① 全国に誇る農業の振興（4. 問1～2）

市外の店舗で深谷産の農畜産物の販売を目にすることがありますか。



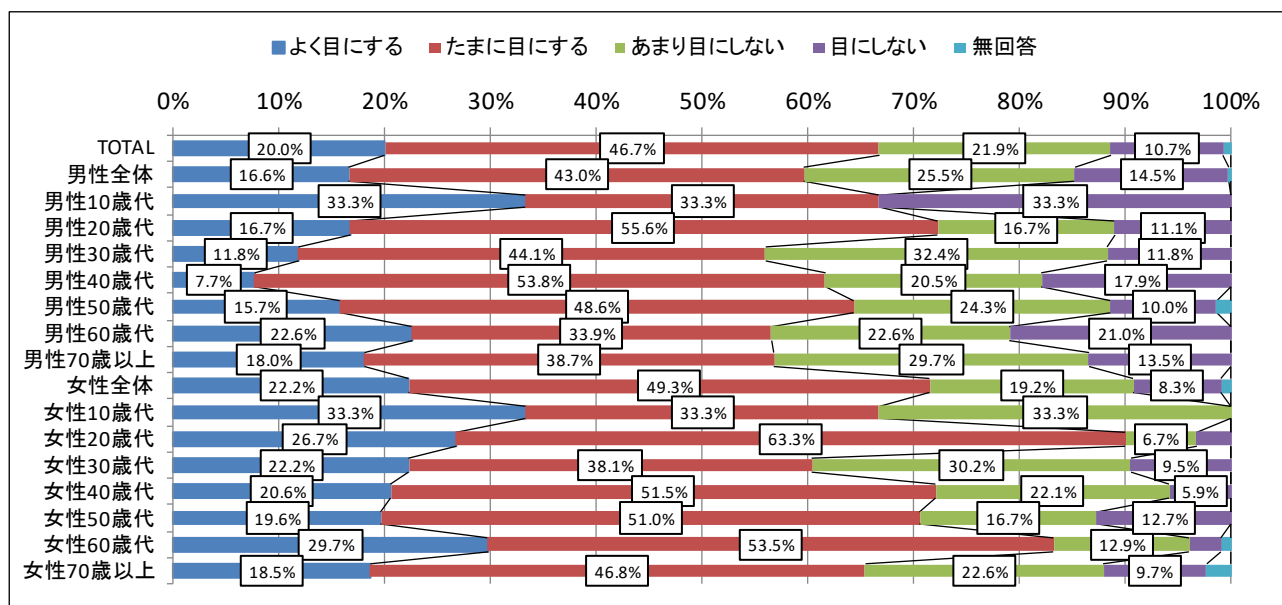
「たまに目にする」と回答した人の割合が 46.7%と最も多く、次いで「あまり目にしない」と回答した人の割合が 21.9%、「よく目にする」と回答した人の割合が 20.0%、「目にしない」と回答した人の割合が最も少なく 10.7%となっています。

「よく目にする」または「たまに目にする」と回答した人の割合の合計は 66.7%であり、7割近くの市民が市外の店舗で深谷産の農畜産物の販売を目にしていることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「よく目にする」または「たまに目にする」と回答した人の割合の合計は 60.1%であり、「前年度アンケート」と比較して増加しています。

回答者数		よく目にする	たまに目にする	あまり目に見えない	目に見えない	無回答	合計
TOTAL	900	20.0%	46.7%	21.9%	10.7%	0.8%	100.0%
男性全体	337	16.6%	43.0%	25.5%	14.5%	0.3%	100.0%
男性10歳代	3	33.3%	33.3%	0.0%	33.3%	0.0%	100.0%
男性20歳代	18	16.7%	55.6%	16.7%	11.1%	0.0%	100.0%
男性30歳代	34	11.8%	44.1%	32.4%	11.8%	0.0%	100.0%
男性40歳代	39	7.7%	53.8%	20.5%	17.9%	0.0%	100.0%
男性50歳代	70	15.7%	48.6%	24.3%	10.0%	1.4%	100.0%
男性60歳代	62	22.6%	33.9%	22.6%	21.0%	0.0%	100.0%
男性70歳以上	111	18.0%	38.7%	29.7%	13.5%	0.0%	100.0%
男性年代不明	0	—	—	—	—	—	—
女性全体	495	22.2%	49.3%	19.2%	8.3%	1.0%	100.0%
女性10歳代	3	33.3%	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%	100.0%
女性20歳代	30	26.7%	63.3%	6.7%	3.3%	0.0%	100.0%
女性30歳代	63	22.2%	38.1%	30.2%	9.5%	0.0%	100.0%
女性40歳代	68	20.6%	51.5%	22.1%	5.9%	0.0%	100.0%
女性50歳代	102	19.6%	51.0%	16.7%	12.7%	0.0%	100.0%
女性60歳代	101	29.7%	53.5%	12.9%	3.0%	1.0%	100.0%
女性70歳以上	124	18.5%	46.8%	22.6%	9.7%	2.4%	100.0%
女性年代不明	4	0.0%	25.0%	0.0%	50.0%	25.0%	100.0%
性別無回答	68	20.6%	45.6%	23.5%	8.8%	1.5%	100.0%
深谷地区	233	18.5%	48.1%	19.7%	13.3%	0.4%	100.0%
藤沢地区	67	17.9%	53.7%	25.4%	3.0%	0.0%	100.0%
幡羅地区	97	20.6%	42.3%	24.7%	12.4%	0.0%	100.0%
明戸地区	17	23.5%	47.1%	17.6%	5.9%	5.9%	100.0%
大寄地区	21	23.8%	52.4%	19.0%	4.8%	0.0%	100.0%
八基地区	23	17.4%	47.8%	26.1%	8.7%	0.0%	100.0%
豊里地区	25	24.0%	52.0%	12.0%	4.0%	8.0%	100.0%
上柴地区	109	23.9%	58.7%	11.9%	5.5%	0.0%	100.0%
南地区	65	20.0%	44.6%	21.5%	13.8%	0.0%	100.0%
岡部地区	103	17.5%	43.7%	28.2%	9.7%	1.0%	100.0%
川本地区	53	22.6%	28.3%	35.8%	13.2%	0.0%	100.0%
花園地区	70	21.4%	44.3%	18.6%	14.3%	1.4%	100.0%
無回答	17	11.8%	23.5%	35.3%	23.5%	5.9%	100.0%

➤ 性別・年齢別

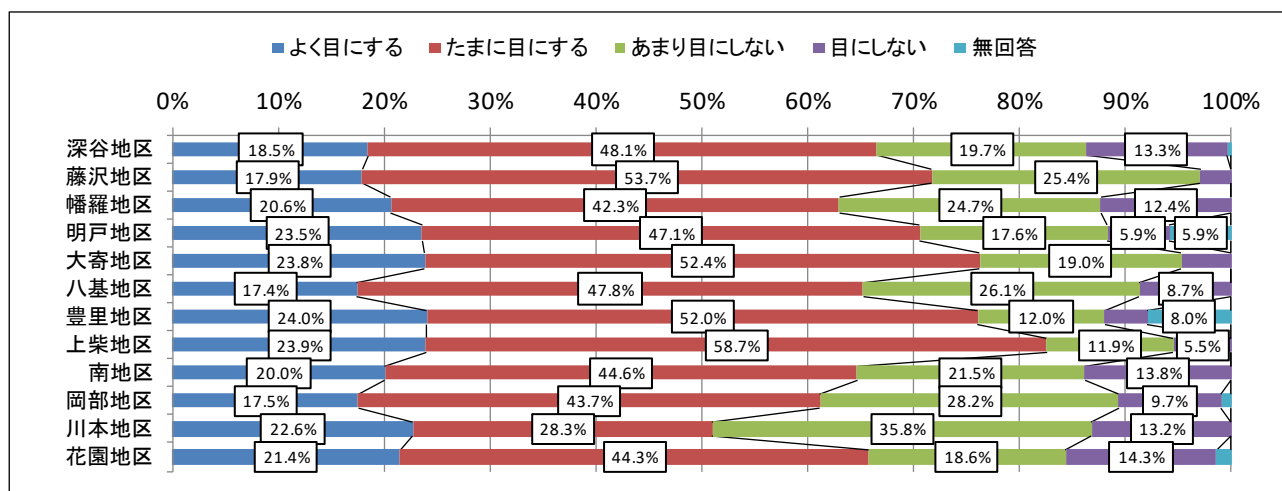


性別・年齢別にみると、「よく目にする」または「たまに目にする」と回答した人の割合の合計は、男性が59.6%であるのに対して、女性は71.5%となっています。

また、「よく目にする」または「たまに目にする」と回答した人の割合の合計が最も少ない年齢は、男性30歳代（55.9%）、女性30歳代（60.3%）であり、一方で最も多い年齢は、男性20歳代（72.3%）、女性20歳代（90.0%）となっています。

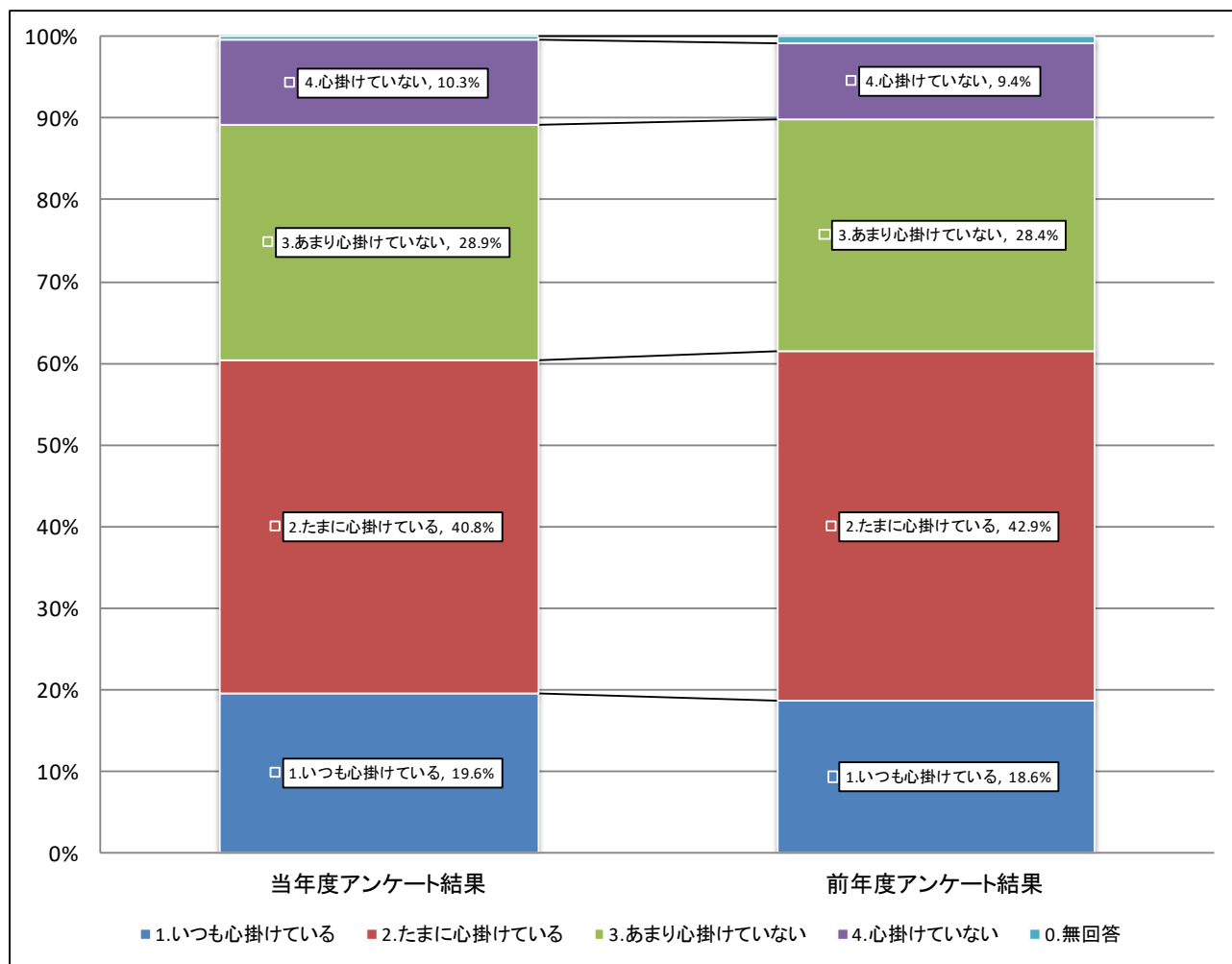
男女によって差があることがうかがえます。

➤ 地区別



地区別にみると、「よく目にする」または「たまに目にする」と回答した人の割合の合計が最も少ない地区は、川本地区（50.9%）であり、次いで岡部地区（61.2%）となっています。最も多い地区は、上柴地区（82.6%）であり、次いで大寄地区（76.2%）となっています。

食材等の購入の際に、深谷産の農畜産物を購入することを心掛けていますか。



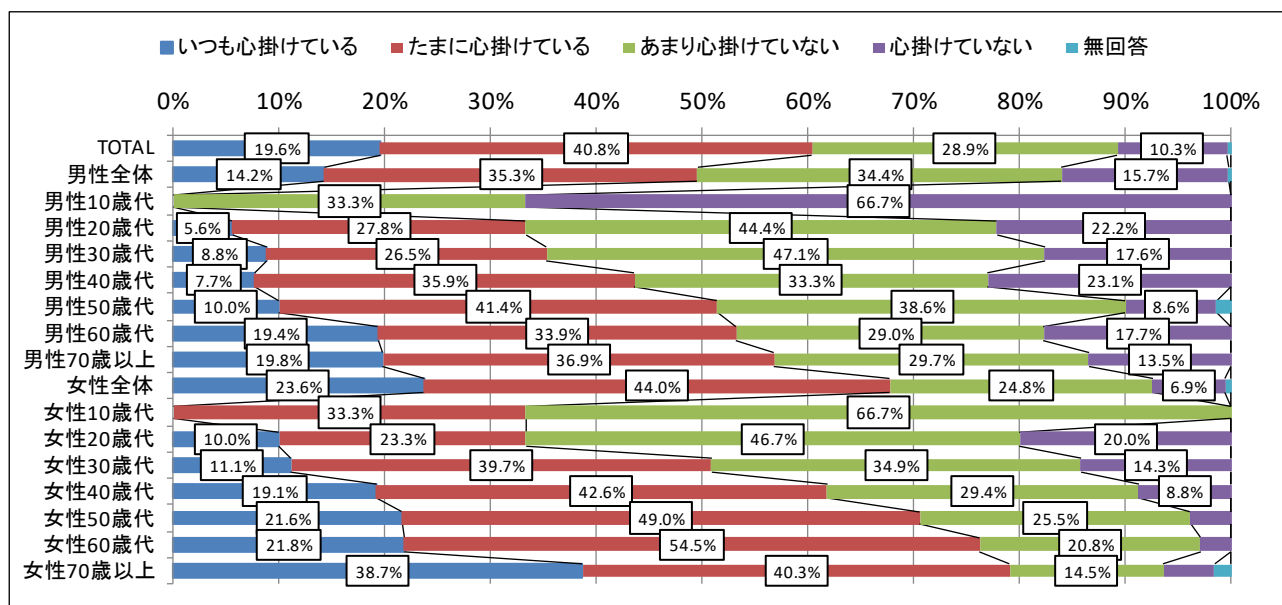
「たまに心掛けている」と回答した人の割合が 40.8%と最も多く、次いで「あまり心掛けていない」と回答した人の割合が 28.9%、「いつも心掛けている」と回答した人の割合が 19.6%、「心掛けていない」と回答した人の割合が最も少なく 10.3%となっています。

「いつも心掛けている」または「たまに心掛けている」と回答した人の割合の合計は 60.4%であり、6 割の市民が食材等の購入の際に、深谷産の農畜産物を購入することを心掛けていることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「いつも心掛けている」または「たまに心掛けている」と回答した人の割合の合計は 61.5%であり、「前年度アンケート」と比較してわずかに減少しています。

回答者数		いつも心掛けている	たまに心掛けている	あまり心掛けていない	心掛けていない	無回答	合計
TOTAL	900	19.6%	40.8%	28.9%	10.3%	0.4%	100.0%
男性全体	337	14.2%	35.3%	34.4%	15.7%	0.3%	100.0%
男性10歳代	3	0.0%	0.0%	33.3%	66.7%	0.0%	100.0%
男性20歳代	18	5.6%	27.8%	44.4%	22.2%	0.0%	100.0%
男性30歳代	34	8.8%	26.5%	47.1%	17.6%	0.0%	100.0%
男性40歳代	39	7.7%	35.9%	33.3%	23.1%	0.0%	100.0%
男性50歳代	70	10.0%	41.4%	38.6%	8.6%	1.4%	100.0%
男性60歳代	62	19.4%	33.9%	29.0%	17.7%	0.0%	100.0%
男性70歳以上	111	19.8%	36.9%	29.7%	13.5%	0.0%	100.0%
男性年代不明	0	—	—	—	—	—	—
女性全体	495	23.6%	44.0%	24.8%	6.9%	0.6%	100.0%
女性10歳代	3	0.0%	33.3%	66.7%	0.0%	0.0%	100.0%
女性20歳代	30	10.0%	23.3%	46.7%	20.0%	0.0%	100.0%
女性30歳代	63	11.1%	39.7%	34.9%	14.3%	0.0%	100.0%
女性40歳代	68	19.1%	42.6%	29.4%	8.8%	0.0%	100.0%
女性50歳代	102	21.6%	49.0%	25.5%	3.9%	0.0%	100.0%
女性60歳代	101	21.8%	54.5%	20.8%	3.0%	0.0%	100.0%
女性70歳以上	124	38.7%	40.3%	14.5%	4.8%	1.6%	100.0%
女性年代不明	4	50.0%	25.0%	0.0%	0.0%	25.0%	100.0%
性別無回答	68	16.2%	44.1%	30.9%	8.8%	0.0%	100.0%
深谷地区	233	18.5%	37.8%	32.6%	11.2%	0.0%	100.0%
藤沢地区	67	13.4%	50.7%	31.3%	4.5%	0.0%	100.0%
幡羅地区	97	18.6%	46.4%	22.7%	11.3%	1.0%	100.0%
明戸地区	17	35.3%	35.3%	29.4%	0.0%	0.0%	100.0%
大寄地区	21	23.8%	28.6%	38.1%	9.5%	0.0%	100.0%
八基地区	23	30.4%	26.1%	30.4%	13.0%	0.0%	100.0%
豊里地区	25	20.0%	20.0%	52.0%	8.0%	0.0%	100.0%
上柴地区	109	27.5%	40.4%	19.3%	11.9%	0.9%	100.0%
南地区	65	24.6%	49.2%	18.5%	7.7%	0.0%	100.0%
岡部地区	103	13.6%	47.6%	25.2%	13.6%	0.0%	100.0%
川本地区	53	15.1%	34.0%	41.5%	9.4%	0.0%	100.0%
花園地区	70	14.3%	47.1%	25.7%	11.4%	1.4%	100.0%
無回答	17	29.4%	5.9%	52.9%	5.9%	5.9%	100.0%

➤ 性別・年齢別

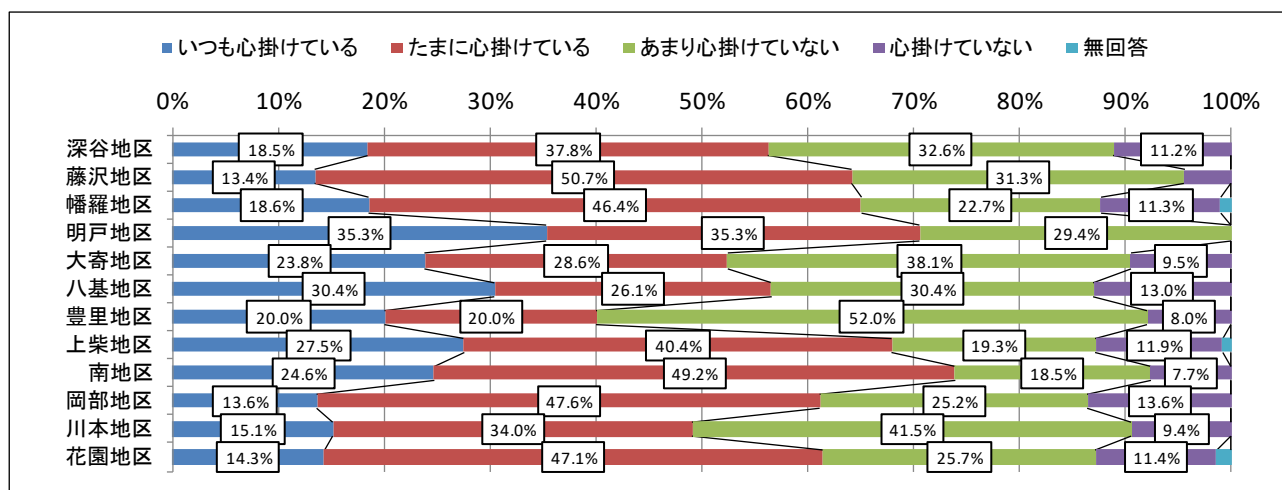


性別・年齢別にみると、「いつも心掛けている」または「たまに心掛けている」と回答した人の割合の合計は、男性が49.5%であるのに対して、女性は67.6%となっています。

また、「いつも心掛けている」または「たまに心掛けている」と回答した人の割合の合計が最も少ない年齢は、男性10歳代（0.0%）、女性10歳代・20歳代ともに（33.3%）であり、一方で最も多い年齢は、男性70歳以上（56.7%）、女性70歳以上（79.0%）となっています。

男女や、年齢によって差があることがうかがえます。

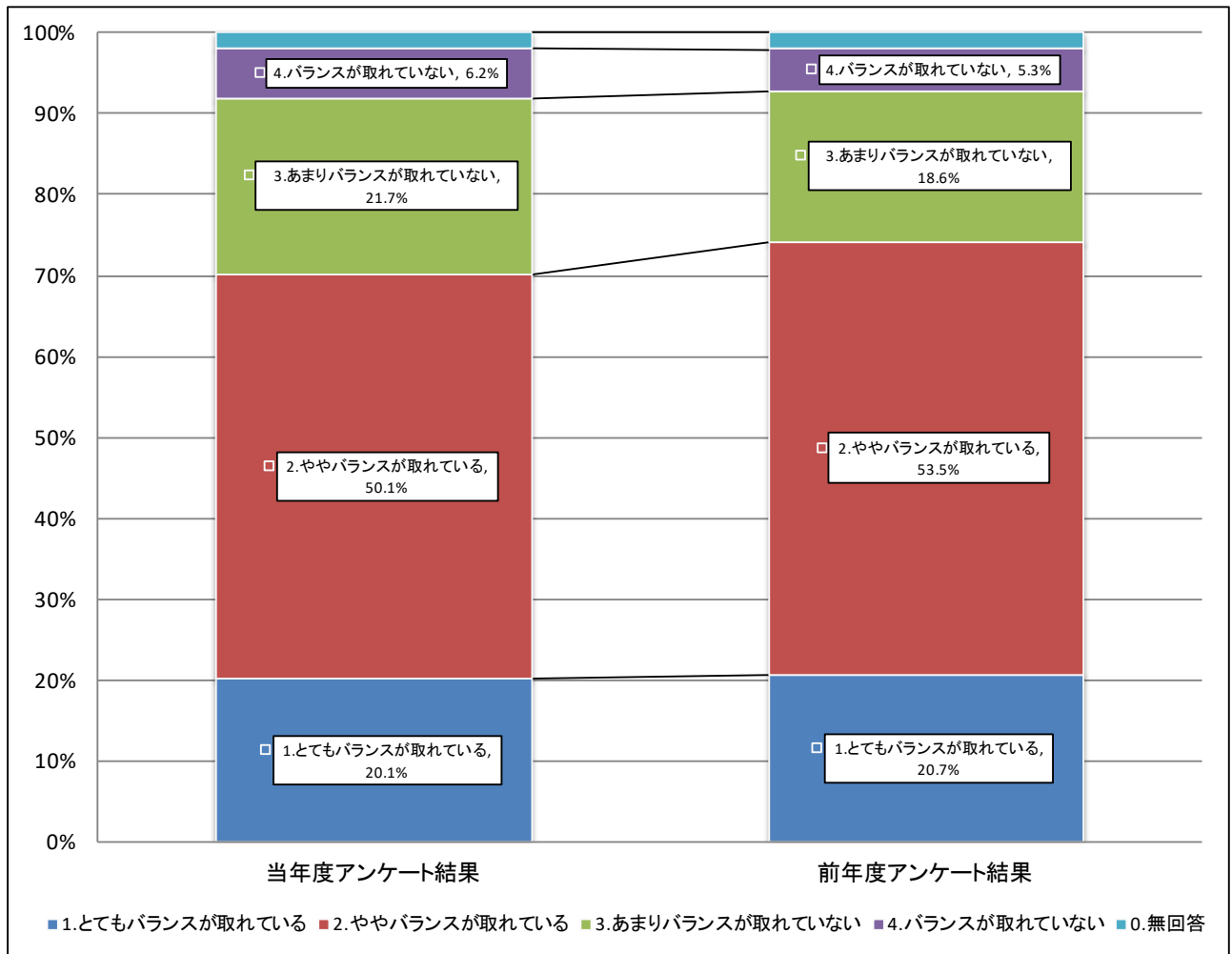
➤ 地区別



地区別にみると、「いつも心掛けている」または「たまに心掛けている」と回答した人の割合の合計が最も少ない地区は、豊里地区（40.0%）であり、次いで川本地区（49.1%）となっています。最も多い地区は、南地区（73.8%）であり、次いで明戸地区（70.6%）となっています。

② 雇用の創出・安定と勤労者への支援（4. 問3）

ご自身またはご家族の仕事と生活のバランスは取れていますか（休暇の取得状況や家族と過ごす時間の確保などは十分ですか）。



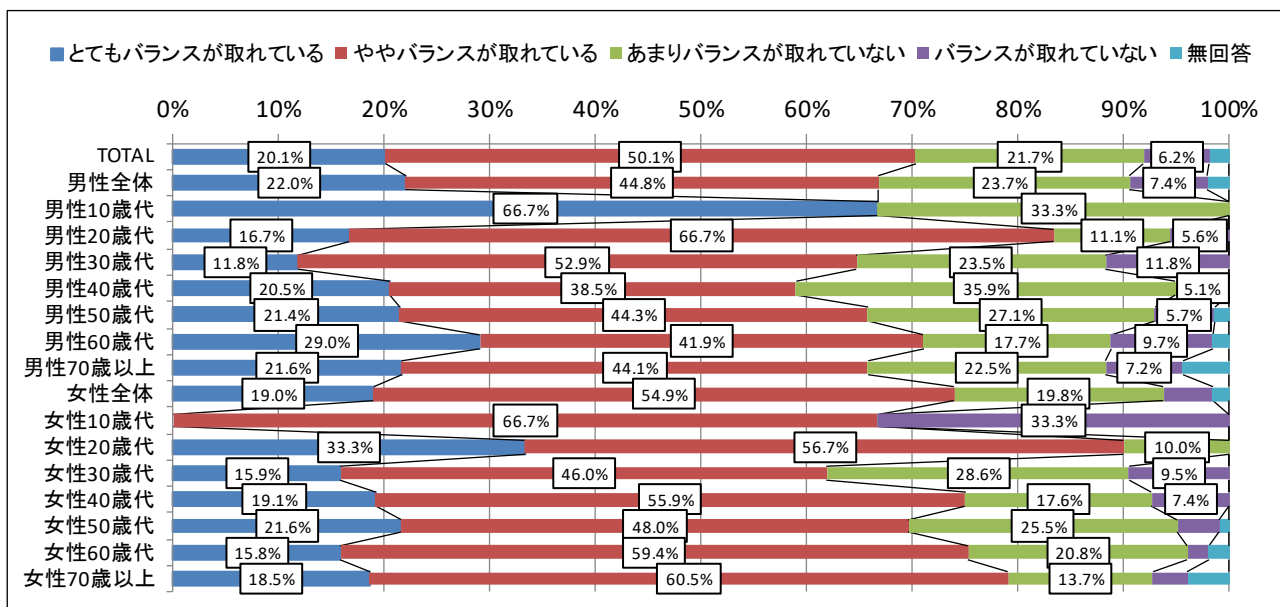
「ややバランスが取れている」と回答した人の割合が 50.1%と最も多く、次いで「あまりバランスが取れていない」と回答した人の割合が 21.7%、「とてもバランスが取れている」と回答した人の割合が 20.1%、「バランスが取れていない」と回答した人の割合が最も少なく 6.2%となっています。

「とてもバランスが取れている」または「ややバランスが取れている」と回答した人の割合の合計は 70.2%であり、7 割の市民が、ご自身またはご家族の仕事と生活のバランスが取れていると感じていることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「とてもバランスが取れている」または「ややバランスが取れている」と回答した人の割合の合計は 74.2%であり、「前年度アンケート」と比較して減少しています。

回答者数		とてもバランスが 取れている	ややバランスが 取れている	あまり バランスが 取れていない	バランスが 取れていない	無回答	合計
TOTAL	900	20.1%	50.1%	21.7%	6.2%	1.9%	100.0%
男性全体	337	22.0%	44.8%	23.7%	7.4%	2.1%	100.0%
男性10歳代	3	66.7%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	100.0%
男性20歳代	18	16.7%	66.7%	11.1%	5.6%	0.0%	100.0%
男性30歳代	34	11.8%	52.9%	23.5%	11.8%	0.0%	100.0%
男性40歳代	39	20.5%	38.5%	35.9%	5.1%	0.0%	100.0%
男性50歳代	70	21.4%	44.3%	27.1%	5.7%	1.4%	100.0%
男性60歳代	62	29.0%	41.9%	17.7%	9.7%	1.6%	100.0%
男性70歳以上	111	21.6%	44.1%	22.5%	7.2%	4.5%	100.0%
男性年代不明	0	—	—	—	—	—	—
女性全体	495	19.0%	54.9%	19.8%	4.6%	1.6%	100.0%
女性10歳代	3	0.0%	66.7%	0.0%	33.3%	0.0%	100.0%
女性20歳代	30	33.3%	56.7%	10.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性30歳代	63	15.9%	46.0%	28.6%	9.5%	0.0%	100.0%
女性40歳代	68	19.1%	55.9%	17.6%	7.4%	0.0%	100.0%
女性50歳代	102	21.6%	48.0%	25.5%	3.9%	1.0%	100.0%
女性60歳代	101	15.8%	59.4%	20.8%	2.0%	2.0%	100.0%
女性70歳以上	124	18.5%	60.5%	13.7%	3.2%	4.0%	100.0%
女性年代不明	4	0.0%	50.0%	25.0%	25.0%	0.0%	100.0%
性別無回答	68	19.1%	41.2%	25.0%	11.8%	2.9%	100.0%
深谷地区	233	21.9%	49.8%	21.5%	6.0%	0.9%	100.0%
藤沢地区	67	20.9%	41.8%	29.9%	6.0%	1.5%	100.0%
幡羅地区	97	20.6%	48.5%	22.7%	6.2%	2.1%	100.0%
明戸地区	17	17.6%	47.1%	11.8%	17.6%	5.9%	100.0%
大寄地区	21	14.3%	61.9%	19.0%	4.8%	0.0%	100.0%
八基地区	23	8.7%	52.2%	21.7%	17.4%	0.0%	100.0%
豊里地区	25	32.0%	28.0%	32.0%	4.0%	4.0%	100.0%
上柴地区	109	26.6%	50.5%	17.4%	3.7%	1.8%	100.0%
南地区	65	18.5%	50.8%	21.5%	6.2%	3.1%	100.0%
岡部地区	103	18.4%	56.3%	18.4%	4.9%	1.9%	100.0%
川本地区	53	15.1%	54.7%	22.6%	5.7%	1.9%	100.0%
花園地区	70	12.9%	50.0%	25.7%	7.1%	4.3%	100.0%
無回答	17	17.6%	58.8%	11.8%	11.8%	0.0%	100.0%

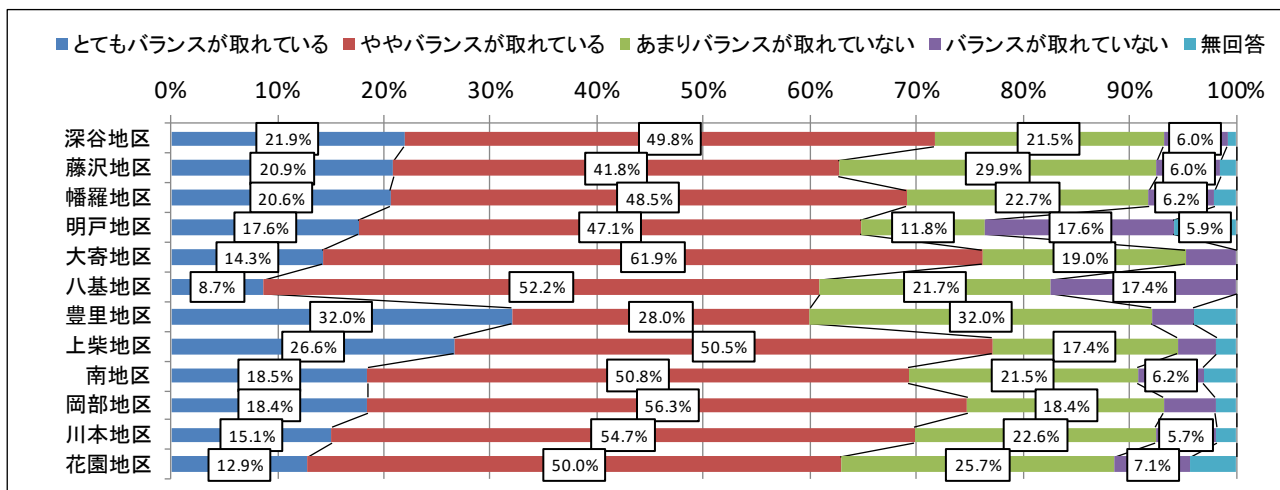
➤ 性別・年齢別



性別・年齢別にみると、「とてもバランスが取れている」または「ややバランスが取れている」と回答した人の割合の合計は、男性が 66.8%であるのに対して、女性は 73.9%となっています。

また、「とてもバランスが取れている」または「ややバランスが取れている」と回答した人の割合の合計が最も少ない年齢は、男性 40 歳代 (59.0%)、女性 30 歳代 (61.9%) であり、一方で最も多い年齢は、男性 20 歳代 (83.4%)、女性 20 歳代 (90.0%) となっています。

➤ 地区別

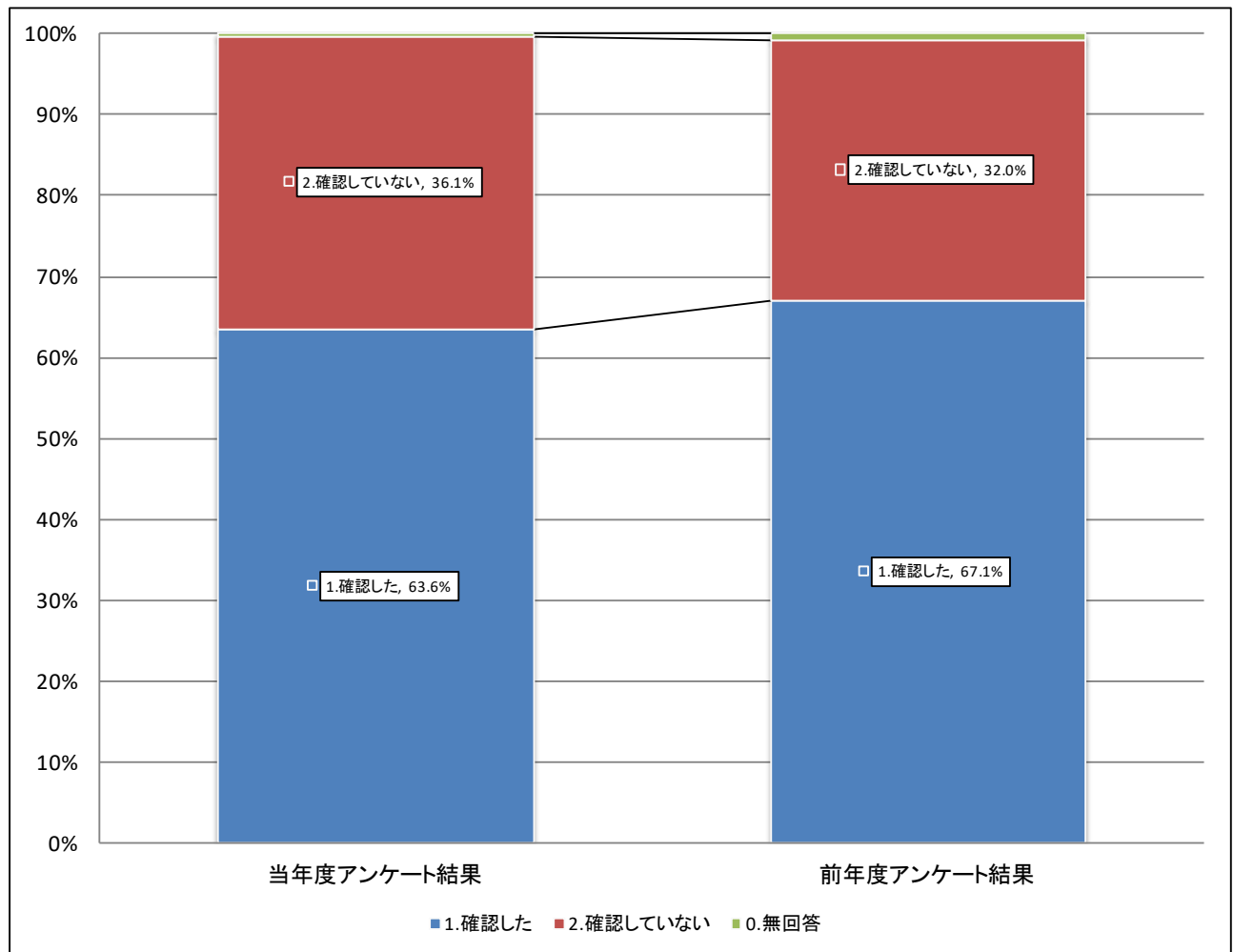


地区別にみると、「とてもバランスが取れている」または「ややバランスが取れている」と回答した人の割合の合計が最も少ない地区は、豊里地区 (60.0%) であり、次いで八基地区 (60.9%) となっています。最も多い地区は、上柴地区 (77.1%) であり、次いで大寄地区 (76.2%) となっています。

(5) 暮らし・環境について

① 防災対策の推進（5. 問1～2）

ハザードマップで自宅等の災害の危険性（自宅等の浸水想定が地震時の揺れやすさなど）について確認しましたか。



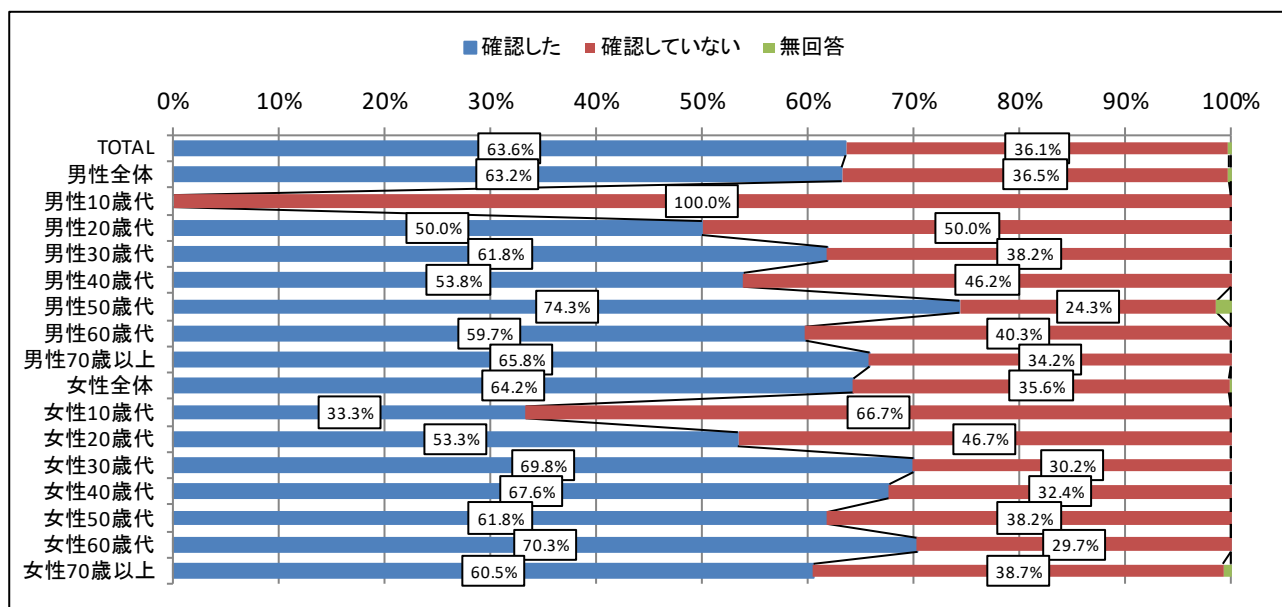
「確認した」と回答した人の割合が 63.6%、「確認していない」と回答した人の割合が 36.1%となっています。

6 割以上の市民がハザードマップで自宅等の災害の危険性を確認している一方、4 割近くの市民は確認していないことがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「確認した」と回答した人の割合は 67.1%であり、「前年度アンケート」と比較して減少しています。

回答者数		確認した	確認していない	無回答	合計
TOTAL	900	63.6%	36.1%	0.3%	100.0%
男性全体	337	63.2%	36.5%	0.3%	100.0%
男性10歳代	3	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
男性20歳代	18	50.0%	50.0%	0.0%	100.0%
男性30歳代	34	61.8%	38.2%	0.0%	100.0%
男性40歳代	39	53.8%	46.2%	0.0%	100.0%
男性50歳代	70	74.3%	24.3%	1.4%	100.0%
男性60歳代	62	59.7%	40.3%	0.0%	100.0%
男性70歳以上	111	65.8%	34.2%	0.0%	100.0%
男性年代不明	0	—	—	—	—
女性全体	495	64.2%	35.6%	0.2%	100.0%
女性10歳代	3	33.3%	66.7%	0.0%	100.0%
女性20歳代	30	53.3%	46.7%	0.0%	100.0%
女性30歳代	63	69.8%	30.2%	0.0%	100.0%
女性40歳代	68	67.6%	32.4%	0.0%	100.0%
女性50歳代	102	61.8%	38.2%	0.0%	100.0%
女性60歳代	101	70.3%	29.7%	0.0%	100.0%
女性70歳以上	124	60.5%	38.7%	0.8%	100.0%
女性年代不明	4	50.0%	50.0%	0.0%	100.0%
性別無回答	68	60.3%	38.2%	1.5%	100.0%
深谷地区	233	62.2%	37.8%	0.0%	100.0%
藤沢地区	67	65.7%	34.3%	0.0%	100.0%
幡羅地区	97	69.1%	29.9%	1.0%	100.0%
明戸地区	17	82.4%	17.6%	0.0%	100.0%
大寄地区	21	66.7%	33.3%	0.0%	100.0%
八基地区	23	60.9%	39.1%	0.0%	100.0%
豊里地区	25	84.0%	16.0%	0.0%	100.0%
上柴地区	109	66.1%	33.9%	0.0%	100.0%
南地区	65	56.9%	43.1%	0.0%	100.0%
岡部地区	103	59.2%	39.8%	1.0%	100.0%
川本地区	53	58.5%	41.5%	0.0%	100.0%
花園地区	70	61.4%	37.1%	1.4%	100.0%
無回答	17	52.9%	47.1%	0.0%	100.0%

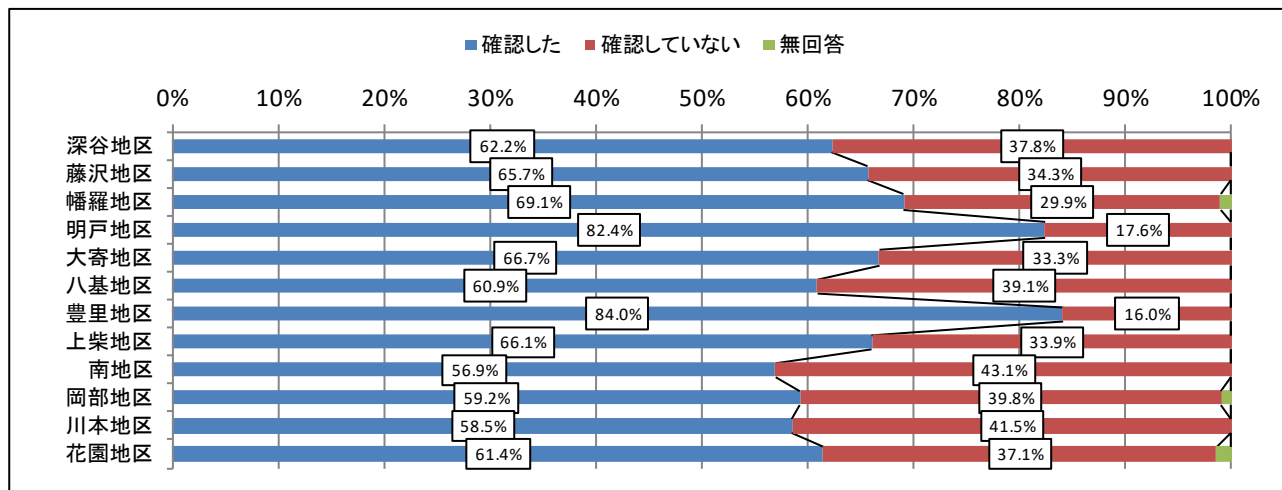
➤ 性別・年齢別



性別・年齢別にみると、「確認した」と回答した人の割合は、男性が 63.2%であるのに対して、女性は 64.2%となっています。

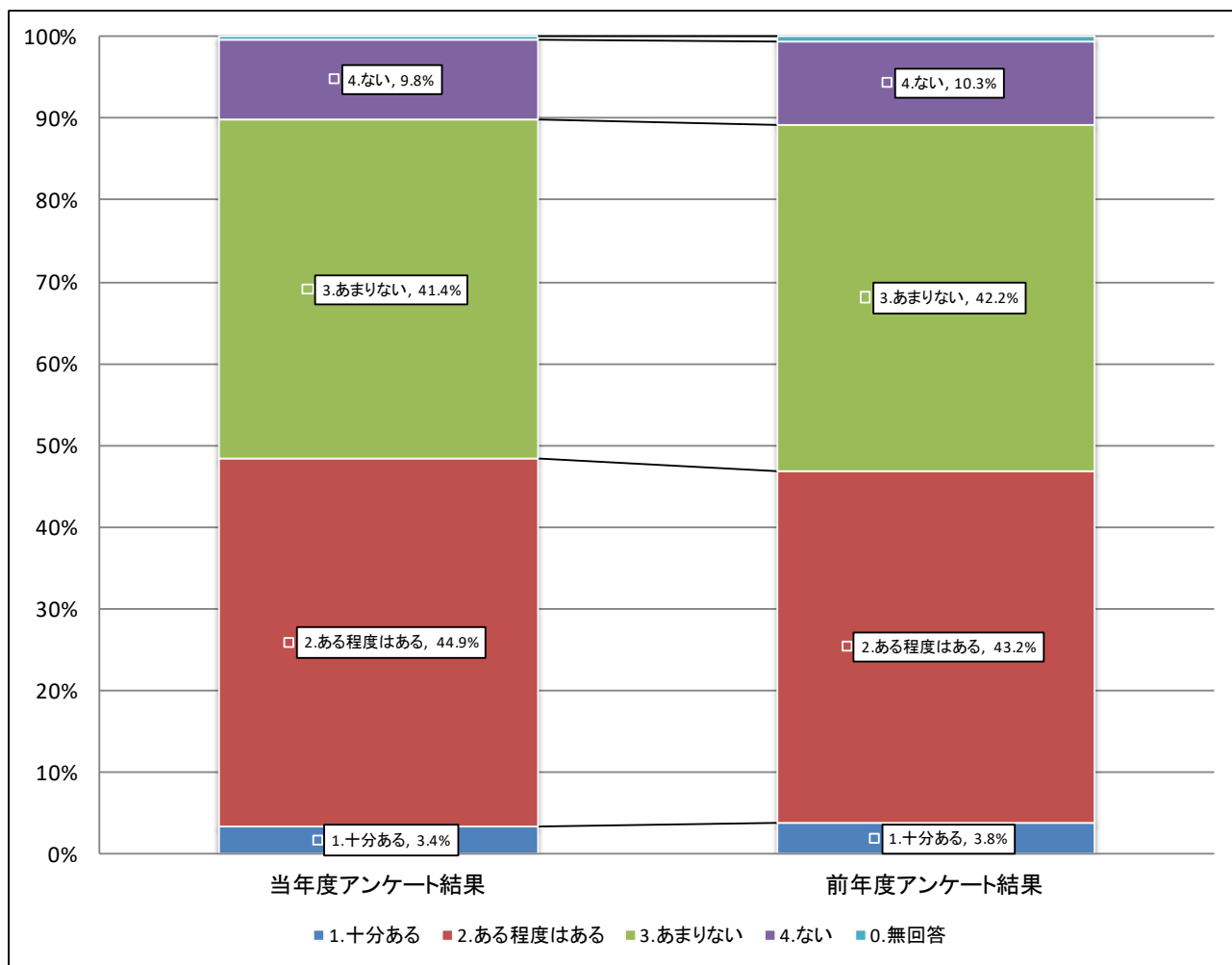
また、「確認した」と回答した人の割合が最も少ない年齢は、男性 10 歳代 (0.0%)、女性 10 歳代 (33.3%) であり、一方で最も多い年齢は、男性 50 歳代 (74.3%)、女性 60 歳代 (70.3%) となっています。

➤ 地区別



地区別にみると、「確認した」と回答した人の割合が最も少ない地区は、南地区 (56.9%) であり、次いで川本地区 (58.5%) となっています。最も多い地区は、豊里地区 (84.0%) であり、次いで明戸地区 (82.4%) となっています。

ご自宅に災害に対する備え（備蓄品など）はありますか。



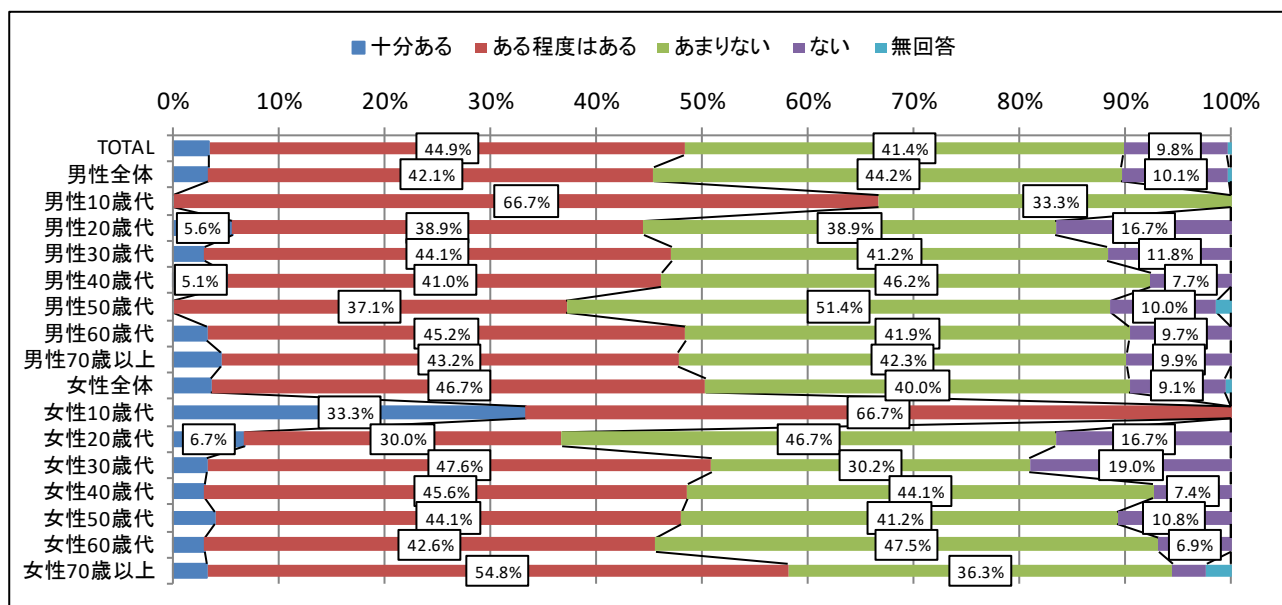
「ある程度はある」と回答した人の割合が 44.9%と最も多く、次いで「あまりない」と回答した人の割合が 41.4%、「ない」と回答した人の割合が 9.8%、「十分ある」と回答した人の割合が最も少なく 3.4%となっています。

「十分ある」または「ある程度はある」と回答した人の割合の合計は 48.3%であり、ご自宅に災害に対する備え（備蓄品など）が「ある」市民は、半数にも満たないという状況がうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「十分ある」または「ある程度はある」と回答した人の割合の合計は 47.0%であり、「前年度アンケート」と比較してわずかに増加しています。

回答者数		十分ある	ある程度はある	あまりない	ない	無回答	合計
TOTAL	900	3.4%	44.9%	41.4%	9.8%	0.4%	100.0%
男性全体	337	3.3%	42.1%	44.2%	10.1%	0.3%	100.0%
男性10歳代	3	0.0%	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	100.0%
男性20歳代	18	5.6%	38.9%	38.9%	16.7%	0.0%	100.0%
男性30歳代	34	2.9%	44.1%	41.2%	11.8%	0.0%	100.0%
男性40歳代	39	5.1%	41.0%	46.2%	7.7%	0.0%	100.0%
男性50歳代	70	0.0%	37.1%	51.4%	10.0%	1.4%	100.0%
男性60歳代	62	3.2%	45.2%	41.9%	9.7%	0.0%	100.0%
男性70歳以上	111	4.5%	43.2%	42.3%	9.9%	0.0%	100.0%
男性年代不明	0	—	—	—	—	—	—
女性全体	495	3.6%	46.7%	40.0%	9.1%	0.6%	100.0%
女性10歳代	3	33.3%	66.7%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性20歳代	30	6.7%	30.0%	46.7%	16.7%	0.0%	100.0%
女性30歳代	63	3.2%	47.6%	30.2%	19.0%	0.0%	100.0%
女性40歳代	68	2.9%	45.6%	44.1%	7.4%	0.0%	100.0%
女性50歳代	102	3.9%	44.1%	41.2%	10.8%	0.0%	100.0%
女性60歳代	101	3.0%	42.6%	47.5%	6.9%	0.0%	100.0%
女性70歳以上	124	3.2%	54.8%	36.3%	3.2%	2.4%	100.0%
女性年代不明	4	0.0%	75.0%	0.0%	25.0%	0.0%	100.0%
性別無回答	68	2.9%	45.6%	38.2%	13.2%	0.0%	100.0%
深谷地区	233	1.7%	42.1%	46.4%	9.9%	0.0%	100.0%
藤沢地区	67	4.5%	46.3%	38.8%	10.4%	0.0%	100.0%
幡羅地区	97	8.2%	46.4%	36.1%	8.2%	1.0%	100.0%
明戸地区	17	5.9%	52.9%	35.3%	5.9%	0.0%	100.0%
大寄地区	21	0.0%	42.9%	47.6%	9.5%	0.0%	100.0%
八基地区	23	0.0%	39.1%	56.5%	4.3%	0.0%	100.0%
豊里地区	25	4.0%	36.0%	44.0%	16.0%	0.0%	100.0%
上柴地区	109	1.8%	52.3%	36.7%	8.3%	0.9%	100.0%
南地区	65	4.6%	33.8%	43.1%	18.5%	0.0%	100.0%
岡部地区	103	2.9%	56.3%	31.1%	8.7%	1.0%	100.0%
川本地区	53	3.8%	34.0%	54.7%	7.5%	0.0%	100.0%
花園地区	70	5.7%	45.7%	40.0%	7.1%	1.4%	100.0%
無回答	17	0.0%	41.2%	41.2%	17.6%	0.0%	100.0%

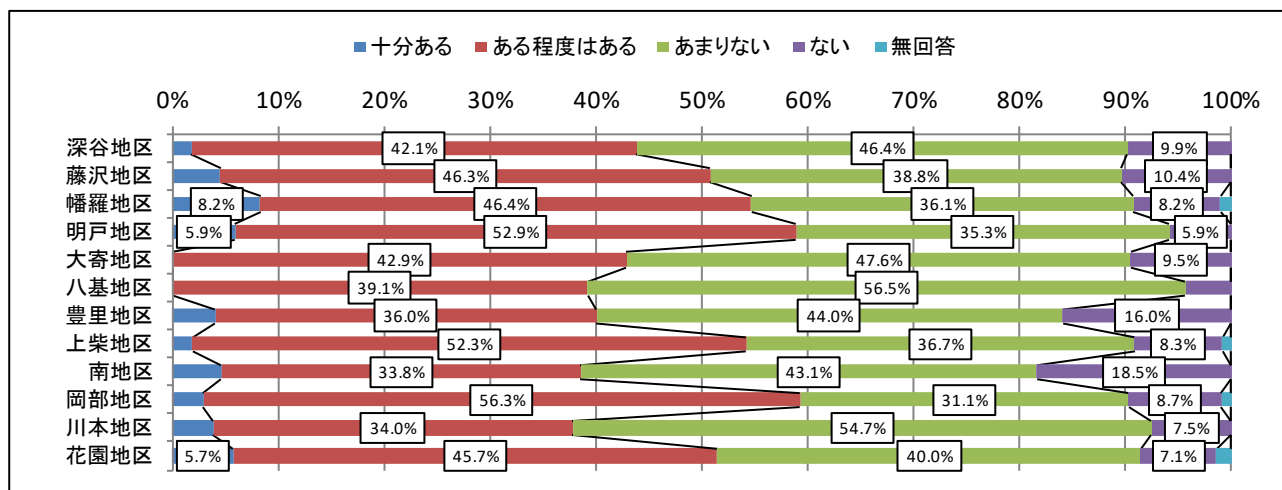
➤ 性別・年齢別



性別・年齢別にみると、「十分ある」または「ある程度はある」と回答した人の割合の合計は、男性が45.4%であるのに対して、女性は50.3%となっています。

また、「十分ある」または「ある程度はある」と回答した人の割合の合計が最も少ない年齢は、男性50歳代（37.1%）、女性20歳代（36.7%）であり、一方で最も多い年齢は、男性10歳代（66.7%）、女性10歳代（100.0%）となっています。

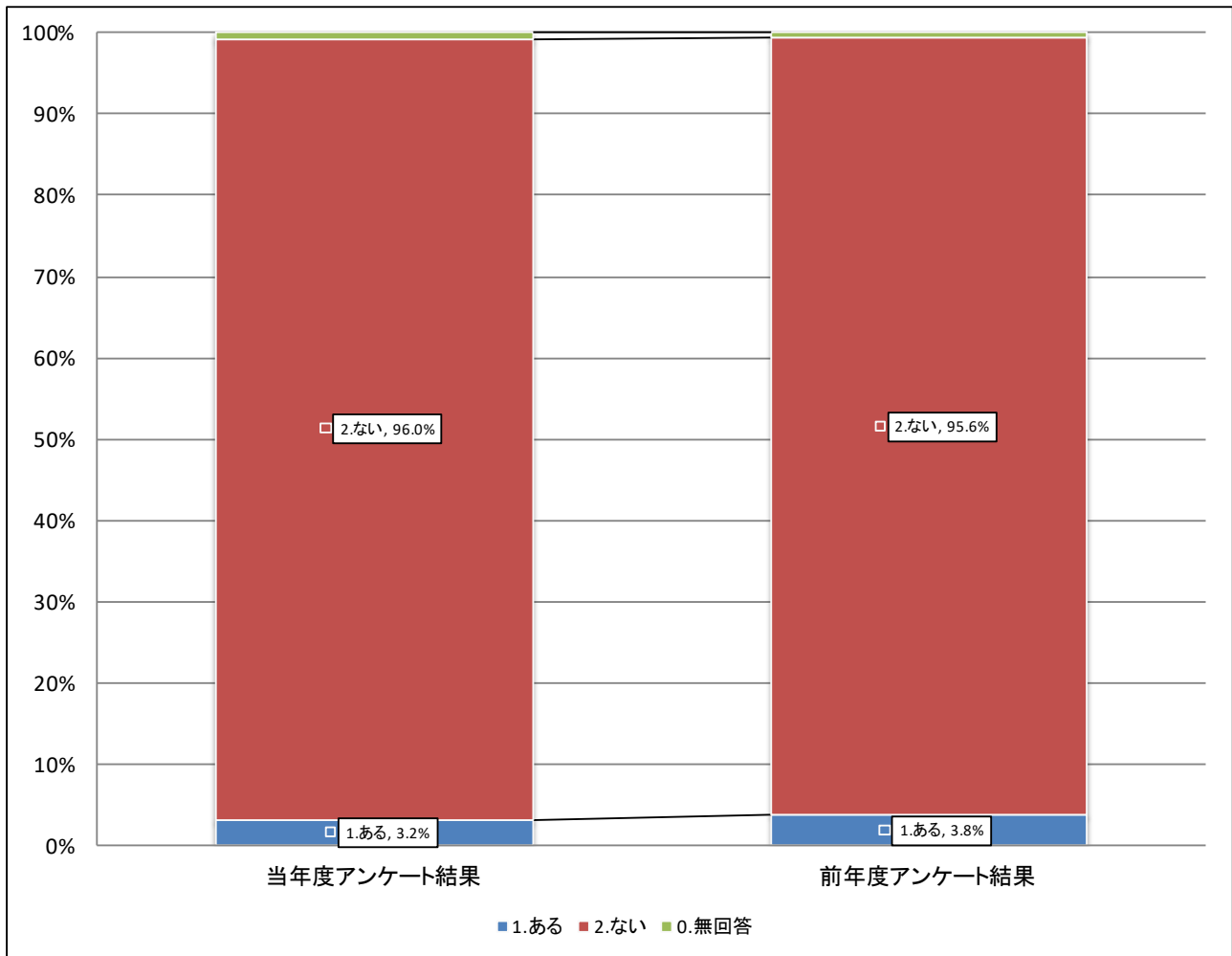
➤ 地区別



地区別にみると、「十分ある」または「ある程度はある」と回答した人の割合の合計が最も少ない地区は、川本地区（37.8%）であり、次いで南地区（38.4%）となっています。最も多い地区は、岡部地区（59.2%）、次いで明戸地区（58.8%）となっています。

② くらしの安全対策の推進（５．問３～４）

この１年間で消費者トラブルに巻き込まれたことはありますか。



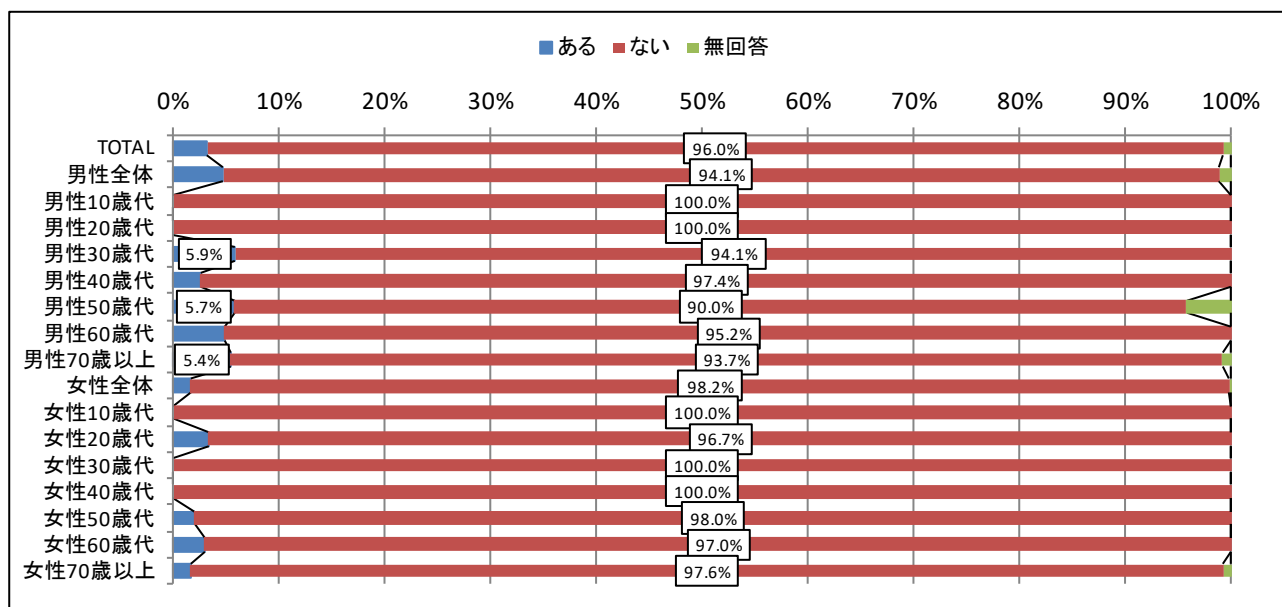
「ある」と回答した人の割合は 3.2%、「ない」と回答した人の割合は 96.0%となっています。

ほとんどの市民が、この１年間で消費者トラブルに巻き込まれたことは「ない」と回答している一方、巻き込まれたことが「ある」市民が少数いることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「ある」と回答した人の割合は 3.8%であり、「前年度アンケート」と比較してわずかに減少しています。

回答者数		ある	ない	無回答	合計
TOTAL	900	3.2%	96.0%	0.8%	100.0%
男性全体	337	4.7%	94.1%	1.2%	100.0%
男性10歳代	3	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
男性20歳代	18	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
男性30歳代	34	5.9%	94.1%	0.0%	100.0%
男性40歳代	39	2.6%	97.4%	0.0%	100.0%
男性50歳代	70	5.7%	90.0%	4.3%	100.0%
男性60歳代	62	4.8%	95.2%	0.0%	100.0%
男性70歳以上	111	5.4%	93.7%	0.9%	100.0%
男性年代不明	0	—	—	—	—
女性全体	495	1.6%	98.2%	0.2%	100.0%
女性10歳代	3	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
女性20歳代	30	3.3%	96.7%	0.0%	100.0%
女性30歳代	63	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
女性40歳代	68	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
女性50歳代	102	2.0%	98.0%	0.0%	100.0%
女性60歳代	101	3.0%	97.0%	0.0%	100.0%
女性70歳以上	124	1.6%	97.6%	0.8%	100.0%
女性年代不明	4	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
性別無回答	68	7.4%	89.7%	2.9%	100.0%
深谷地区	233	4.3%	95.3%	0.4%	100.0%
藤沢地区	67	4.5%	95.5%	0.0%	100.0%
幡羅地区	97	1.0%	97.9%	1.0%	100.0%
明戸地区	17	11.8%	82.4%	5.9%	100.0%
大寄地区	21	4.8%	95.2%	0.0%	100.0%
八基地区	23	4.3%	95.7%	0.0%	100.0%
豊里地区	25	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
上柴地区	109	2.8%	96.3%	0.9%	100.0%
南地区	65	3.1%	95.4%	1.5%	100.0%
岡部地区	103	1.9%	97.1%	1.0%	100.0%
川本地区	53	1.9%	98.1%	0.0%	100.0%
花園地区	70	1.4%	97.1%	1.4%	100.0%
無回答	17	11.8%	88.2%	0.0%	100.0%

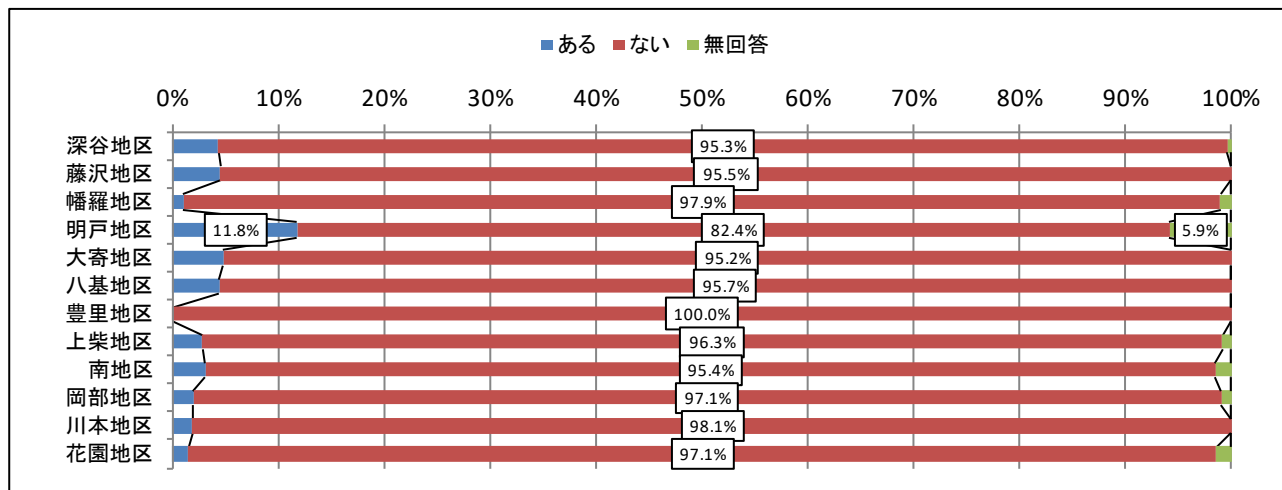
➤ 性別・年齢別



性別・年齢別にみると、「ある」と回答した人の割合は、男性が 4.7%であるのに対して、女性は 1.6%となっています。

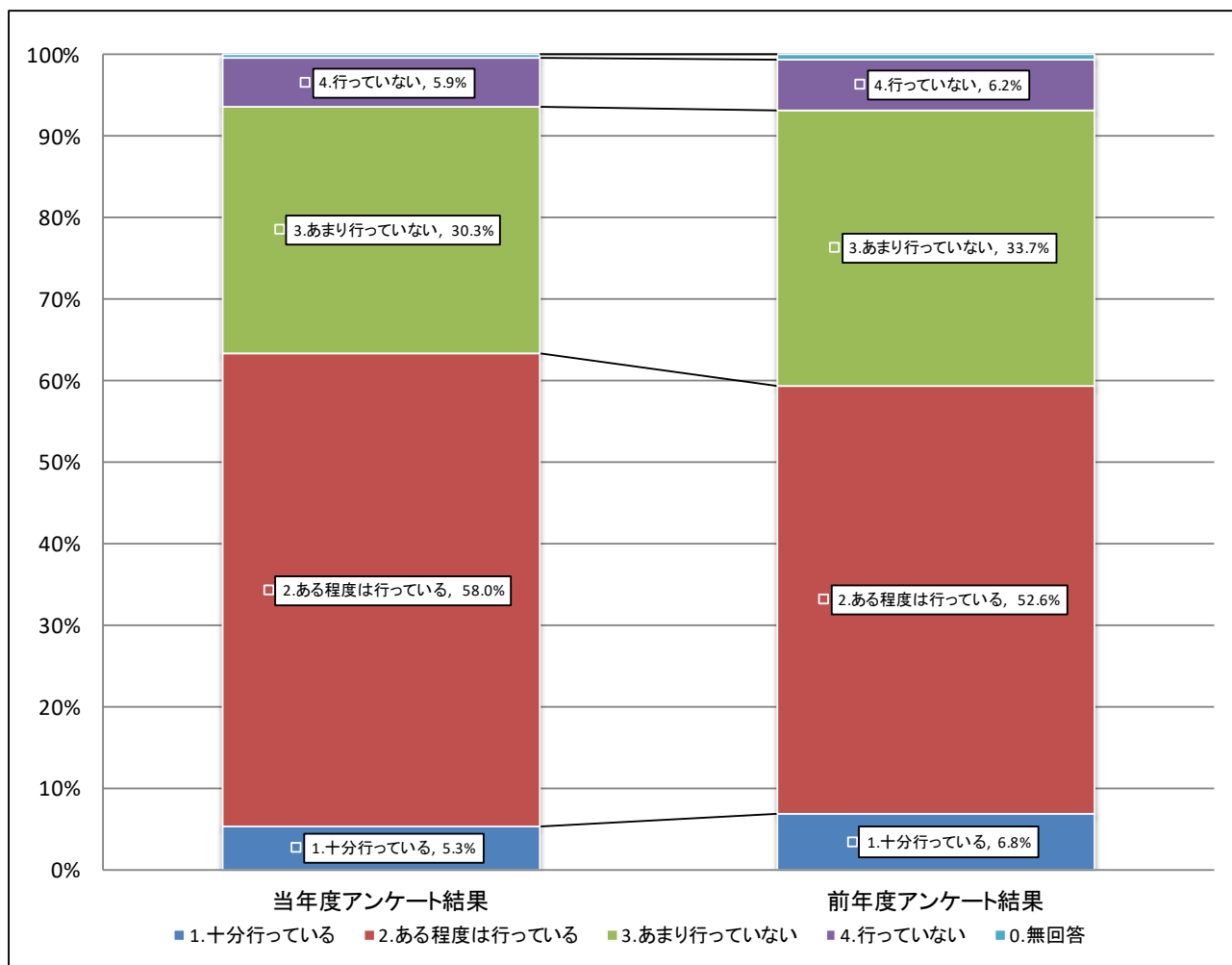
また、「ある」と回答した人の割合が最も少ない年齢は、男性 10 歳代・20 歳代ともに (0.0%)、女性 10 歳代・30 歳代・40 歳代いずれも (0.0%) であり、一方で最も多い年齢は、男性 30 歳代 (5.9%)、女性 20 歳代 (3.3%) となっています。

➤ 地区別



地区別にみると、「ある」と回答した人の割合が最も少ない地区は、豊里地区 (0.0%) であり、次いで幡羅地区 (1.0%) となっています。最も多い地区は、明戸地区 (11.8%) であり、次いで大寄地区 (4.8%) となっています。

日ごろ、防犯対策を行っていますか。



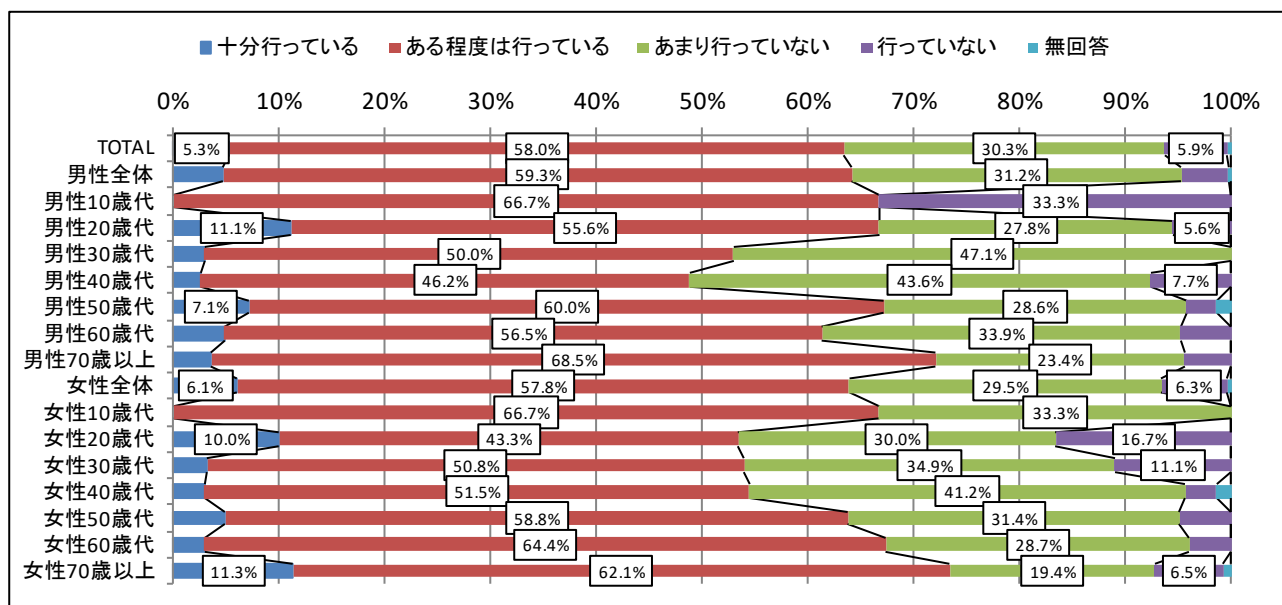
「ある程度は行っている」と回答した人の割合が 58.0%と最も多く、次いで「あまり行っていない」と回答した人の割合が 30.3%、「行っていない」と回答した人の割合が 5.9%、「十分行っている」と回答した人の割合が最も少なく 5.3%となっています。

「十分行っている」または「ある程度は行っている」と回答した人の割合の合計は 63.3%であり、6 割以上の市民が日ごろから防犯対策を行っていることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「十分行っている」または「ある程度は行っている」と回答した人の割合の合計は 59.4%であり、「前年度アンケート」と比較して増加しています。

回答者数		十分行っている	ある程度は行っている	行っていないあまり	行っていない	無回答	合計
TOTAL	900	5.3%	58.0%	30.3%	5.9%	0.4%	100.0%
男性全体	337	4.7%	59.3%	31.2%	4.5%	0.3%	100.0%
男性10歳代	3	0.0%	66.7%	0.0%	33.3%	0.0%	100.0%
男性20歳代	18	11.1%	55.6%	27.8%	5.6%	0.0%	100.0%
男性30歳代	34	2.9%	50.0%	47.1%	0.0%	0.0%	100.0%
男性40歳代	39	2.6%	46.2%	43.6%	7.7%	0.0%	100.0%
男性50歳代	70	7.1%	60.0%	28.6%	2.9%	1.4%	100.0%
男性60歳代	62	4.8%	56.5%	33.9%	4.8%	0.0%	100.0%
男性70歳以上	111	3.6%	68.5%	23.4%	4.5%	0.0%	100.0%
男性年代不明	0	—	—	—	—	—	—
女性全体	495	6.1%	57.8%	29.5%	6.3%	0.4%	100.0%
女性10歳代	3	0.0%	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	100.0%
女性20歳代	30	10.0%	43.3%	30.0%	16.7%	0.0%	100.0%
女性30歳代	63	3.2%	50.8%	34.9%	11.1%	0.0%	100.0%
女性40歳代	68	2.9%	51.5%	41.2%	2.9%	1.5%	100.0%
女性50歳代	102	4.9%	58.8%	31.4%	4.9%	0.0%	100.0%
女性60歳代	101	3.0%	64.4%	28.7%	4.0%	0.0%	100.0%
女性70歳以上	124	11.3%	62.1%	19.4%	6.5%	0.8%	100.0%
女性年代不明	4	25.0%	50.0%	25.0%	0.0%	0.0%	100.0%
性別無回答	68	2.9%	52.9%	32.4%	10.3%	1.5%	100.0%
深谷地区	233	4.7%	55.8%	34.8%	4.7%	0.0%	100.0%
藤沢地区	67	6.0%	67.2%	22.4%	4.5%	0.0%	100.0%
幡羅地区	97	4.1%	59.8%	29.9%	5.2%	1.0%	100.0%
明戸地区	17	17.6%	64.7%	17.6%	0.0%	0.0%	100.0%
大寄地区	21	0.0%	47.6%	38.1%	9.5%	4.8%	100.0%
八基地区	23	4.3%	39.1%	43.5%	13.0%	0.0%	100.0%
豊里地区	25	4.0%	60.0%	28.0%	4.0%	4.0%	100.0%
上柴地区	109	4.6%	68.8%	21.1%	5.5%	0.0%	100.0%
南地区	65	6.2%	46.2%	41.5%	6.2%	0.0%	100.0%
岡部地区	103	4.9%	58.3%	29.1%	7.8%	0.0%	100.0%
川本地区	53	3.8%	60.4%	30.2%	5.7%	0.0%	100.0%
花園地区	70	8.6%	57.1%	27.1%	5.7%	1.4%	100.0%
無回答	17	11.8%	41.2%	29.4%	17.6%	0.0%	100.0%

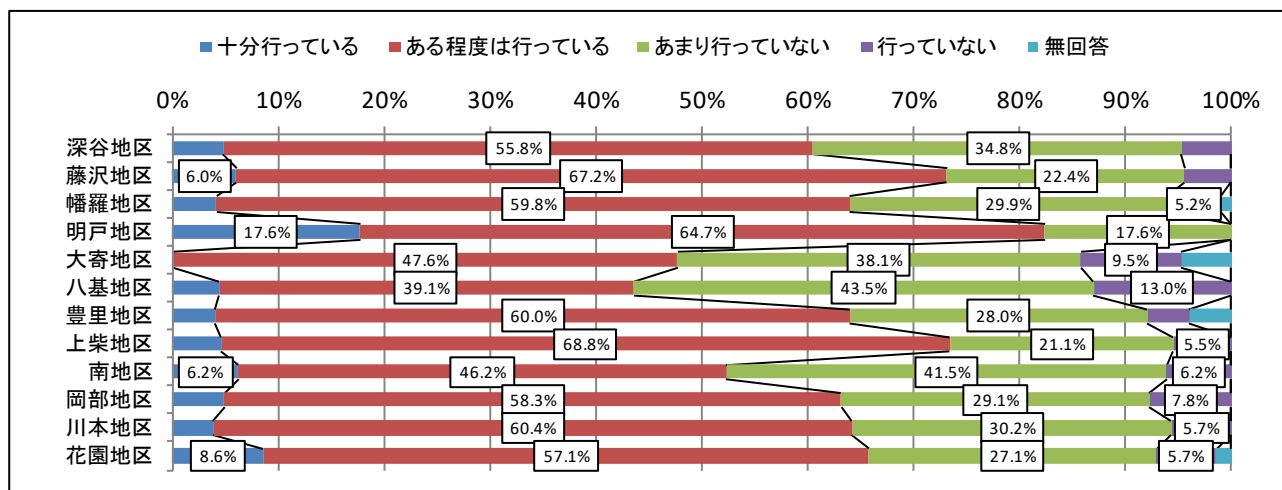
➤ 性別・年齢別



性別・年齢別にみると、「十分行っている」または「ある程度は行っている」と回答した人の割合の合計は、男性が64.0%であるのに対して、女性は63.9%となっています。

また、「十分行っている」または「ある程度は行っている」と回答した人の割合の合計が最も少ない年齢は、男性40歳代（48.8%）、女性20歳代（53.3%）であり、一方で最も多い年齢は、男性70歳以上（72.1%）、女性70歳以上（73.4%）となっています。

➤ 地区別

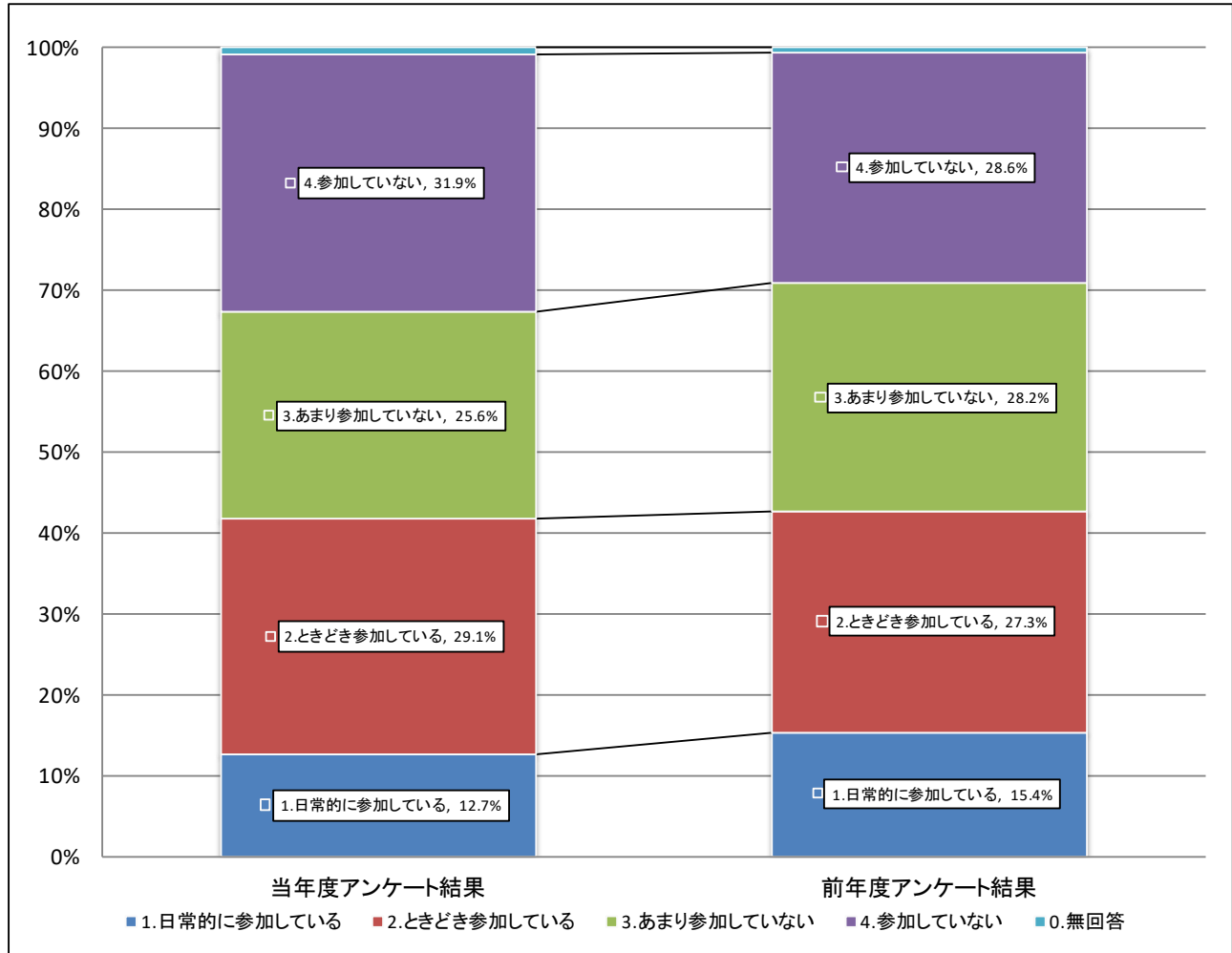


地区別にみると、「十分行っている」または「ある程度は行っている」と回答した人の割合の合計が最も少ない地区は、八基地区（43.4%）であり、次いで大寄地区（47.6%）となっています。最も多い地区は、明戸地区（82.3%）であり、次いで上柴地区（73.4%）となっています。

地区によって差があることがうかがえます。

③ 絆でつながるひとづくり（5. 問5）

地域活動（自治会での活動など）への程度参加していますか。



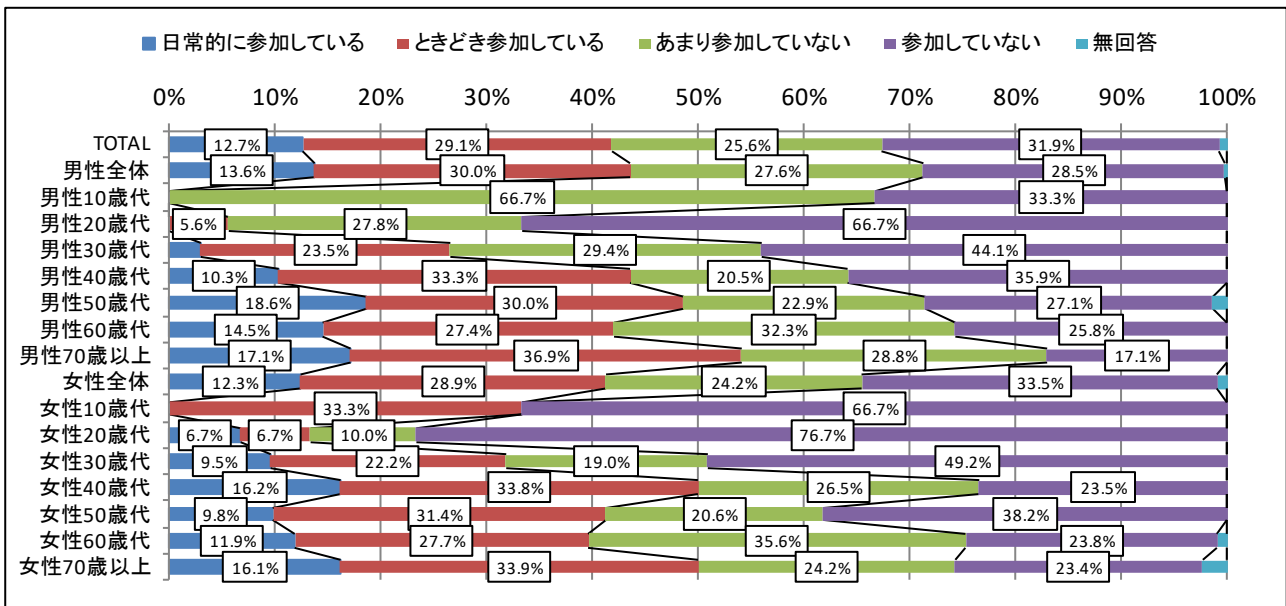
「参加していない」と回答した人の割合が 31.9%と最も多く、次いで「ときどき参加している」と回答した人の割合が 29.1%、「あまり参加していない」と回答した人の割合が 25.6%、「日常的に参加している」と回答した人の割合が最も少なく 12.7%となっています。

また、「日常的に参加している」または「ときどき参加している」と回答した人の割合の合計は 41.8%であり、地域活動に参加している市民は約 4 割という状況がうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「日常的に参加している」または「ときどき参加している」と回答した人の割合の合計は 42.7%であり、「前年度アンケート」と比較してほぼ変化はありませんでした。

回答者数		日常的に参加している	ときどき参加している	あまり参加していない	参加していない	無回答	合計
TOTAL	900	12.7%	29.1%	25.6%	31.9%	0.8%	100.0%
男性全体	337	13.6%	30.0%	27.6%	28.5%	0.3%	100.0%
男性10歳代	3	0.0%	0.0%	66.7%	33.3%	0.0%	100.0%
男性20歳代	18	0.0%	5.6%	27.8%	66.7%	0.0%	100.0%
男性30歳代	34	2.9%	23.5%	29.4%	44.1%	0.0%	100.0%
男性40歳代	39	10.3%	33.3%	20.5%	35.9%	0.0%	100.0%
男性50歳代	70	18.6%	30.0%	22.9%	27.1%	1.4%	100.0%
男性60歳代	62	14.5%	27.4%	32.3%	25.8%	0.0%	100.0%
男性70歳以上	111	17.1%	36.9%	28.8%	17.1%	0.0%	100.0%
男性年代不明	0	—	—	—	—	—	—
女性全体	495	12.3%	28.9%	24.2%	33.5%	1.0%	100.0%
女性10歳代	3	0.0%	33.3%	0.0%	66.7%	0.0%	100.0%
女性20歳代	30	6.7%	6.7%	10.0%	76.7%	0.0%	100.0%
女性30歳代	63	9.5%	22.2%	19.0%	49.2%	0.0%	100.0%
女性40歳代	68	16.2%	33.8%	26.5%	23.5%	0.0%	100.0%
女性50歳代	102	9.8%	31.4%	20.6%	38.2%	0.0%	100.0%
女性60歳代	101	11.9%	27.7%	35.6%	23.8%	1.0%	100.0%
女性70歳以上	124	16.1%	33.9%	24.2%	23.4%	2.4%	100.0%
女性年代不明	4	0.0%	25.0%	0.0%	50.0%	25.0%	100.0%
性別無回答	68	10.3%	26.5%	25.0%	36.8%	1.5%	100.0%
深谷地区	233	7.3%	24.9%	25.8%	42.1%	0.0%	100.0%
藤沢地区	67	7.5%	47.8%	28.4%	16.4%	0.0%	100.0%
幡羅地区	97	8.2%	26.8%	28.9%	35.1%	1.0%	100.0%
明戸地区	17	29.4%	35.3%	17.6%	17.6%	0.0%	100.0%
大寄地区	21	4.8%	47.6%	42.9%	4.8%	0.0%	100.0%
八基地区	23	26.1%	39.1%	21.7%	13.0%	0.0%	100.0%
豊里地区	25	24.0%	28.0%	24.0%	20.0%	4.0%	100.0%
上柴地区	109	12.8%	29.4%	23.9%	33.9%	0.0%	100.0%
南地区	65	10.8%	26.2%	27.7%	33.8%	1.5%	100.0%
岡部地区	103	10.7%	29.1%	23.3%	35.0%	1.9%	100.0%
川本地区	53	34.0%	22.6%	26.4%	17.0%	0.0%	100.0%
花園地区	70	17.1%	32.9%	18.6%	30.0%	1.4%	100.0%
無回答	17	23.5%	0.0%	29.4%	41.2%	5.9%	100.0%

➤ 性別・年齢別

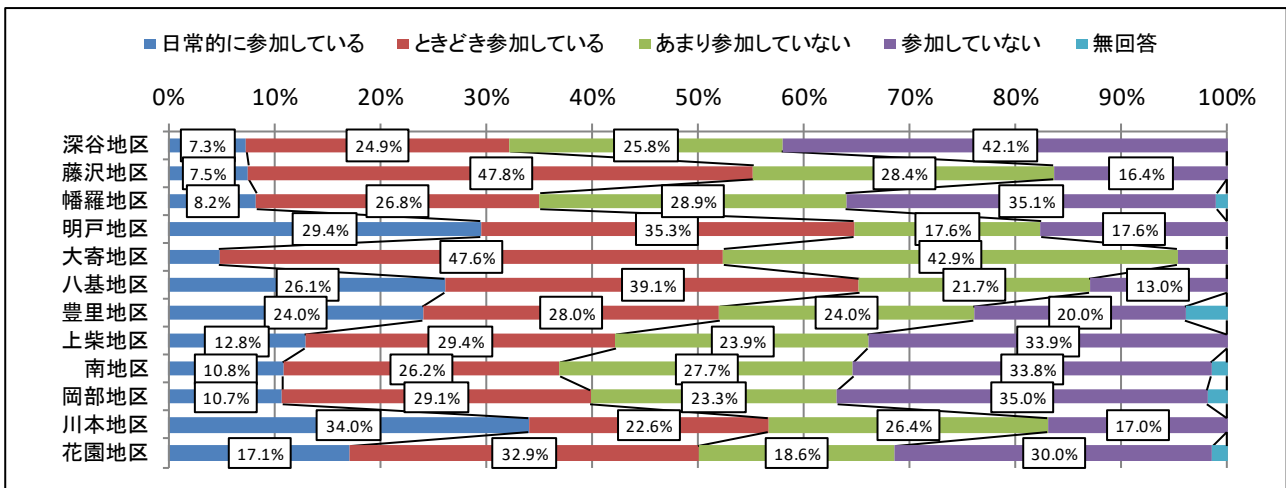


性別・年齢別にみると、「日常的に参加している」または「ときどき参加している」と回答した人の割合の合計は、男性が 43.6%であるのに対して、女性は 41.2%となっています。

また、「日常的に参加している」または「ときどき参加している」と回答した人の割合の合計が最も少ない年齢は、男性 10 歳代 (0.0%)、女性 20 歳代 (13.4%) であり、一方で最も多い年齢は、男性 70 歳以上 (54.0%)、女性 40 歳代・70 歳以上ともに (50.0%) となっています。

年齢によって差があることがうかがえます。

➤ 地区別

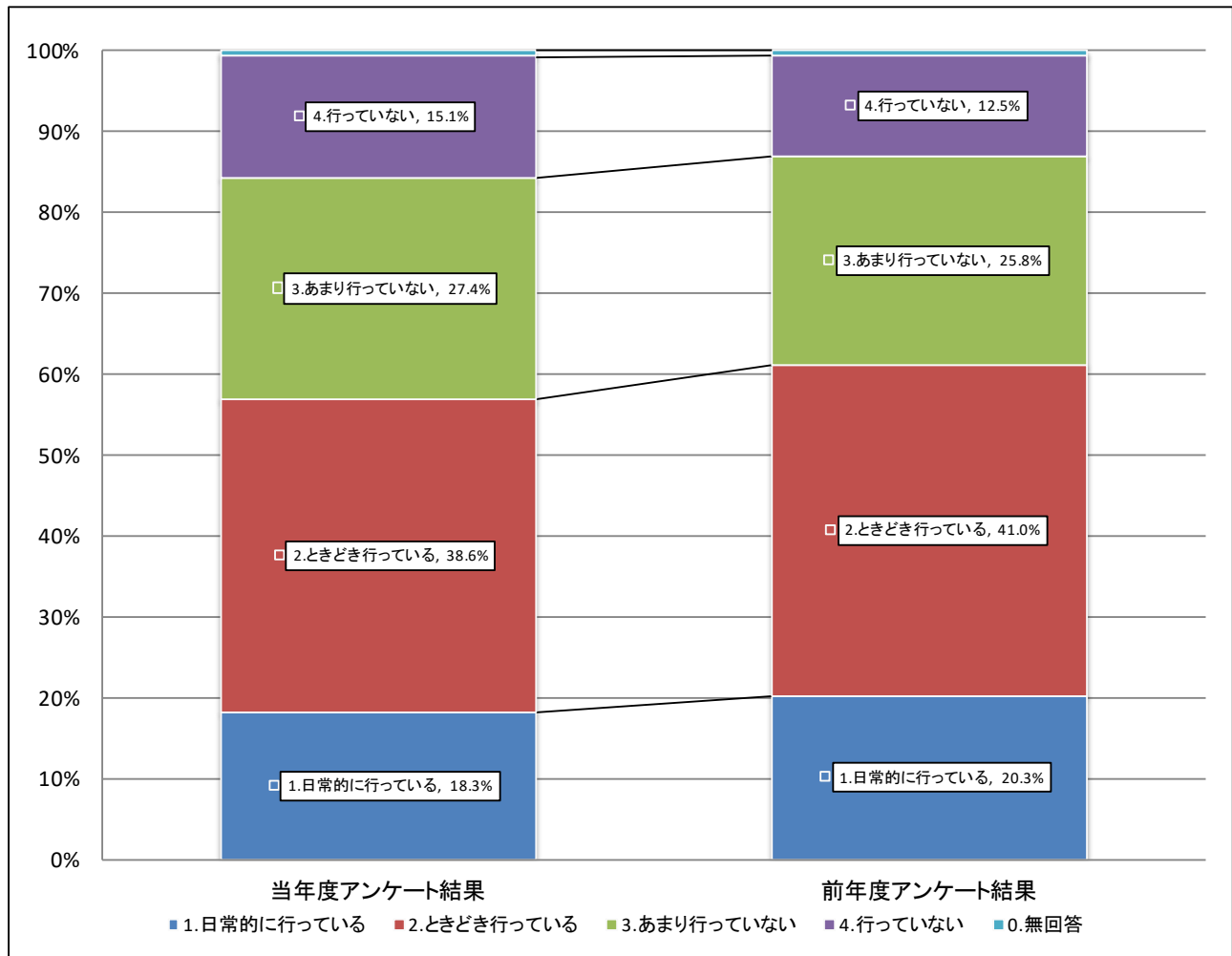


地区別にみると、「日常的に参加している」または「ときどき参加している」と回答した人の割合の合計が最も少ない地区は、深谷地区 (32.2%) であり、次いで幡羅地区 (35.0%) となっています。最も多い地区は、八基地区 (65.2%) であり、次いで明戸地区 (64.7%) となっています。

地区によって差があることがうかがえます。

④ 生活環境の保全と配慮（５．問６～８）

環境に配慮した取組（省エネ（節電を含みます）、自然や川の保全活動など）を行っていますか。



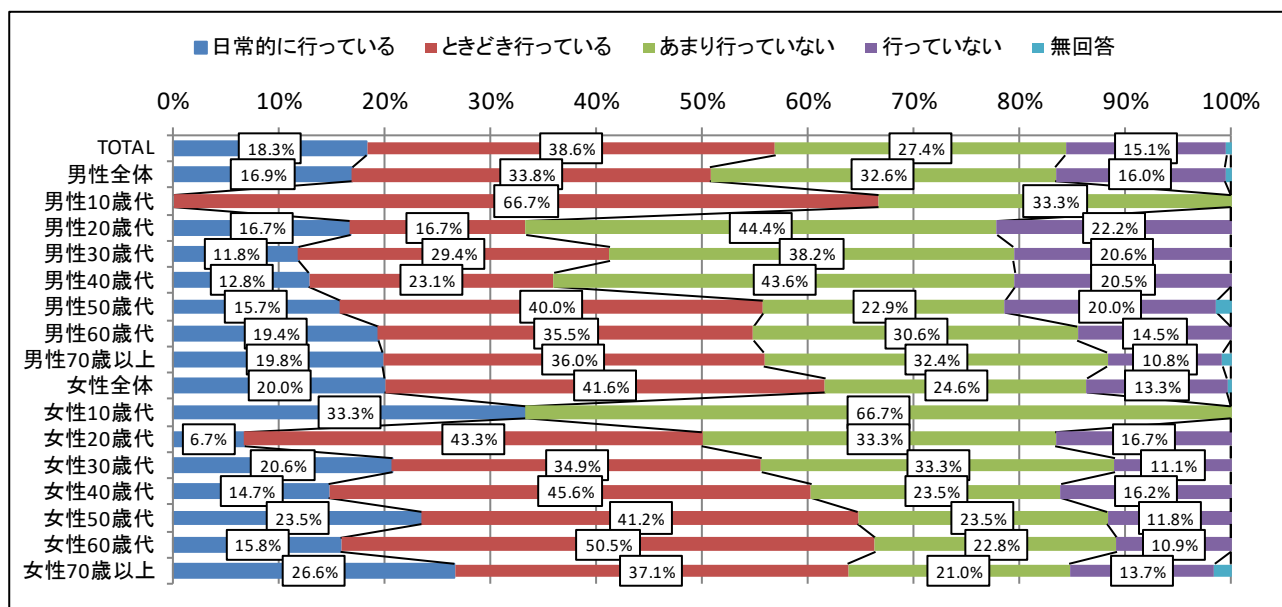
「ときどき行っている」と回答した人の割合が 38.6%と最も多く、次いで「あまり行っていない」と回答した人の割合が 27.4%、「日常的に行っている」と回答した人の割合が 18.3%、「行っていない」と回答した人の割合が最も少なく 15.1%となっています。

「日常的に行っている」または「ときどき行っている」と回答した人の割合の合計は、56.9%であり、6割近くの市民が環境に配慮した取組を行っていることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「日常的に行っている」または「ときどき行っている」と回答した人の割合の合計は、61.3%であり、「前年度アンケート」と比較して減少しています。

回答者数		日常的に行っている	ときどき行っている	あまり行っていない	行っていない	無回答	合計
TOTAL	900	18.3%	38.6%	27.4%	15.1%	0.6%	100.0%
男性全体	337	16.9%	33.8%	32.6%	16.0%	0.6%	100.0%
男性10歳代	3	0.0%	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	100.0%
男性20歳代	18	16.7%	16.7%	44.4%	22.2%	0.0%	100.0%
男性30歳代	34	11.8%	29.4%	38.2%	20.6%	0.0%	100.0%
男性40歳代	39	12.8%	23.1%	43.6%	20.5%	0.0%	100.0%
男性50歳代	70	15.7%	40.0%	22.9%	20.0%	1.4%	100.0%
男性60歳代	62	19.4%	35.5%	30.6%	14.5%	0.0%	100.0%
男性70歳以上	111	19.8%	36.0%	32.4%	10.8%	0.9%	100.0%
男性年代不明	0	—	—	—	—	—	—
女性全体	495	20.0%	41.6%	24.6%	13.3%	0.4%	100.0%
女性10歳代	3	33.3%	0.0%	66.7%	0.0%	0.0%	100.0%
女性20歳代	30	6.7%	43.3%	33.3%	16.7%	0.0%	100.0%
女性30歳代	63	20.6%	34.9%	33.3%	11.1%	0.0%	100.0%
女性40歳代	68	14.7%	45.6%	23.5%	16.2%	0.0%	100.0%
女性50歳代	102	23.5%	41.2%	23.5%	11.8%	0.0%	100.0%
女性60歳代	101	15.8%	50.5%	22.8%	10.9%	0.0%	100.0%
女性70歳以上	124	26.6%	37.1%	21.0%	13.7%	1.6%	100.0%
女性年代不明	4	0.0%	25.0%	0.0%	75.0%	0.0%	100.0%
性別無回答	68	13.2%	39.7%	22.1%	23.5%	1.5%	100.0%
深谷地区	233	15.9%	31.3%	31.8%	21.0%	0.0%	100.0%
藤沢地区	67	13.4%	47.8%	28.4%	10.4%	0.0%	100.0%
幡羅地区	97	17.5%	36.1%	25.8%	19.6%	1.0%	100.0%
明戸地区	17	17.6%	41.2%	29.4%	5.9%	5.9%	100.0%
大寄地区	21	33.3%	47.6%	14.3%	4.8%	0.0%	100.0%
八基地区	23	21.7%	21.7%	43.5%	13.0%	0.0%	100.0%
豊里地区	25	12.0%	56.0%	20.0%	12.0%	0.0%	100.0%
上柴地区	109	22.9%	42.2%	24.8%	10.1%	0.0%	100.0%
南地区	65	21.5%	30.8%	35.4%	10.8%	1.5%	100.0%
岡部地区	103	19.4%	38.8%	26.2%	14.6%	1.0%	100.0%
川本地区	53	20.8%	43.4%	22.6%	13.2%	0.0%	100.0%
花園地区	70	14.3%	50.0%	18.6%	15.7%	1.4%	100.0%
無回答	17	23.5%	41.2%	23.5%	11.8%	0.0%	100.0%

➤ 性別・年齢別

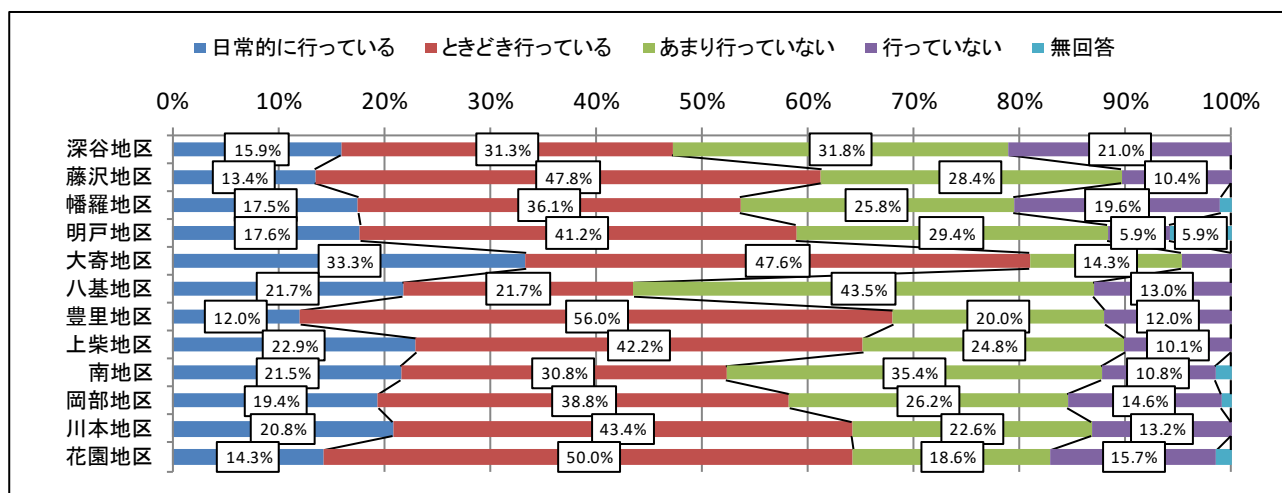


性別・年齢別にみると、「日常的に行っている」または「ときどき行っている」と回答した人の割合の合計は、男性が50.7%であるのに対して、女性は61.6%となっています。

「日常的に行っている」または「ときどき行っている」と回答した人の割合の合計が最も少ない年齢は、男性20歳代(33.4%)、女性10歳代(33.3%)であり、一方で最も多い年齢は、男性10歳代(66.7%)、女性60歳代(66.3%)となっています。

男女によって差があることがうかがえます。

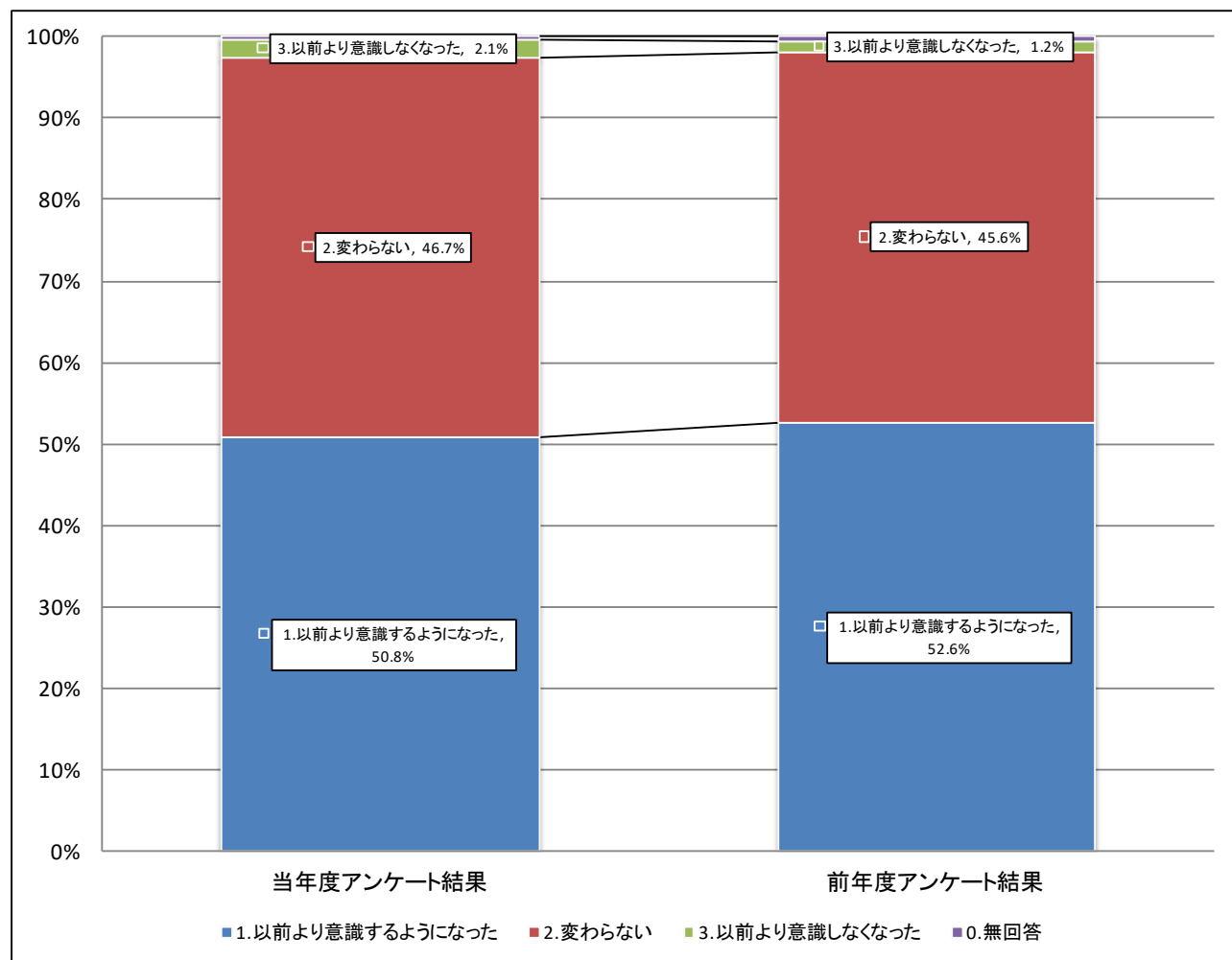
➤ 地区別



地区別にみると、「日常的に行っている」または「ときどき行っている」と回答した人の割合の合計が最も少ない地区は、八基地区(43.4%)であり、次いで深谷地区(47.2%)となっています。最も多い地区は、大寄地区(80.9%)であり、次いで豊里地区(68.0%)となっています。

地区によって差があることがうかがえます。

環境問題（地球温暖化問題、エネルギー問題、生態系の問題など）を以前より意識するようになりましたか。



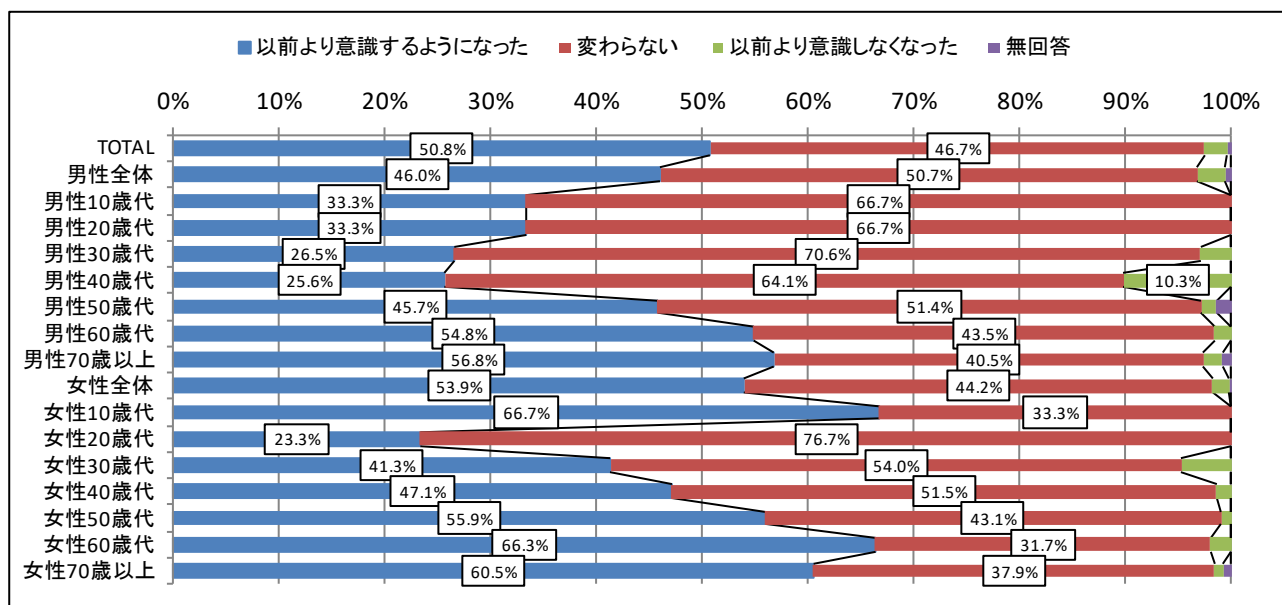
「以前より意識するようになった」と回答した人の割合が 50.8%と最も多く、次いで「変わらない」と回答した人の割合が 46.7%、「以前より意識しなくなった」と回答した人の割合が最も少なく 2.1%となっています。

5 割の市民が環境問題を以前より意識するようになったことがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「以前より意識するようになった」と回答した人の割合は 52.6%であり、「前年度アンケート」と比較してわずかに減少しています。

回答者数		意識するようになった 以前より	変わらない	意識しなくなった 以前より	無回答	合計
TOTAL	900	50.8%	46.7%	2.1%	0.4%	100.0%
男性全体	337	46.0%	50.7%	2.7%	0.6%	100.0%
男性10歳代	3	33.3%	66.7%	0.0%	0.0%	100.0%
男性20歳代	18	33.3%	66.7%	0.0%	0.0%	100.0%
男性30歳代	34	26.5%	70.6%	2.9%	0.0%	100.0%
男性40歳代	39	25.6%	64.1%	10.3%	0.0%	100.0%
男性50歳代	70	45.7%	51.4%	1.4%	1.4%	100.0%
男性60歳代	62	54.8%	43.5%	1.6%	0.0%	100.0%
男性70歳以上	111	56.8%	40.5%	1.8%	0.9%	100.0%
男性年代不明	0	—	—	—	—	—
女性全体	495	53.9%	44.2%	1.6%	0.2%	100.0%
女性10歳代	3	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	100.0%
女性20歳代	30	23.3%	76.7%	0.0%	0.0%	100.0%
女性30歳代	63	41.3%	54.0%	4.8%	0.0%	100.0%
女性40歳代	68	47.1%	51.5%	1.5%	0.0%	100.0%
女性50歳代	102	55.9%	43.1%	1.0%	0.0%	100.0%
女性60歳代	101	66.3%	31.7%	2.0%	0.0%	100.0%
女性70歳以上	124	60.5%	37.9%	0.8%	0.8%	100.0%
女性年代不明	4	25.0%	75.0%	0.0%	0.0%	100.0%
性別無回答	68	51.5%	44.1%	2.9%	1.5%	100.0%
深谷地区	233	48.1%	48.5%	3.4%	0.0%	100.0%
藤沢地区	67	52.2%	44.8%	3.0%	0.0%	100.0%
幡羅地区	97	49.5%	48.5%	1.0%	1.0%	100.0%
明戸地区	17	52.9%	41.2%	0.0%	5.9%	100.0%
大寄地区	21	42.9%	57.1%	0.0%	0.0%	100.0%
八基地区	23	34.8%	60.9%	4.3%	0.0%	100.0%
豊里地区	25	68.0%	32.0%	0.0%	0.0%	100.0%
上柴地区	109	52.3%	45.0%	2.8%	0.0%	100.0%
南地区	65	43.1%	53.8%	1.5%	1.5%	100.0%
岡部地区	103	59.2%	38.8%	1.9%	0.0%	100.0%
川本地区	53	54.7%	43.4%	1.9%	0.0%	100.0%
花園地区	70	50.0%	48.6%	0.0%	1.4%	100.0%
無回答	17	52.9%	47.1%	0.0%	0.0%	100.0%

➤ 性別・年齢別

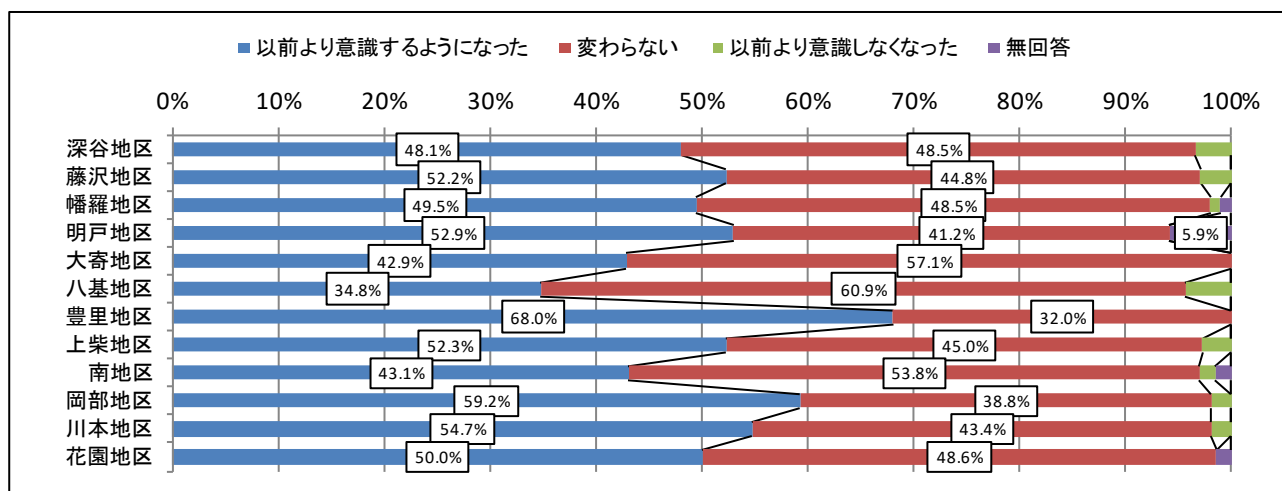


性別・年齢別にみると、「以前より意識するようになった」と回答した人の割合は、男性が46.0%であるのに対して、女性は53.9%となっています。

また、「以前より意識するようになった」と回答した人の割合が最も少ない年齢は、男性40歳代（25.6%）、女性20歳代（23.3%）であり、一方で最も多い年齢は、男性70歳以上（56.8%）、女性10歳代（66.7%）となっています。

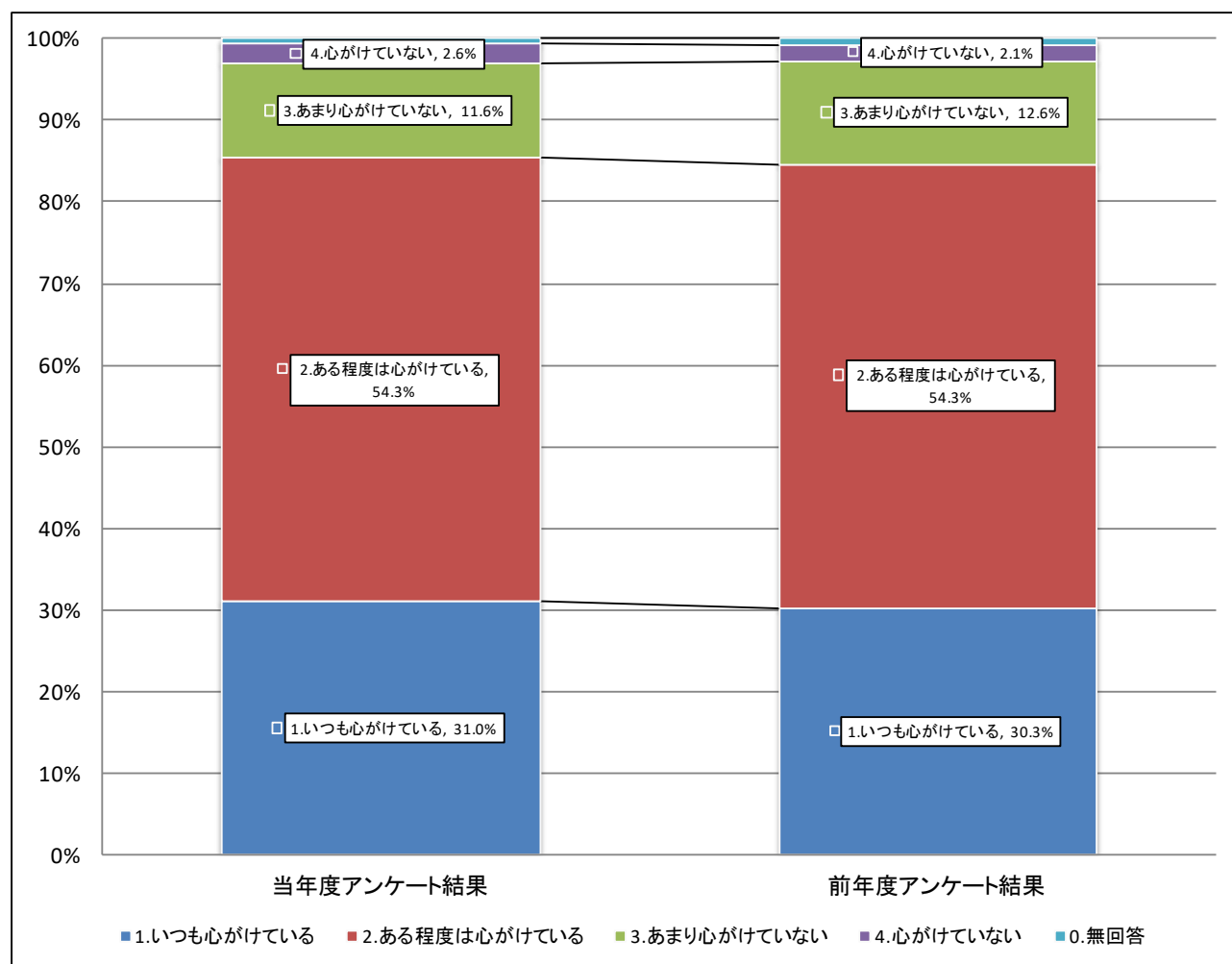
年齢によって差があることがうかがえます。

➤ 地区別



地区別にみると、「以前より意識するようになった」と回答した人の割合が最も少ない地区は、八基地区（34.8%）であり、次いで大寄地区（42.9%）となっています。最も多い地区は、豊里地区（68.0%）であり、次いで岡部地区（59.2%）となっています。

普段からごみの減量化やリサイクルを心がけていますか。



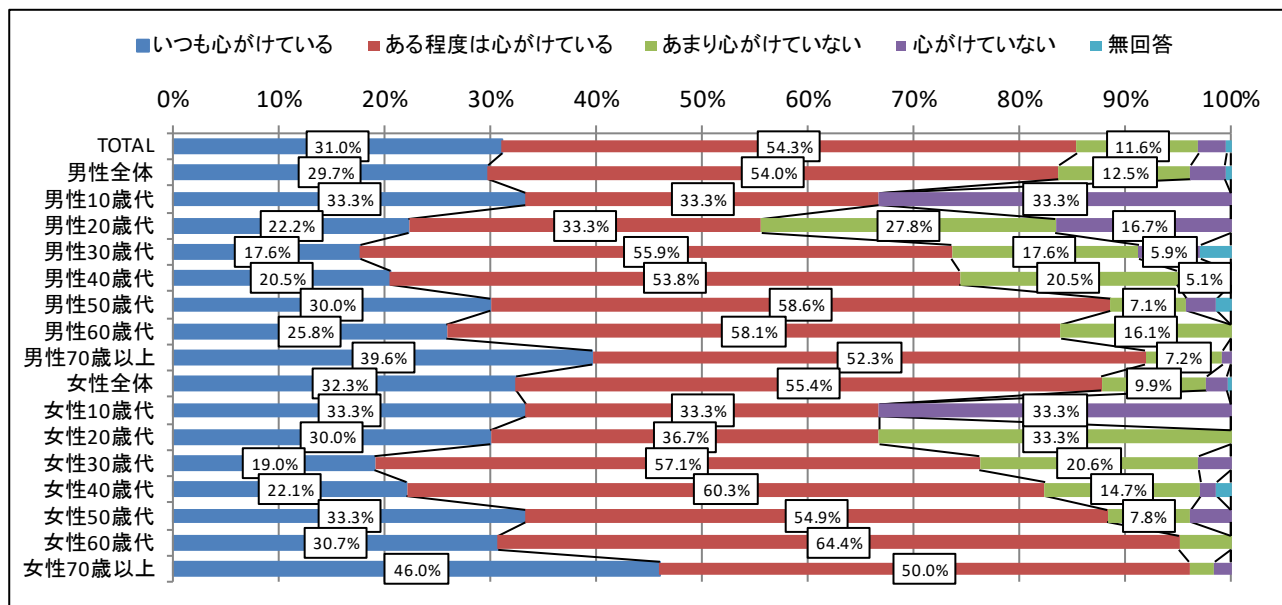
「ある程度は心がけている」と回答した人の割合が 54.3%と最も多く、次いで、「いつも心がけている」と回答した人の割合が 31.0%、「あまり心がけていない」と回答した人の割合が 11.6%、「心がけていない」と回答した人の割合が最も少なく 2.6%となっています。

「いつも心がけている」または「ある程度は心がけている」と回答した人の割合の合計は 85.3%であり、9 割近くの市民が普段からごみの減量化やリサイクルを心がけていることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「いつも心がけている」または「ある程度は心がけている」と回答した人の割合の合計は 84.6%であり、「前年度アンケート」と比較してほぼ変化はありませんでした。

回答者数		いつも心がけている	ある程度は心がけている	あまり心がけていない	心がけていない	無回答	合計
TOTAL	900	31.0%	54.3%	11.6%	2.6%	0.6%	100.0%
男性全体	337	29.7%	54.0%	12.5%	3.3%	0.6%	100.0%
男性10歳代	3	33.3%	33.3%	0.0%	33.3%	0.0%	100.0%
男性20歳代	18	22.2%	33.3%	27.8%	16.7%	0.0%	100.0%
男性30歳代	34	17.6%	55.9%	17.6%	5.9%	2.9%	100.0%
男性40歳代	39	20.5%	53.8%	20.5%	5.1%	0.0%	100.0%
男性50歳代	70	30.0%	58.6%	7.1%	2.9%	1.4%	100.0%
男性60歳代	62	25.8%	58.1%	16.1%	0.0%	0.0%	100.0%
男性70歳以上	111	39.6%	52.3%	7.2%	0.9%	0.0%	100.0%
男性年代不明	0	—	—	—	—	—	—
女性全体	495	32.3%	55.4%	9.9%	2.0%	0.4%	100.0%
女性10歳代	3	33.3%	33.3%	0.0%	33.3%	0.0%	100.0%
女性20歳代	30	30.0%	36.7%	33.3%	0.0%	0.0%	100.0%
女性30歳代	63	19.0%	57.1%	20.6%	3.2%	0.0%	100.0%
女性40歳代	68	22.1%	60.3%	14.7%	1.5%	1.5%	100.0%
女性50歳代	102	33.3%	54.9%	7.8%	3.9%	0.0%	100.0%
女性60歳代	101	30.7%	64.4%	5.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性70歳以上	124	46.0%	50.0%	2.4%	1.6%	0.0%	100.0%
女性年代不明	4	25.0%	50.0%	0.0%	0.0%	25.0%	100.0%
性別無回答	68	27.9%	48.5%	19.1%	2.9%	1.5%	100.0%
深谷地区	233	33.0%	53.2%	10.7%	2.1%	0.9%	100.0%
藤沢地区	67	26.9%	58.2%	11.9%	3.0%	0.0%	100.0%
幡羅地区	97	25.8%	51.5%	17.5%	4.1%	1.0%	100.0%
明戸地区	17	47.1%	47.1%	0.0%	5.9%	0.0%	100.0%
大寄地区	21	33.3%	57.1%	9.5%	0.0%	0.0%	100.0%
八基地区	23	34.8%	52.2%	13.0%	0.0%	0.0%	100.0%
豊里地区	25	40.0%	52.0%	8.0%	0.0%	0.0%	100.0%
上柴地区	109	37.6%	50.5%	8.3%	3.7%	0.0%	100.0%
南地区	65	29.2%	60.0%	10.8%	0.0%	0.0%	100.0%
岡部地区	103	31.1%	58.3%	6.8%	3.9%	0.0%	100.0%
川本地区	53	28.3%	56.6%	15.1%	0.0%	0.0%	100.0%
花園地区	70	24.3%	55.7%	17.1%	1.4%	1.4%	100.0%
無回答	17	11.8%	47.1%	23.5%	11.8%	5.9%	100.0%

➤ 性別・年齢別

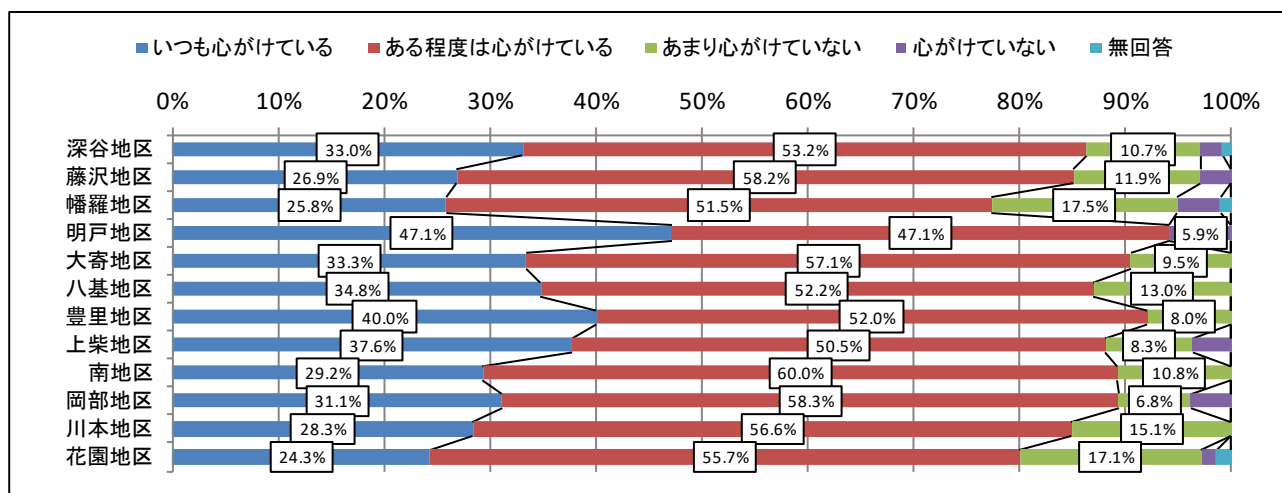


性別・年齢別にみると、「いつも心がけている」または「ある程度は心がけている」と回答した人の割合の合計は、男性が 83.7%であるのに対して、女性は 87.7%となっています。

また、「いつも心がけている」または「ある程度は心がけている」と回答した人の割合の合計が最も少ない年齢は、男性 20 歳代 (55.5%)、女性 10 歳代 (66.6%) であり、一方で最も多い年齢は、男性 70 歳以上 (91.9%)、女性 70 歳以上 (96.0%) となっています。

年齢によって差があることがうかがえます。

➤ 地区別

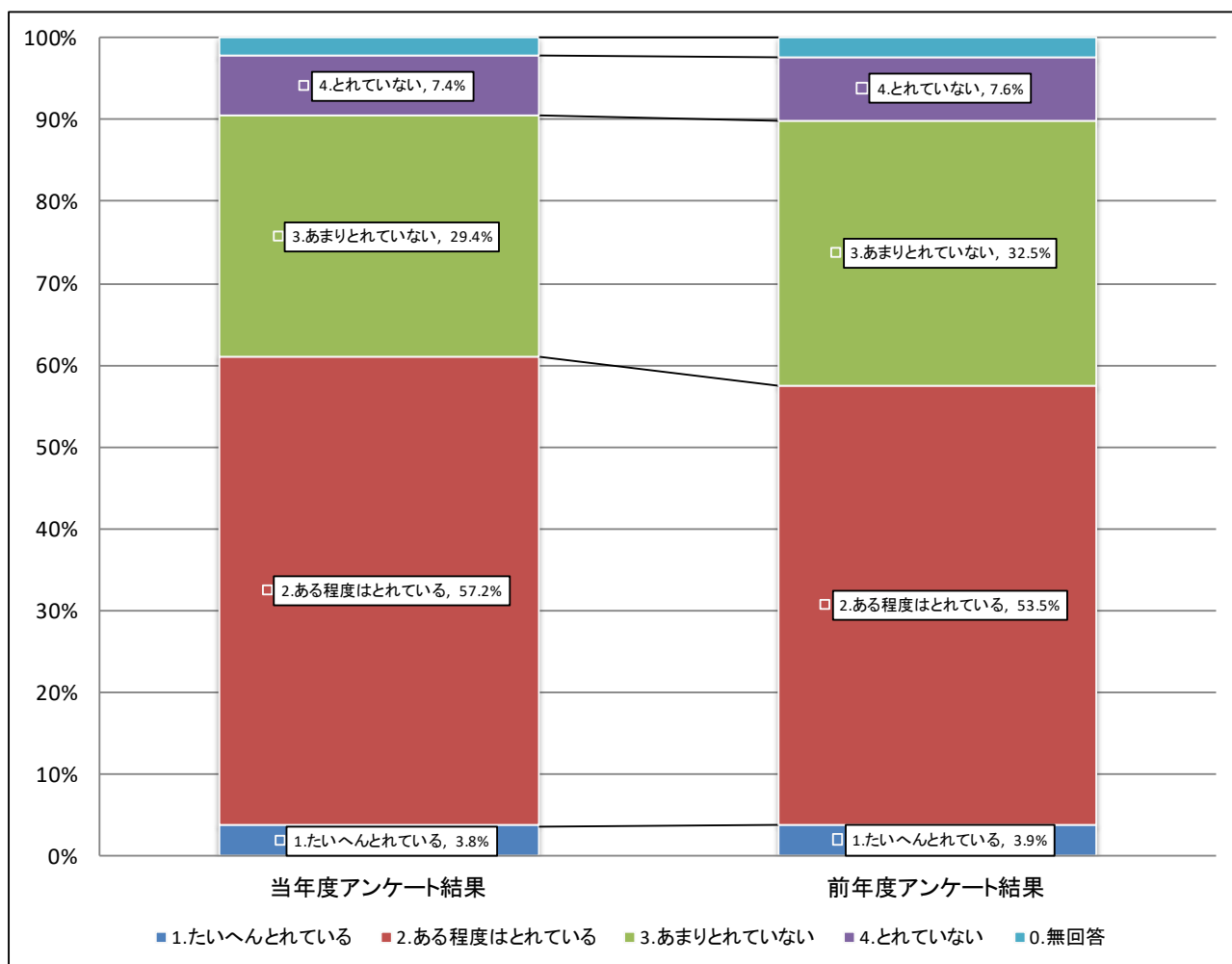


地区別にみると、「いつも心がけている」または「ある程度は心がけている」と回答した人の割合の合計が最も少ない地区は、幡羅地区 (77.3%) であり、次いで花園地区 (80.0%) となっています。最も多い地区は、明戸地区 (94.2%) であり、次いで豊里地区 (92.0%) となっています。

（６）都市・生活基盤について

① 快適な空間と景観づくり（６．問１～４）

市内の住宅、商業、工業、農業、自然などの土地利用において、相互に調和がとれていると思いますか。



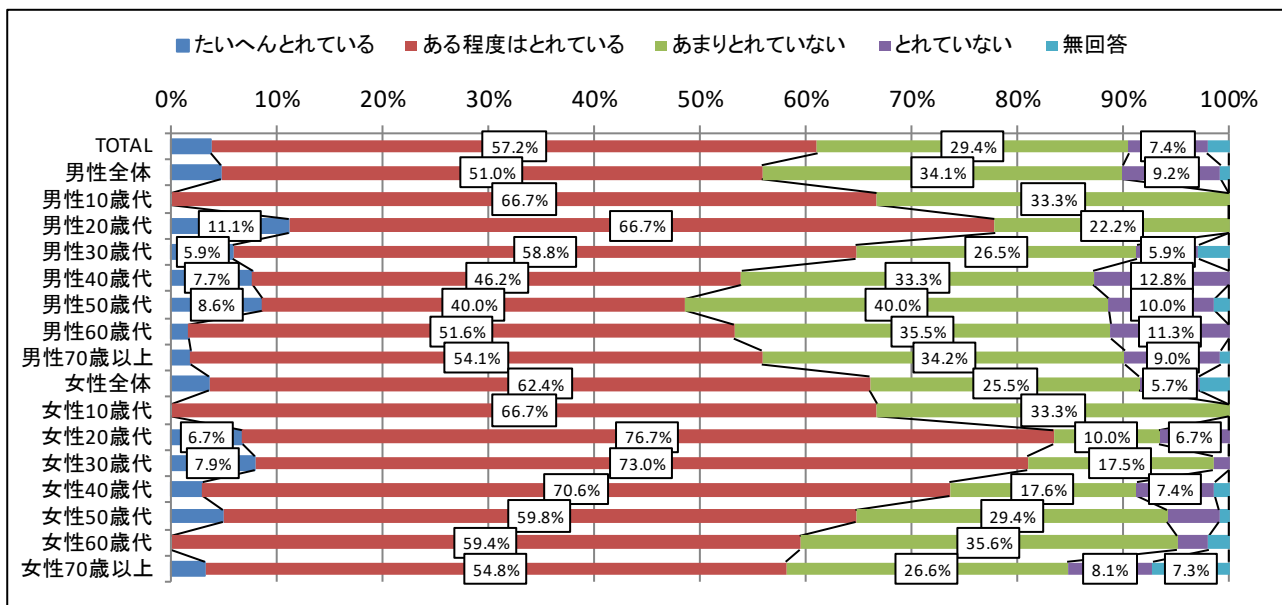
「ある程度はとれている」と回答した人の割合が 57.2%と最も多く、次いで「あまりとれていない」と回答した人の割合が 29.4%、「とれていない」と回答した人の割合が 7.4%、「たいへんとれている」と回答した人の割合が最も少なく 3.8%となっています。

「たいへんとれている」または「ある程度はとれている」と回答した人の割合の合計は 61.0%であり、6 割以上の市民が市内の住宅、商業、工業、農業、自然などの土地利用において、相互に調和がとれていると感じていることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「たいへんとれている」または「ある程度はとれている」と回答した人の割合の合計は 57.4%であり、「前年度アンケート」と比較して増加しています。

回答者数		たいへんとれている	ある程度はとれている	あまりとれていない	とれていない	無回答	合計
TOTAL	900	3.8%	57.2%	29.4%	7.4%	2.1%	100.0%
男性全体	337	4.7%	51.0%	34.1%	9.2%	0.9%	100.0%
男性10歳代	3	0.0%	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	100.0%
男性20歳代	18	11.1%	66.7%	22.2%	0.0%	0.0%	100.0%
男性30歳代	34	5.9%	58.8%	26.5%	5.9%	2.9%	100.0%
男性40歳代	39	7.7%	46.2%	33.3%	12.8%	0.0%	100.0%
男性50歳代	70	8.6%	40.0%	40.0%	10.0%	1.4%	100.0%
男性60歳代	62	1.6%	51.6%	35.5%	11.3%	0.0%	100.0%
男性70歳以上	111	1.8%	54.1%	34.2%	9.0%	0.9%	100.0%
男性年代不明	0	—	—	—	—	—	—
女性全体	495	3.6%	62.4%	25.5%	5.7%	2.8%	100.0%
女性10歳代	3	0.0%	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	100.0%
女性20歳代	30	6.7%	76.7%	10.0%	6.7%	0.0%	100.0%
女性30歳代	63	7.9%	73.0%	17.5%	1.6%	0.0%	100.0%
女性40歳代	68	2.9%	70.6%	17.6%	7.4%	1.5%	100.0%
女性50歳代	102	4.9%	59.8%	29.4%	4.9%	1.0%	100.0%
女性60歳代	101	0.0%	59.4%	35.6%	3.0%	2.0%	100.0%
女性70歳以上	124	3.2%	54.8%	26.6%	8.1%	7.3%	100.0%
女性年代不明	4	0.0%	25.0%	0.0%	50.0%	25.0%	100.0%
性別無回答	68	0.0%	50.0%	35.3%	11.8%	2.9%	100.0%
深谷地区	233	3.0%	57.1%	30.0%	6.9%	3.0%	100.0%
藤沢地区	67	6.0%	65.7%	26.9%	1.5%	0.0%	100.0%
幡羅地区	97	3.1%	68.0%	25.8%	1.0%	2.1%	100.0%
明戸地区	17	0.0%	11.8%	58.8%	23.5%	5.9%	100.0%
大寄地区	21	4.8%	61.9%	33.3%	0.0%	0.0%	100.0%
八基地区	23	13.0%	52.2%	26.1%	8.7%	0.0%	100.0%
豊里地区	25	4.0%	28.0%	44.0%	20.0%	4.0%	100.0%
上柴地区	109	0.9%	67.9%	24.8%	4.6%	1.8%	100.0%
南地区	65	4.6%	52.3%	36.9%	4.6%	1.5%	100.0%
岡部地区	103	4.9%	57.3%	23.3%	11.7%	2.9%	100.0%
川本地区	53	3.8%	37.7%	39.6%	18.9%	0.0%	100.0%
花園地区	70	5.7%	57.1%	30.0%	5.7%	1.4%	100.0%
無回答	17	0.0%	64.7%	5.9%	23.5%	5.9%	100.0%

➤ 性別・年齢別

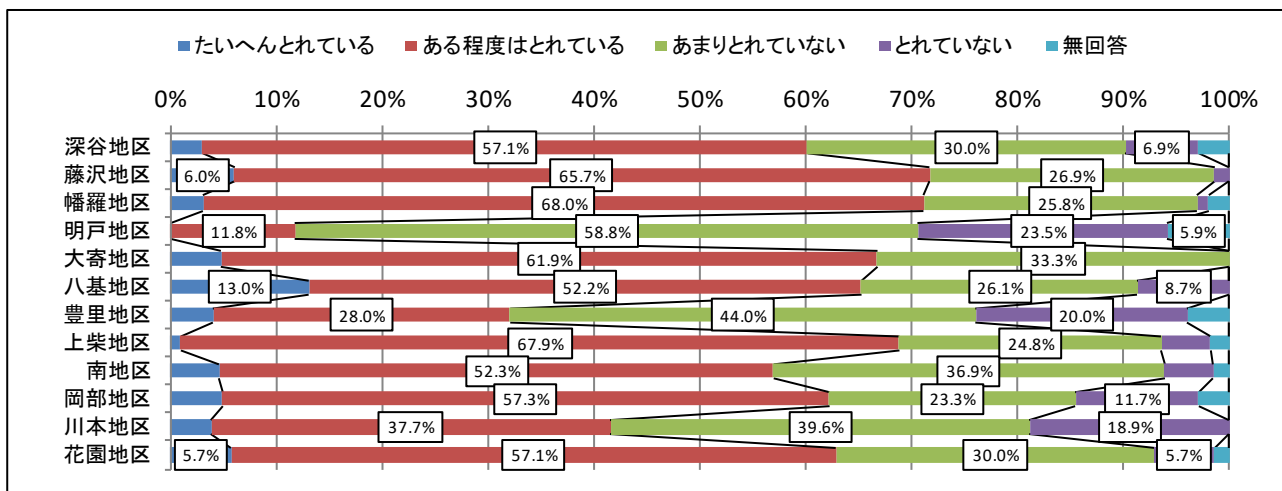


性別・年齢別にみると、「たいへんとれている」または「ある程度はとれている」と回答した人の割合の合計は、男性が 55.7%であるのに対して、女性は 66.0%となっています。

また、「たいへんとれている」または「ある程度はとれている」と回答した人の割合の合計が最も少ない年齢は、男性 50 歳代 (48.6%)、女性 70 歳以上 (58.0%) であり、一方で最も多い年齢は、男性 20 歳代 (77.8%)、女性 20 歳代 (83.4%) となっています。

男女によって差があることがうかがえます。

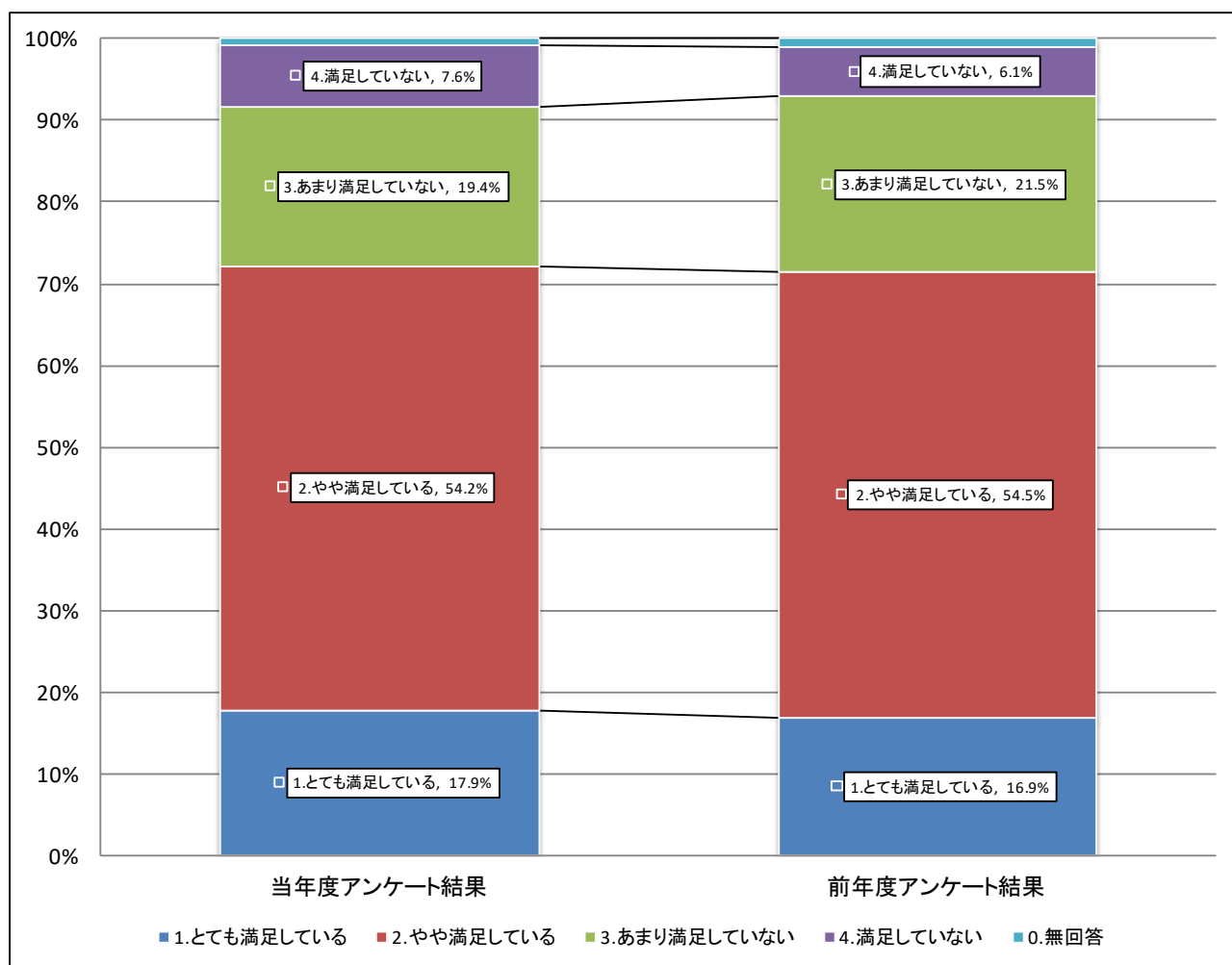
➤ 地区別



地区別にみると、「たいへんとれている」または「ある程度はとれている」と回答した人の割合の合計が最も少ない地区は、明戸地区 (11.8%) であり、次いで豊里地区 (32.0%) となっています。最も多い地区は、藤沢地区 (71.7%) であり、次いで幡羅地区 (71.1%) となっています。

地区によって大きな差があることがうかがえます。

お住まい周辺の住環境に満足していますか。



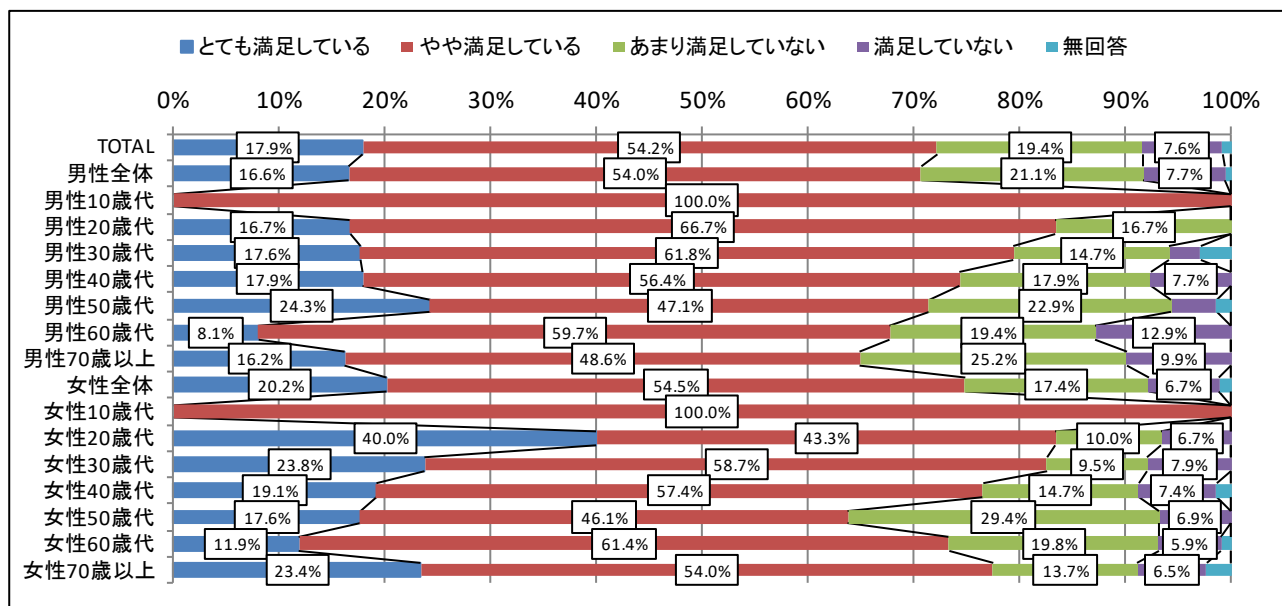
「やや満足している」と回答した人の割合が 54.2%と最も多く、次いで「あまり満足していない」と回答した人の割合が 19.4%、「とても満足している」と回答した人の割合が 17.9%、「満足していない」と回答した人の割合が最も少なく 7.6%となっています。

「とても満足している」または「やや満足している」と回答した人の割合の合計は 72.1%であり、7 割以上の市民がお住まい周辺の住環境に満足していることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「とても満足している」または「やや満足している」と回答した人の割合の合計は 71.4%であり、「前年度アンケート」と比較してほぼ変化はありませんでした。

回答者数		とても満足している	やや満足している	あまり満足していない	満足していない	無回答	合計
TOTAL	900	17.9%	54.2%	19.4%	7.6%	0.9%	100.0%
男性全体	337	16.6%	54.0%	21.1%	7.7%	0.6%	100.0%
男性10歳代	3	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
男性20歳代	18	16.7%	66.7%	16.7%	0.0%	0.0%	100.0%
男性30歳代	34	17.6%	61.8%	14.7%	2.9%	2.9%	100.0%
男性40歳代	39	17.9%	56.4%	17.9%	7.7%	0.0%	100.0%
男性50歳代	70	24.3%	47.1%	22.9%	4.3%	1.4%	100.0%
男性60歳代	62	8.1%	59.7%	19.4%	12.9%	0.0%	100.0%
男性70歳以上	111	16.2%	48.6%	25.2%	9.9%	0.0%	100.0%
男性年代不明	0	—	—	—	—	—	—
女性全体	495	20.2%	54.5%	17.4%	6.7%	1.2%	100.0%
女性10歳代	3	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性20歳代	30	40.0%	43.3%	10.0%	6.7%	0.0%	100.0%
女性30歳代	63	23.8%	58.7%	9.5%	7.9%	0.0%	100.0%
女性40歳代	68	19.1%	57.4%	14.7%	7.4%	1.5%	100.0%
女性50歳代	102	17.6%	46.1%	29.4%	6.9%	0.0%	100.0%
女性60歳代	101	11.9%	61.4%	19.8%	5.9%	1.0%	100.0%
女性70歳以上	124	23.4%	54.0%	13.7%	6.5%	2.4%	100.0%
女性年代不明	4	25.0%	50.0%	0.0%	0.0%	25.0%	100.0%
性別無回答	68	7.4%	52.9%	26.5%	13.2%	0.0%	100.0%
深谷地区	233	18.0%	54.5%	20.2%	6.4%	0.9%	100.0%
藤沢地区	67	13.4%	52.2%	28.4%	6.0%	0.0%	100.0%
幡羅地区	97	22.7%	61.9%	11.3%	3.1%	1.0%	100.0%
明戸地区	17	0.0%	41.2%	29.4%	23.5%	5.9%	100.0%
大寄地区	21	4.8%	57.1%	23.8%	14.3%	0.0%	100.0%
八基地区	23	17.4%	52.2%	26.1%	4.3%	0.0%	100.0%
豊里地区	25	12.0%	44.0%	28.0%	16.0%	0.0%	100.0%
上柴地区	109	28.4%	56.9%	11.0%	2.8%	0.9%	100.0%
南地区	65	12.3%	60.0%	20.0%	7.7%	0.0%	100.0%
岡部地区	103	17.5%	48.5%	18.4%	14.6%	1.0%	100.0%
川本地区	53	15.1%	50.9%	28.3%	5.7%	0.0%	100.0%
花園地区	70	17.1%	52.9%	22.9%	5.7%	1.4%	100.0%
無回答	17	17.6%	52.9%	0.0%	23.5%	5.9%	100.0%

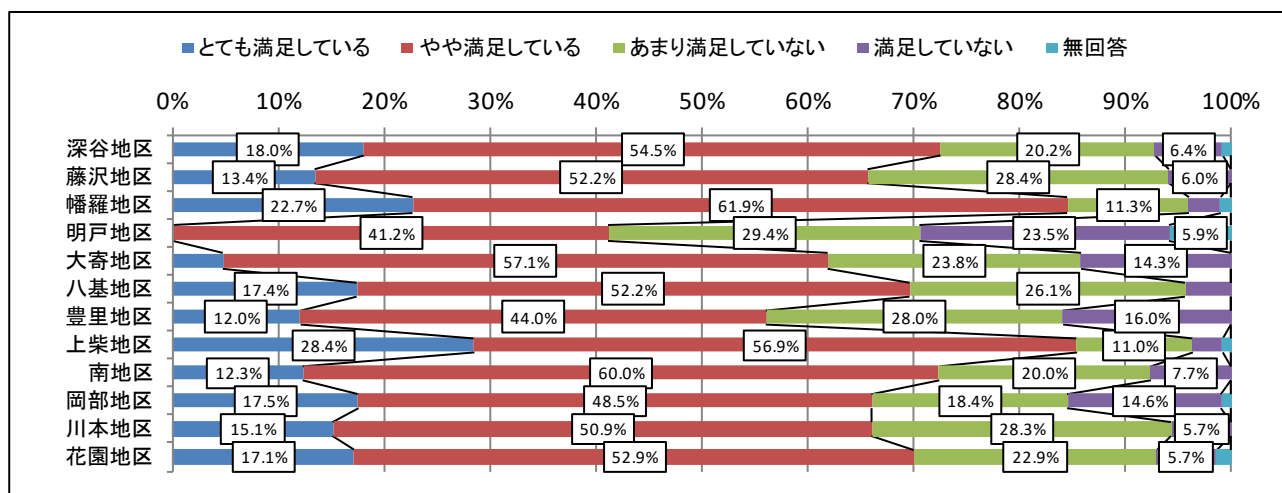
➤ 性別・年齢別



性別・年齢別にみると、「とても満足している」または「やや満足している」と回答した人の割合の合計は、男性が70.6%であるのに対して、女性は74.7%となっています。

また、「とても満足している」または「やや満足している」と回答した人の割合の合計が最も少ない年齢は、男性70歳以上（64.8%）、女性50歳代（63.7%）であり、一方で最も多い年齢は、男性10歳代（100.0%）、女性10歳代（100.0%）となっています。

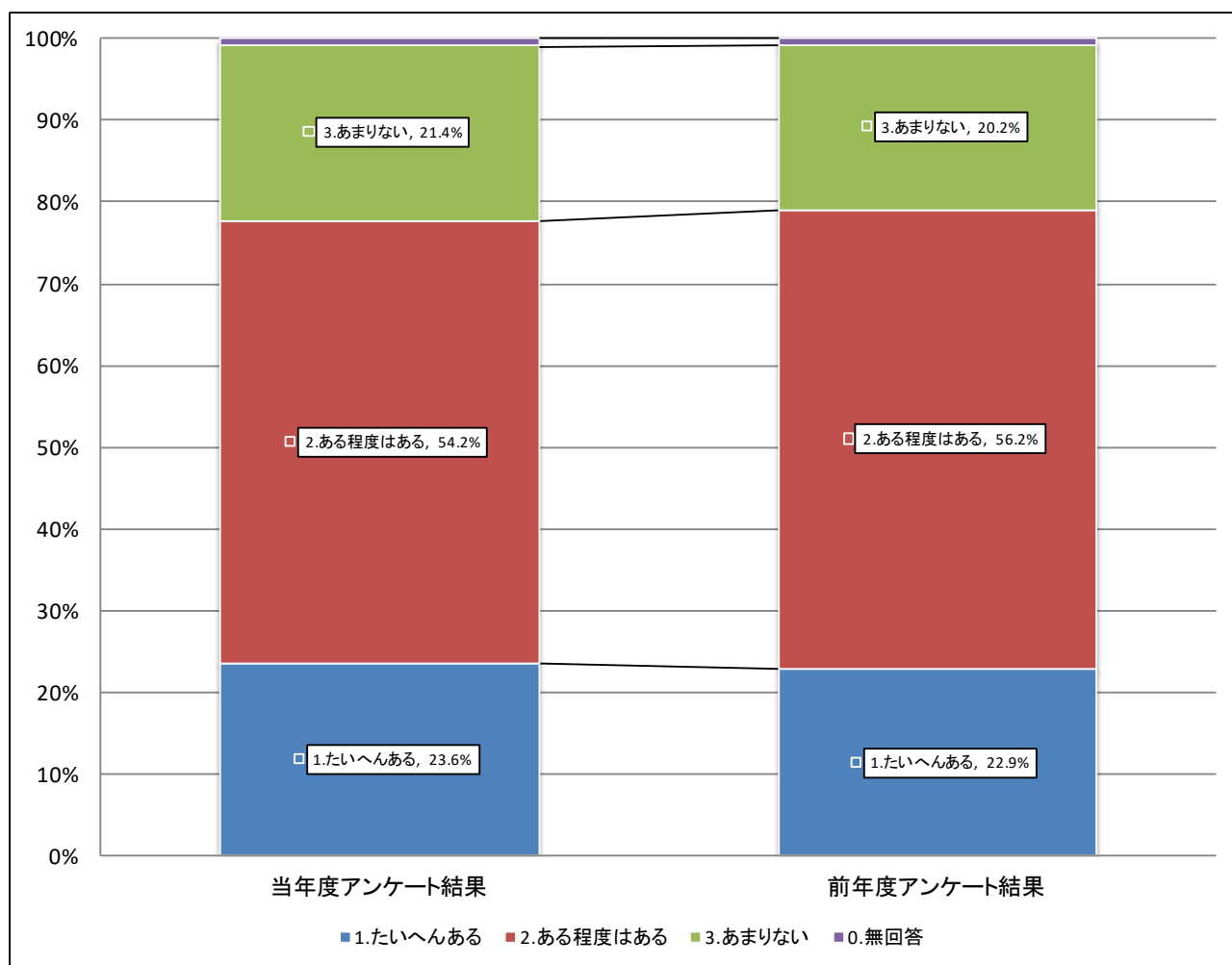
➤ 地区別



地区別にみると、「とても満足している」または「やや満足している」と回答した人の割合の合計が最も少ない地区は、明戸地区（41.2%）であり、次いで豊里地区（56.0%）となっています。最も多い地区は、上柴地区（85.3%）であり、次いで幡羅地区（84.6%）となっています。

地区によって差があることがわかります。

あなたの身近に、自然に親しむことができる環境はありますか。



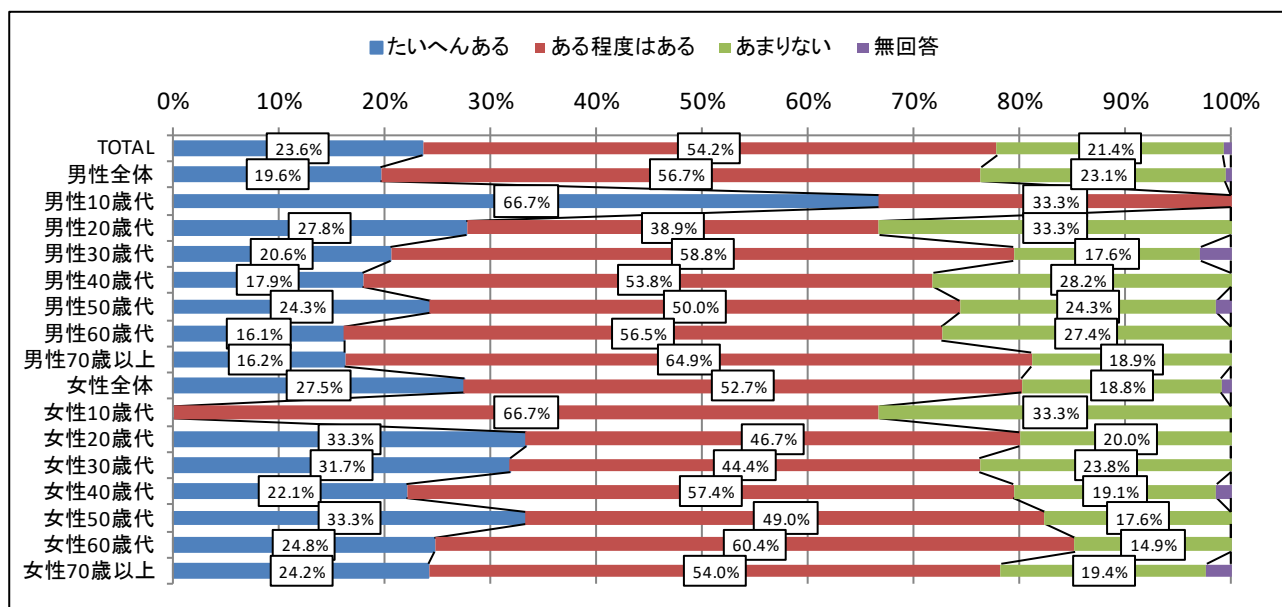
「ある程度はある」と回答した人の割合が 54.2%と最も多く、次いで「たいへんある」が 23.6%、「あまりない」と回答した人の割合が最も少なく 21.4% となっています。

「たいへんある」または「ある程度はある」と回答した人の割合の合計は 77.8%であり、8 割近くの市民の身近に、自然に親しむことができる環境があることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「たいへんある」または「ある程度はある」と回答した人の割合の合計は 79.1%であり、「前年度アンケート」と比較してわずかに減少しています。

回答者数		たいへんある	ある程度はある	あまりない	無回答	合計
TOTAL	900	23.6%	54.2%	21.4%	0.8%	100.0%
男性全体	337	19.6%	56.7%	23.1%	0.6%	100.0%
男性10歳代	3	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	100.0%
男性20歳代	18	27.8%	38.9%	33.3%	0.0%	100.0%
男性30歳代	34	20.6%	58.8%	17.6%	2.9%	100.0%
男性40歳代	39	17.9%	53.8%	28.2%	0.0%	100.0%
男性50歳代	70	24.3%	50.0%	24.3%	1.4%	100.0%
男性60歳代	62	16.1%	56.5%	27.4%	0.0%	100.0%
男性70歳以上	111	16.2%	64.9%	18.9%	0.0%	100.0%
男性年代不明	0	—	—	—	—	—
女性全体	495	27.5%	52.7%	18.8%	1.0%	100.0%
女性10歳代	3	0.0%	66.7%	33.3%	0.0%	100.0%
女性20歳代	30	33.3%	46.7%	20.0%	0.0%	100.0%
女性30歳代	63	31.7%	44.4%	23.8%	0.0%	100.0%
女性40歳代	68	22.1%	57.4%	19.1%	1.5%	100.0%
女性50歳代	102	33.3%	49.0%	17.6%	0.0%	100.0%
女性60歳代	101	24.8%	60.4%	14.9%	0.0%	100.0%
女性70歳以上	124	24.2%	54.0%	19.4%	2.4%	100.0%
女性年代不明	4	50.0%	0.0%	25.0%	25.0%	100.0%
性別無回答	68	14.7%	52.9%	32.4%	0.0%	100.0%
深谷地区	233	16.7%	55.8%	26.6%	0.9%	100.0%
藤沢地区	67	29.9%	61.2%	9.0%	0.0%	100.0%
幡羅地区	97	21.6%	47.4%	30.9%	0.0%	100.0%
明戸地区	17	35.3%	35.3%	29.4%	0.0%	100.0%
大寄地区	21	47.6%	38.1%	14.3%	0.0%	100.0%
八基地区	23	17.4%	69.6%	13.0%	0.0%	100.0%
豊里地区	25	48.0%	40.0%	12.0%	0.0%	100.0%
上柴地区	109	9.2%	63.3%	27.5%	0.0%	100.0%
南地区	65	21.5%	56.9%	21.5%	0.0%	100.0%
岡部地区	103	29.1%	47.6%	20.4%	2.9%	100.0%
川本地区	53	34.0%	52.8%	13.2%	0.0%	100.0%
花園地区	70	31.4%	58.6%	8.6%	1.4%	100.0%
無回答	17	35.3%	41.2%	17.6%	5.9%	100.0%

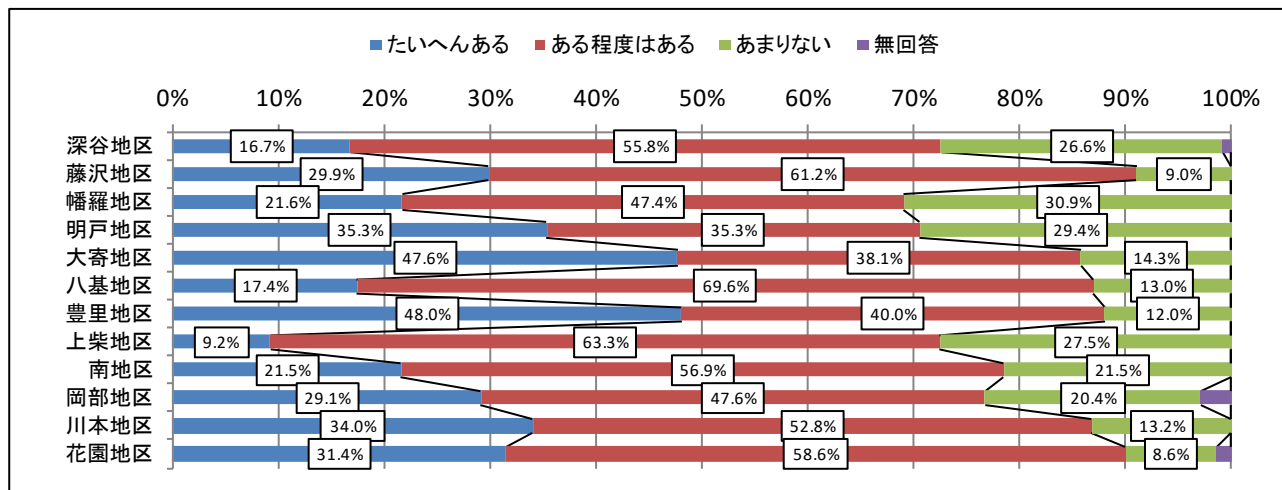
➤ 性別・年齢別



性別・年齢別にみると、「たいへんある」または「ある程度はある」と回答した人の割合の合計は、男性が76.3%であるのに対して、女性は80.2%となっています。

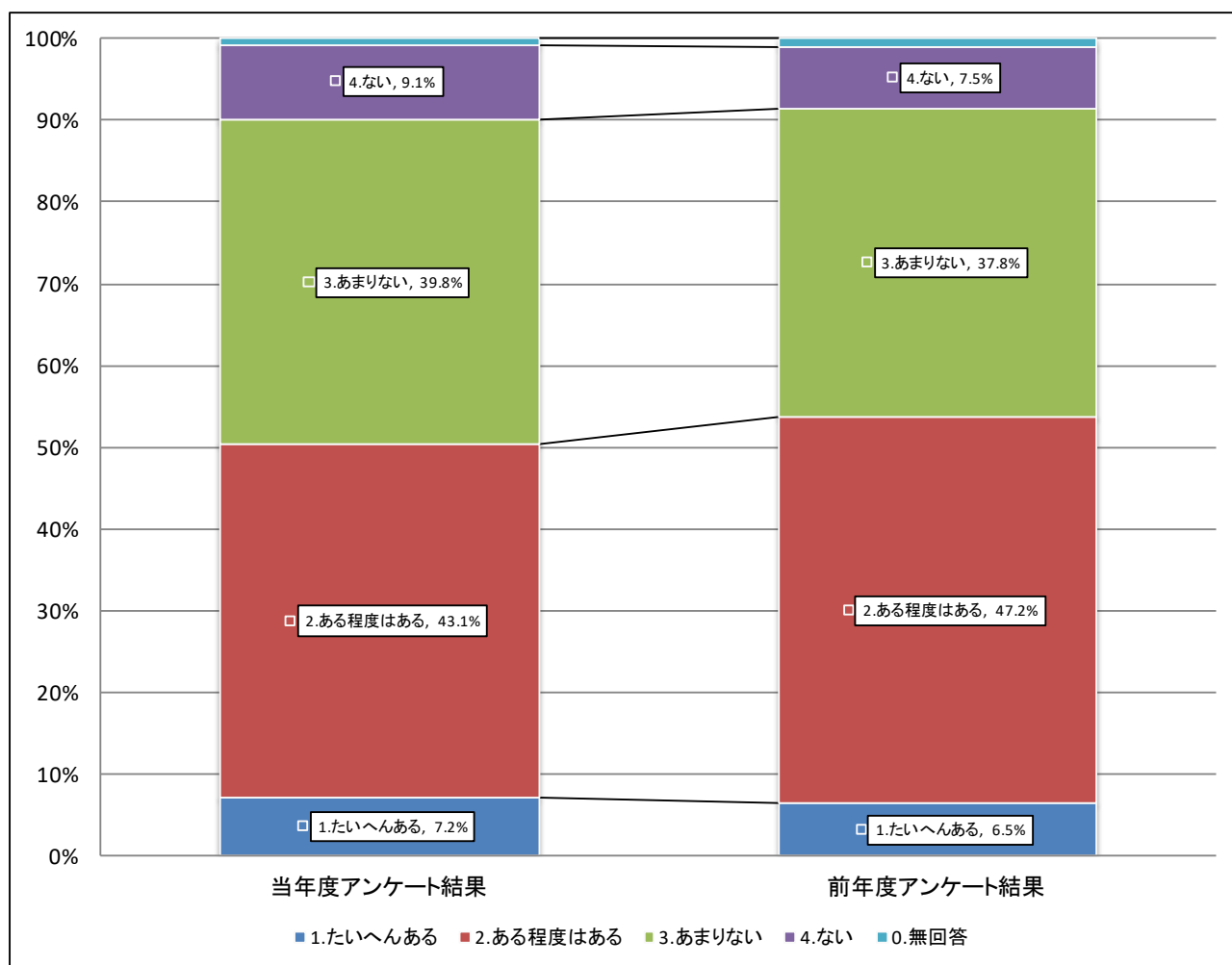
また、「たいへんある」または「ある程度はある」と回答した人の割合の合計が最も少ない年齢は、男性は20歳代（66.7%）、女性は10歳代（66.7%）であり、一方で最も多い年齢は、男性10歳代（100.0%）、女性60歳代（85.2%）となっています。

➤ 地区別



地区別にみると、「たいへんある」または「ある程度はある」と回答した人の割合の合計が最も少ない地区は、幡羅地区（69.0%）であり、次いで明戸地区（70.6%）となっています。最も多い地区は、藤沢地区（91.1%）であり、次いで花園地区（90.0%）となっています。

市内に魅力的なまち並みや景観があると思いますか。



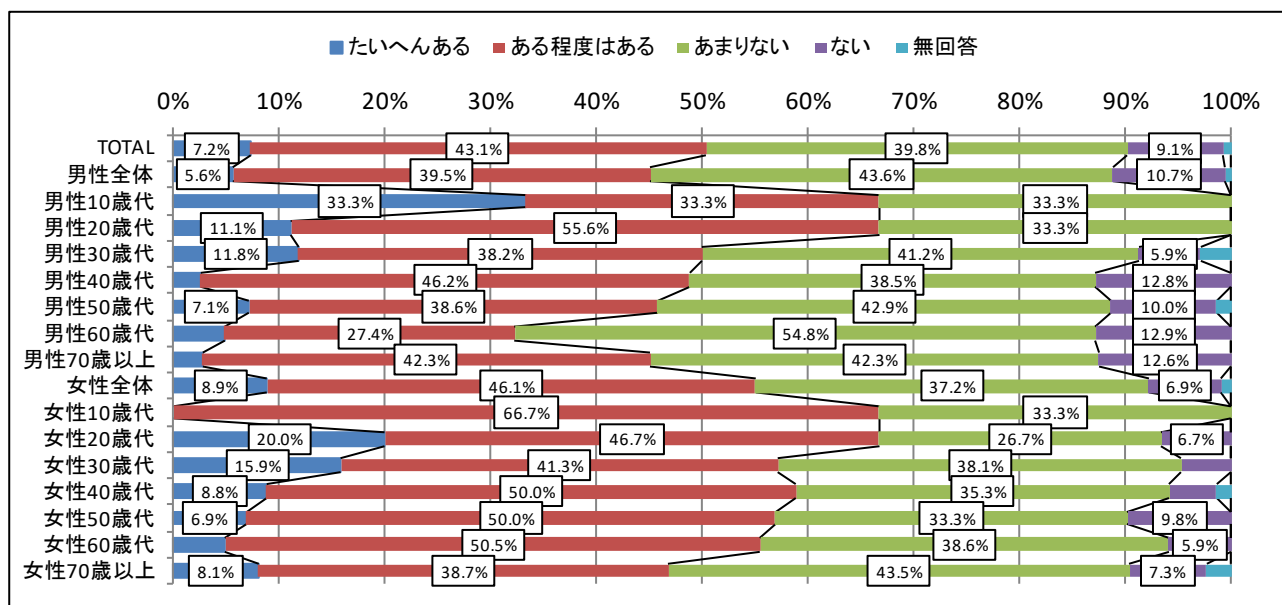
「ある程度はある」と回答した人の割合が 43.1%と最も多く、次いで「あまりない」と回答した人の割合が 39.8%、「ない」と回答した人の割合が 9.1%、「たいへんある」と回答した人の割合が最も少なく 7.2%となっています。

「たいへんある」または「ある程度はある」と回答した人の割合の合計は 50.3%であり、5 割の市民が市内に魅力的なまち並みや景観があると感じていることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「たいへんある」または「ある程度はある」と回答した人の割合の合計は 53.7%であり、「前年度アンケート」と比較して減少しています。

回答者数		たいへんある	ある程度はある	あまりない	ない	無回答	合計
TOTAL	900	7.2%	43.1%	39.8%	9.1%	0.8%	100.0%
男性全体	337	5.6%	39.5%	43.6%	10.7%	0.6%	100.0%
男性10歳代	3	33.3%	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%	100.0%
男性20歳代	18	11.1%	55.6%	33.3%	0.0%	0.0%	100.0%
男性30歳代	34	11.8%	38.2%	41.2%	5.9%	2.9%	100.0%
男性40歳代	39	2.6%	46.2%	38.5%	12.8%	0.0%	100.0%
男性50歳代	70	7.1%	38.6%	42.9%	10.0%	1.4%	100.0%
男性60歳代	62	4.8%	27.4%	54.8%	12.9%	0.0%	100.0%
男性70歳以上	111	2.7%	42.3%	42.3%	12.6%	0.0%	100.0%
男性年代不明	0	—	—	—	—	—	—
女性全体	495	8.9%	46.1%	37.2%	6.9%	1.0%	100.0%
女性10歳代	3	0.0%	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	100.0%
女性20歳代	30	20.0%	46.7%	26.7%	6.7%	0.0%	100.0%
女性30歳代	63	15.9%	41.3%	38.1%	4.8%	0.0%	100.0%
女性40歳代	68	8.8%	50.0%	35.3%	4.4%	1.5%	100.0%
女性50歳代	102	6.9%	50.0%	33.3%	9.8%	0.0%	100.0%
女性60歳代	101	5.0%	50.5%	38.6%	5.9%	0.0%	100.0%
女性70歳以上	124	8.1%	38.7%	43.5%	7.3%	2.4%	100.0%
女性年代不明	4	0.0%	50.0%	0.0%	25.0%	25.0%	100.0%
性別無回答	68	2.9%	39.7%	39.7%	17.6%	0.0%	100.0%
深谷地区	233	6.4%	38.6%	43.3%	10.7%	0.9%	100.0%
藤沢地区	67	11.9%	43.3%	35.8%	9.0%	0.0%	100.0%
幡羅地区	97	7.2%	51.5%	35.1%	6.2%	0.0%	100.0%
明戸地区	17	5.9%	29.4%	47.1%	11.8%	5.9%	100.0%
大寄地区	21	9.5%	52.4%	28.6%	9.5%	0.0%	100.0%
八基地区	23	4.3%	56.5%	39.1%	0.0%	0.0%	100.0%
豊里地区	25	16.0%	40.0%	32.0%	12.0%	0.0%	100.0%
上柴地区	109	11.0%	46.8%	38.5%	3.7%	0.0%	100.0%
南地区	65	6.2%	41.5%	41.5%	10.8%	0.0%	100.0%
岡部地区	103	2.9%	39.8%	42.7%	12.6%	1.9%	100.0%
川本地区	53	1.9%	45.3%	39.6%	13.2%	0.0%	100.0%
花園地区	70	10.0%	44.3%	38.6%	5.7%	1.4%	100.0%
無回答	17	0.0%	35.3%	41.2%	17.6%	5.9%	100.0%

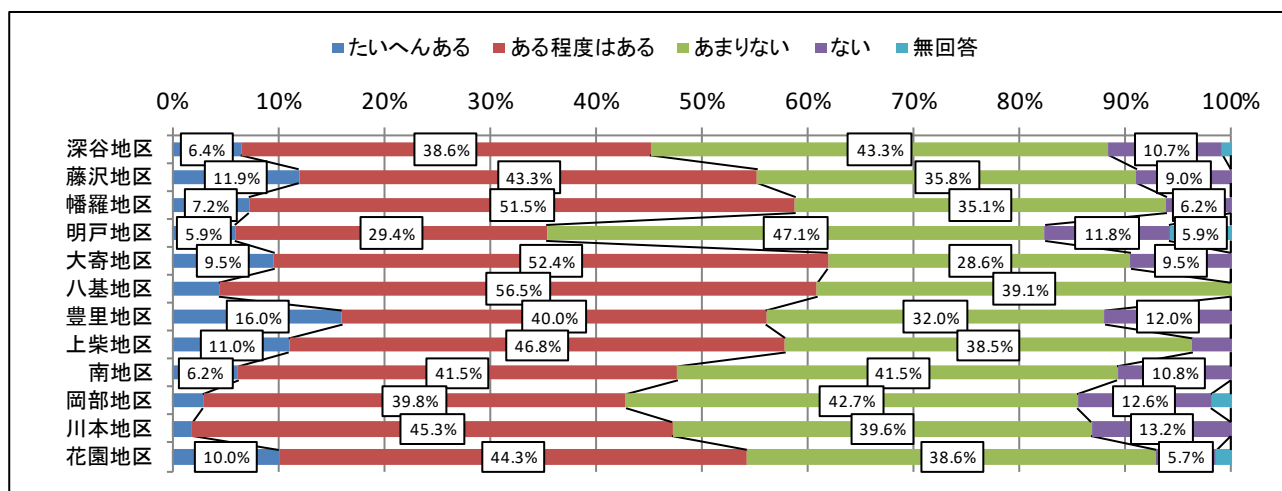
➤ 性別・年齢別



性別・年齢別にみると、「たいへんある」または「ある程度はある」と回答した人の割合の合計は、男性が45.1%であるのに対して、女性は55.0%となっています。

また、「たいへんある」または「ある程度はある」と回答した人の割合の合計が最も少ない年齢は、男性が60歳代（32.2%）、女性が70歳以上（46.8%）であり、一方で最も多い年齢は、男性20歳代（66.7%）、女性10歳代・20歳代ともに（66.7%）となっています。男女や、男性は年齢によって差があることがうかがえます。

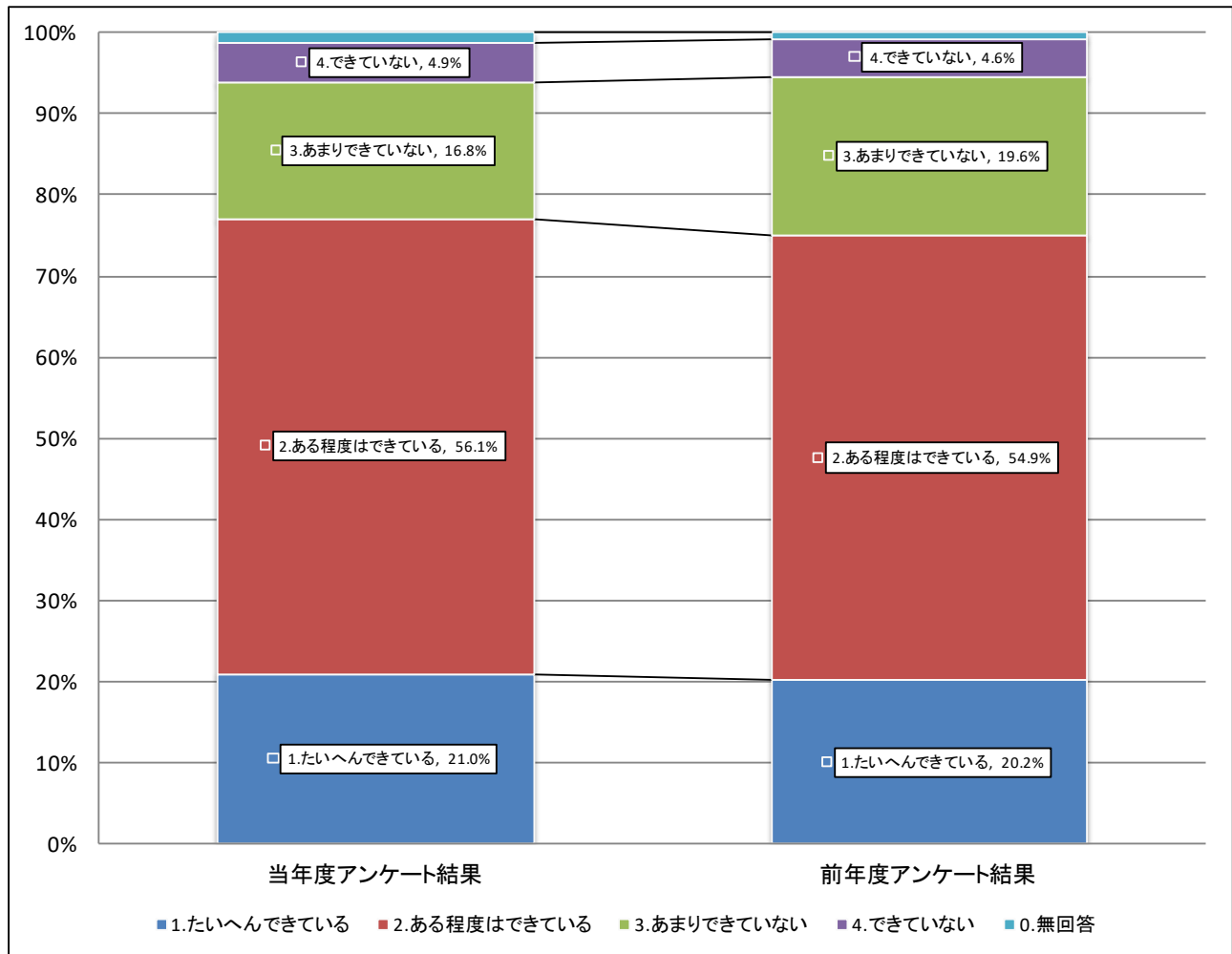
➤ 地区別



地区別にみると、「たいへんある」または「ある程度はある」と回答した人の割合の合計が最も少ない地区は、明戸地区（35.3%）であり、次いで岡部地区（42.7%）となっています。最も多い地区は、大寄地区（61.9%）であり、次いで八基地区（60.8%）となっています。

② 良好で快適な都市環境の形成（6. 問5～7）

水害に対して安心した生活を送ることができていますか。



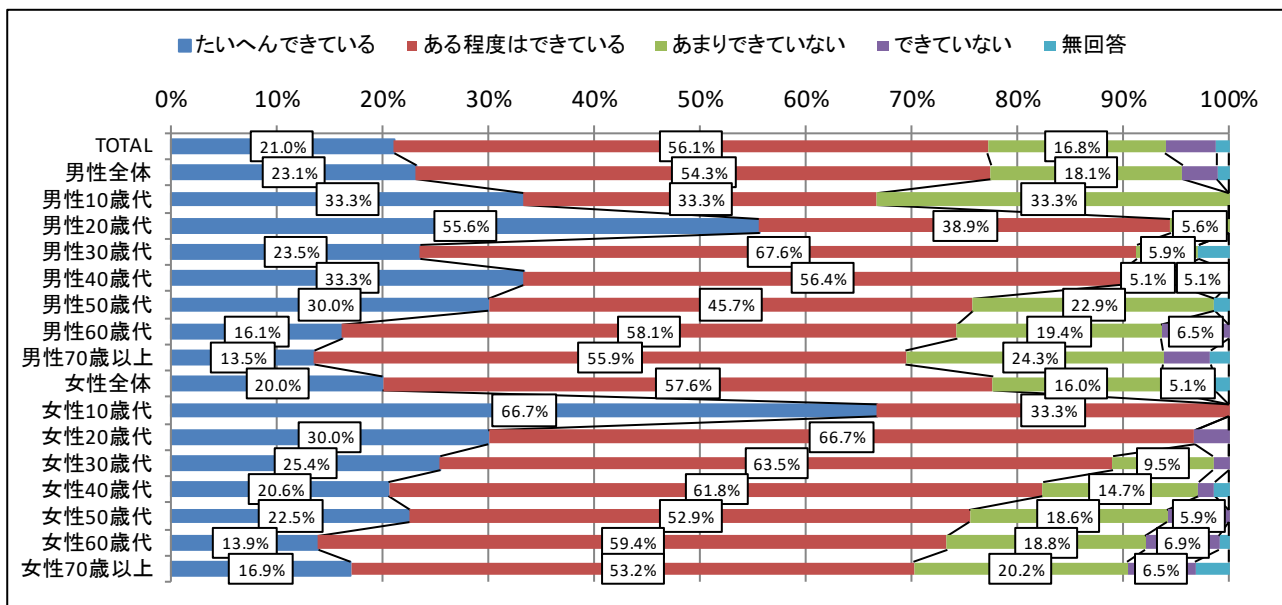
「ある程度はできている」と回答した人の割合が 56.1%と最も多く、次いで「たいへんできている」と回答した人の割合が 21.0%、「あまりできていない」と回答した人の割合が 16.8%、「できていない」と回答した人の割合が最も少なく 4.9%となっています。

「たいへんできている」または「ある程度はできている」と回答した人の割合の合計は 77.1%であり、8 割近くの市民が水害に対して安心した生活を送れていることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「たいへんできている」または「ある程度はできている」と回答した人の割合の合計は 75.1%であり、「前年度アンケート」と比較してわずかに増加しています。

回答者数		たいへんできている	ある程度はできている	あまりできていない	できていない	無回答	合計
TOTAL	900	21.0%	56.1%	16.8%	4.9%	1.2%	100.0%
男性全体	337	23.1%	54.3%	18.1%	3.3%	1.2%	100.0%
男性10歳代	3	33.3%	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%	100.0%
男性20歳代	18	55.6%	38.9%	5.6%	0.0%	0.0%	100.0%
男性30歳代	34	23.5%	67.6%	5.9%	0.0%	2.9%	100.0%
男性40歳代	39	33.3%	56.4%	5.1%	5.1%	0.0%	100.0%
男性50歳代	70	30.0%	45.7%	22.9%	0.0%	1.4%	100.0%
男性60歳代	62	16.1%	58.1%	19.4%	6.5%	0.0%	100.0%
男性70歳以上	111	13.5%	55.9%	24.3%	4.5%	1.8%	100.0%
男性年代不明	0	—	—	—	—	—	—
女性全体	495	20.0%	57.6%	16.0%	5.1%	1.4%	100.0%
女性10歳代	3	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性20歳代	30	30.0%	66.7%	0.0%	3.3%	0.0%	100.0%
女性30歳代	63	25.4%	63.5%	9.5%	1.6%	0.0%	100.0%
女性40歳代	68	20.6%	61.8%	14.7%	1.5%	1.5%	100.0%
女性50歳代	102	22.5%	52.9%	18.6%	5.9%	0.0%	100.0%
女性60歳代	101	13.9%	59.4%	18.8%	6.9%	1.0%	100.0%
女性70歳以上	124	16.9%	53.2%	20.2%	6.5%	3.2%	100.0%
女性年代不明	4	0.0%	50.0%	0.0%	25.0%	25.0%	100.0%
性別無回答	68	17.6%	54.4%	16.2%	11.8%	0.0%	100.0%
深谷地区	233	13.3%	60.5%	18.5%	5.6%	2.1%	100.0%
藤沢地区	67	29.9%	56.7%	10.4%	3.0%	0.0%	100.0%
幡羅地区	97	32.0%	49.5%	15.5%	3.1%	0.0%	100.0%
明戸地区	17	17.6%	35.3%	35.3%	11.8%	0.0%	100.0%
大寄地区	21	4.8%	42.9%	42.9%	9.5%	0.0%	100.0%
八基地区	23	4.3%	56.5%	34.8%	4.3%	0.0%	100.0%
豊里地区	25	8.0%	48.0%	32.0%	12.0%	0.0%	100.0%
上柴地区	109	29.4%	55.0%	11.9%	2.8%	0.9%	100.0%
南地区	65	23.1%	52.3%	15.4%	7.7%	1.5%	100.0%
岡部地区	103	21.4%	60.2%	9.7%	6.8%	1.9%	100.0%
川本地区	53	18.9%	64.2%	17.0%	0.0%	0.0%	100.0%
花園地区	70	24.3%	55.7%	15.7%	2.9%	1.4%	100.0%
無回答	17	23.5%	52.9%	11.8%	5.9%	5.9%	100.0%

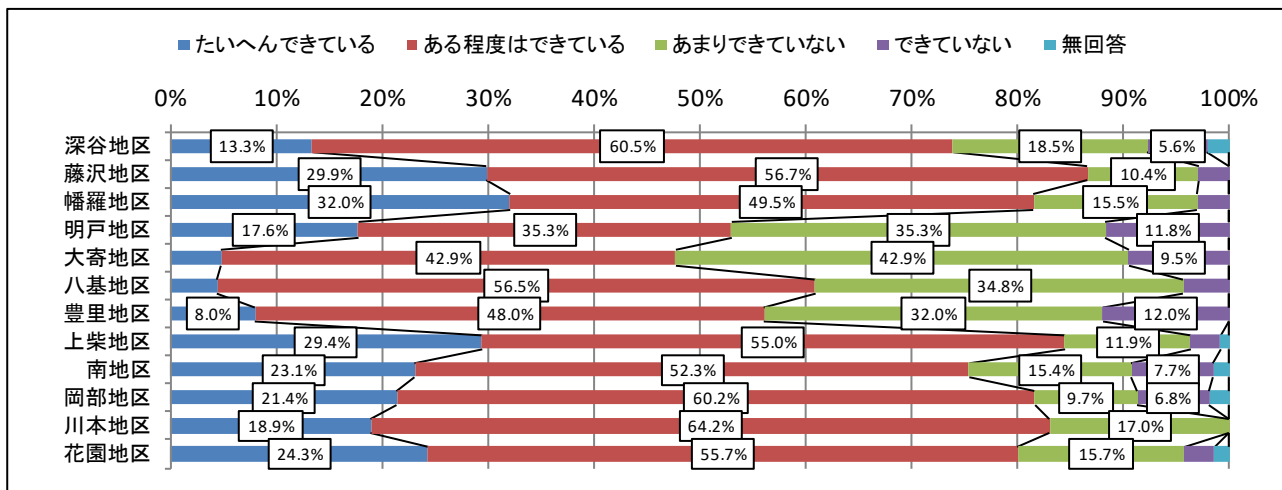
➤ 性別・年齢別



性別・年齢別にみると、「たいへんできている」または「ある程度はできている」と回答した人の割合の合計は、男性が 77.4%であるのに対して、女性は 77.6%となっています。

また、「たいへんできている」または「ある程度はできている」と回答した人の割合の合計が最も少ない年齢は、男性 10 歳代 (66.6%)、女性 70 歳以上 (70.1%) であり、一方で最も多い年齢は、男性 20 歳代 (94.5%)、女性 10 歳代 (100.0%) となっています。

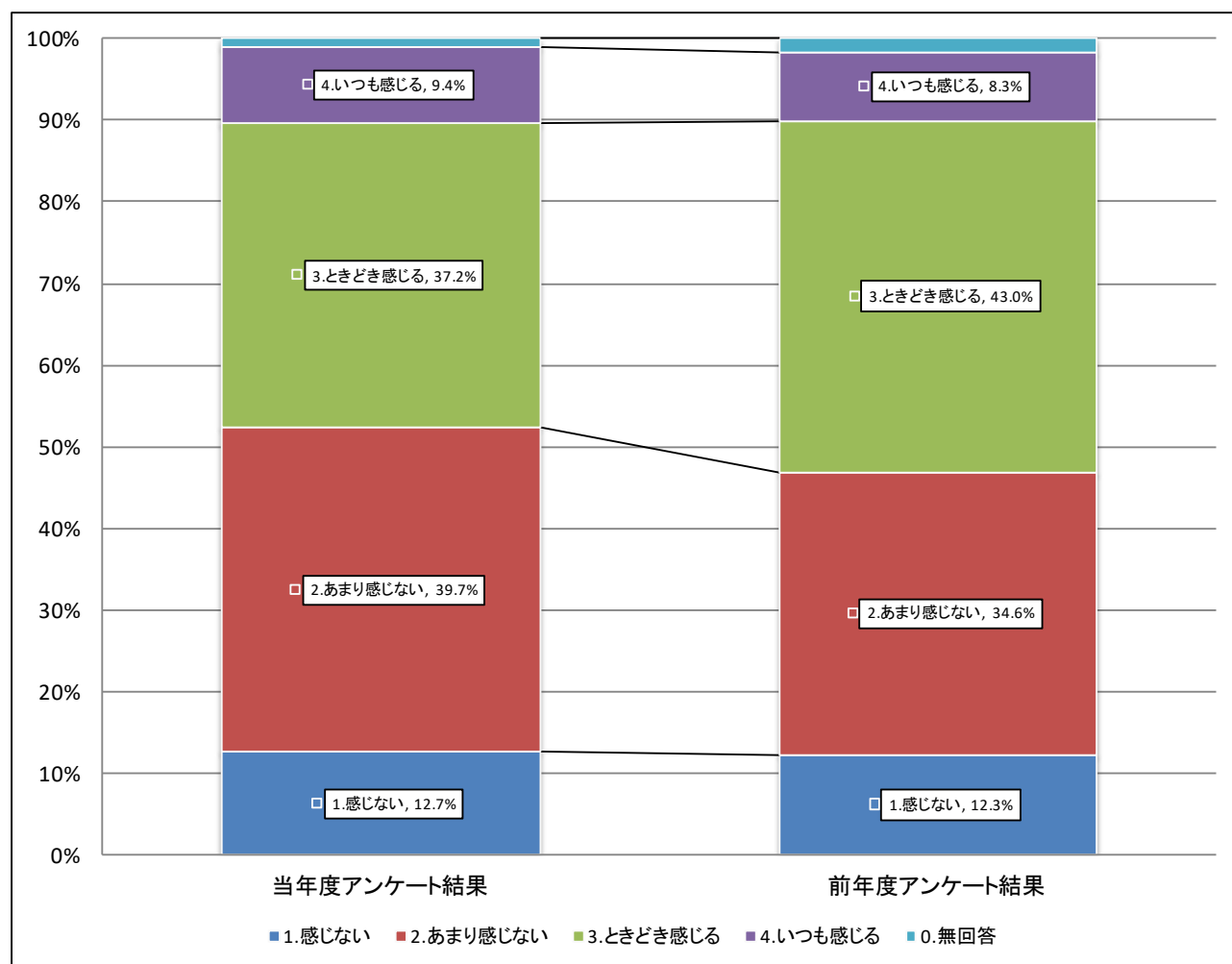
➤ 地区別



地区別にみると、「たいへんできている」または「ある程度はできている」と回答した人の割合の合計が最も少ない地区は、大寄地区 (47.7%) であり、次いで明戸地区 (52.9%) となっています。最も多い地区は、藤沢地区 (86.6%) であり、次いで上柴地区 (84.4%) となっています。

地区によって差があることがうかがえます。

市内の道路を普段利用する際に、特に不便を感じることはありませんか。



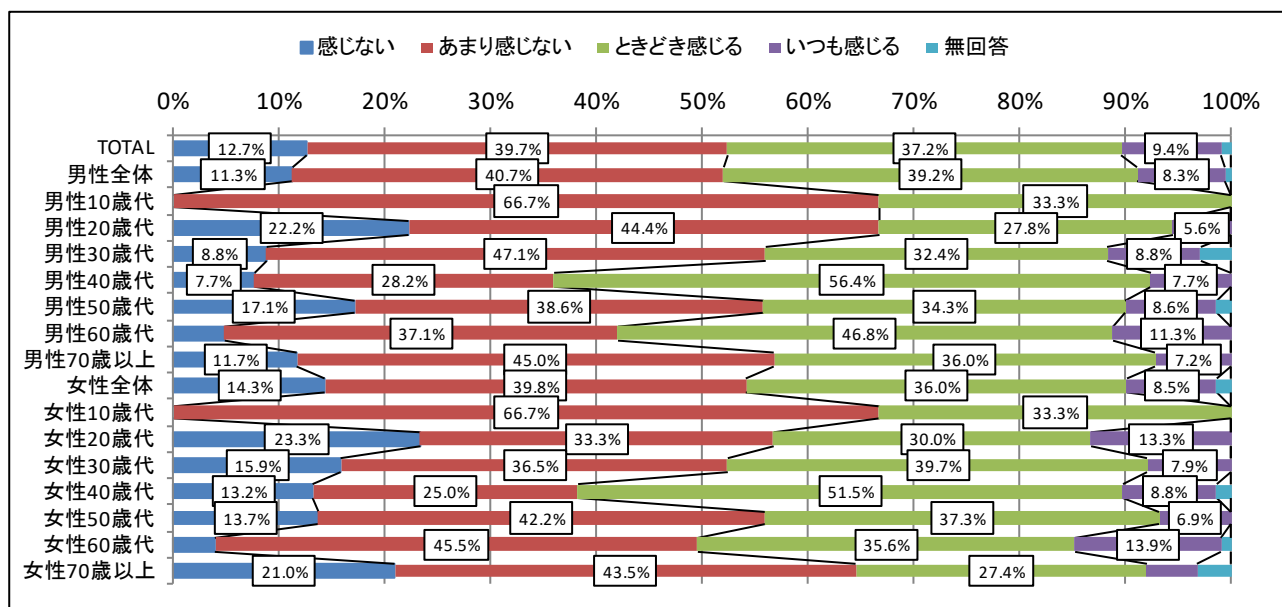
「あまり感じない」と回答した人の割合が 39.7%と最も多く、次いで「ときどき感じる」と回答した人の割合が 37.2%、「感じない」と回答した人の割合が 12.7%、「いつも感じる」と回答した人の割合が最も少なく 9.4%となっています。

「感じない」または「あまり感じない」と回答した人の割合の合計は 52.4%であり、5割以上の市民が市内の道路を普段利用する際に、不便を感じていないことがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「感じない」または「あまり感じない」と回答した人の割合の合計は 46.9%であり、「前年度アンケート」と比較して増加しています。

回答者数		感じない	あまり感じない	ときどき感じる	いつも感じる	無回答	合計
TOTAL	900	12.7%	39.7%	37.2%	9.4%	1.0%	100.0%
男性全体	337	11.3%	40.7%	39.2%	8.3%	0.6%	100.0%
男性10歳代	3	0.0%	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	100.0%
男性20歳代	18	22.2%	44.4%	27.8%	5.6%	0.0%	100.0%
男性30歳代	34	8.8%	47.1%	32.4%	8.8%	2.9%	100.0%
男性40歳代	39	7.7%	28.2%	56.4%	7.7%	0.0%	100.0%
男性50歳代	70	17.1%	38.6%	34.3%	8.6%	1.4%	100.0%
男性60歳代	62	4.8%	37.1%	46.8%	11.3%	0.0%	100.0%
男性70歳以上	111	11.7%	45.0%	36.0%	7.2%	0.0%	100.0%
男性年代不明	0	—	—	—	—	—	—
女性全体	495	14.3%	39.8%	36.0%	8.5%	1.4%	100.0%
女性10歳代	3	0.0%	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	100.0%
女性20歳代	30	23.3%	33.3%	30.0%	13.3%	0.0%	100.0%
女性30歳代	63	15.9%	36.5%	39.7%	7.9%	0.0%	100.0%
女性40歳代	68	13.2%	25.0%	51.5%	8.8%	1.5%	100.0%
女性50歳代	102	13.7%	42.2%	37.3%	6.9%	0.0%	100.0%
女性60歳代	101	4.0%	45.5%	35.6%	13.9%	1.0%	100.0%
女性70歳以上	124	21.0%	43.5%	27.4%	4.8%	3.2%	100.0%
女性年代不明	4	25.0%	50.0%	0.0%	0.0%	25.0%	100.0%
性別無回答	68	7.4%	33.8%	36.8%	22.1%	0.0%	100.0%
深谷地区	233	12.0%	36.5%	39.5%	11.2%	0.9%	100.0%
藤沢地区	67	10.4%	32.8%	49.3%	4.5%	3.0%	100.0%
幡羅地区	97	14.4%	37.1%	40.2%	8.2%	0.0%	100.0%
明戸地区	17	0.0%	41.2%	41.2%	11.8%	5.9%	100.0%
大寄地区	21	14.3%	33.3%	38.1%	14.3%	0.0%	100.0%
八基地区	23	8.7%	43.5%	43.5%	4.3%	0.0%	100.0%
豊里地区	25	12.0%	36.0%	36.0%	16.0%	0.0%	100.0%
上柴地区	109	11.0%	53.2%	30.3%	5.5%	0.0%	100.0%
南地区	65	13.8%	38.5%	40.0%	7.7%	0.0%	100.0%
岡部地区	103	16.5%	44.7%	26.2%	10.7%	1.9%	100.0%
川本地区	53	11.3%	35.8%	41.5%	11.3%	0.0%	100.0%
花園地区	70	17.1%	42.9%	32.9%	5.7%	1.4%	100.0%
無回答	17	5.9%	17.6%	35.3%	35.3%	5.9%	100.0%

➤ 性別・年齢別

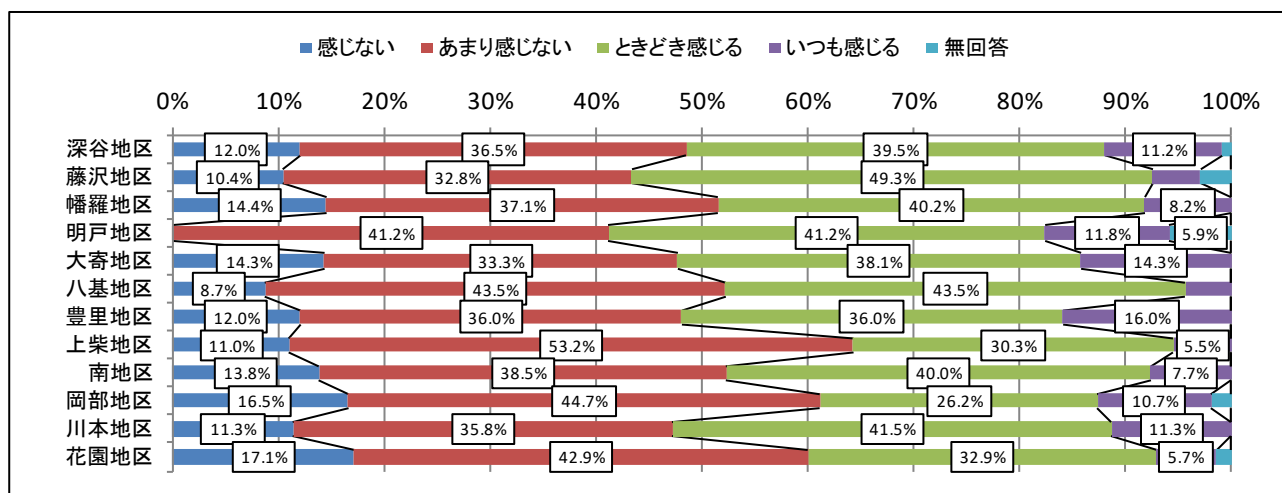


性別・年齢別にみると、「感じない」または「あまり感じない」と回答した人の割合の合計は、男性が52.0%であるのに対して、女性は54.1%となっています。

また、「感じない」または「あまり感じない」と回答した人の割合の合計が最も少ない年齢は、男性が40歳代（35.9%）、女性40歳代（38.2%）であり、一方で最も多い年齢は、男性10歳代（66.7%）、女性10歳代（66.7%）となっています。

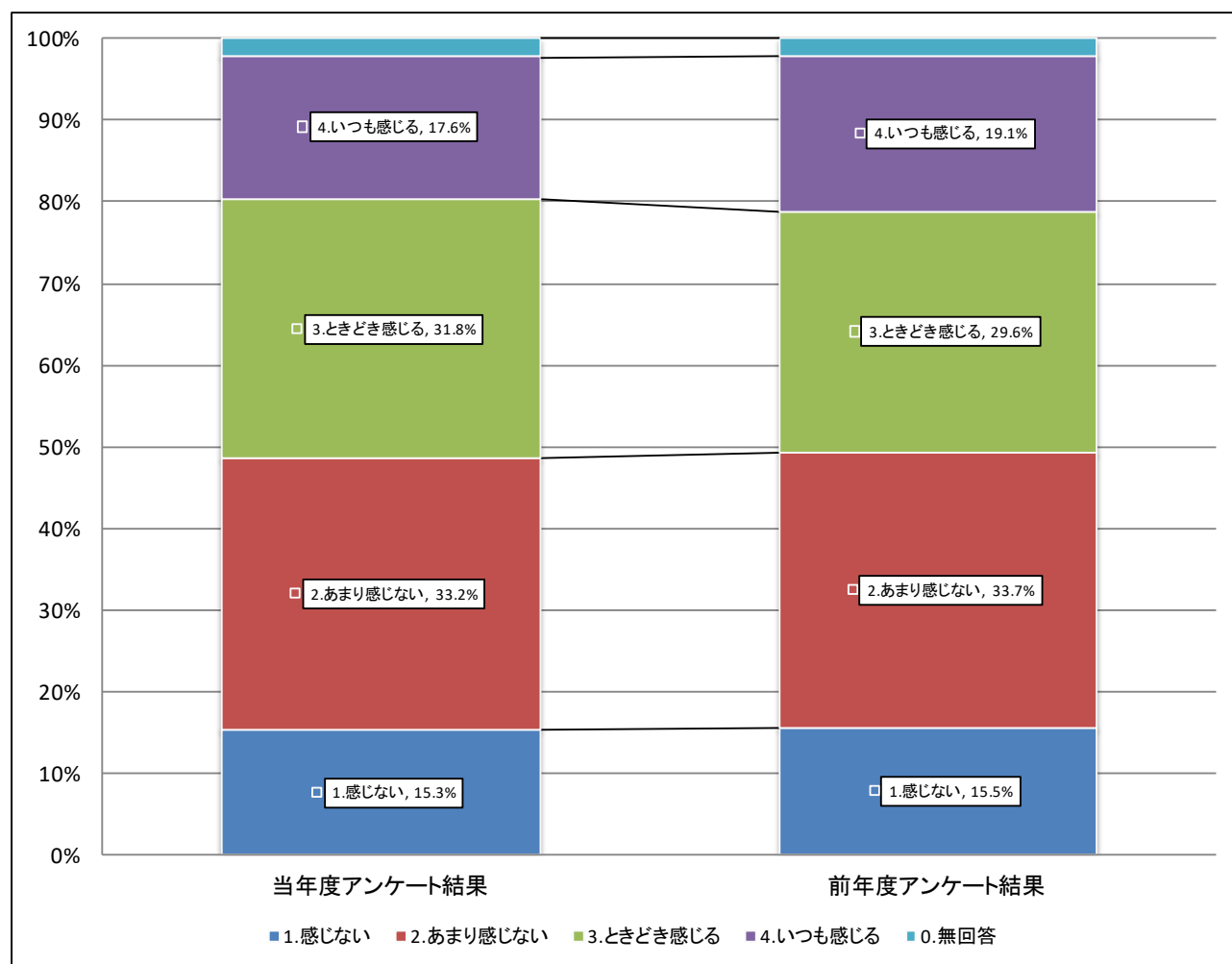
年齢によって差があることがうかがえます。

➤ 地区別



地区別にみると、「感じない」または「あまり感じない」と回答した人の割合の合計が最も少ない地区は、明戸地区（41.2%）であり、次いで藤沢地区（43.2%）となっています。最も多い地区は、上柴地区（64.2%）であり、次いで岡部地区（61.2%）となっています。

市内の公共交通機関の利便性（時間・本数・路線・サービス）に不便を感じていますか。



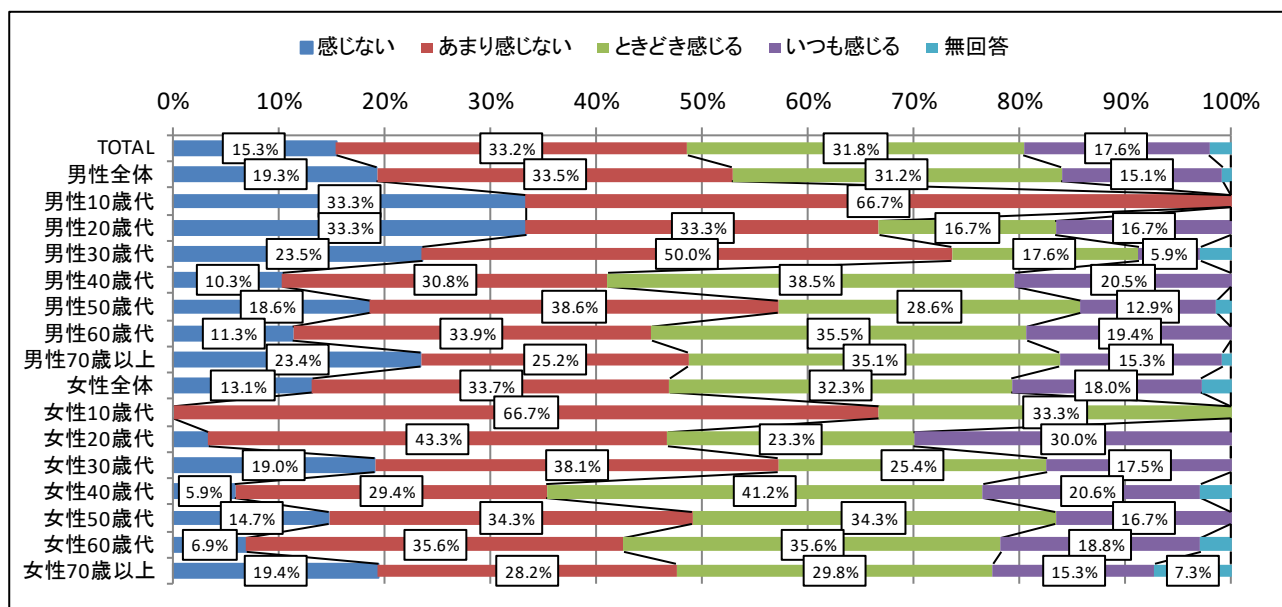
「あまり感じない」と回答した人の割合が 33.2%と最も多く、次いで「ときどき感じる」と回答した人の割合が 31.8%、「いつも感じる」と回答した人の割合が 17.6%、「感じない」と回答した人の割合が最も少なく 15.3%となっています。

「感じない」または「あまり感じない」と回答した人の割合の合計は 48.5%であり、市内の公共交通機関の利便性に不便を感じていない市民は、5 割未満という状況がうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「感じない」または「あまり感じない」と回答した人の割合の合計は 49.2%であり、「前年度アンケート」と比較してほぼ変化はありませんでした。

回答者数		感じない	あまり感じない	ときどき感じる	いつも感じる	無回答	合計
TOTAL	900	15.3%	33.2%	31.8%	17.6%	2.1%	100.0%
男性全体	337	19.3%	33.5%	31.2%	15.1%	0.9%	100.0%
男性10歳代	3	33.3%	66.7%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
男性20歳代	18	33.3%	33.3%	16.7%	16.7%	0.0%	100.0%
男性30歳代	34	23.5%	50.0%	17.6%	5.9%	2.9%	100.0%
男性40歳代	39	10.3%	30.8%	38.5%	20.5%	0.0%	100.0%
男性50歳代	70	18.6%	38.6%	28.6%	12.9%	1.4%	100.0%
男性60歳代	62	11.3%	33.9%	35.5%	19.4%	0.0%	100.0%
男性70歳以上	111	23.4%	25.2%	35.1%	15.3%	0.9%	100.0%
男性年代不明	0	—	—	—	—	—	—
女性全体	495	13.1%	33.7%	32.3%	18.0%	2.8%	100.0%
女性10歳代	3	0.0%	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	100.0%
女性20歳代	30	3.3%	43.3%	23.3%	30.0%	0.0%	100.0%
女性30歳代	63	19.0%	38.1%	25.4%	17.5%	0.0%	100.0%
女性40歳代	68	5.9%	29.4%	41.2%	20.6%	2.9%	100.0%
女性50歳代	102	14.7%	34.3%	34.3%	16.7%	0.0%	100.0%
女性60歳代	101	6.9%	35.6%	35.6%	18.8%	3.0%	100.0%
女性70歳以上	124	19.4%	28.2%	29.8%	15.3%	7.3%	100.0%
女性年代不明	4	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
性別無回答	68	11.8%	27.9%	30.9%	26.5%	2.9%	100.0%
深谷地区	233	15.9%	36.9%	27.9%	16.3%	3.0%	100.0%
藤沢地区	67	13.4%	29.9%	37.3%	19.4%	0.0%	100.0%
幡羅地区	97	13.4%	41.2%	34.0%	10.3%	1.0%	100.0%
明戸地区	17	0.0%	17.6%	52.9%	29.4%	0.0%	100.0%
大寄地区	21	9.5%	33.3%	33.3%	23.8%	0.0%	100.0%
八基地区	23	13.0%	34.8%	39.1%	8.7%	4.3%	100.0%
豊里地区	25	20.0%	20.0%	20.0%	32.0%	8.0%	100.0%
上柴地区	109	16.5%	38.5%	30.3%	13.8%	0.9%	100.0%
南地区	65	20.0%	30.8%	33.8%	12.3%	3.1%	100.0%
岡部地区	103	21.4%	28.2%	26.2%	21.4%	2.9%	100.0%
川本地区	53	11.3%	26.4%	32.1%	30.2%	0.0%	100.0%
花園地区	70	11.4%	31.4%	35.7%	18.6%	2.9%	100.0%
無回答	17	11.8%	17.6%	52.9%	17.6%	0.0%	100.0%

➤ 性別・年齢別

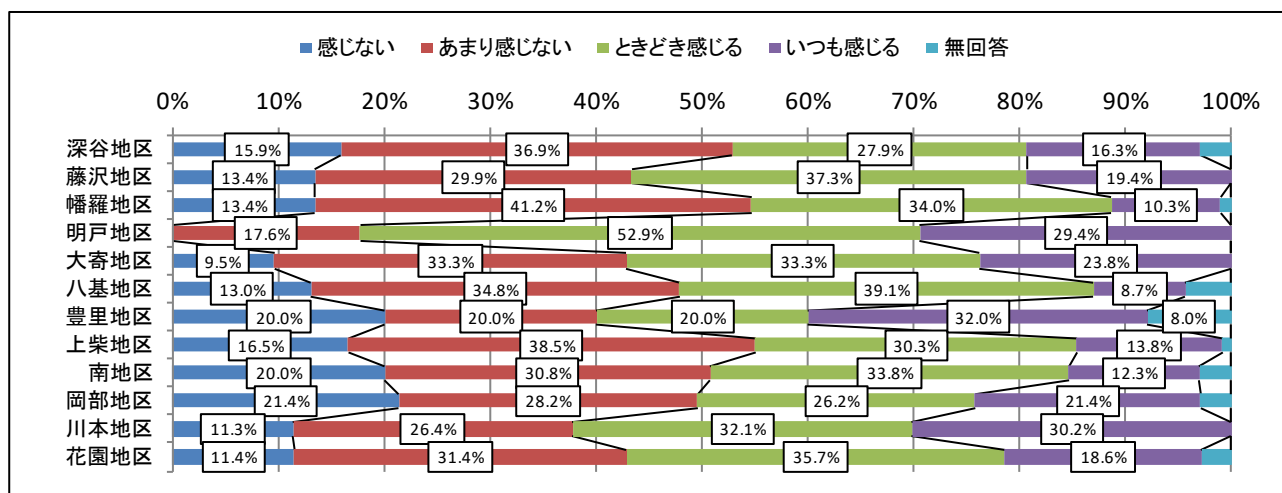


性別・年齢別にみると、「感じない」または「あまり感じない」と回答した人の割合の合計は、男性が52.8%であるのに対して、女性は46.8%となっています。

また、「感じない」または「あまり感じない」と回答した人の割合の合計が最も少ない年齢は、男性40歳代（41.1%）、女性40歳代（35.3%）であり、一方で最も多い年齢は、男性10歳代（100.0%）、女性10歳代（66.7%）となっています。

年齢によって差があることがうかがえます。

➤ 地区別



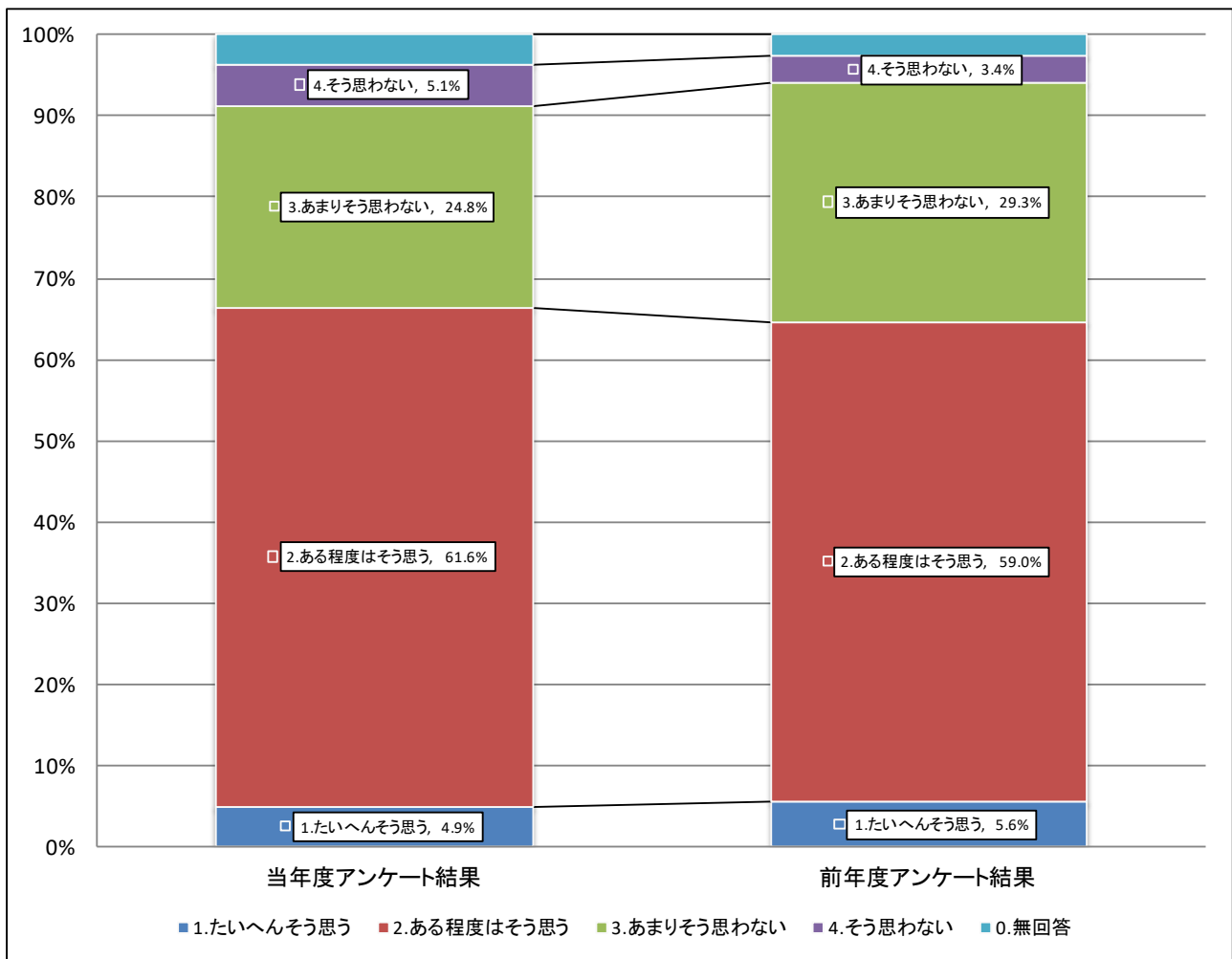
地区別にみると、「感じない」または「あまり感じない」と回答した人の割合の合計が最も少ない地区は、明戸地区（17.6%）であり、次いで川本地区（37.7%）となっています。最も多い地区は、上柴地区（55.0%）であり、次いで幡羅地区（54.6%）となっています。

地区によって差があることがうかがえます。

(7) 協働・行政経営について

① 人権を尊重する社会づくり (7. 問1～4)

深谷市が人権と個性の尊重されているまちであると思いますか。



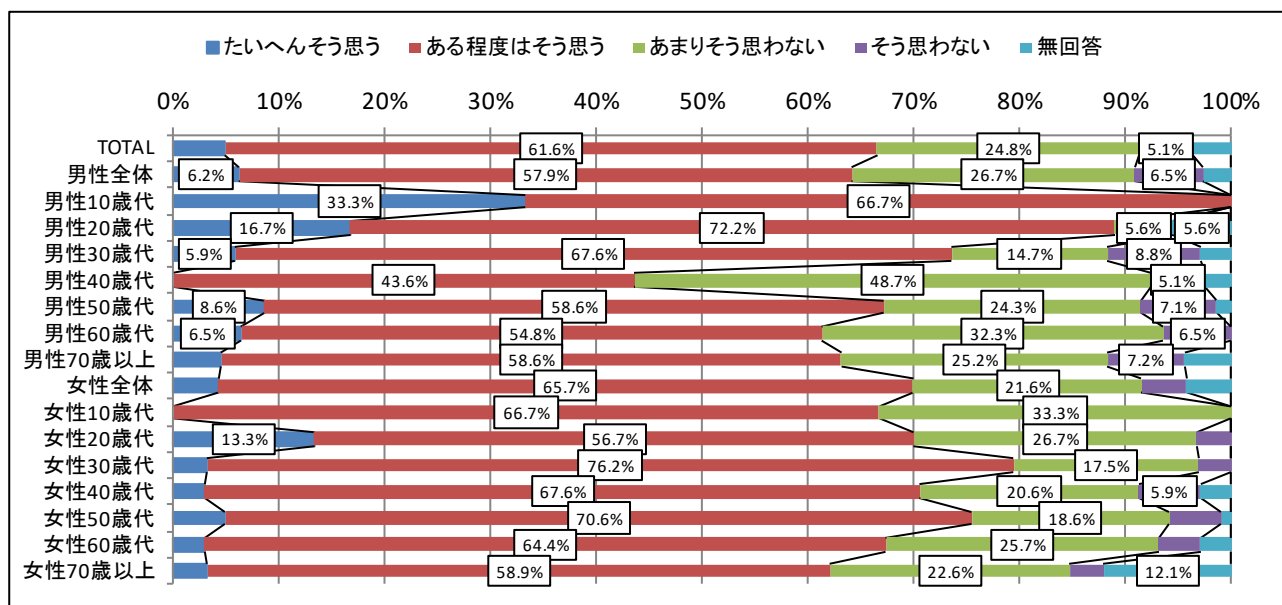
「ある程度はそう思う」と回答した人の割合が 61.6%と最も多く、次いで「あまりそう思わない」と回答した人の割合が 24.8%、「そう思わない」と回答した人の割合が 5.1%、「たいへんそう思う」と回答した人の割合が最も少なく 4.9%となっています。

「たいへんそう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合の合計は 66.5%であり、7 割近くの市民が深谷市は人権と個性の尊重されているまちであると感じていることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「たいへんそう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合の合計は 64.6%であり、「前年度アンケート」と比較してわずかに増加しています。

回答者数		たいへん そう思う	ある 程度は そう思う	あまり そう 思わない	そう 思わない	無 回答	合 計
TOTAL	900	4.9%	61.6%	24.8%	5.1%	3.7%	100.0%
男性全体	337	6.2%	57.9%	26.7%	6.5%	2.7%	100.0%
男性10歳代	3	33.3%	66.7%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
男性20歳代	18	16.7%	72.2%	5.6%	0.0%	5.6%	100.0%
男性30歳代	34	5.9%	67.6%	14.7%	8.8%	2.9%	100.0%
男性40歳代	39	0.0%	43.6%	48.7%	5.1%	2.6%	100.0%
男性50歳代	70	8.6%	58.6%	24.3%	7.1%	1.4%	100.0%
男性60歳代	62	6.5%	54.8%	32.3%	6.5%	0.0%	100.0%
男性70歳以上	111	4.5%	58.6%	25.2%	7.2%	4.5%	100.0%
男性年代不明	0	—	—	—	—	—	—
女性全体	495	4.2%	65.7%	21.6%	4.2%	4.2%	100.0%
女性10歳代	3	0.0%	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	100.0%
女性20歳代	30	13.3%	56.7%	26.7%	3.3%	0.0%	100.0%
女性30歳代	63	3.2%	76.2%	17.5%	3.2%	0.0%	100.0%
女性40歳代	68	2.9%	67.6%	20.6%	5.9%	2.9%	100.0%
女性50歳代	102	4.9%	70.6%	18.6%	4.9%	1.0%	100.0%
女性60歳代	101	3.0%	64.4%	25.7%	4.0%	3.0%	100.0%
女性70歳以上	124	3.2%	58.9%	22.6%	3.2%	12.1%	100.0%
女性年代不明	4	25.0%	50.0%	0.0%	25.0%	0.0%	100.0%
性別無回答	68	2.9%	50.0%	38.2%	4.4%	4.4%	100.0%
深谷地区	233	5.6%	62.7%	23.6%	4.7%	3.4%	100.0%
藤沢地区	67	3.0%	62.7%	34.3%	0.0%	0.0%	100.0%
幡羅地区	97	4.1%	69.1%	18.6%	6.2%	2.1%	100.0%
明戸地区	17	11.8%	41.2%	29.4%	11.8%	5.9%	100.0%
大寄地区	21	4.8%	71.4%	23.8%	0.0%	0.0%	100.0%
八基地区	23	4.3%	69.6%	17.4%	8.7%	0.0%	100.0%
豊里地区	25	20.0%	44.0%	16.0%	8.0%	12.0%	100.0%
上柴地区	109	3.7%	64.2%	23.9%	2.8%	5.5%	100.0%
南地区	65	4.6%	63.1%	23.1%	4.6%	4.6%	100.0%
岡部地区	103	3.9%	56.3%	26.2%	7.8%	5.8%	100.0%
川本地区	53	0.0%	60.4%	34.0%	5.7%	0.0%	100.0%
花園地区	70	7.1%	58.6%	25.7%	2.9%	5.7%	100.0%
無回答	17	0.0%	47.1%	29.4%	23.5%	0.0%	100.0%

➤ 性別・年齢別

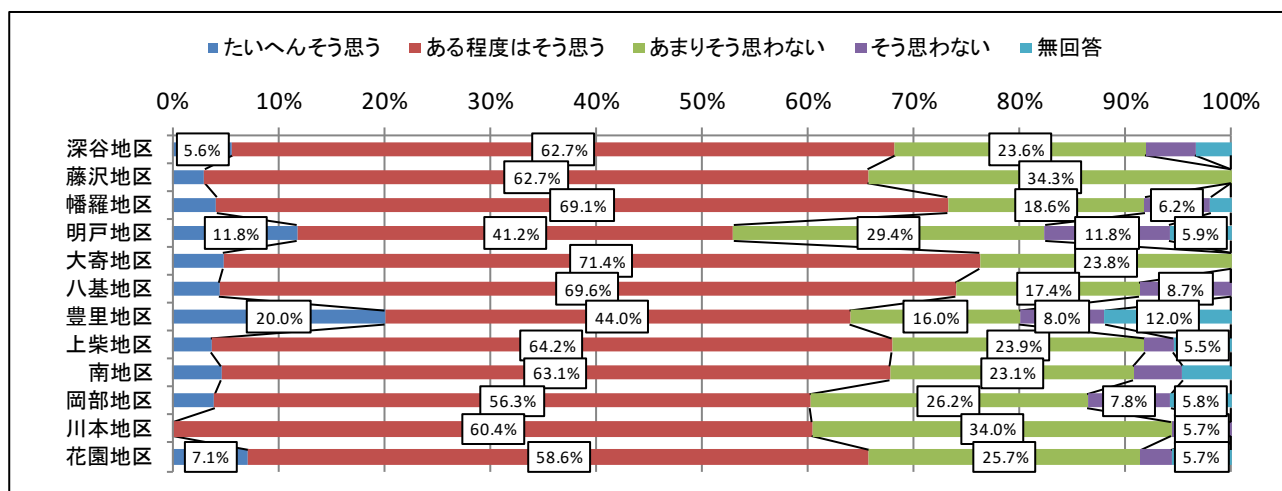


性別・年齢別にみると、「たいへんそう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合の合計は、男性が64.1%であるのに対して、女性は69.9%となっています。

また、「たいへんそう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合の合計が最も少ない年齢は、男性40歳代（43.6%）、女性70歳以上（62.1%）であり、一方で最も多い年齢は、男性10歳代（100.0%）、女性30歳代（79.4%）となっています。

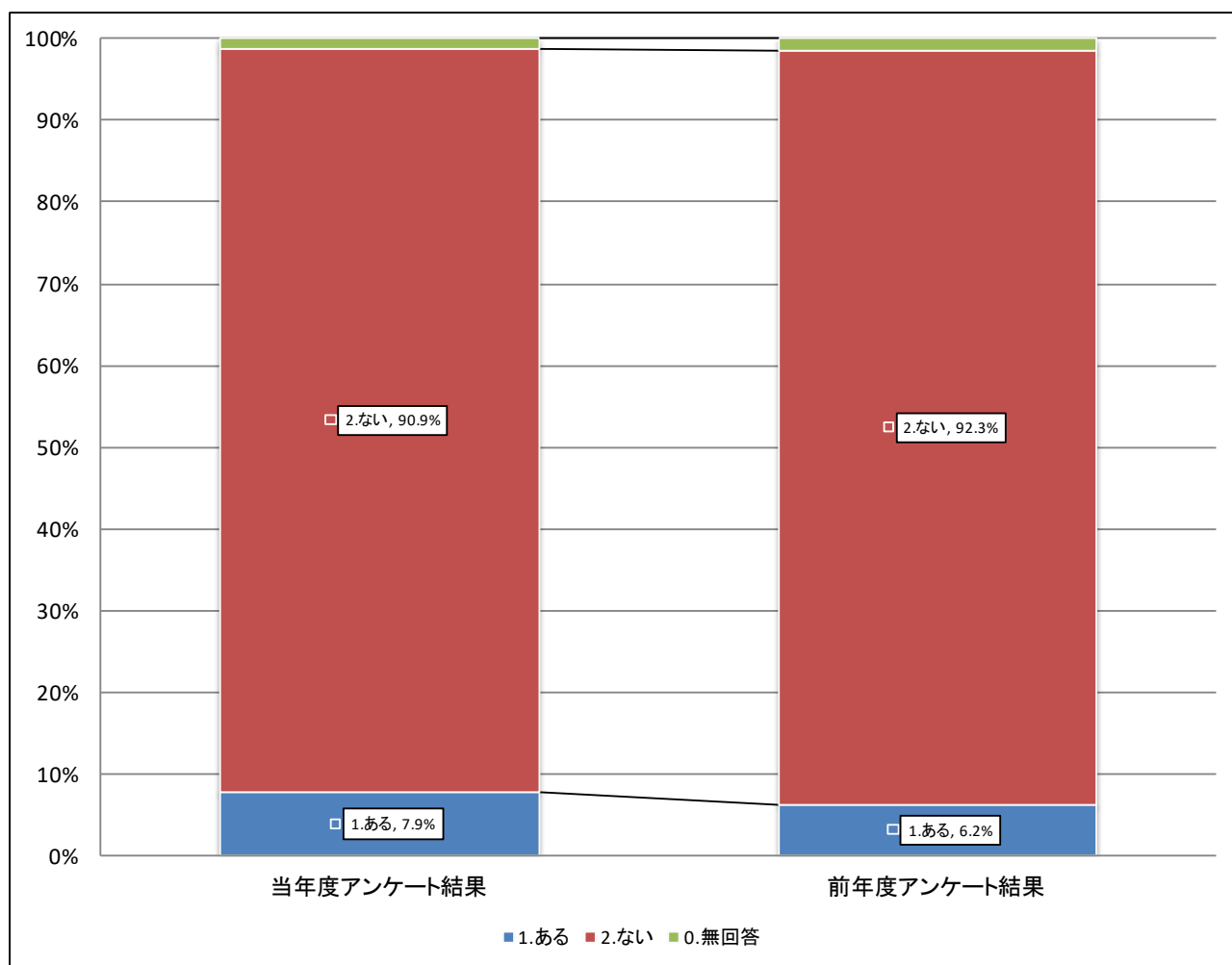
男性は年齢によって差があることがうかがえます。

➤ 地区別



地区別にみると、「たいへんそう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合の合計が最も少ない地区は、明戸地区（53.0%）であり、次いで岡部地区（60.2%）となっています。最も多い地区は、大寄地区（76.2%）であり、次いで八基地区（73.9%）となっています。

この１年間に自分の人権が侵害されたと思ったことはありますか。



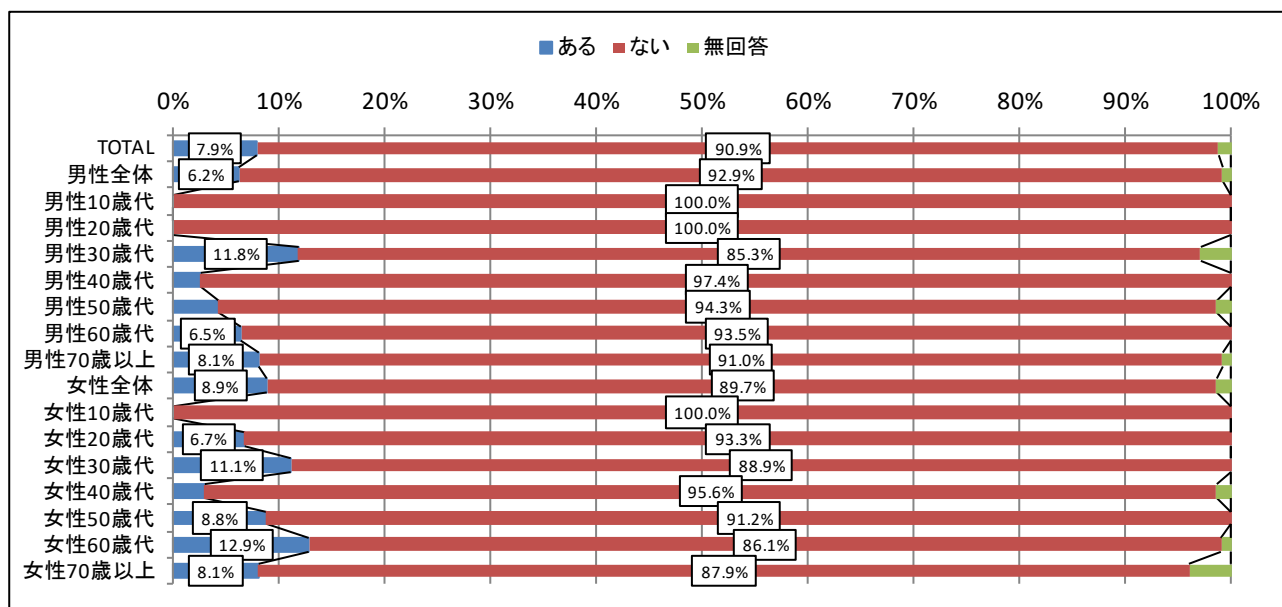
「ある」と回答した人の割合が 7.9%、「ない」と回答した人の割合が 90.9%となっています。

ほとんどの市民が、この１年間に自分の人権が侵害されたと思ったことは「ない」と回答している一方、侵害されたと思ったことが「ある」市民が１割近くいることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「ある」と回答した人の割合は 6.2%であり、「前年度アンケート」と比較して増加しています。

回答者数		ある	ない	無回答	合計
TOTAL	900	7.9%	90.9%	1.2%	100.0%
男性全体	337	6.2%	92.9%	0.9%	100.0%
男性10歳代	3	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
男性20歳代	18	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
男性30歳代	34	11.8%	85.3%	2.9%	100.0%
男性40歳代	39	2.6%	97.4%	0.0%	100.0%
男性50歳代	70	4.3%	94.3%	1.4%	100.0%
男性60歳代	62	6.5%	93.5%	0.0%	100.0%
男性70歳以上	111	8.1%	91.0%	0.9%	100.0%
男性年代不明	0	—	—	—	—
女性全体	495	8.9%	89.7%	1.4%	100.0%
女性10歳代	3	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
女性20歳代	30	6.7%	93.3%	0.0%	100.0%
女性30歳代	63	11.1%	88.9%	0.0%	100.0%
女性40歳代	68	2.9%	95.6%	1.5%	100.0%
女性50歳代	102	8.8%	91.2%	0.0%	100.0%
女性60歳代	101	12.9%	86.1%	1.0%	100.0%
女性70歳以上	124	8.1%	87.9%	4.0%	100.0%
女性年代不明	4	25.0%	75.0%	0.0%	100.0%
性別無回答	68	8.8%	89.7%	1.5%	100.0%
深谷地区	233	9.4%	89.7%	0.9%	100.0%
藤沢地区	67	7.5%	92.5%	0.0%	100.0%
幡羅地区	97	4.1%	94.8%	1.0%	100.0%
明戸地区	17	0.0%	94.1%	5.9%	100.0%
大寄地区	21	4.8%	95.2%	0.0%	100.0%
八基地区	23	17.4%	82.6%	0.0%	100.0%
豊里地区	25	4.0%	96.0%	0.0%	100.0%
上柴地区	109	9.2%	90.8%	0.0%	100.0%
南地区	65	12.3%	86.2%	1.5%	100.0%
岡部地区	103	7.8%	88.3%	3.9%	100.0%
川本地区	53	3.8%	96.2%	0.0%	100.0%
花園地区	70	4.3%	92.9%	2.9%	100.0%
無回答	17	17.6%	82.4%	0.0%	100.0%

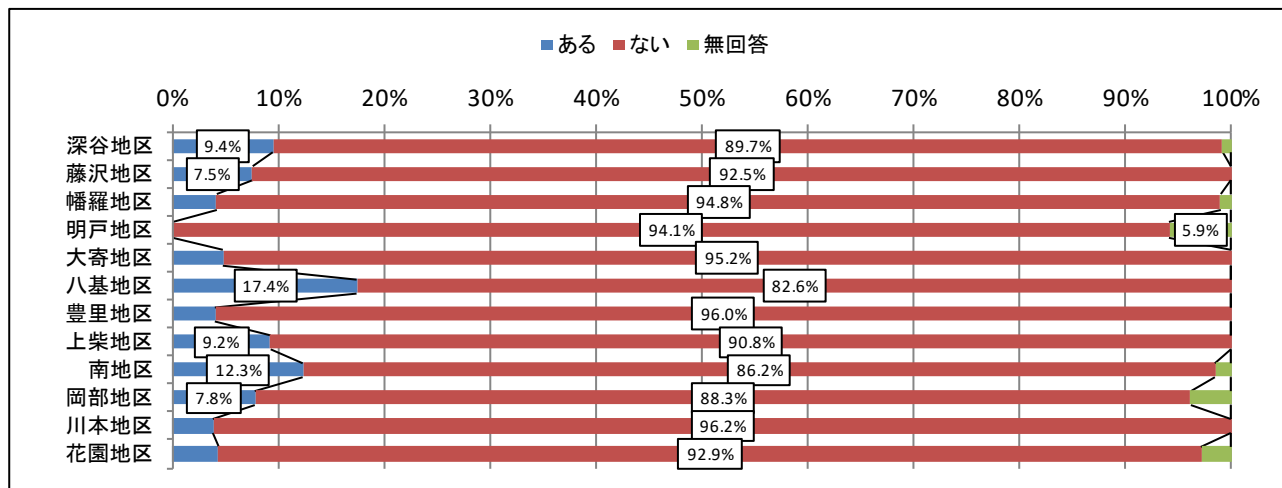
➤ 性別・年齢別



性別・年齢別にみると、「ある」と回答した人の割合は、男性が 6.2%であるのに対して、女性は 8.9%となっています。

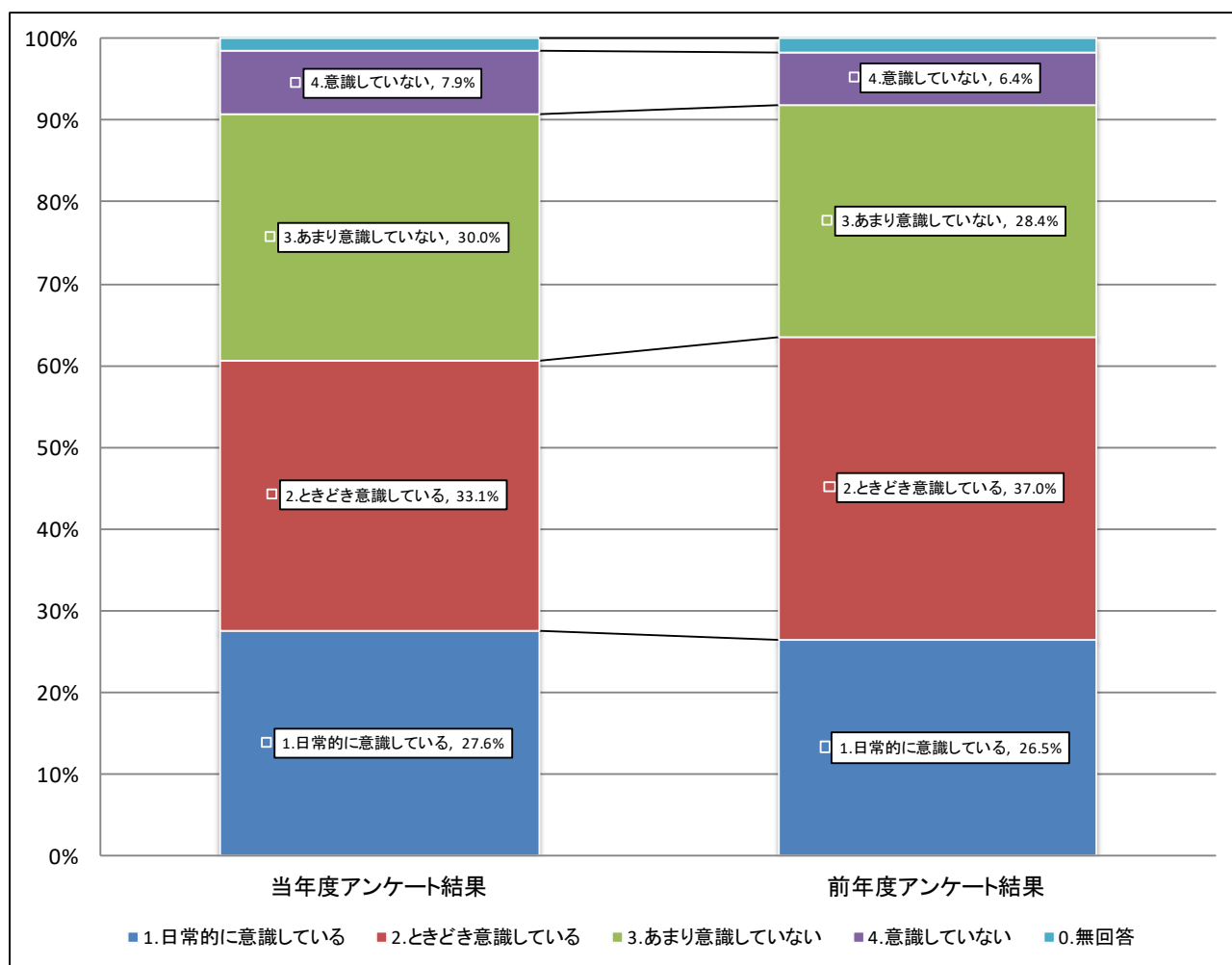
また、「ある」と回答した人の割合が最も少ない年齢は、男性 10 歳代・20 歳代ともに (0.0%)、女性 10 歳代 (0.0%) であり、一方で最も多い年齢は、男性 30 歳代 (11.8%)、女性 60 歳代 (12.9%) となっています。

➤ 地区別



地区別にみると、「ある」と回答した人の割合が最も少ない地区は、明戸地区 (0.0%) であり、次いで川本地区 (3.8%) となっています。最も多い地区は、八基地区 (17.4%) であり、次いで南地区 (12.3%) となっています。

お互いの人権について意識をして生活をしていますか。



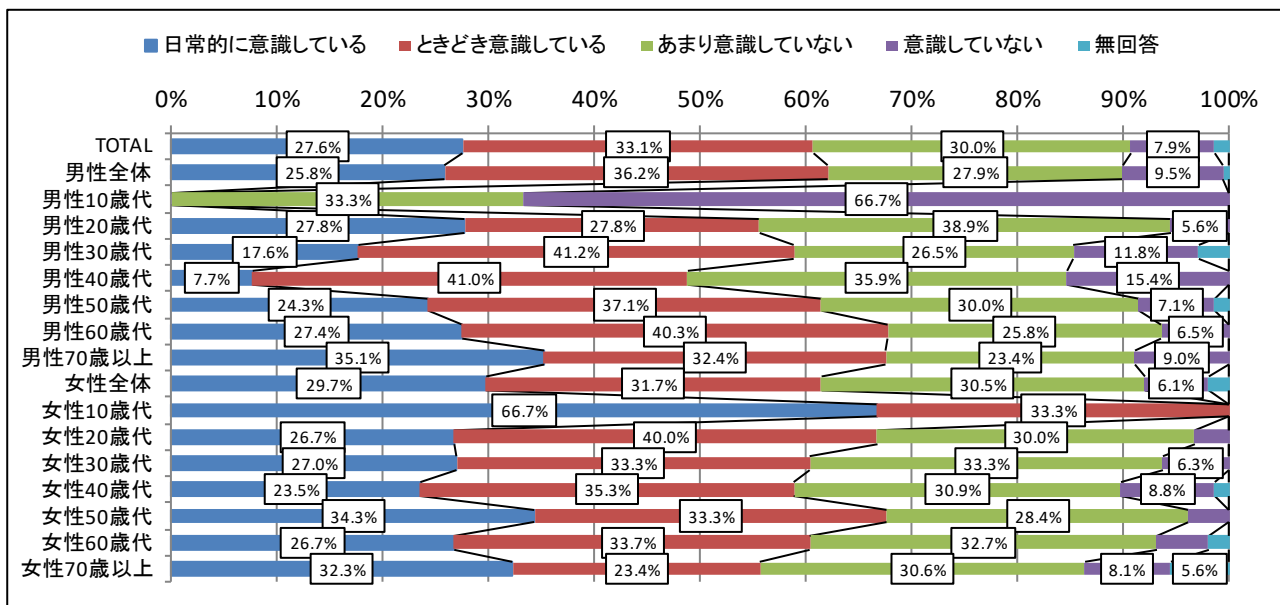
「ときどき意識している」と回答した人の割合が 33.1%と最も多く、次いで「あまり意識していない」と回答した人の割合が 30.0%、「日常的に意識している」と回答した人の割合が 27.6%、「意識していない」と回答した人の割合が最も少なく 7.9%となっています。

「日常的に意識している」または「ときどき意識している」と回答した人の割合の合計は 60.7%であり、6 割の市民がお互いの人権について意識をして生活をしていることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「日常的に意識している」または「ときどき意識している」と回答した人の割合の合計は 63.5%であり、「前年度アンケート」と比較してわずかに減少しています。

回答者数		日常的に意識している	ときどき意識している	あまり意識していない	意識していない	無回答	合計
TOTAL	900	27.6%	33.1%	30.0%	7.9%	1.4%	100.0%
男性全体	337	25.8%	36.2%	27.9%	9.5%	0.6%	100.0%
男性10歳代	3	0.0%	0.0%	33.3%	66.7%	0.0%	100.0%
男性20歳代	18	27.8%	27.8%	38.9%	5.6%	0.0%	100.0%
男性30歳代	34	17.6%	41.2%	26.5%	11.8%	2.9%	100.0%
男性40歳代	39	7.7%	41.0%	35.9%	15.4%	0.0%	100.0%
男性50歳代	70	24.3%	37.1%	30.0%	7.1%	1.4%	100.0%
男性60歳代	62	27.4%	40.3%	25.8%	6.5%	0.0%	100.0%
男性70歳以上	111	35.1%	32.4%	23.4%	9.0%	0.0%	100.0%
男性年代不明	0	—	—	—	—	—	—
女性全体	495	29.7%	31.7%	30.5%	6.1%	2.0%	100.0%
女性10歳代	3	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性20歳代	30	26.7%	40.0%	30.0%	3.3%	0.0%	100.0%
女性30歳代	63	27.0%	33.3%	33.3%	6.3%	0.0%	100.0%
女性40歳代	68	23.5%	35.3%	30.9%	8.8%	1.5%	100.0%
女性50歳代	102	34.3%	33.3%	28.4%	3.9%	0.0%	100.0%
女性60歳代	101	26.7%	33.7%	32.7%	5.0%	2.0%	100.0%
女性70歳以上	124	32.3%	23.4%	30.6%	8.1%	5.6%	100.0%
女性年代不明	4	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
性別無回答	68	20.6%	27.9%	36.8%	13.2%	1.5%	100.0%
深谷地区	233	24.5%	31.8%	32.2%	9.9%	1.7%	100.0%
藤沢地区	67	26.9%	41.8%	26.9%	4.5%	0.0%	100.0%
幡羅地区	97	29.9%	35.1%	27.8%	6.2%	1.0%	100.0%
明戸地区	17	35.3%	35.3%	17.6%	5.9%	5.9%	100.0%
大寄地区	21	23.8%	28.6%	28.6%	19.0%	0.0%	100.0%
八基地区	23	26.1%	47.8%	21.7%	0.0%	4.3%	100.0%
豊里地区	25	20.0%	24.0%	48.0%	8.0%	0.0%	100.0%
上柴地区	109	36.7%	24.8%	27.5%	9.2%	1.8%	100.0%
南地区	65	26.2%	38.5%	29.2%	6.2%	0.0%	100.0%
岡部地区	103	28.2%	28.2%	35.0%	5.8%	2.9%	100.0%
川本地区	53	20.8%	45.3%	26.4%	7.5%	0.0%	100.0%
花園地区	70	30.0%	32.9%	28.6%	7.1%	1.4%	100.0%
無回答	17	23.5%	29.4%	29.4%	17.6%	0.0%	100.0%

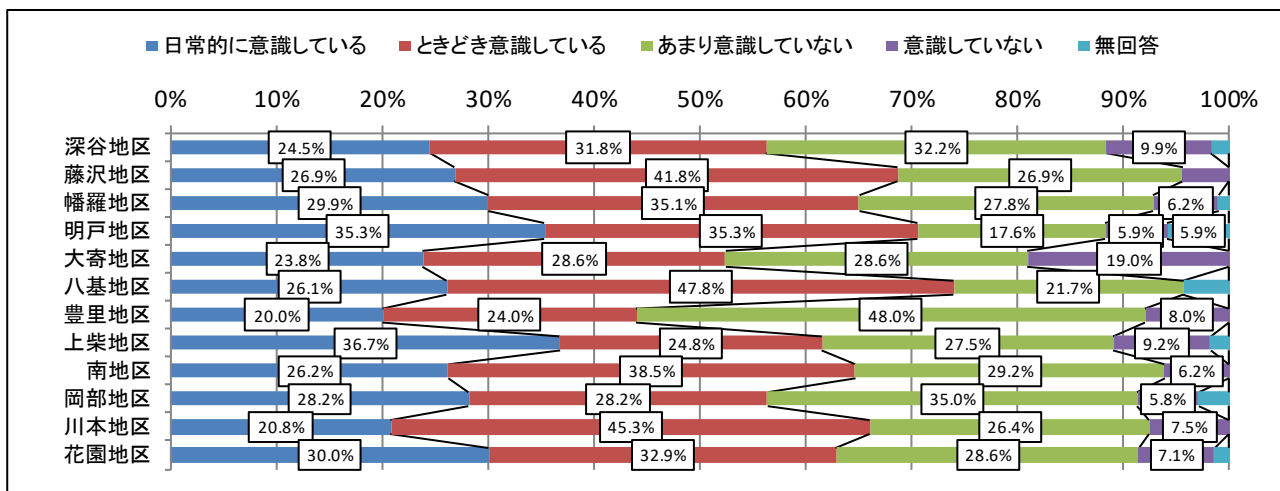
➤ 性別・年齢別



性別・年齢別にみると、「日常的に意識している」または「ときどき意識している」と回答した人の割合の合計は、男性が 62.0%であるのに対して、女性は 61.4%となっています。

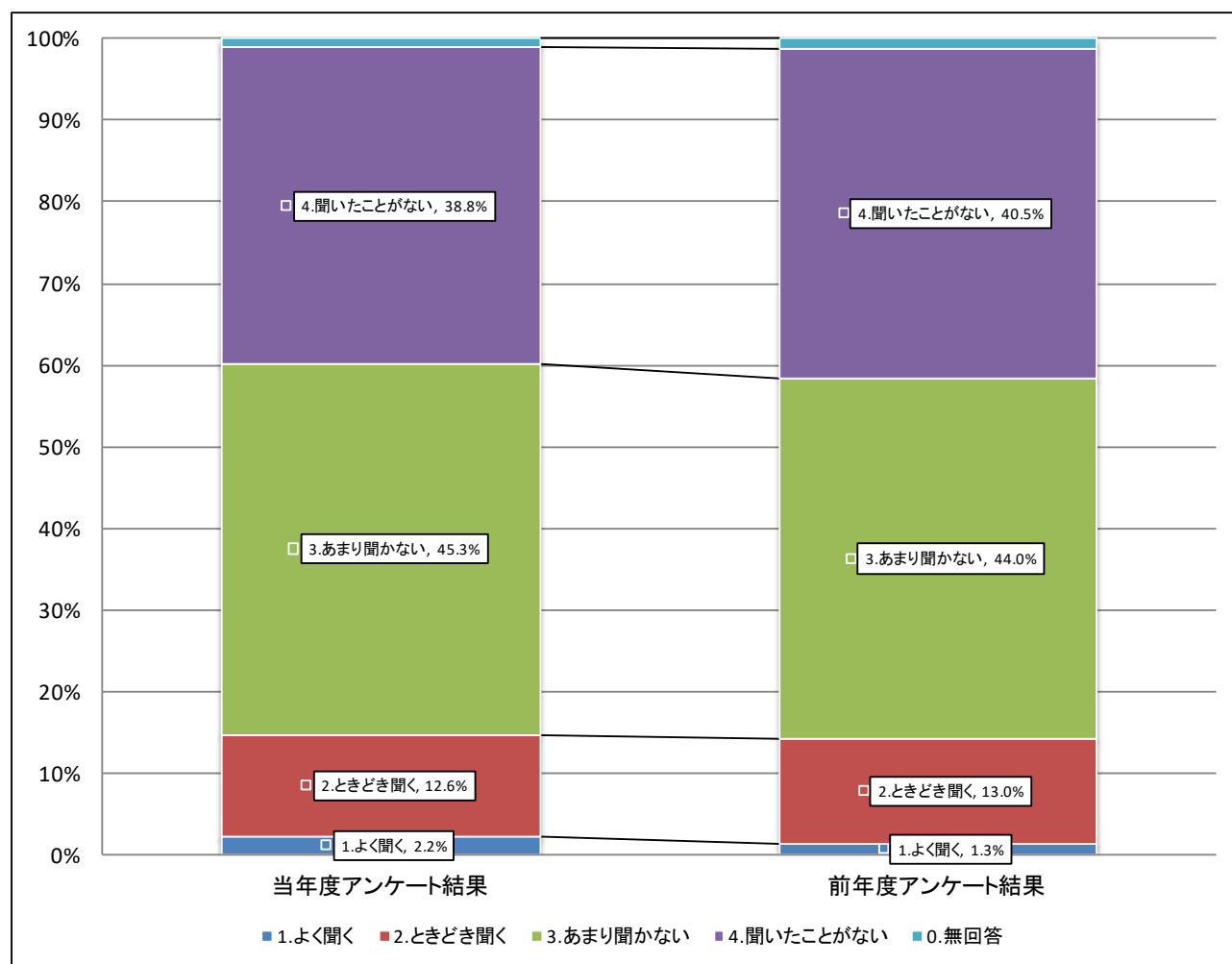
また、「日常的に意識している」または「ときどき意識している」と回答した人の割合の合計が最も少ない年齢は、男性 10 歳代 (0.0%)、女性 70 歳以上 (55.7%) であり、一方で最も多い年齢は、男性 60 歳代 (67.7%)、女性 10 歳代 (100.0%) となっています。

➤ 地区別



地区別にみると、「日常的に意識している」または「ときどき意識している」と回答した人の割合の合計が最も少ない地区は、豊里地区 (44.0%) であり、次いで大寄地区 (52.4%) となっています。最も多い地区は、八基地区 (73.9%) であり、次に明戸地区 (70.6%) となっています。

市内で、外国人とのトラブルなどを聞いたことはありますか。



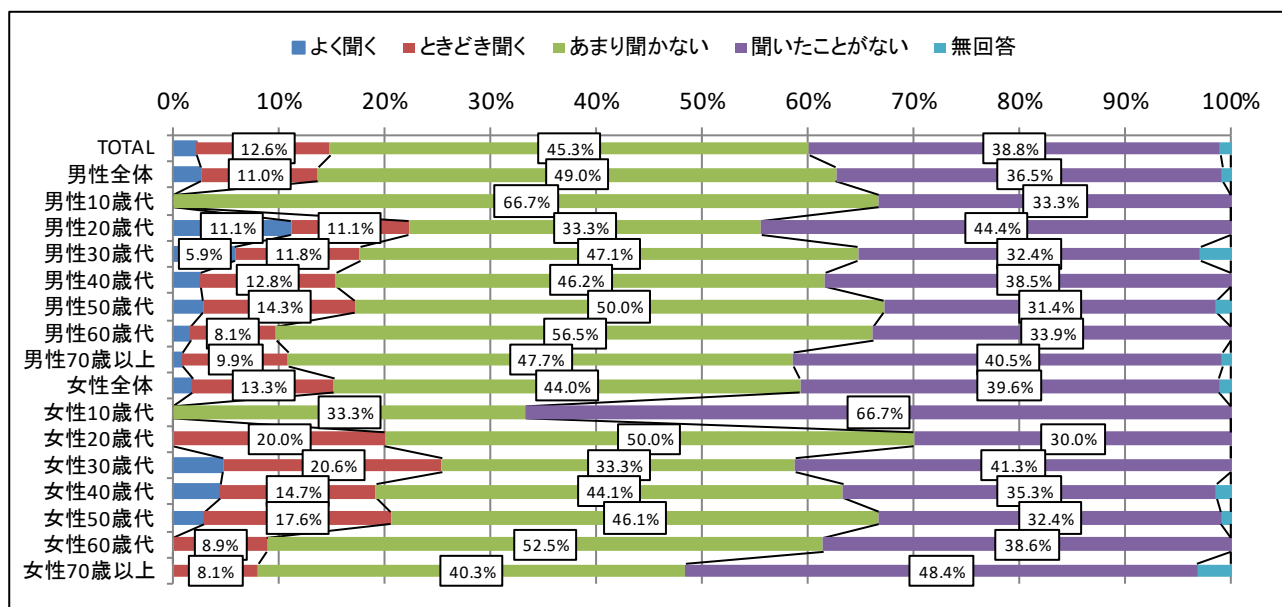
「あまり聞かない」と回答した人の割合が 45.3%と最も多く、次いで「聞いたことがない」と回答した人の割合が 38.8%、「ときどき聞く」と回答した人の割合が 12.6%、「よく聞く」と回答した人の割合が最も少なく 2.2%となっています。

「よく聞く」または「ときどき聞く」と回答した人の割合の合計は 14.8%であり、市内で、外国人とのトラブルなどを聞いたことがある市民は1割以上いることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「よく聞く」または「ときどき聞く」と回答した人の割合の合計は 14.3%であり、「前年度アンケート」と比較してほぼ変化はありませんでした。

回答者数		よく聞く	ときどき聞く	あまり聞かない	聞いたことがない	無回答	合計
TOTAL	900	2.2%	12.6%	45.3%	38.8%	1.1%	100.0%
男性全体	337	2.7%	11.0%	49.0%	36.5%	0.9%	100.0%
男性10歳代	3	0.0%	0.0%	66.7%	33.3%	0.0%	100.0%
男性20歳代	18	11.1%	11.1%	33.3%	44.4%	0.0%	100.0%
男性30歳代	34	5.9%	11.8%	47.1%	32.4%	2.9%	100.0%
男性40歳代	39	2.6%	12.8%	46.2%	38.5%	0.0%	100.0%
男性50歳代	70	2.9%	14.3%	50.0%	31.4%	1.4%	100.0%
男性60歳代	62	1.6%	8.1%	56.5%	33.9%	0.0%	100.0%
男性70歳以上	111	0.9%	9.9%	47.7%	40.5%	0.9%	100.0%
男性年代不明	0	—	—	—	—	—	—
女性全体	495	1.8%	13.3%	44.0%	39.6%	1.2%	100.0%
女性10歳代	3	0.0%	0.0%	33.3%	66.7%	0.0%	100.0%
女性20歳代	30	0.0%	20.0%	50.0%	30.0%	0.0%	100.0%
女性30歳代	63	4.8%	20.6%	33.3%	41.3%	0.0%	100.0%
女性40歳代	68	4.4%	14.7%	44.1%	35.3%	1.5%	100.0%
女性50歳代	102	2.9%	17.6%	46.1%	32.4%	1.0%	100.0%
女性60歳代	101	0.0%	8.9%	52.5%	38.6%	0.0%	100.0%
女性70歳以上	124	0.0%	8.1%	40.3%	48.4%	3.2%	100.0%
女性年代不明	4	0.0%	0.0%	25.0%	75.0%	0.0%	100.0%
性別無回答	68	2.9%	14.7%	36.8%	44.1%	1.5%	100.0%
深谷地区	233	2.1%	12.4%	46.8%	37.8%	0.9%	100.0%
藤沢地区	67	0.0%	13.4%	50.7%	35.8%	0.0%	100.0%
幡羅地区	97	1.0%	12.4%	43.3%	42.3%	1.0%	100.0%
明戸地区	17	5.9%	5.9%	52.9%	29.4%	5.9%	100.0%
大寄地区	21	4.8%	14.3%	52.4%	28.6%	0.0%	100.0%
八基地区	23	0.0%	21.7%	43.5%	30.4%	4.3%	100.0%
豊里地区	25	4.0%	8.0%	48.0%	40.0%	0.0%	100.0%
上柴地区	109	0.9%	13.8%	45.9%	39.4%	0.0%	100.0%
南地区	65	1.5%	18.5%	44.6%	33.8%	1.5%	100.0%
岡部地区	103	5.8%	10.7%	36.9%	44.7%	1.9%	100.0%
川本地区	53	3.8%	11.3%	49.1%	34.0%	1.9%	100.0%
花園地区	70	0.0%	10.0%	42.9%	45.7%	1.4%	100.0%
無回答	17	5.9%	5.9%	47.1%	41.2%	0.0%	100.0%

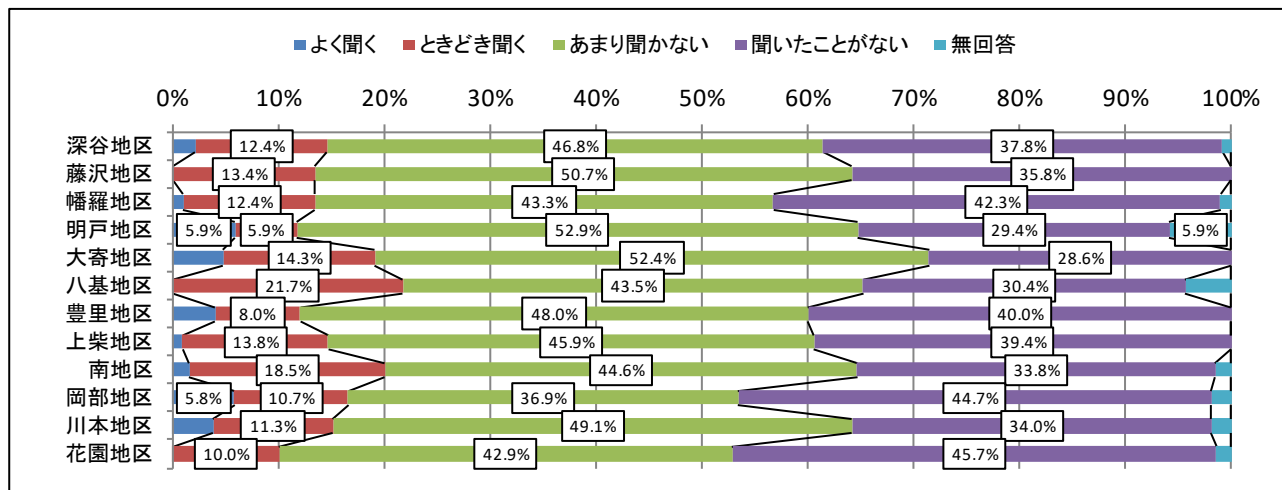
➤ 性別・年齢別



性別・年齢別にみると、「よく聞く」または「ときどき聞く」と回答した人の割合の合計は、男性が13.7%であるのに対して、女性は15.1%となっています。

また、「よく聞く」または「ときどき聞く」と回答した人の割合の合計が最も少ない年齢は、男性10歳代（0.0%）、女性10歳代（0.0%）であり、一方で最も多い年齢は、男性20歳代（22.2%）、女性30歳代（25.4%）となっています。

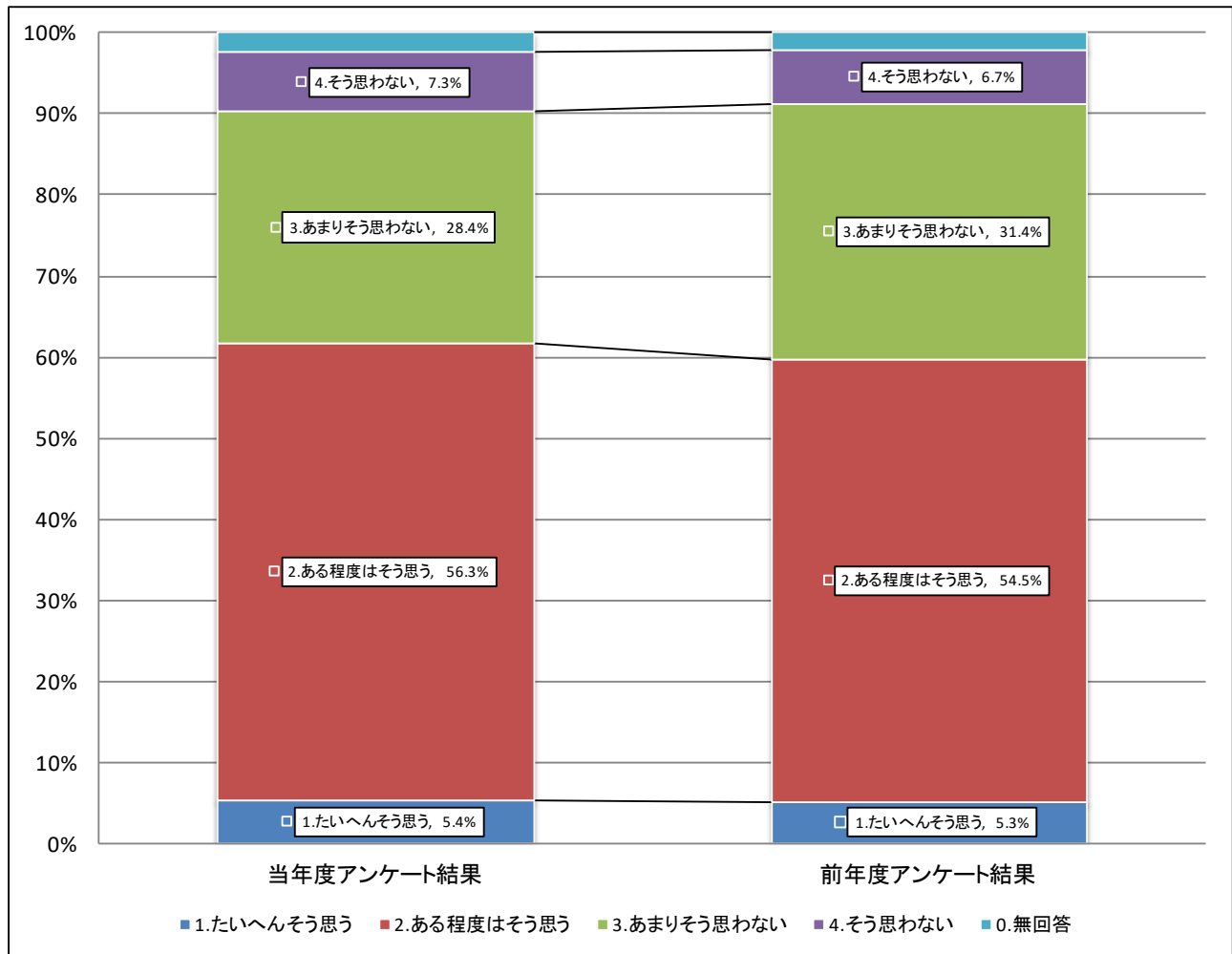
➤ 地区別



地区別にみると、「よく聞く」または「ときどき聞く」と回答した人の割合の合計が最も少ない地区は、花園地区（10.0%）であり、次いで明戸地区（11.8%）となっています。最も多い地区は、八基地区（21.7%）であり、次いで南地区（20.0%）となっています。

② 男女がともに輝く社会づくり（7. 問5～7）

性別に関係なく、家庭、地域、職場で対等な役割分担がされていると思いますか。



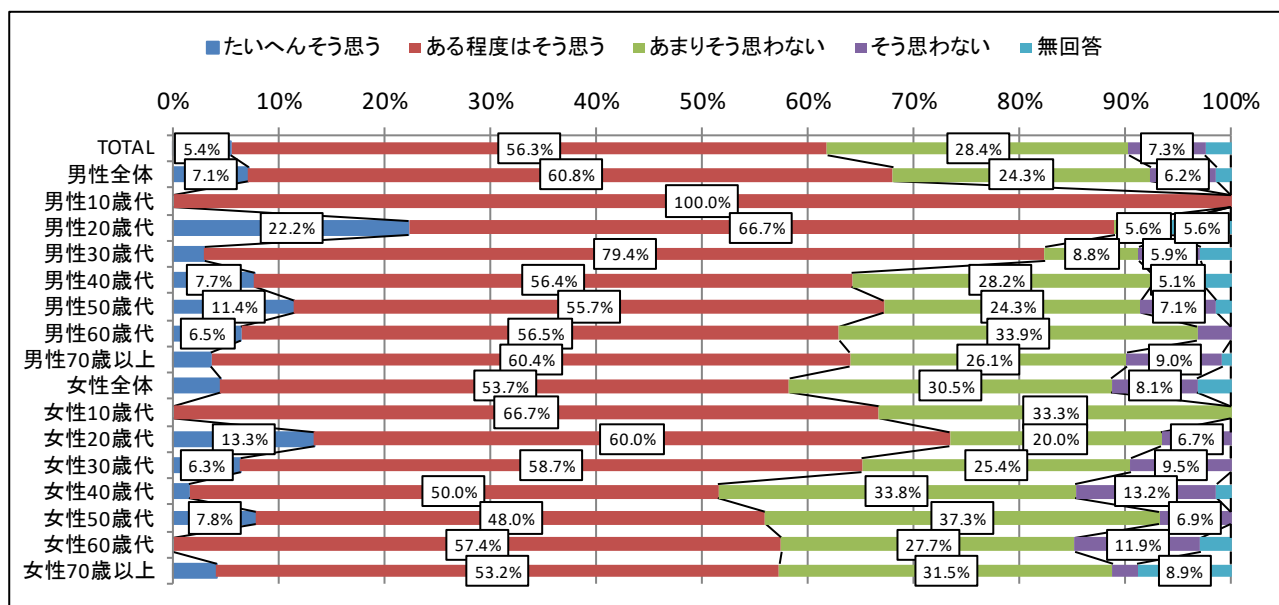
「ある程度はそう思う」と回答した人の割合が 56.3%と最も多く、次いで「あまりそう思わない」と回答した人の割合が 28.4%、「そう思わない」と回答した人の割合が 7.3%、「たいへんそう思う」と回答した人の割合が最も少なく 5.4%となっています。

「たいへんそう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合の合計は 61.7%であり、6 割以上の市民が性別に関係なく、家庭、地域、職場で対等な役割分担がされていると感じていることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「たいへんそう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合の合計は 59.8%であり、「前年度アンケート」と比較してわずかに増加しています。

回答者数		たいへん 思う	ある 程度は 思う	あまり そう 思わない	そう 思わない	無 回答	合 計
TOTAL	900	5.4%	56.3%	28.4%	7.3%	2.4%	100.0%
男性全体	337	7.1%	60.8%	24.3%	6.2%	1.5%	100.0%
男性10歳代	3	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
男性20歳代	18	22.2%	66.7%	5.6%	0.0%	5.6%	100.0%
男性30歳代	34	2.9%	79.4%	8.8%	5.9%	2.9%	100.0%
男性40歳代	39	7.7%	56.4%	28.2%	5.1%	2.6%	100.0%
男性50歳代	70	11.4%	55.7%	24.3%	7.1%	1.4%	100.0%
男性60歳代	62	6.5%	56.5%	33.9%	3.2%	0.0%	100.0%
男性70歳以上	111	3.6%	60.4%	26.1%	9.0%	0.9%	100.0%
男性年代不明	0	—	—	—	—	—	—
女性全体	495	4.4%	53.7%	30.5%	8.1%	3.2%	100.0%
女性10歳代	3	0.0%	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	100.0%
女性20歳代	30	13.3%	60.0%	20.0%	6.7%	0.0%	100.0%
女性30歳代	63	6.3%	58.7%	25.4%	9.5%	0.0%	100.0%
女性40歳代	68	1.5%	50.0%	33.8%	13.2%	1.5%	100.0%
女性50歳代	102	7.8%	48.0%	37.3%	6.9%	0.0%	100.0%
女性60歳代	101	0.0%	57.4%	27.7%	11.9%	3.0%	100.0%
女性70歳以上	124	4.0%	53.2%	31.5%	2.4%	8.9%	100.0%
女性年代不明	4	0.0%	50.0%	0.0%	25.0%	25.0%	100.0%
性別無回答	68	4.4%	52.9%	33.8%	7.4%	1.5%	100.0%
深谷地区	233	4.3%	62.7%	21.0%	9.4%	2.6%	100.0%
藤沢地区	67	6.0%	62.7%	26.9%	4.5%	0.0%	100.0%
幡羅地区	97	8.2%	54.6%	33.0%	3.1%	1.0%	100.0%
明戸地区	17	0.0%	58.8%	29.4%	5.9%	5.9%	100.0%
大寄地区	21	4.8%	47.6%	42.9%	4.8%	0.0%	100.0%
八基地区	23	4.3%	56.5%	30.4%	4.3%	4.3%	100.0%
豊里地区	25	0.0%	48.0%	40.0%	8.0%	4.0%	100.0%
上柴地区	109	5.5%	58.7%	23.9%	8.3%	3.7%	100.0%
南地区	65	4.6%	52.3%	32.3%	9.2%	1.5%	100.0%
岡部地区	103	2.9%	51.5%	35.0%	7.8%	2.9%	100.0%
川本地区	53	5.7%	62.3%	28.3%	3.8%	0.0%	100.0%
花園地区	70	10.0%	41.4%	35.7%	8.6%	4.3%	100.0%
無回答	17	17.6%	47.1%	17.6%	11.8%	5.9%	100.0%

➤ 性別・年齢別

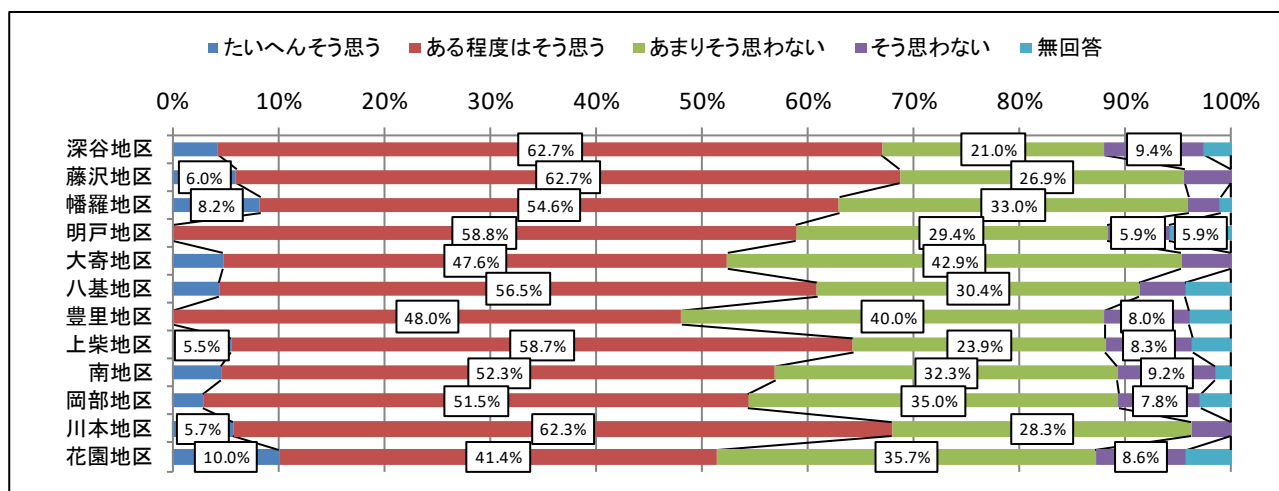


性別・年齢別にみると、「たいへんそう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合の合計は、男性が67.9%であるのに対して、女性は58.1%となっています。

また、「たいへんそう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合の合計が最も少ない年齢は、男性60歳代（63.0%）、女性40歳代（51.5%）であり、一方で最も多い年齢は、男性10歳代（100.0%）、女性20歳代（73.3%）となっています。

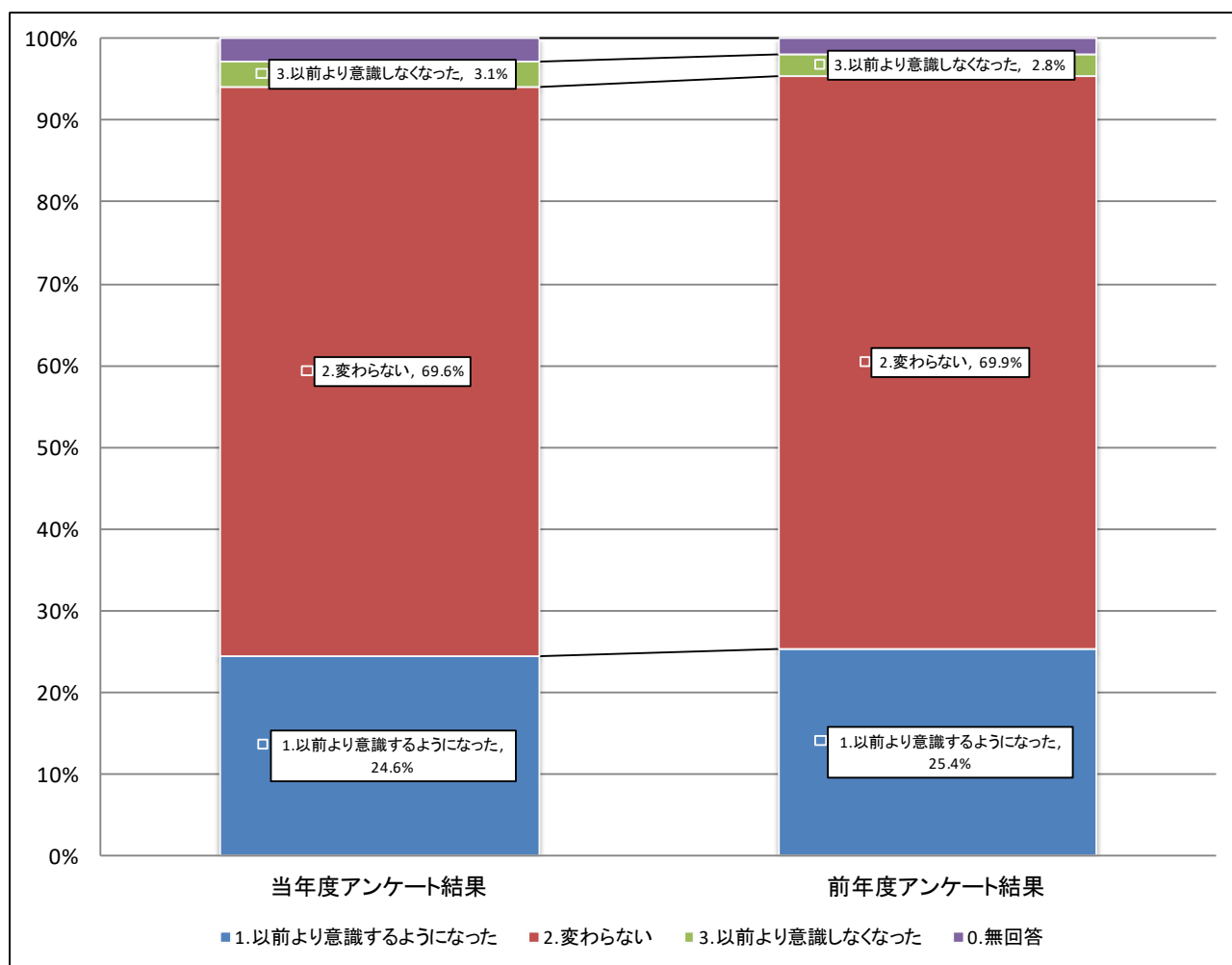
男女によって差があることがうかがえます。

➤ 地区別



地区別にみると、「たいへんそう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合の合計が最も少ない地区は、豊里地区（48.0%）であり、次いで花園地区（51.4%）となっています。最も多い地区は、藤沢地区（68.7%）であり、次いで川本地区（68.0%）となっています。

男女共同参画の意識は以前と比べて変化していますか。



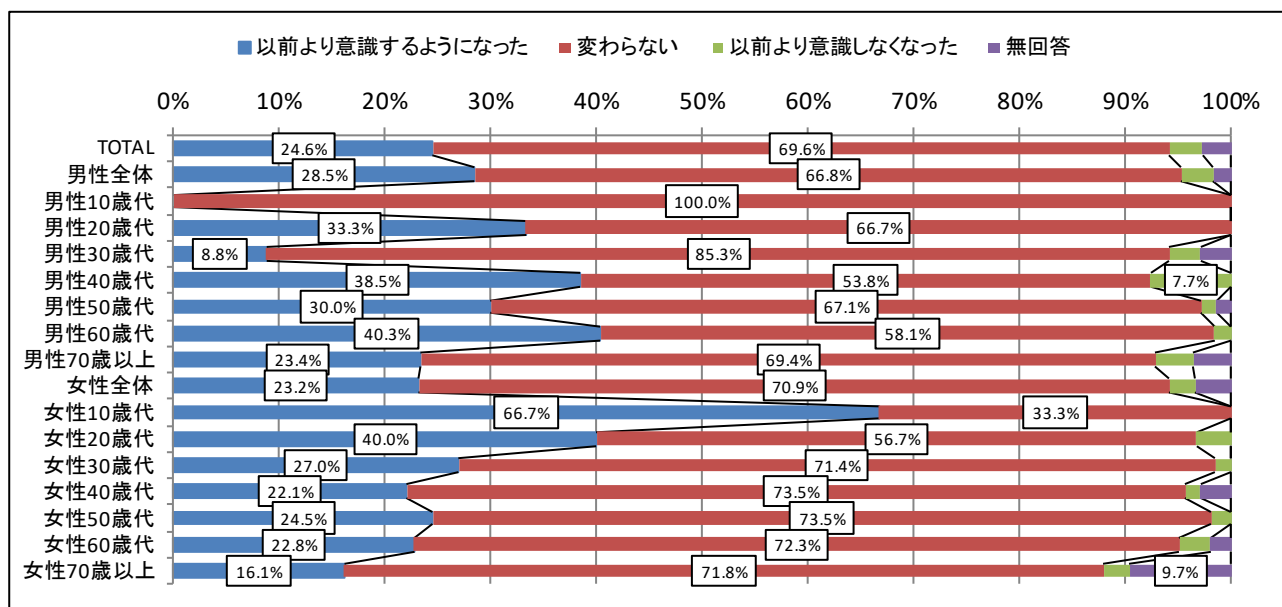
「変わらない」と回答した人の割合が 69.6%と最も多く、次いで「以前より意識するようになった」と回答した人の割合が 24.6%、「以前より意識しなくなった」と回答した人の割合が最も少なく 3.1%となっています。

男女共同参画を以前より意識するようになった市民は約 2 割という状況がうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「以前より意識するようになった」と回答した人の割合は 25.4%であり、「前年度アンケート」と比較してほぼ変化はありませんでした。

回答者数		以前より意識するようになった	変わらない	以前より意識しなくなった	無回答	合計
TOTAL	900	24.6%	69.6%	3.1%	2.8%	100.0%
男性全体	337	28.5%	66.8%	3.0%	1.8%	100.0%
男性10歳代	3	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
男性20歳代	18	33.3%	66.7%	0.0%	0.0%	100.0%
男性30歳代	34	8.8%	85.3%	2.9%	2.9%	100.0%
男性40歳代	39	38.5%	53.8%	7.7%	0.0%	100.0%
男性50歳代	70	30.0%	67.1%	1.4%	1.4%	100.0%
男性60歳代	62	40.3%	58.1%	1.6%	0.0%	100.0%
男性70歳以上	111	23.4%	69.4%	3.6%	3.6%	100.0%
男性年代不明	0	—	—	—	—	—
女性全体	495	23.2%	70.9%	2.4%	3.4%	100.0%
女性10歳代	3	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	100.0%
女性20歳代	30	40.0%	56.7%	3.3%	0.0%	100.0%
女性30歳代	63	27.0%	71.4%	1.6%	0.0%	100.0%
女性40歳代	68	22.1%	73.5%	1.5%	2.9%	100.0%
女性50歳代	102	24.5%	73.5%	2.0%	0.0%	100.0%
女性60歳代	101	22.8%	72.3%	3.0%	2.0%	100.0%
女性70歳以上	124	16.1%	71.8%	2.4%	9.7%	100.0%
女性年代不明	4	25.0%	25.0%	25.0%	25.0%	100.0%
性別無回答	68	14.7%	73.5%	8.8%	2.9%	100.0%
深谷地区	233	23.2%	70.4%	3.9%	2.6%	100.0%
藤沢地区	67	31.3%	64.2%	3.0%	1.5%	100.0%
幡羅地区	97	25.8%	69.1%	3.1%	2.1%	100.0%
明戸地区	17	35.3%	47.1%	11.8%	5.9%	100.0%
大寄地区	21	23.8%	76.2%	0.0%	0.0%	100.0%
八基地区	23	34.8%	65.2%	0.0%	0.0%	100.0%
豊里地区	25	28.0%	64.0%	0.0%	8.0%	100.0%
上柴地区	109	28.4%	67.0%	2.8%	1.8%	100.0%
南地区	65	24.6%	72.3%	1.5%	1.5%	100.0%
岡部地区	103	25.2%	68.0%	3.9%	2.9%	100.0%
川本地区	53	17.0%	81.1%	1.9%	0.0%	100.0%
花園地区	70	15.7%	72.9%	2.9%	8.6%	100.0%
無回答	17	11.8%	76.5%	5.9%	5.9%	100.0%

➤ 性別・年齢別

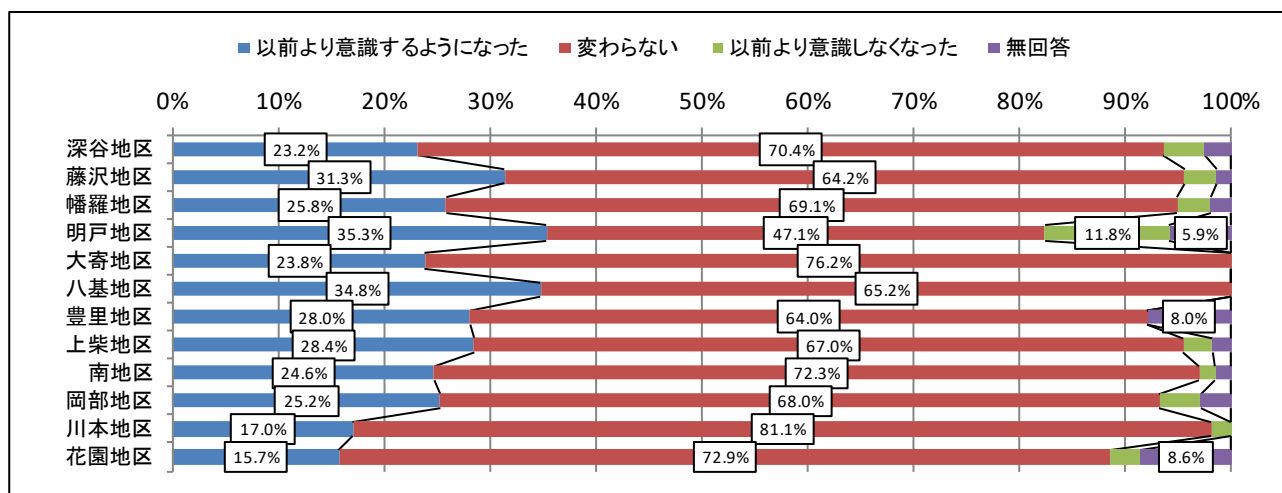


性別・年齢別にみると、「以前より意識するようになった」と回答した人の割合は、男性が28.5%であるのに対して、女性は23.2%となっています。

また、「以前より意識するようになった」と回答した人の割合が最も少ない年齢は、男性10歳代（0.0%）、女性70歳以上（16.1%）であり、一方で最も多い年齢は、男性60歳代（40.3%）、女性10歳代（66.7%）となっています。

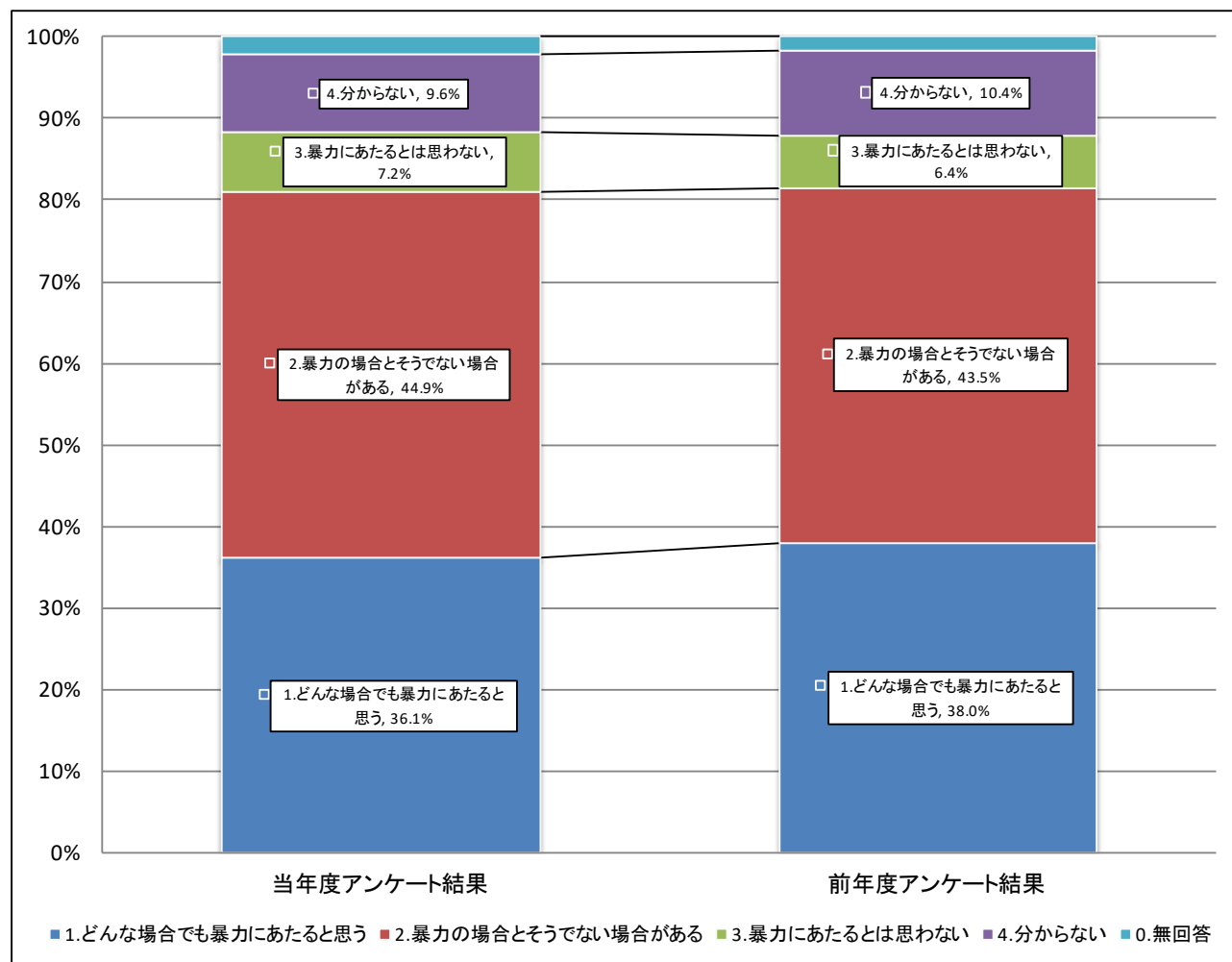
年齢によって差があることがうかがえます。

➤ 地区別



地区別にみると、「以前より意識するようになった」と回答した人の割合が最も少ない地区は、花園地区（15.7%）であり、次いで川本地区（17.0%）となっています。最も多い地区は、明戸地区（35.3%）であり、次いで八基地区（34.8%）となっています。

配偶者などによる「電話、メール等の細かい監視」「生活費を渡さない」などの行為が暴力であると思いますか。



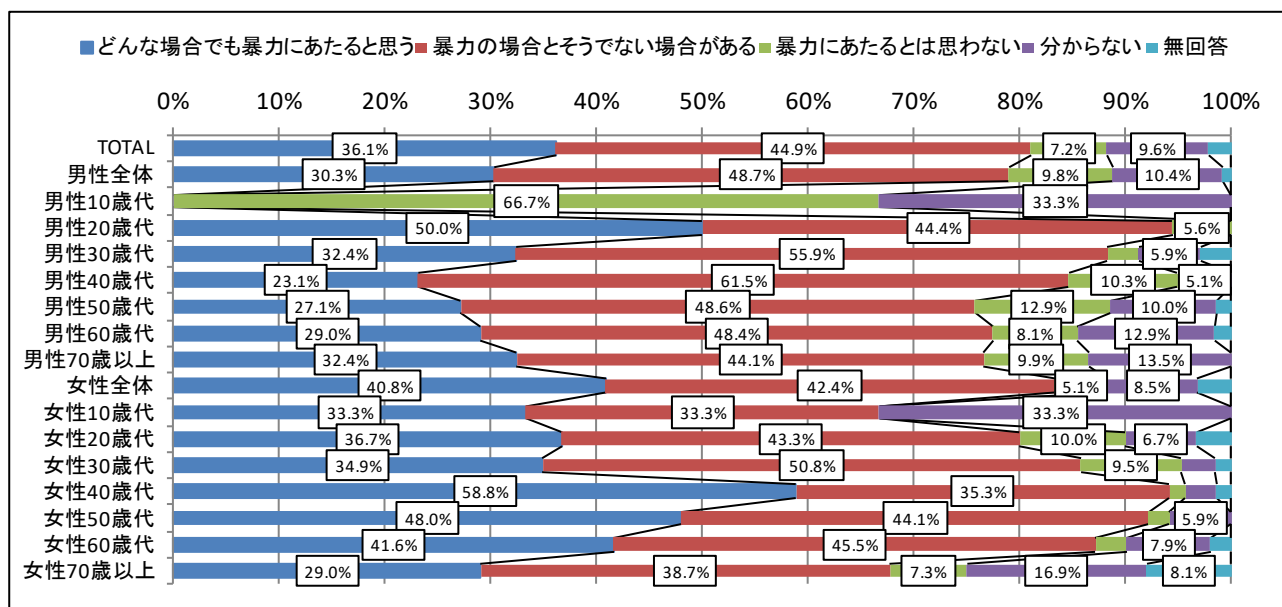
「暴力の場合とそうでない場合がある」と回答した人の割合が 44.9%と最も多く、次いで「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した人の割合が 36.1%、「分からない」と回答した人の割合が 9.6%、「暴力にあたるとは思わない」と回答した人の割合が最も少なく 7.2%となっています。

「どんな場合でも暴力にあたると思う」または「暴力の場合とそうでない場合がある」と回答した人の割合の合計は 81.0%であり、8 割以上の市民が、配偶者などによる「電話、メール等の細かい監視」「生活費を渡さない」などの行為が暴力であると感じていることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「どんな場合でも暴力にあたると思う」または「暴力の場合とそうでない場合がある」と回答した人の割合の合計は 81.5%であり、「前年度アンケート」と比較してほぼ変化はありませんでした。

回答者数		暴力にあたる場合でも どんな場合でも 思う	暴力の場合と そうでない場合がある	暴力にあたる とは思わない	分からない	無回答	合計
TOTAL	900	36.1%	44.9%	7.2%	9.6%	2.2%	100.0%
男性全体	337	30.3%	48.7%	9.8%	10.4%	0.9%	100.0%
男性10歳代	3	0.0%	0.0%	66.7%	33.3%	0.0%	100.0%
男性20歳代	18	50.0%	44.4%	5.6%	0.0%	0.0%	100.0%
男性30歳代	34	32.4%	55.9%	2.9%	5.9%	2.9%	100.0%
男性40歳代	39	23.1%	61.5%	10.3%	5.1%	0.0%	100.0%
男性50歳代	70	27.1%	48.6%	12.9%	10.0%	1.4%	100.0%
男性60歳代	62	29.0%	48.4%	8.1%	12.9%	1.6%	100.0%
男性70歳以上	111	32.4%	44.1%	9.9%	13.5%	0.0%	100.0%
男性年代不明	0	—	—	—	—	—	—
女性全体	495	40.8%	42.4%	5.1%	8.5%	3.2%	100.0%
女性10歳代	3	33.3%	33.3%	0.0%	33.3%	0.0%	100.0%
女性20歳代	30	36.7%	43.3%	10.0%	6.7%	3.3%	100.0%
女性30歳代	63	34.9%	50.8%	9.5%	3.2%	1.6%	100.0%
女性40歳代	68	58.8%	35.3%	1.5%	2.9%	1.5%	100.0%
女性50歳代	102	48.0%	44.1%	2.0%	5.9%	0.0%	100.0%
女性60歳代	101	41.6%	45.5%	3.0%	7.9%	2.0%	100.0%
女性70歳以上	124	29.0%	38.7%	7.3%	16.9%	8.1%	100.0%
女性年代不明	4	25.0%	25.0%	25.0%	0.0%	25.0%	100.0%
性別無回答	68	30.9%	44.1%	10.3%	13.2%	1.5%	100.0%
深谷地区	233	30.5%	47.6%	8.6%	11.2%	2.1%	100.0%
藤沢地区	67	41.8%	40.3%	11.9%	6.0%	0.0%	100.0%
幡羅地区	97	36.1%	48.5%	6.2%	8.2%	1.0%	100.0%
明戸地区	17	11.8%	58.8%	0.0%	23.5%	5.9%	100.0%
大寄地区	21	23.8%	71.4%	0.0%	4.8%	0.0%	100.0%
八基地区	23	26.1%	26.1%	21.7%	26.1%	0.0%	100.0%
豊里地区	25	48.0%	20.0%	12.0%	16.0%	4.0%	100.0%
上柴地区	109	39.4%	46.8%	4.6%	5.5%	3.7%	100.0%
南地区	65	41.5%	46.2%	4.6%	7.7%	0.0%	100.0%
岡部地区	103	39.8%	41.7%	4.9%	9.7%	3.9%	100.0%
川本地区	53	43.4%	50.9%	1.9%	3.8%	0.0%	100.0%
花園地区	70	31.4%	38.6%	12.9%	12.9%	4.3%	100.0%
無回答	17	58.8%	29.4%	0.0%	5.9%	5.9%	100.0%

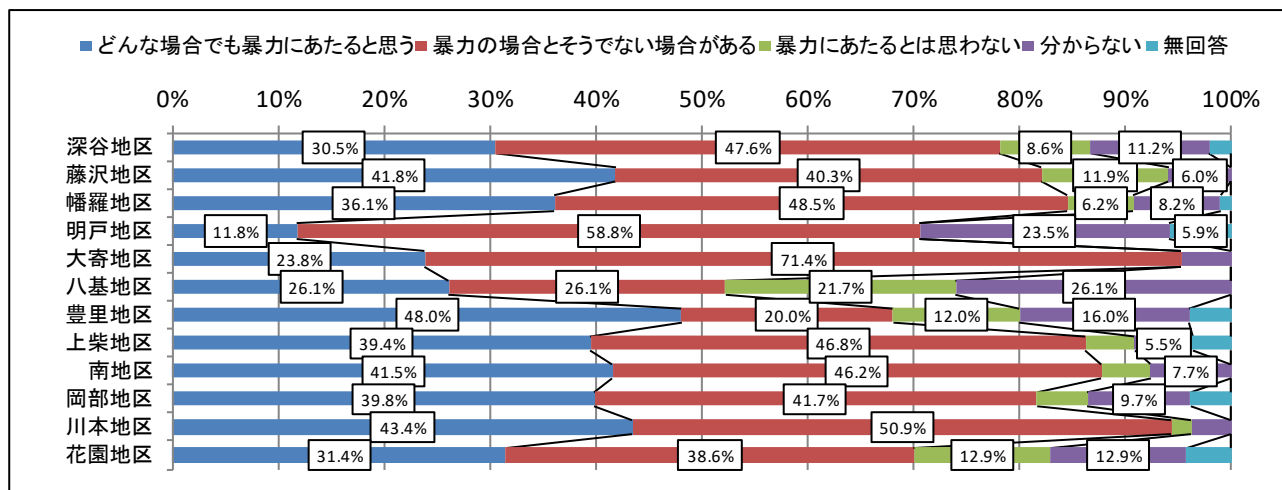
➤ 性別・年齢別



性別・年齢別にみると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」または「暴力の場合とそうでない場合がある」と回答した人の割合の合計は、男性が 79.0%であるのに対して、女性は 83.2%となっています。

また、「どんな場合でも暴力にあたると思う」または「暴力の場合とそうでない場合がある」と回答した人の割合の合計が最も少ない年齢は、男性 10 歳代 (0.0%)、女性 10 歳代 (66.6%) であり、一方で最も多い年齢は、男性 20 歳代 (94.4%)、女性 40 歳代 (94.1%) となっています。

➤ 地区別

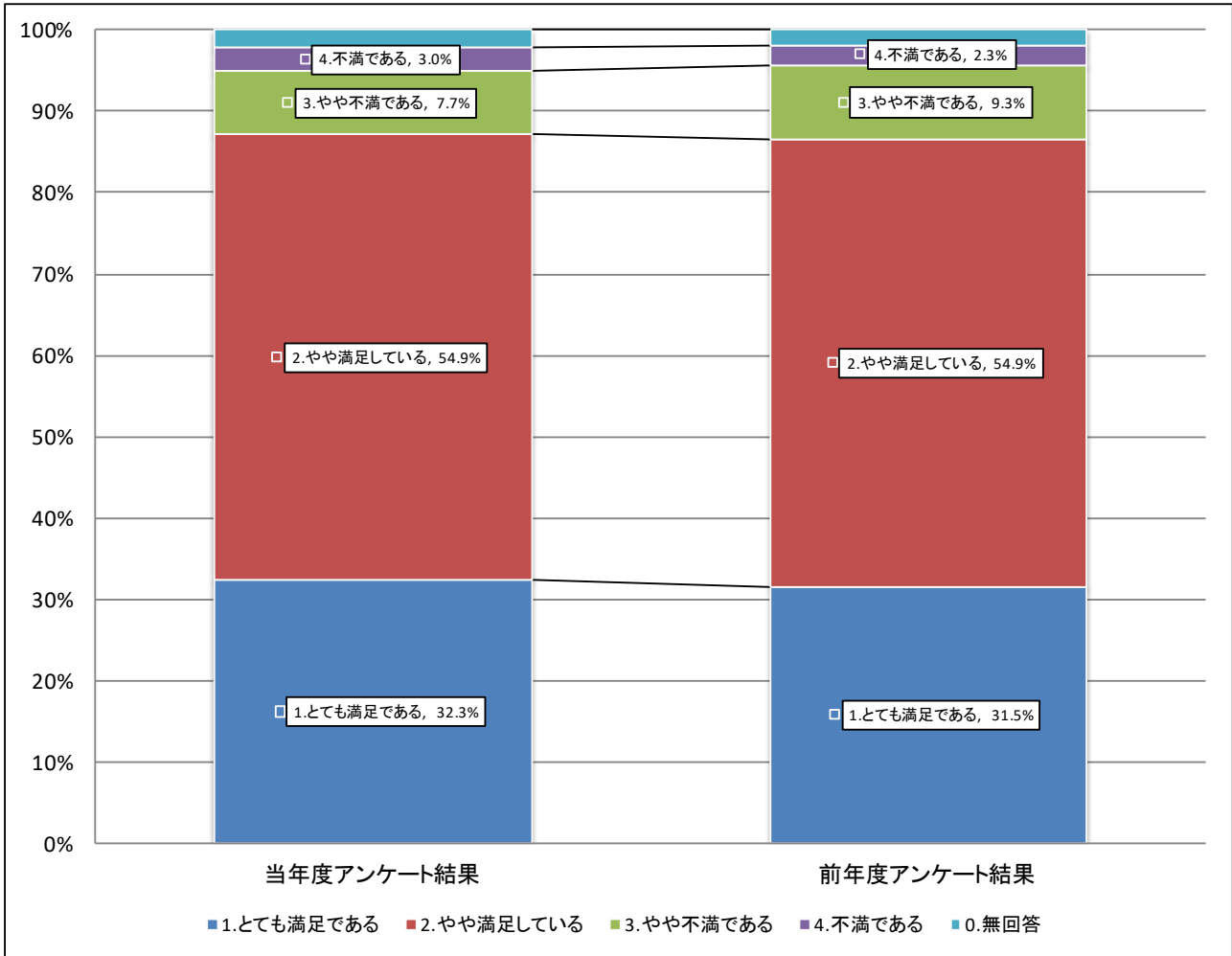


地区別にみると、「どんな場合でも暴力にあたると思う」または「暴力の場合とそうでない場合がある」と回答した人の割合の合計が最も少ない地区は、八基地区 (52.2%) であり、次いで豊里地区 (68.0%) となっています。最も多い地区は、大寄地区 (95.2%) であり、次いで川本地区 (94.3%) となっています。

地区によって差があることがうかがえます。

③ 市民と行政との協働のまちづくり（7. 問8～9）

市役所における窓口対応についての満足度をお聞かせください。



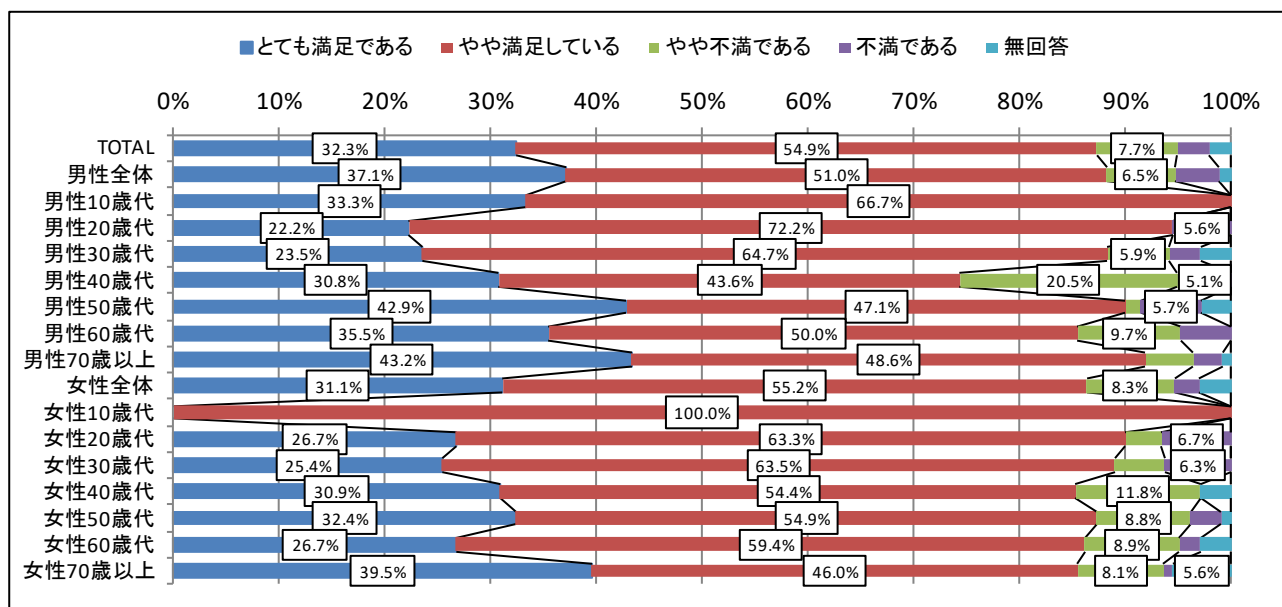
「やや満足している」と回答した人の割合が 54.9%と最も多く、次いで「とても満足である」と回答した人の割合が 32.3%、「やや不満である」と回答した人の割合が 7.7%、「不満である」が最も少なく 3.0%となっています。

「とても満足である」または「やや満足している」と回答した人の割合の合計は 87.2%であり、9 割近くの市民が市役所における窓口の対応について満足していることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「とても満足である」または「やや満足している」と回答した人の割合の合計は 86.4%であり、「前年度アンケート」と比較してほぼ変化はありませんでした。

回答者数		とても満足である	やや満足している	やや不満である	不満である	無回答	合計
TOTAL	900	32.3%	54.9%	7.7%	3.0%	2.1%	100.0%
男性全体	337	37.1%	51.0%	6.5%	4.2%	1.2%	100.0%
男性10歳代	3	33.3%	66.7%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
男性20歳代	18	22.2%	72.2%	0.0%	5.6%	0.0%	100.0%
男性30歳代	34	23.5%	64.7%	5.9%	2.9%	2.9%	100.0%
男性40歳代	39	30.8%	43.6%	20.5%	5.1%	0.0%	100.0%
男性50歳代	70	42.9%	47.1%	1.4%	5.7%	2.9%	100.0%
男性60歳代	62	35.5%	50.0%	9.7%	4.8%	0.0%	100.0%
男性70歳以上	111	43.2%	48.6%	4.5%	2.7%	0.9%	100.0%
男性年代不明	0	—	—	—	—	—	—
女性全体	495	31.1%	55.2%	8.3%	2.4%	3.0%	100.0%
女性10歳代	3	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性20歳代	30	26.7%	63.3%	3.3%	6.7%	0.0%	100.0%
女性30歳代	63	25.4%	63.5%	4.8%	6.3%	0.0%	100.0%
女性40歳代	68	30.9%	54.4%	11.8%	0.0%	2.9%	100.0%
女性50歳代	102	32.4%	54.9%	8.8%	2.9%	1.0%	100.0%
女性60歳代	101	26.7%	59.4%	8.9%	2.0%	3.0%	100.0%
女性70歳以上	124	39.5%	46.0%	8.1%	0.8%	5.6%	100.0%
女性年代不明	4	0.0%	25.0%	25.0%	0.0%	50.0%	100.0%
性別無回答	68	17.6%	72.1%	8.8%	1.5%	0.0%	100.0%
深谷地区	233	28.8%	57.1%	8.6%	3.4%	2.1%	100.0%
藤沢地区	67	37.3%	52.2%	9.0%	1.5%	0.0%	100.0%
幡羅地区	97	37.1%	53.6%	5.2%	3.1%	1.0%	100.0%
明戸地区	17	41.2%	41.2%	11.8%	5.9%	0.0%	100.0%
大寄地区	21	42.9%	42.9%	4.8%	9.5%	0.0%	100.0%
八基地区	23	47.8%	47.8%	4.3%	0.0%	0.0%	100.0%
豊里地区	25	48.0%	32.0%	4.0%	12.0%	4.0%	100.0%
上柴地区	109	32.1%	58.7%	6.4%	0.9%	1.8%	100.0%
南地区	65	33.8%	56.9%	1.5%	7.7%	0.0%	100.0%
岡部地区	103	29.1%	57.3%	5.8%	1.9%	5.8%	100.0%
川本地区	53	32.1%	49.1%	17.0%	1.9%	0.0%	100.0%
花園地区	70	24.3%	64.3%	7.1%	0.0%	4.3%	100.0%
無回答	17	17.6%	47.1%	29.4%	0.0%	5.9%	100.0%

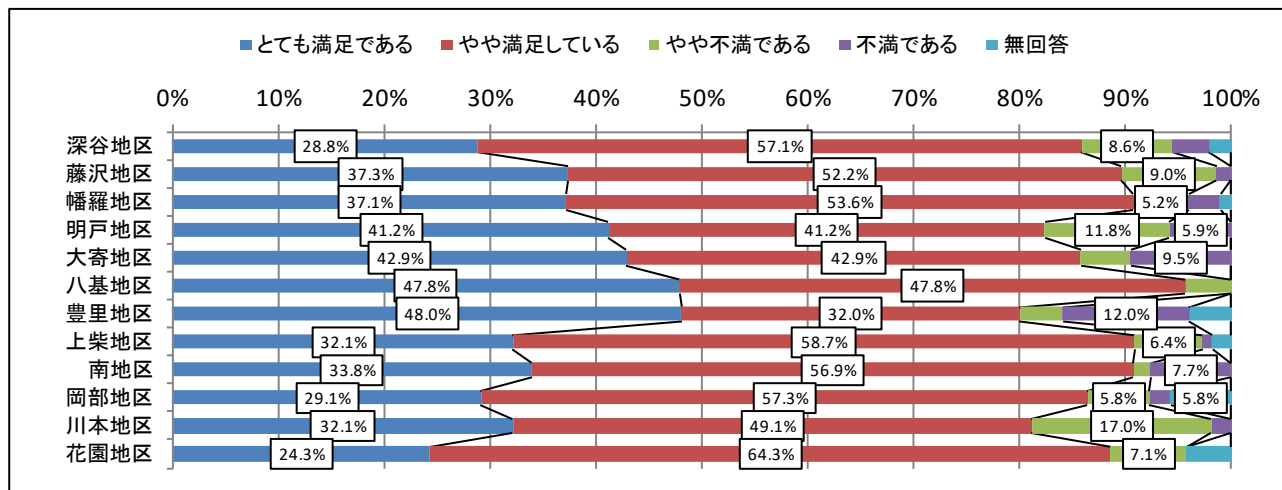
➤ 性別・年齢別



性別・年齢別にみると、「とても満足である」または「やや満足している」と回答した人の割合の合計は、男性が88.1%であるのに対して、女性は86.3%となっています。

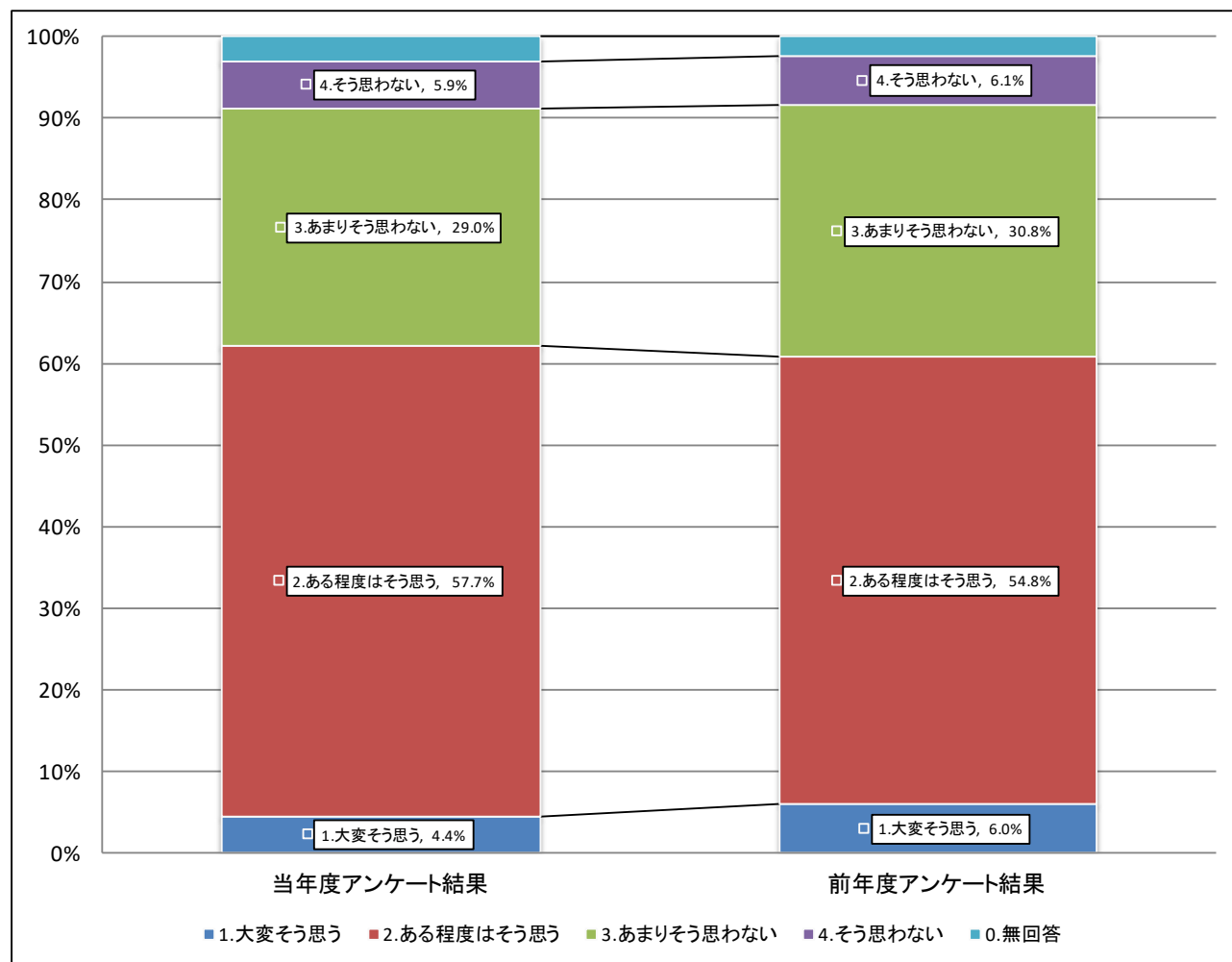
また、「とても満足である」または「やや満足している」と回答した人の割合の合計が最も少ない年齢は、男性40歳代（74.4%）、女性40歳代（85.3%）であり、一方で、最も多い年齢は、男性10歳代（100.0%）、女性10歳代（100.0%）となっています。

➤ 地区別



地区別にみると、「とても満足である」または「やや満足している」と回答した人の割合の合計が最も少ない地区は、豊里地区（80.0%）であり、次いで川本地区（81.2%）となっています。最も多い地区は、八基地区（95.6%）であり、次いで上柴地区（90.8%）となっています。

市内において、市民と行政が互いに力を出し合い地域課題を解決すること（協働のまちづくり）ができていると思いますか。



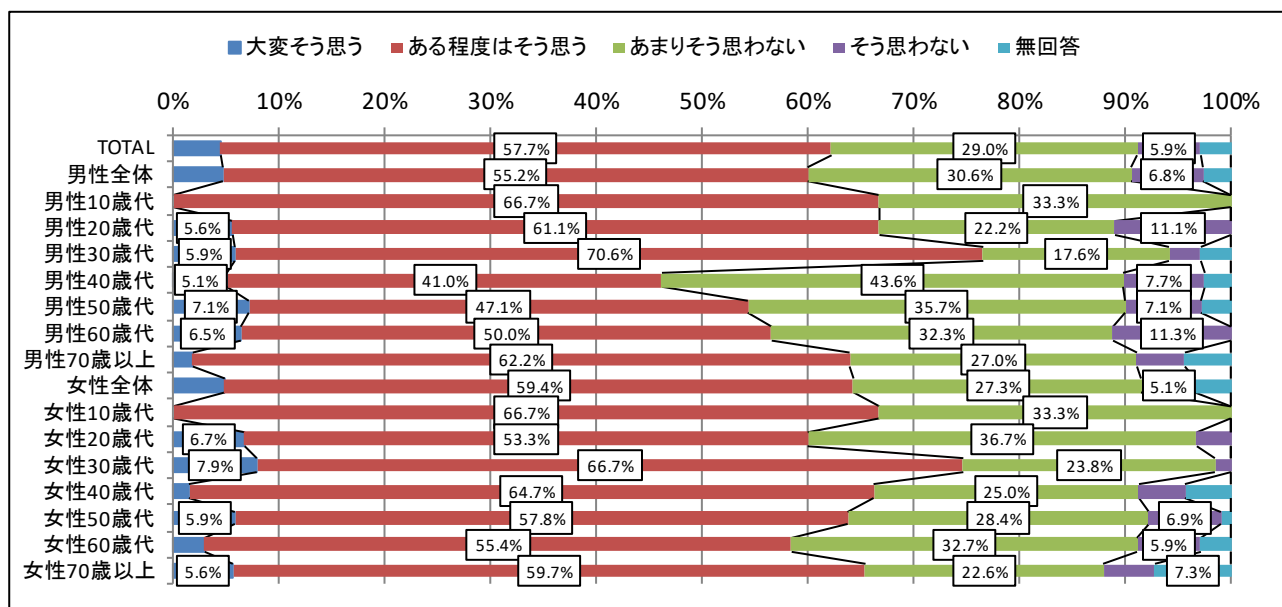
「ある程度はそう思う」と回答した人の割合が 57.7%と最も多く、次いで「あまりそう思わない」と回答した人の割合が 29.0%、「そう思わない」と回答した人の割合が 5.9%、「大変そう思う」と回答した人の割合が最も少なく 4.4%となっています。

「大変そう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合の合計は 62.1%であり、6 割以上の市民が市内において、市民と行政が互いに力を出し合い地域課題を解決することができていると感じていることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「たいへんそう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合の合計は 60.8%であり、「前年度アンケート」と比較してわずかに増加しています。

回答者数		大変 そう 思う	ある 程度 は そう 思う	あ ま り そ う 思 わ な い	そ う 思 わ な い	無 回 答	合 計
TOTAL	900	4.4%	57.7%	29.0%	5.9%	3.0%	100.0%
男性全体	337	4.7%	55.2%	30.6%	6.8%	2.7%	100.0%
男性10歳代	3	0.0%	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	100.0%
男性20歳代	18	5.6%	61.1%	22.2%	11.1%	0.0%	100.0%
男性30歳代	34	5.9%	70.6%	17.6%	2.9%	2.9%	100.0%
男性40歳代	39	5.1%	41.0%	43.6%	7.7%	2.6%	100.0%
男性50歳代	70	7.1%	47.1%	35.7%	7.1%	2.9%	100.0%
男性60歳代	62	6.5%	50.0%	32.3%	11.3%	0.0%	100.0%
男性70歳以上	111	1.8%	62.2%	27.0%	4.5%	4.5%	100.0%
男性年代不明	0	—	—	—	—	—	—
女性全体	495	4.8%	59.4%	27.3%	5.1%	3.4%	100.0%
女性10歳代	3	0.0%	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	100.0%
女性20歳代	30	6.7%	53.3%	36.7%	3.3%	0.0%	100.0%
女性30歳代	63	7.9%	66.7%	23.8%	1.6%	0.0%	100.0%
女性40歳代	68	1.5%	64.7%	25.0%	4.4%	4.4%	100.0%
女性50歳代	102	5.9%	57.8%	28.4%	6.9%	1.0%	100.0%
女性60歳代	101	3.0%	55.4%	32.7%	5.9%	3.0%	100.0%
女性70歳以上	124	5.6%	59.7%	22.6%	4.8%	7.3%	100.0%
女性年代不明	4	0.0%	25.0%	25.0%	25.0%	25.0%	100.0%
性別無回答	68	0.0%	57.4%	33.8%	7.4%	1.5%	100.0%
深谷地区	233	5.2%	55.8%	29.6%	6.4%	3.0%	100.0%
藤沢地区	67	6.0%	59.7%	32.8%	1.5%	0.0%	100.0%
幡羅地区	97	6.2%	66.0%	22.7%	4.1%	1.0%	100.0%
明戸地区	17	0.0%	52.9%	29.4%	11.8%	5.9%	100.0%
大寄地区	21	4.8%	66.7%	23.8%	4.8%	0.0%	100.0%
八基地区	23	0.0%	56.5%	34.8%	8.7%	0.0%	100.0%
豊里地区	25	8.0%	56.0%	28.0%	4.0%	4.0%	100.0%
上柴地区	109	2.8%	58.7%	33.0%	3.7%	1.8%	100.0%
南地区	65	6.2%	53.8%	30.8%	7.7%	1.5%	100.0%
岡部地区	103	2.9%	57.3%	26.2%	7.8%	5.8%	100.0%
川本地区	53	3.8%	52.8%	30.2%	11.3%	1.9%	100.0%
花園地区	70	4.3%	58.6%	28.6%	1.4%	7.1%	100.0%
無回答	17	0.0%	47.1%	23.5%	17.6%	11.8%	100.0%

➤ 性別・年齢別

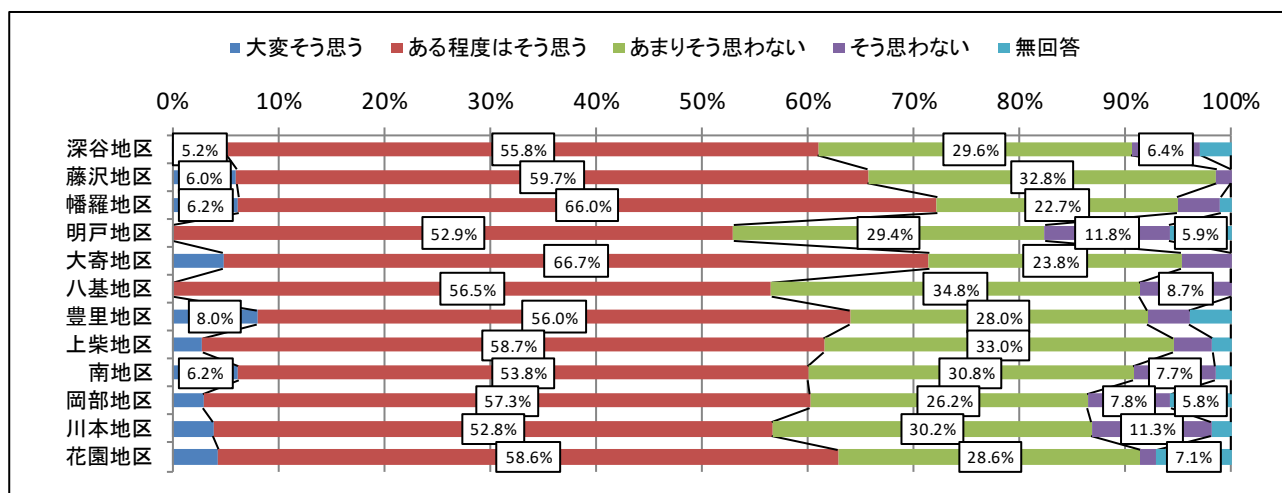


性別・年齢別にみると、「大変そう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合の合計は、男性が59.9%であるのに対して、女性は64.2%となっています。

また、「大変そう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合の合計が最も少ない年齢は、男性40歳代（46.1%）、女性60歳代（58.4%）であり、一方で最も多い年齢は、男性30歳代（76.5%）、女性30歳代（74.6%）となっています。

男性は年齢によって差があることがうかがえます。

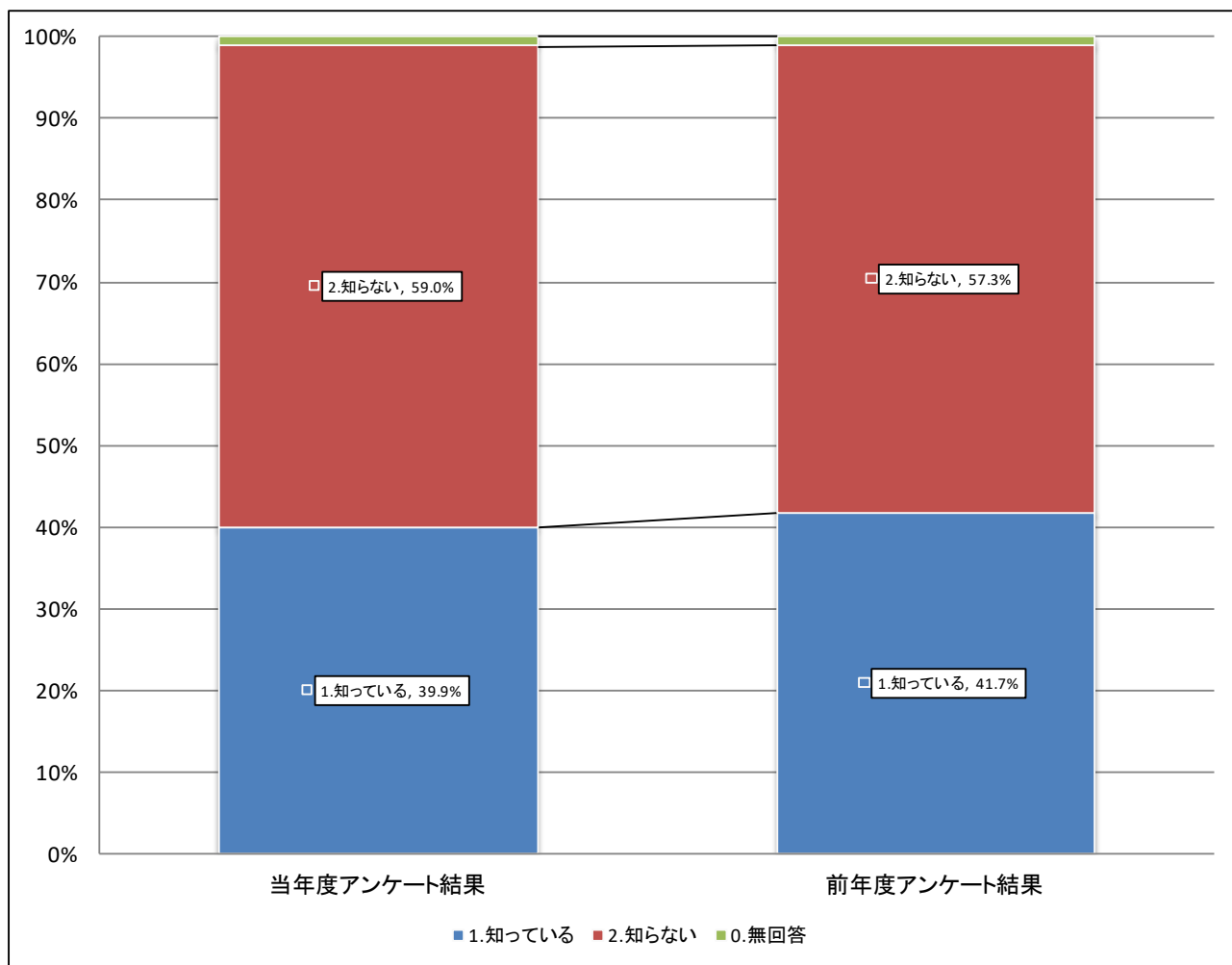
➤ 地区別



地区別にみると、「大変そう思う」または「ある程度はそう思う」と回答した人の割合の合計が最も少ない地区は、明戸地区（52.9%）であり、次いで八基地区（56.5%）となっています。最も多い地区は、幡羅地区（72.2%）であり、次いで大寄地区（71.5%）となっています。

④ 絆でつながるひとづくり（7. 問10～12）

市民ガーデニングボランティア、王国ボランティアを知っていますか。



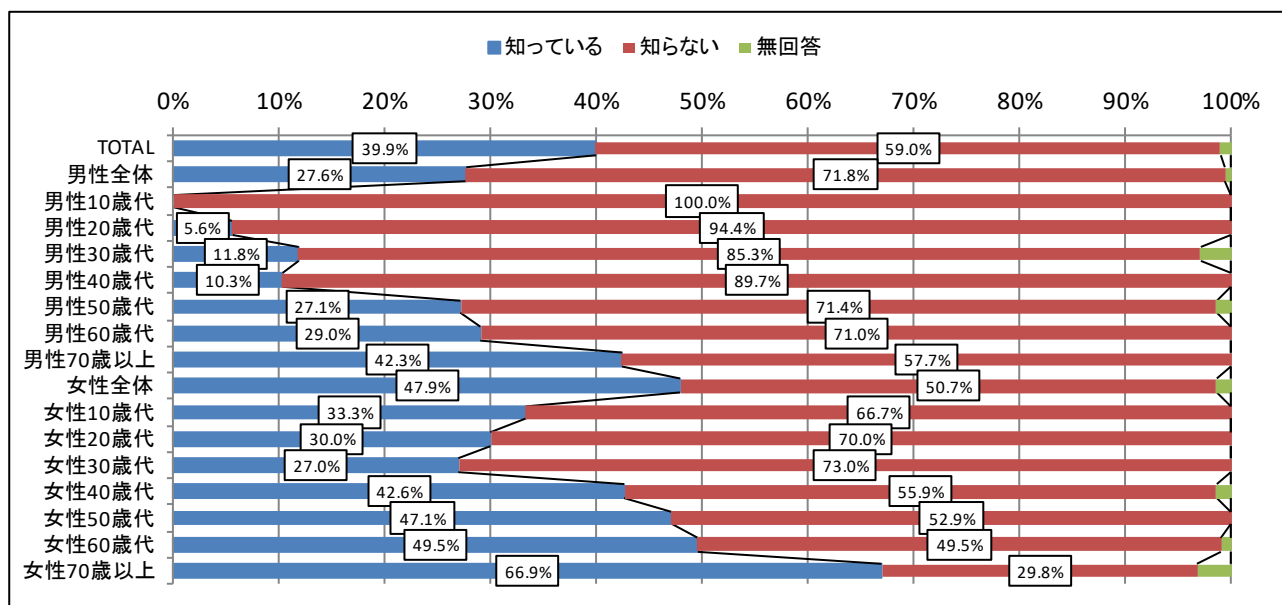
「知っている」と回答した人の割合は 39.9%、「知らない」と回答した人の割合は 59.0% となっています。

市民ガーデニングボランティア、王国ボランティアを知っている市民は 4 割未満という状況がうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「知っている」と回答した人の割合は 41.7%であり、「前年度アンケート」と比較してわずかに減少しています。

回答者数		知っている	知らない	無回答	合計
TOTAL	900	39.9%	59.0%	1.1%	100.0%
男性全体	337	27.6%	71.8%	0.6%	100.0%
男性10歳代	3	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
男性20歳代	18	5.6%	94.4%	0.0%	100.0%
男性30歳代	34	11.8%	85.3%	2.9%	100.0%
男性40歳代	39	10.3%	89.7%	0.0%	100.0%
男性50歳代	70	27.1%	71.4%	1.4%	100.0%
男性60歳代	62	29.0%	71.0%	0.0%	100.0%
男性70歳以上	111	42.3%	57.7%	0.0%	100.0%
男性年代不明	0	—	—	—	—
女性全体	495	47.9%	50.7%	1.4%	100.0%
女性10歳代	3	33.3%	66.7%	0.0%	100.0%
女性20歳代	30	30.0%	70.0%	0.0%	100.0%
女性30歳代	63	27.0%	73.0%	0.0%	100.0%
女性40歳代	68	42.6%	55.9%	1.5%	100.0%
女性50歳代	102	47.1%	52.9%	0.0%	100.0%
女性60歳代	101	49.5%	49.5%	1.0%	100.0%
女性70歳以上	124	66.9%	29.8%	3.2%	100.0%
女性年代不明	4	0.0%	75.0%	25.0%	100.0%
性別無回答	68	42.6%	55.9%	1.5%	100.0%
深谷地区	233	34.8%	64.4%	0.9%	100.0%
藤沢地区	67	52.2%	47.8%	0.0%	100.0%
幡羅地区	97	33.0%	66.0%	1.0%	100.0%
明戸地区	17	47.1%	47.1%	5.9%	100.0%
大寄地区	21	57.1%	42.9%	0.0%	100.0%
八基地区	23	39.1%	60.9%	0.0%	100.0%
豊里地区	25	48.0%	52.0%	0.0%	100.0%
上柴地区	109	35.8%	62.4%	1.8%	100.0%
南地区	65	61.5%	38.5%	0.0%	100.0%
岡部地区	103	36.9%	61.2%	1.9%	100.0%
川本地区	53	37.7%	62.3%	0.0%	100.0%
花園地区	70	41.4%	57.1%	1.4%	100.0%
無回答	17	23.5%	70.6%	5.9%	100.0%

➤ 性別・年齢別

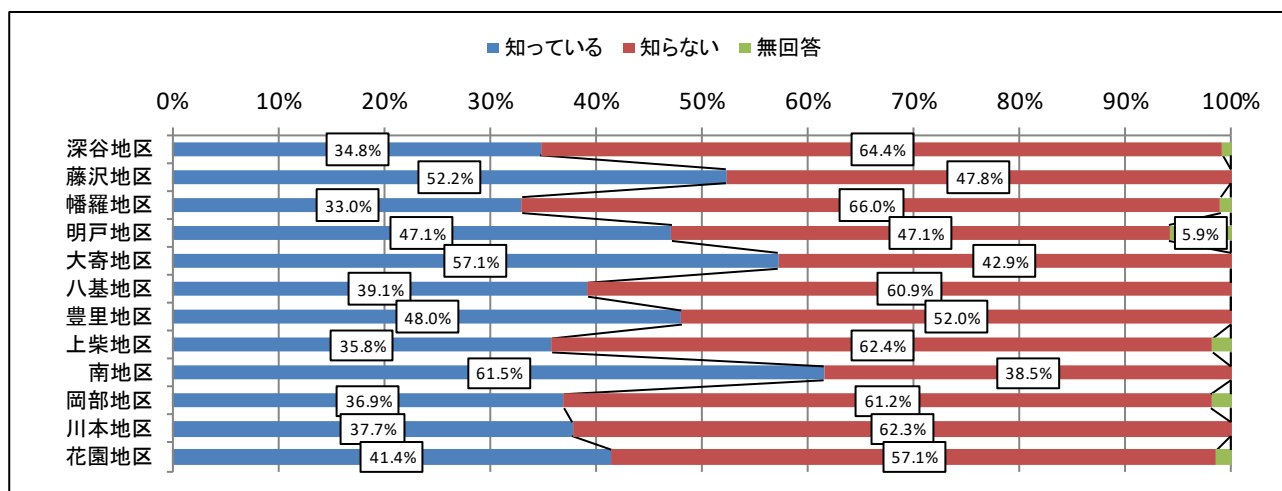


性別・年齢別にみると、「知っている」と回答した人の割合は、男性が 27.6%であるのに対して、女性は 47.9%となっています。

また、「知っている」と回答した人の割合が最も少ない年齢は、男性 10 歳代 (0.0%)、女性 30 歳代 (27.0%) であり、一方で最も多い年齢は、男性 70 歳以上 (42.3%)、女性 70 歳以上 (66.9%) となっています。

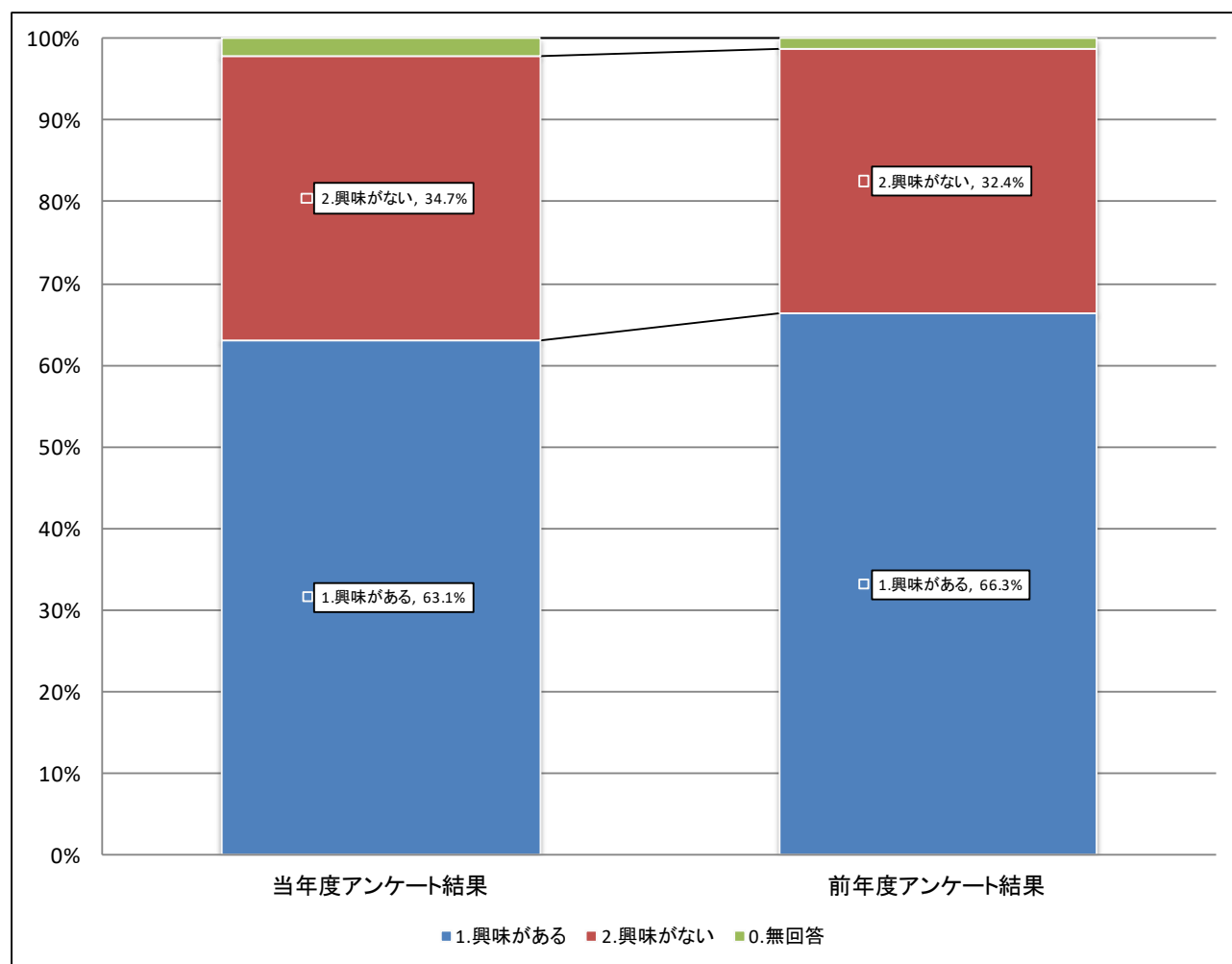
男女や、年齢によって差があることがうかがえます。

➤ 地区別



地区別にみると、「知っている」と回答した人の割合が最も少ない地区は、幡羅地区 (33.0%) であり、次いで深谷地区 (34.8%) となっています。最も多い地区は、南地区 (61.5%) であり、次いで大寄地区 (57.1%) となっています。

花と緑をいかしたまちづくり活動に興味はありますか。



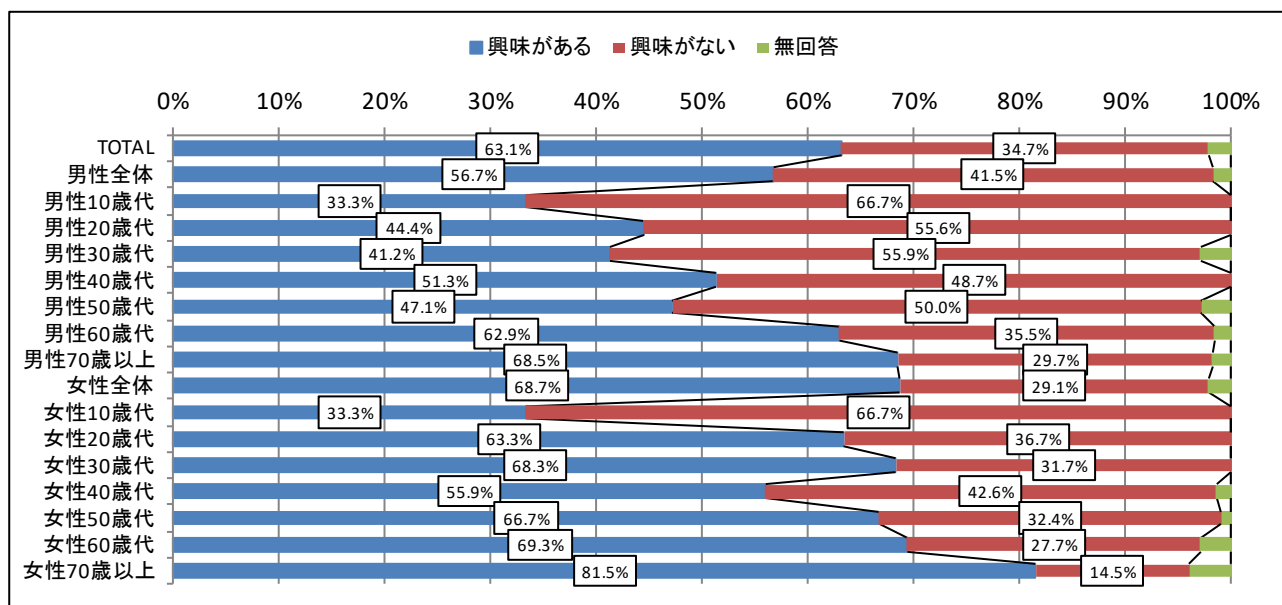
「興味がある」と回答した人の割合は 63.1%、「興味がない」と回答した人の割合は 34.7%となっています。

6 割以上の市民が花と緑をいかしたまちづくり活動に興味があることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「興味がある」と回答した人の割合は 66.3%であり、「前年度アンケート」と比較して減少しています。

回答者数		興味がある	興味がない	無回答	合計
TOTAL	900	63.1%	34.7%	2.2%	100.0%
男性全体	337	56.7%	41.5%	1.8%	100.0%
男性10歳代	3	33.3%	66.7%	0.0%	100.0%
男性20歳代	18	44.4%	55.6%	0.0%	100.0%
男性30歳代	34	41.2%	55.9%	2.9%	100.0%
男性40歳代	39	51.3%	48.7%	0.0%	100.0%
男性50歳代	70	47.1%	50.0%	2.9%	100.0%
男性60歳代	62	62.9%	35.5%	1.6%	100.0%
男性70歳以上	111	68.5%	29.7%	1.8%	100.0%
男性年代不明	0	—	—	—	—
女性全体	495	68.7%	29.1%	2.2%	100.0%
女性10歳代	3	33.3%	66.7%	0.0%	100.0%
女性20歳代	30	63.3%	36.7%	0.0%	100.0%
女性30歳代	63	68.3%	31.7%	0.0%	100.0%
女性40歳代	68	55.9%	42.6%	1.5%	100.0%
女性50歳代	102	66.7%	32.4%	1.0%	100.0%
女性60歳代	101	69.3%	27.7%	3.0%	100.0%
女性70歳以上	124	81.5%	14.5%	4.0%	100.0%
女性年代不明	4	0.0%	75.0%	25.0%	100.0%
性別無回答	68	54.4%	41.2%	4.4%	100.0%
深谷地区	233	65.7%	32.6%	1.7%	100.0%
藤沢地区	67	58.2%	40.3%	1.5%	100.0%
幡羅地区	97	61.9%	36.1%	2.1%	100.0%
明戸地区	17	70.6%	23.5%	5.9%	100.0%
大寄地区	21	61.9%	38.1%	0.0%	100.0%
八基地区	23	65.2%	34.8%	0.0%	100.0%
豊里地区	25	56.0%	40.0%	4.0%	100.0%
上柴地区	109	67.0%	31.2%	1.8%	100.0%
南地区	65	67.7%	32.3%	0.0%	100.0%
岡部地区	103	61.2%	34.0%	4.9%	100.0%
川本地区	53	58.5%	39.6%	1.9%	100.0%
花園地区	70	62.9%	34.3%	2.9%	100.0%
無回答	17	41.2%	52.9%	5.9%	100.0%

➤ 性別・年齢別

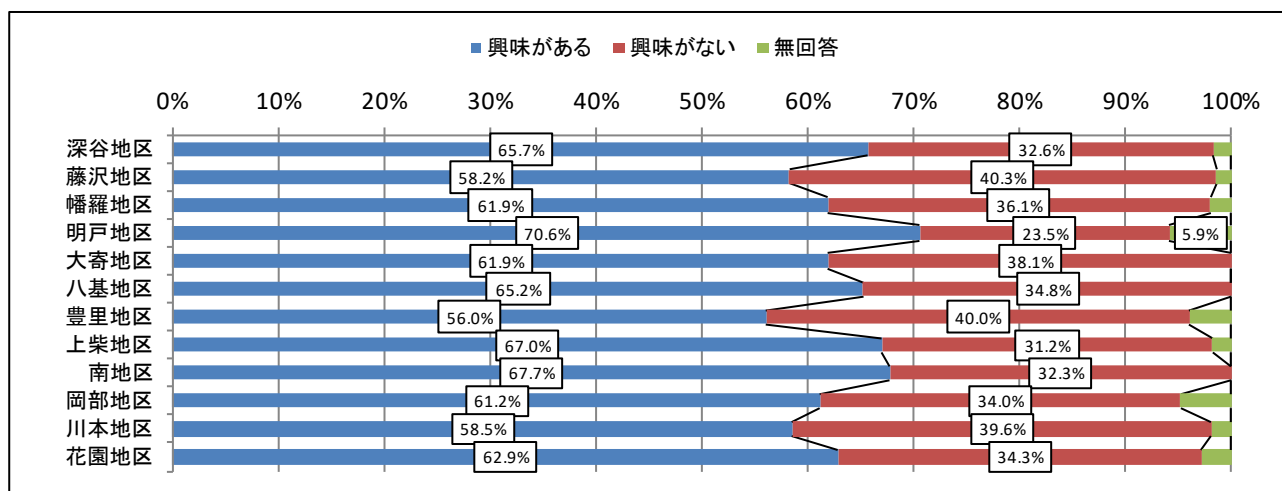


性別・年齢別にみると、「興味がある」と回答した人の割合は、男性が 56.7%であるのに対して、女性は 68.7%となっています。

また、「興味がある」と回答した人の割合が最も少ない年齢は、男性 10 歳代 (33.3%)、女性 10 歳代 (33.3%) であり、最も多い年齢は、男性 70 歳以上 (68.5%)、女性 70 歳以上 (81.5%) となっています。

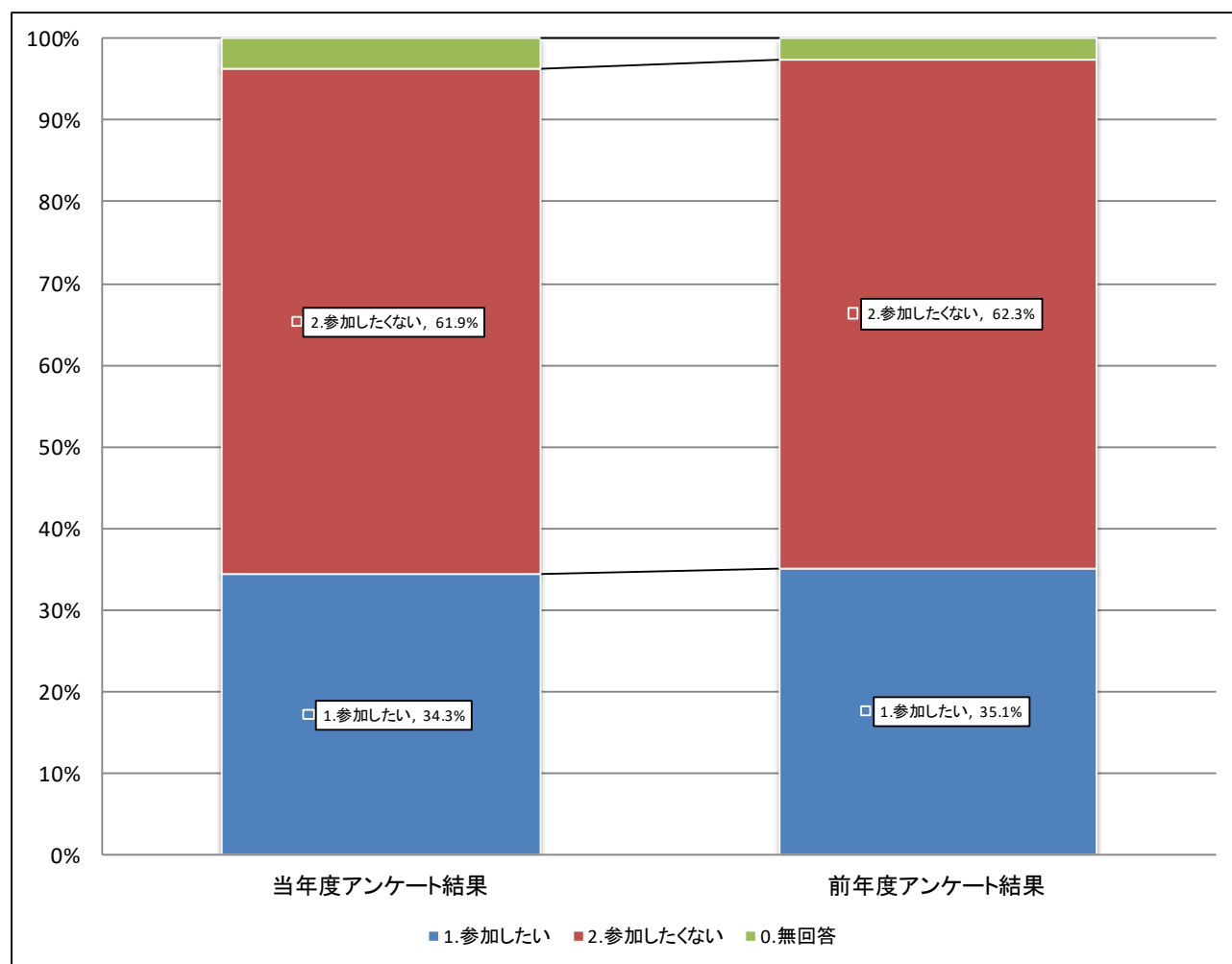
男女によって差があることがうかがえます。

➤ 地区別



地区別にみると、「興味がある」と回答した人の割合が最も少ない地区は、豊里地区 (56.0%) であり、次いで藤沢地区 (58.2%) となっています。最も多い地区は、明戸地区 (70.6%) であり、次いで南地区 (67.7%) となっています。

花と緑をいかしたまちづくり活動に参加したいですか。



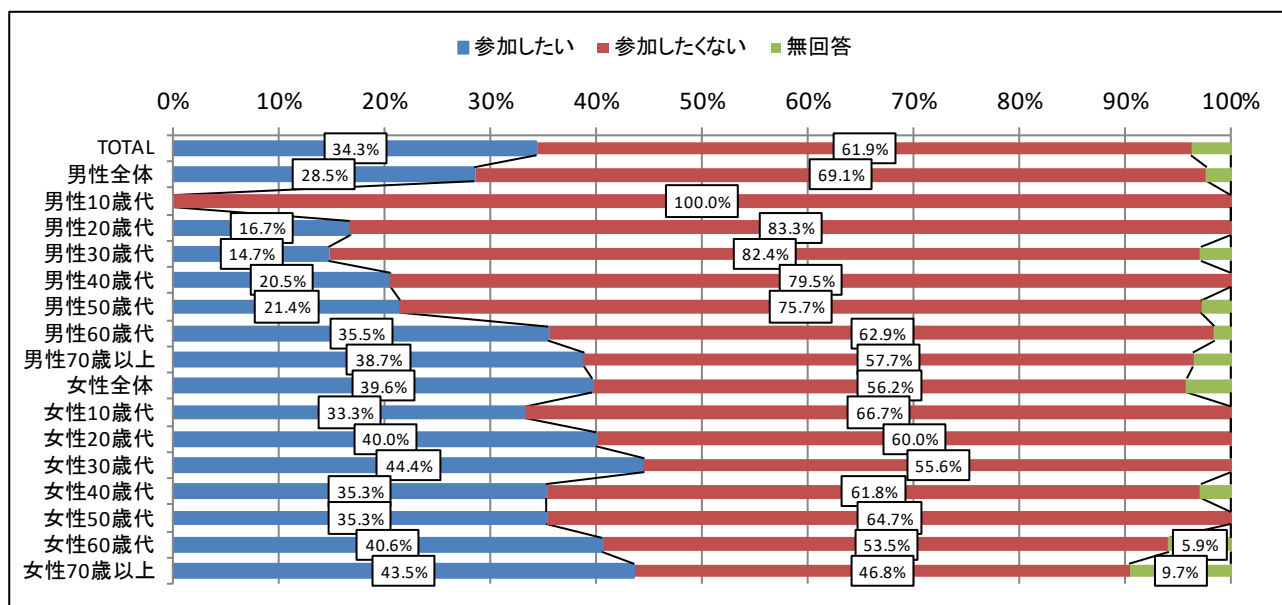
「参加したい」と回答した人の割合は 34.3%であり、「参加したくない」と回答した人の割合は 61.9%となっています。

前問の「花と緑をいかしたまちづくり活動に興味はありますか。」に対して、「興味がある」と回答した人は全体の 6 割以上を占めるものの、実際に活動に参加したい市民は約 3 割という状況がうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「参加したい」と回答した人の割合は 35.1%であり、「前年度アンケート」と比較してほぼ変化はありませんでした。

回答者数		参加したい	参加したくない	無回答	合計
TOTAL	900	34.3%	61.9%	3.8%	100.0%
男性全体	337	28.5%	69.1%	2.4%	100.0%
男性10歳代	3	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
男性20歳代	18	16.7%	83.3%	0.0%	100.0%
男性30歳代	34	14.7%	82.4%	2.9%	100.0%
男性40歳代	39	20.5%	79.5%	0.0%	100.0%
男性50歳代	70	21.4%	75.7%	2.9%	100.0%
男性60歳代	62	35.5%	62.9%	1.6%	100.0%
男性70歳以上	111	38.7%	57.7%	3.6%	100.0%
男性年代不明	0	—	—	—	—
女性全体	495	39.6%	56.2%	4.2%	100.0%
女性10歳代	3	33.3%	66.7%	0.0%	100.0%
女性20歳代	30	40.0%	60.0%	0.0%	100.0%
女性30歳代	63	44.4%	55.6%	0.0%	100.0%
女性40歳代	68	35.3%	61.8%	2.9%	100.0%
女性50歳代	102	35.3%	64.7%	0.0%	100.0%
女性60歳代	101	40.6%	53.5%	5.9%	100.0%
女性70歳以上	124	43.5%	46.8%	9.7%	100.0%
女性年代不明	4	0.0%	75.0%	25.0%	100.0%
性別無回答	68	25.0%	67.6%	7.4%	100.0%
深谷地区	233	30.5%	66.1%	3.4%	100.0%
藤沢地区	67	37.3%	61.2%	1.5%	100.0%
幡羅地区	97	37.1%	60.8%	2.1%	100.0%
明戸地区	17	23.5%	70.6%	5.9%	100.0%
大寄地区	21	23.8%	71.4%	4.8%	100.0%
八基地区	23	39.1%	60.9%	0.0%	100.0%
豊里地区	25	32.0%	60.0%	8.0%	100.0%
上柴地区	109	34.9%	62.4%	2.8%	100.0%
南地区	65	40.0%	55.4%	4.6%	100.0%
岡部地区	103	33.0%	61.2%	5.8%	100.0%
川本地区	53	41.5%	56.6%	1.9%	100.0%
花園地区	70	40.0%	54.3%	5.7%	100.0%
無回答	17	17.6%	70.6%	11.8%	100.0%

➤ 性別・年齢別

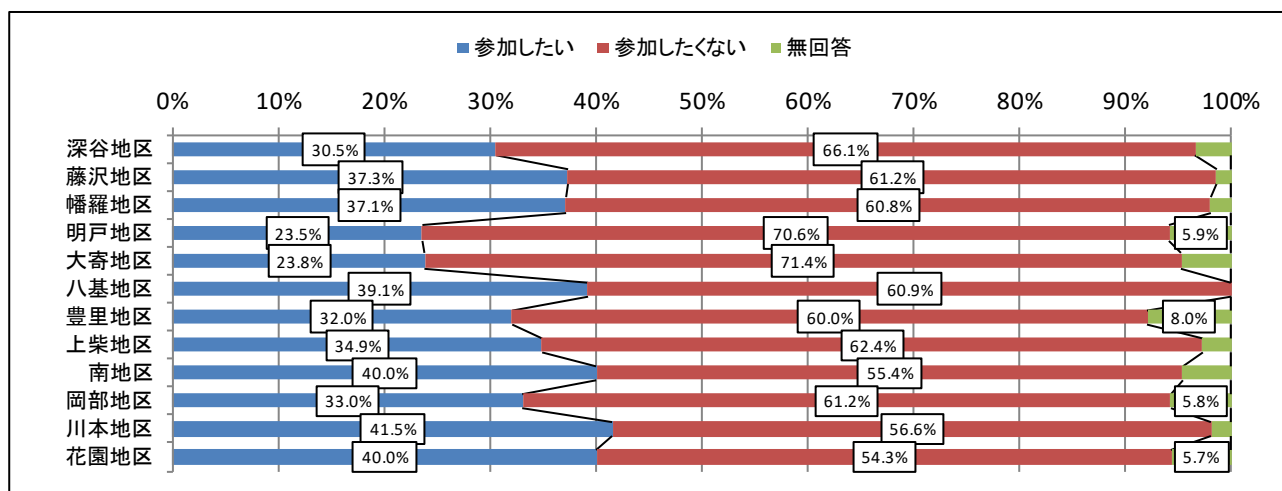


性別・年齢別にみると、「参加したい」と回答した人の割合は、男性が 28.5%であるのに対して、女性は 39.6%となっています。

また、「参加したい」と回答した人の割合が最も少ない年齢は、男性 10 歳代 (0.0%)、女性 10 歳代 (33.3%) であり、最も多い年齢は、男性 70 歳以上 (38.7%)、女性 30 歳代 (44.4%) となっています。

男女によって差があることがうかがえます。

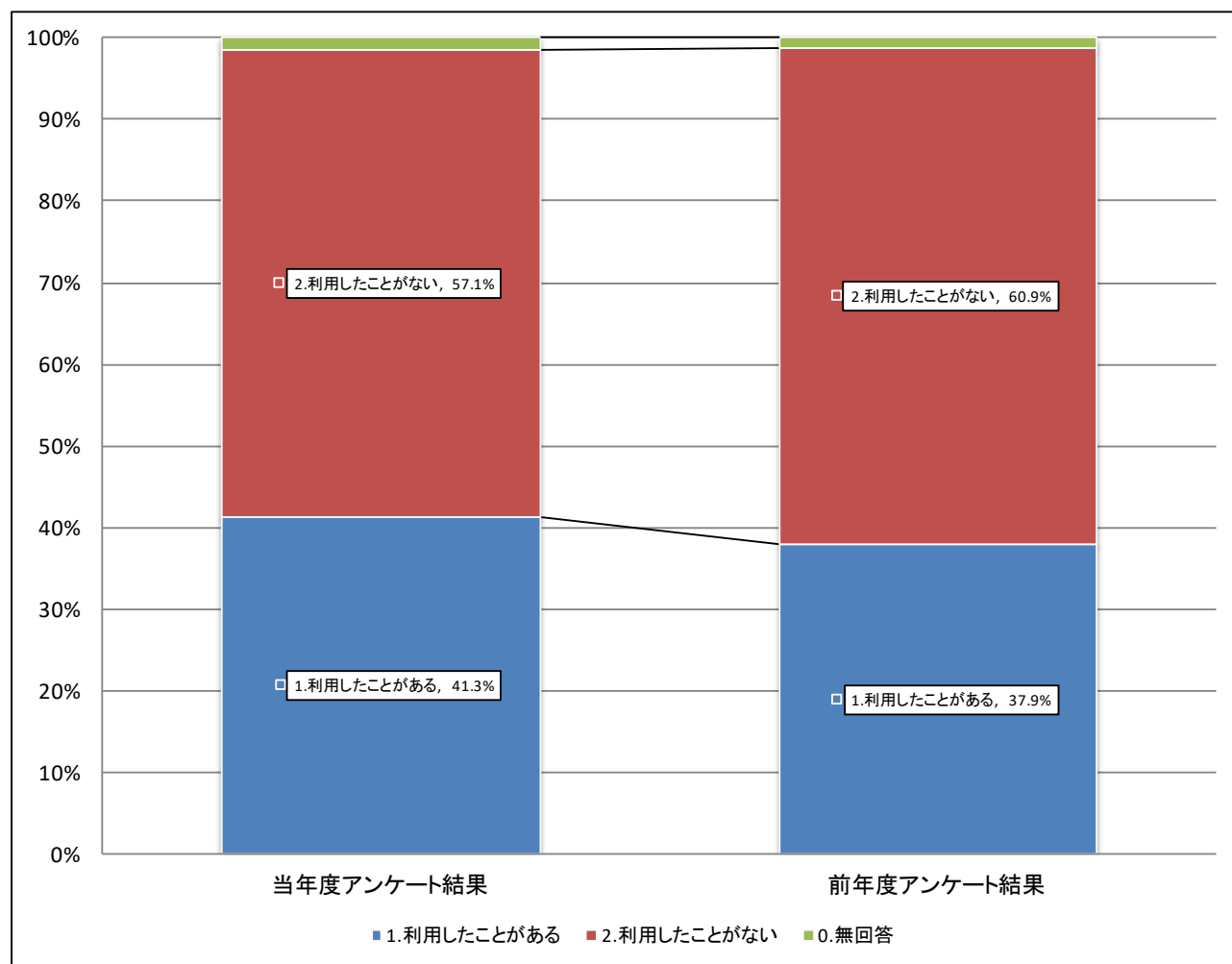
➤ 地区別



地区別にみると、「参加したい」と回答した人の割合が最も少ない地区は、明戸地区 (23.5%) であり、次いで大寄地区 (23.8%) となっています。最も多い地区は、川本地区 (41.5%) であり、次いで南地区・花園地区ともに (40.0%) となっています。

⑤ 行財政運営の推進（７．問１３～１４）

市のオンラインサービスを利用したことがありますか。（例：各種申請手続き、相談、イベント参加、コンビニ交付など）



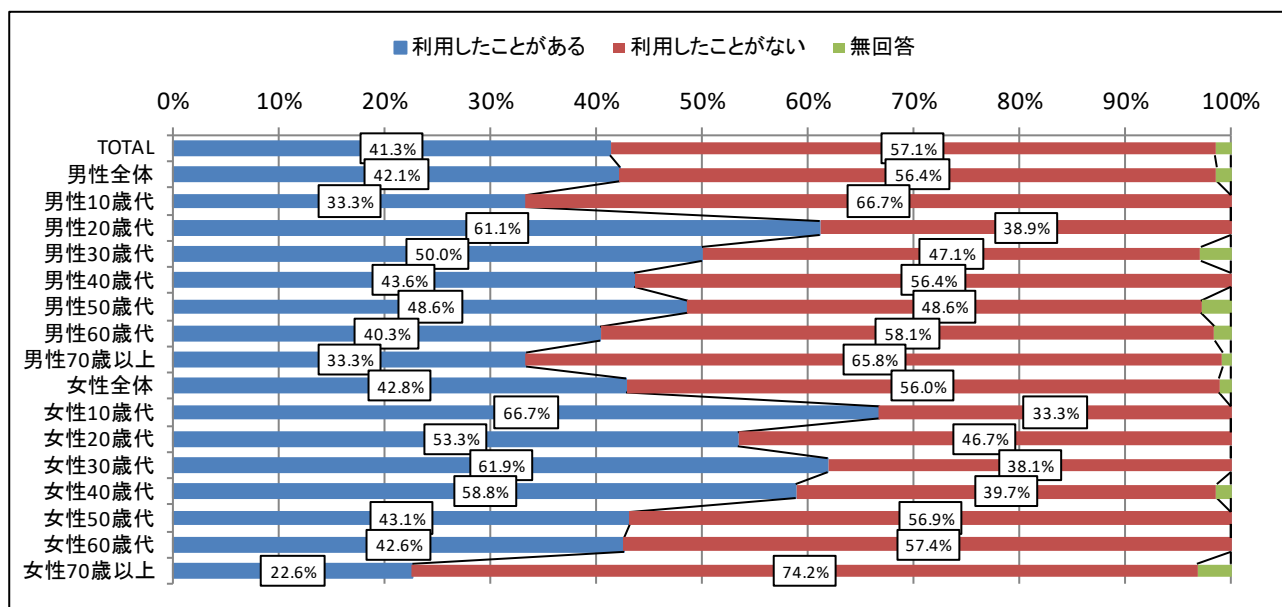
「利用したことがある」と回答した人の割合は 41.3%、「利用したことがない」と回答した人の割合は 57.1%となっています。

市のオンラインサービスを利用したことがある市民は約 4 割という状況がうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「利用したことがある」と回答した人の割合は 37.9%であり、「前年度アンケート」と比較して増加しています。

回答者数		利用したことがある	利用したことがない	無回答	合計
TOTAL	900	41.3%	57.1%	1.6%	100.0%
男性全体	337	42.1%	56.4%	1.5%	100.0%
男性10歳代	3	33.3%	66.7%	0.0%	100.0%
男性20歳代	18	61.1%	38.9%	0.0%	100.0%
男性30歳代	34	50.0%	47.1%	2.9%	100.0%
男性40歳代	39	43.6%	56.4%	0.0%	100.0%
男性50歳代	70	48.6%	48.6%	2.9%	100.0%
男性60歳代	62	40.3%	58.1%	1.6%	100.0%
男性70歳以上	111	33.3%	65.8%	0.9%	100.0%
男性年代不明	0	—	—	—	—
女性全体	495	42.8%	56.0%	1.2%	100.0%
女性10歳代	3	66.7%	33.3%	0.0%	100.0%
女性20歳代	30	53.3%	46.7%	0.0%	100.0%
女性30歳代	63	61.9%	38.1%	0.0%	100.0%
女性40歳代	68	58.8%	39.7%	1.5%	100.0%
女性50歳代	102	43.1%	56.9%	0.0%	100.0%
女性60歳代	101	42.6%	57.4%	0.0%	100.0%
女性70歳以上	124	22.6%	74.2%	3.2%	100.0%
女性年代不明	4	0.0%	75.0%	25.0%	100.0%
性別無回答	68	26.5%	69.1%	4.4%	100.0%
深谷地区	233	41.6%	57.1%	1.3%	100.0%
藤沢地区	67	38.8%	59.7%	1.5%	100.0%
幡羅地区	97	44.3%	53.6%	2.1%	100.0%
明戸地区	17	29.4%	64.7%	5.9%	100.0%
大寄地区	21	28.6%	71.4%	0.0%	100.0%
八基地区	23	43.5%	56.5%	0.0%	100.0%
豊里地区	25	40.0%	60.0%	0.0%	100.0%
上柴地区	109	52.3%	47.7%	0.0%	100.0%
南地区	65	43.1%	56.9%	0.0%	100.0%
岡部地区	103	39.8%	57.3%	2.9%	100.0%
川本地区	53	39.6%	58.5%	1.9%	100.0%
花園地区	70	27.1%	70.0%	2.9%	100.0%
無回答	17	52.9%	41.2%	5.9%	100.0%

➤ 性別・年齢別

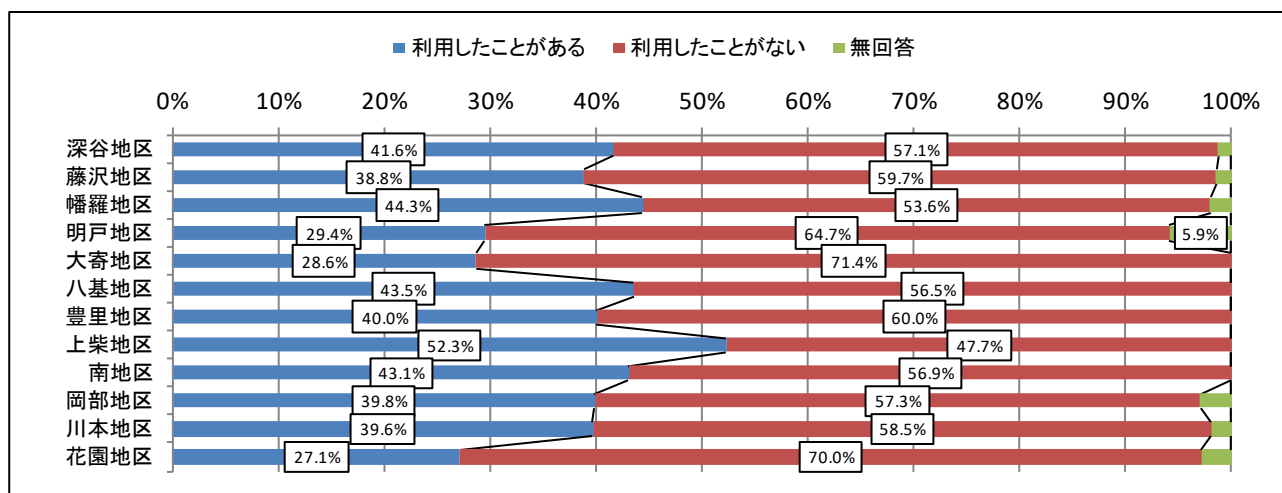


性別・年齢別にみると、「利用したことがある」と回答した人の割合は、男性が 42.1% であるのに対して、女性は 42.8% となっています。

また、「利用したことがある」と回答した人の割合が最も少ない年齢は、男性 10 歳代・70 歳以上ともに (33.3%)、女性 70 歳以上 (22.6%) であり、一方で最も多い年齢は、男性 20 歳代 (61.1%)、女性 10 歳代 (66.7%) となっています。

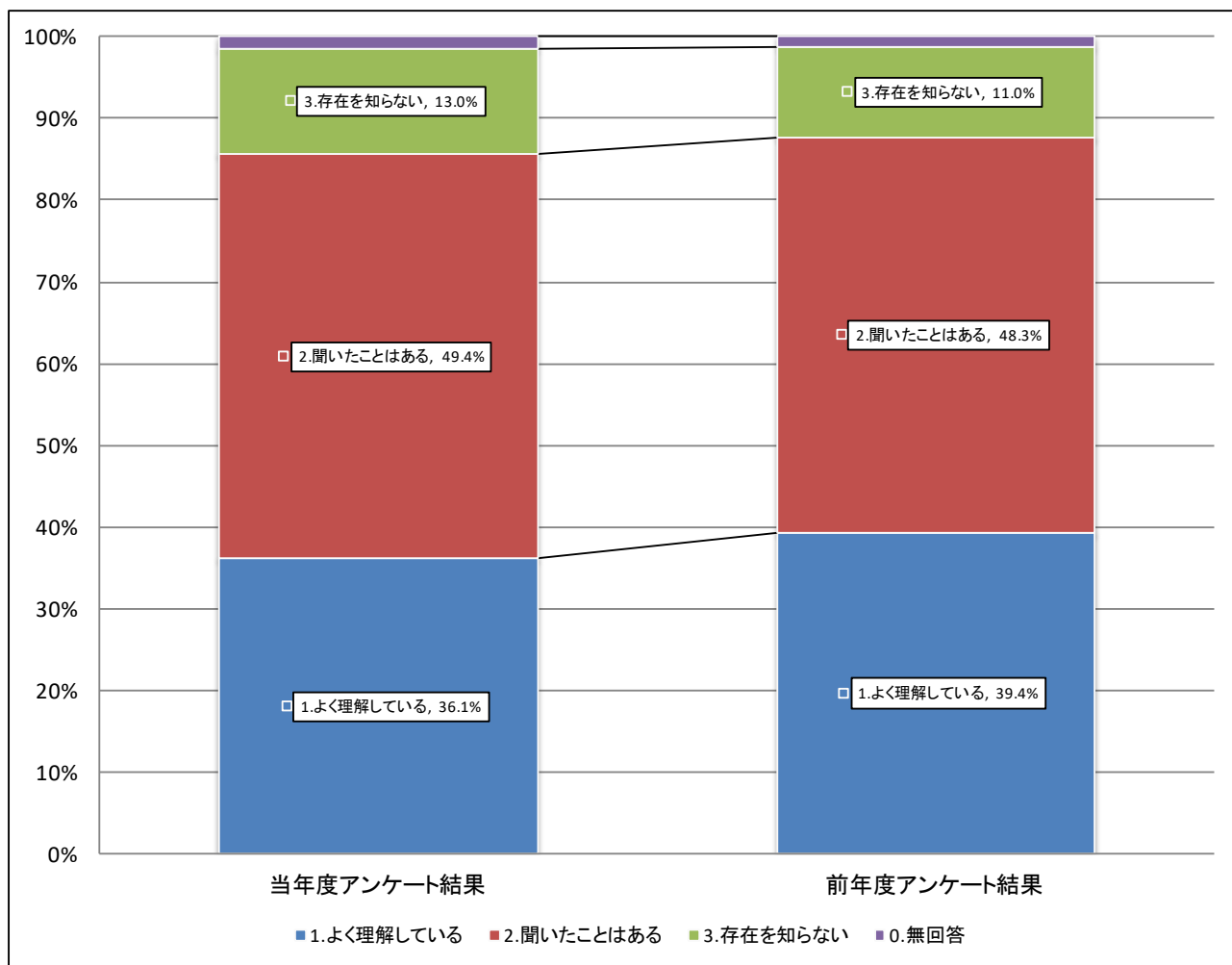
年齢によって差があることがうかがえます。

➤ 地区別



地区別にみると、「利用したことがある」と回答した人の割合が最も少ない地区は、花園地区 (27.1%) であり、次いで大寄地区 (28.6%) となっています。最も多い地区は、上柴地区 (52.3%) であり、次いで幡羅地区 (44.3%) となっています。

「SDGs」という言葉を知っていますか。



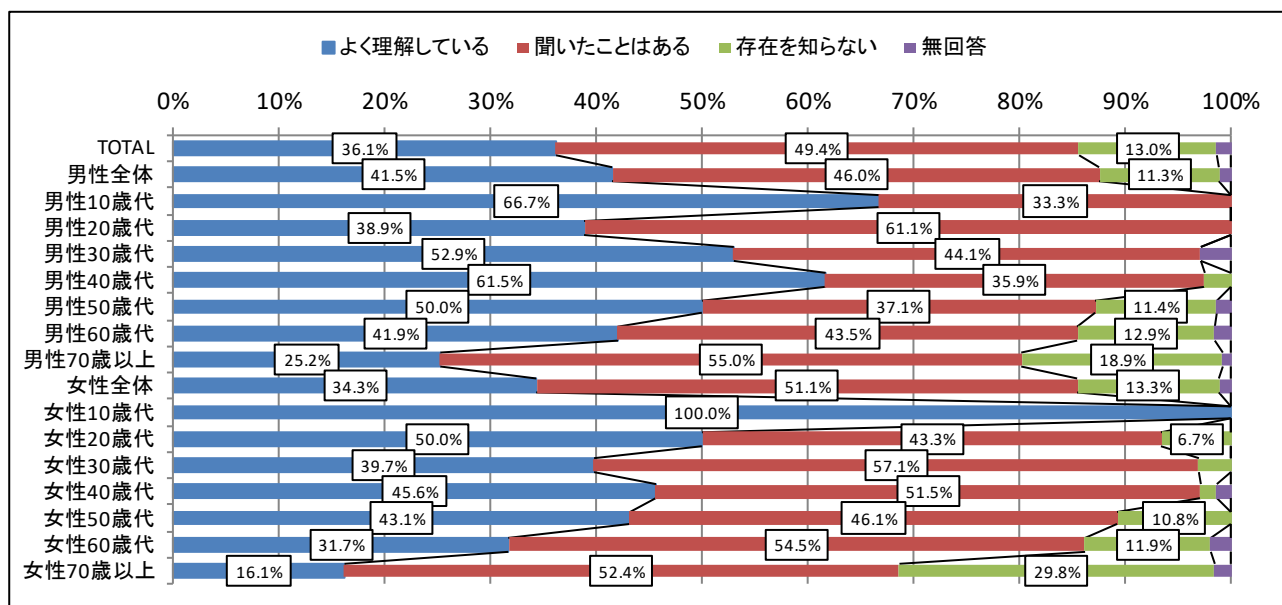
「聞いたことはある」と回答した人の割合が 49.4%と最も多く、次いで「よく理解している」と回答した人の割合が 36.1%、「存在を知らない」と回答した人の割合が最も少なく 13.0%となっています。

「よく理解している」または「聞いたことはある」と回答した人の割合の合計は 85.5%であり、9割近くの市民が「SDGs」という言葉を知っていることがうかがえます。

また、「前年度アンケート」の結果は、「よく理解している」または「聞いたことはある」と回答した人の割合の合計は 87.7%であり、「前年度アンケート」と比較してわずかに減少しています。

回答者数		よく理解している	聞いたことはある	存在を知らない	無回答	合計
TOTAL	900	36.1%	49.4%	13.0%	1.4%	100.0%
男性全体	337	41.5%	46.0%	11.3%	1.2%	100.0%
男性10歳代	3	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	100.0%
男性20歳代	18	38.9%	61.1%	0.0%	0.0%	100.0%
男性30歳代	34	52.9%	44.1%	0.0%	2.9%	100.0%
男性40歳代	39	61.5%	35.9%	2.6%	0.0%	100.0%
男性50歳代	70	50.0%	37.1%	11.4%	1.4%	100.0%
男性60歳代	62	41.9%	43.5%	12.9%	1.6%	100.0%
男性70歳以上	111	25.2%	55.0%	18.9%	0.9%	100.0%
男性年代不明	0	—	—	—	—	—
女性全体	495	34.3%	51.1%	13.3%	1.2%	100.0%
女性10歳代	3	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
女性20歳代	30	50.0%	43.3%	6.7%	0.0%	100.0%
女性30歳代	63	39.7%	57.1%	3.2%	0.0%	100.0%
女性40歳代	68	45.6%	51.5%	1.5%	1.5%	100.0%
女性50歳代	102	43.1%	46.1%	10.8%	0.0%	100.0%
女性60歳代	101	31.7%	54.5%	11.9%	2.0%	100.0%
女性70歳以上	124	16.1%	52.4%	29.8%	1.6%	100.0%
女性年代不明	4	0.0%	50.0%	25.0%	25.0%	100.0%
性別無回答	68	22.1%	54.4%	19.1%	4.4%	100.0%
深谷地区	233	37.8%	45.9%	15.0%	1.3%	100.0%
藤沢地区	67	37.3%	50.7%	10.4%	1.5%	100.0%
幡羅地区	97	41.2%	48.5%	9.3%	1.0%	100.0%
明戸地区	17	23.5%	52.9%	17.6%	5.9%	100.0%
大寄地区	21	47.6%	33.3%	19.0%	0.0%	100.0%
八基地区	23	17.4%	47.8%	34.8%	0.0%	100.0%
豊里地区	25	16.0%	72.0%	12.0%	0.0%	100.0%
上柴地区	109	42.2%	51.4%	6.4%	0.0%	100.0%
南地区	65	41.5%	46.2%	12.3%	0.0%	100.0%
岡部地区	103	35.0%	52.4%	9.7%	2.9%	100.0%
川本地区	53	24.5%	60.4%	13.2%	1.9%	100.0%
花園地区	70	34.3%	41.4%	21.4%	2.9%	100.0%
無回答	17	23.5%	64.7%	5.9%	5.9%	100.0%

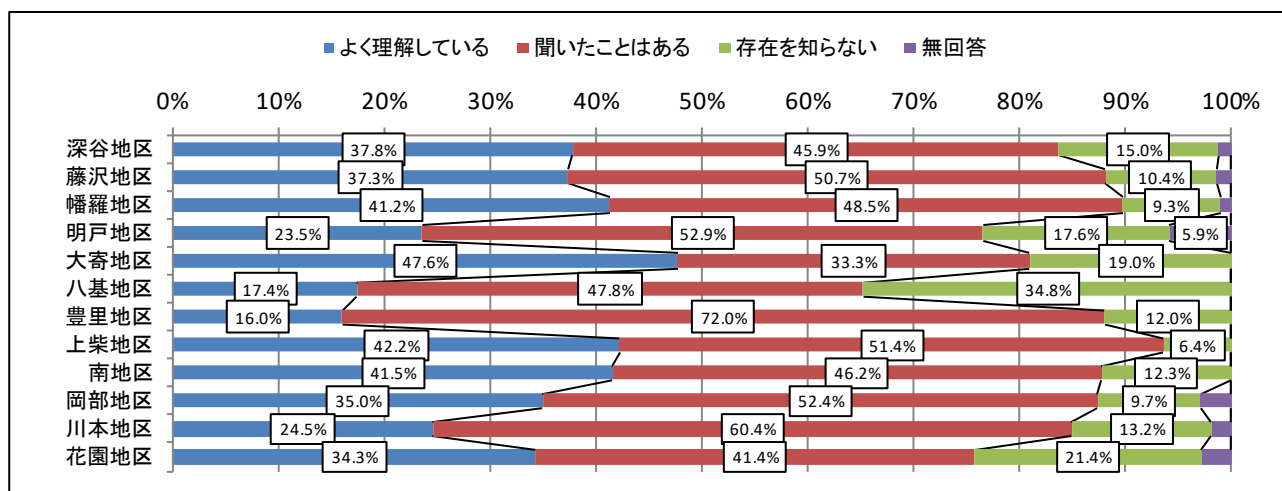
➤ 性別・年齢別



性別・年齢別にみると、「よく理解している」または「聞いたことはある」と回答した人の割合の合計は、男性が87.5%であるのに対して、女性は85.4%となっています。

また、「よく理解している」または「聞いたことはある」と回答した人の割合の合計が最も少ない年齢は、男性70歳以上（80.2%）、女性70歳以上（68.5%）であり、一方で最も多い年齢は、男性10歳代・20歳代ともに（100.0%）、女性10歳代（100.0%）となっています。

➤ 地区別



地区別にみると、「よく理解している」または「聞いたことはある」と回答した人の割合の合計が最も少ない地区は八基地区（65.2%）であり、次いで花園地区（75.7%）となっています。最も多い地区は上柴地区（93.6%）であり、次いで幡羅地区（89.7%）となっています。

3. 深谷市の施策について

深谷市が行っている施策を重要度と満足度を軸とし、i) 重要度・満足度ともに高い施策、ii) 重要度が高く、満足度が低い施策、iii) 重要度が低く、満足度が高い施策、iv) 重要度・満足度ともに低い施策の4つに分類し、施策の優先順位付けのための分析を実施しました。

なお、重要度・満足度の得点の算出方法につきましては、P. 2の1. アンケート調査の実施方法に記載されている注意書きをご参照ください。

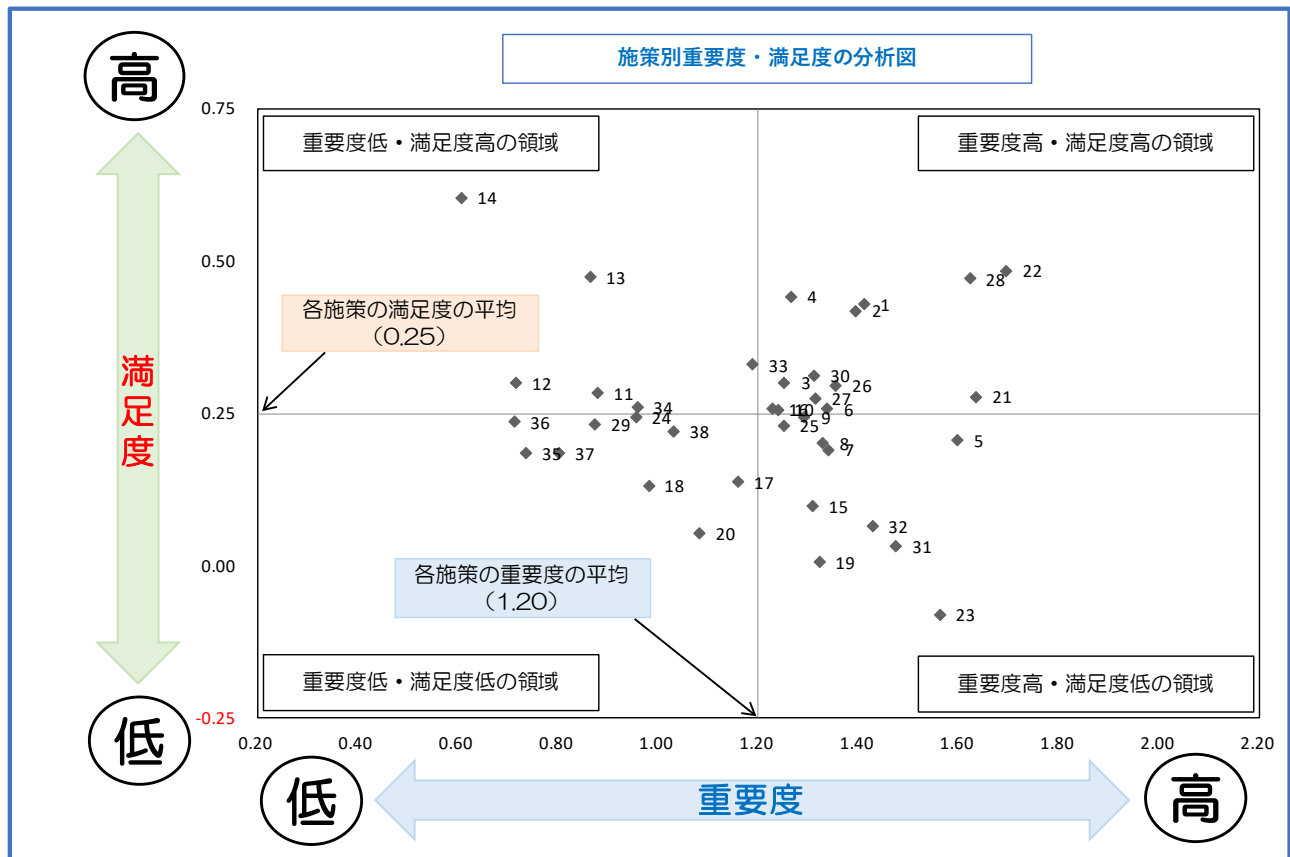
(1) 深谷市全体

① 施策別重要度・満足度一覧

施策			重要度	満足度
1.子育て・保健・福祉	1	子育て支援の充実	1.41	0.43
	2	保育環境の充実	1.39	0.42
	3	青少年の健全育成の推進	1.25	0.30
	4	健康づくりの推進	1.26	0.44
	5	地域医療体制の充実	1.60	0.21
	6	地域福祉の推進	1.34	0.26
	7	高齢者福祉の推進	1.34	0.19
	8	障害者福祉の推進	1.33	0.20
2.教育・文化	9	「生きる力」を育む学校教育の推進	1.29	0.24
	10	家庭・地域・学校の連携と協働による教育力の向上	1.24	0.26
	11	生涯学習の推進	0.88	0.28
	12	スポーツ・レクリエーションの推進	0.72	0.30
	13	郷土の歴史・文化の継承と活用	0.86	0.47
	14	渋沢栄一の顕彰と精神の継承	0.61	0.60
3.産業振興	15	農地の保全・活用と安定した農業経営の支援	1.31	0.10
	16	農畜産物の販売流通体制の充実	1.23	0.26
	17	商工業の振興	1.16	0.14
	18	観光資源の整備と活用	0.98	0.13
	19	就労環境の整備	1.32	0.01
	20	産業価値の創出	1.08	0.05
4.暮らし・環境	21	災害に強い防災体制の推進	1.63	0.28
	22	消防・救急体制の充実	1.69	0.48
	23	防犯・空き家対策の推進	1.56	(0.08)
	24	地域コミュニティの推進	0.95	0.24
	25	自然・生活環境の保全	1.25	0.23
	26	環境衛生の推進	1.35	0.30
5.都市・生活基礎	27	良好な市街地・住環境形成の推進	1.31	0.28
	28	水の安定供給と下水処理の適正化	1.62	0.47
	29	地域の特色を生かした魅力ある景観形成	0.87	0.23
	30	治水対策の推進	1.31	0.31
	31	道路・交通環境整備の推進	1.47	0.03
	32	公共交通の維持確保と交通安全の推進	1.43	0.07
6.協働・行政経営	33	人権・個性が尊重される社会づくりの推進	1.19	0.33
	34	男女共同参画の実現	0.96	0.26
	35	移住・定住の推進	0.74	0.19
	36	市民との協働・交流の推進	0.71	0.24
	37	行政デジタル化の推進	0.80	0.19
	38	行財政運営の推進	1.03	0.22
平均値			1.20	0.25

重要度の平均値は 1.20 であり、深谷市の実施している施策について、全体的にみて、重要度が高いと認識している市民が多いことがうかがえます。一方で、満足度の平均値は 0.25 と重要度の平均値に比べて低く、行政サービスと市民の期待との間にギャップがあることがうかがえます。

② 施策別重要度・満足度の分布状況



【重要度・満足度マトリックス表】

＜重要度低・満足度高＞		＜重要度高・満足度高＞	
11	生涯学習の推進	1	子育て支援の充実
12	スポーツ・レクリエーションの推進	2	保育環境の充実
13	郷土の歴史・文化の継承と活用	3	青少年の健全育成の推進
14	渋沢栄一の顕彰と精神の継承	4	健康づくりの推進
33	人権・個性が尊重される社会づくりの推進	6	地域福祉の推進
34	男女共同参画の実現	10	家庭・地域・学校の連携と協働による教育力の向上
		16	農畜産物の販売流通体制の充実
		21	災害に強い防災体制の推進
		22	消防・救急体制の充実
		26	環境衛生の推進
		27	良好な市街地・住環境形成の推進
		28	水の安定供給と下水処理の適正化
		30	治水対策の推進
＜重要度低・満足度低＞		＜重要度高・満足度低＞	
17	商工業の振興	5	地域医療体制の充実
18	観光資源の整備と活用	7	高齢者福祉の推進
20	産業価値の創出	8	障害者福祉の推進
24	地域コミュニティの推進	9	「生きる力」を育む学校教育の推進
29	地域の特色を生かした魅力ある景観形成	15	農地の保全・活用と安定した農業経営の支援
35	移住・定住の推進	19	就労環境の整備
36	市民との協働・交流の推進	23	防犯・空き家対策の推進
37	行政デジタル化の推進	25	自然・生活環境の保全
38	行財政運営の推進	31	道路・交通環境整備の推進
		32	公共交通の維持確保と交通安全の推進

全施策における重要度・満足度の平均値を基準とし、重要度・満足度を＜重要度高・満足度高＞、＜重要度高・満足度低＞、＜重要度低・満足度高＞、＜重要度低・満足度低＞の4つに分類し、各施策の重要度および満足度の現状値を相対的に評価しました。

＜重要度高・満足度高＞

全施策のうち、相対的に重要度が高く、満足度も高い領域には「1. 子育て支援の充実」、「2. 保育環境の充実」、「3. 青少年の健全育成の推進」、「4. 健康づくりの推進」、「6. 地域福祉の推進」、「10. 家庭・地域・学校の連携と協働による教育力の向上」、「16. 農畜産物の販売流通体制の充実」、「21. 災害に強い防災体制の推進」、「22. 消防・救急体制の充実」、「26. 環境衛生の推進」、「27. 良好な市街地・住環境形成の推進」、「28. 水の安定供給と下水処理の適正化」、「30. 治水対策の推進」の13施策が該当します。

この領域にある施策は、他の施策と比較し、市民ニーズに即していることがうかがえ、今後も引き続き重点施策として優先して位置づけ、取り組んでいく必要がある施策といえます。

＜重要度高・満足度低＞

全施策のうち、相対的に重要度が高く、満足度が低い領域には、「5. 地域医療体制の充実」、「7. 高齢者福祉の推進」、「8. 障害者福祉の推進」、「9. 「生きる力」を育む学校教育の推進」、「15. 農地の保全・活用と安定した農業経営の支援」、「19. 就労環境の整備」、「23. 防犯・空き家対策の推進」、「25. 自然・生活環境の保全」、「31. 道路・交通環境整備の推進」、「32. 公共交通の維持確保と交通安全の推進」の10施策が該当します。

この領域にある施策は、他の施策と比較し、市民ニーズがあるにもかかわらず、行政としてその期待に応えていないことがうかがえます。これらの施策については、施策のあり方を見直す必要性が高い施策であるといえます。

＜重要度低・満足度高＞

全施策のうち、相対的に重要度が低く、満足度が高い領域には、「11. 生涯学習の推進」、「12. スポーツ・レクリエーションの推進」、「13. 郷土の歴史・文化の継承と活用」、「14. 渋沢栄一の顕彰と精神の継承」、「33. 人権・個性が尊重される社会づくりの推進」、「34. 男女共同参画の実現」の6施策が該当します。

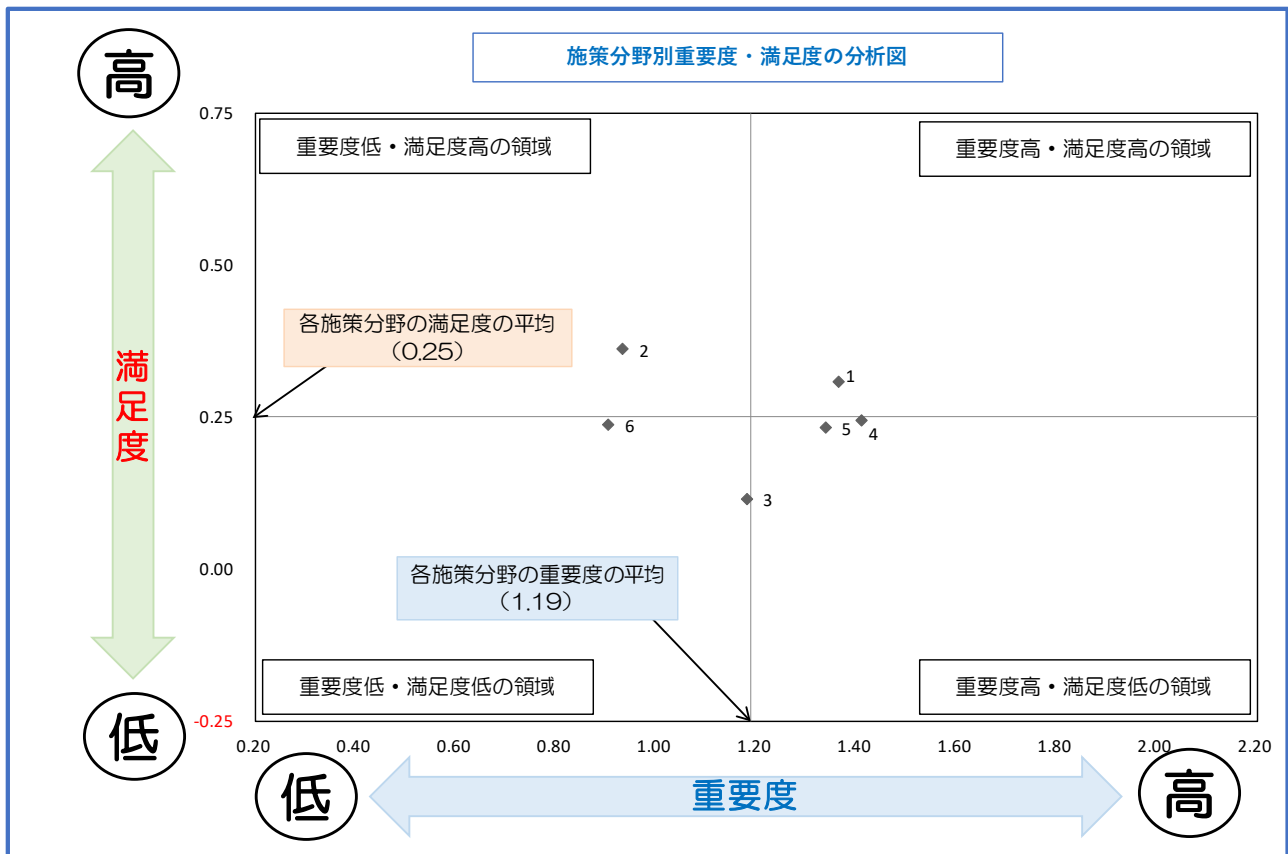
この領域にある施策は、他の施策と比較し、市民ニーズを上回る行政サービスを提供している可能性もあり、行政サービスの提供が過剰となっていないかどうか確認する必要があります。

＜重要度低・満足度低＞

全施策のうち、相対的に重要度が低く、満足度も低い領域には、「17. 商工業の振興」、「18. 観光資源の整備と活用」、「20. 産業価値の創出」、「24. 地域コミュニティの推進」、「29. 地域の特色を生かした魅力ある景観形成」、「35. 移住・定住の推進」、「36. 市民との協働・交流の推進」、「37. 行政デジタル化の推進」、「38. 行財政運営の推進」の9施策が該当します。

この領域にある施策は、他の施策と比較し、市民の関心度が低い施策であり、そもそも行政で対応すべきであるのかについて検討する必要があります。

③ 施策分野別重要度・満足度の分布状況



【重要度・満足度マトリックス表】

<重要度低・満足度高>		<重要度高・満足度高>	
2	教育・文化	1	子育て・保健・福祉
<重要度低・満足度低>		<重要度高・満足度低>	
3	産業振興	4	暮らし・環境
6	協働・行政経営	5	都市・生活基礎

全施策分野における重要度・満足度の平均値を基準とし、重要度・満足度を＜重要度高・満足度高＞、＜重要度高・満足度低＞、＜重要度低・満足度高＞、＜重要度低・満足度低＞の４つに分類し、各施策分野の重要度および満足度の現状値を相対的に評価しました。

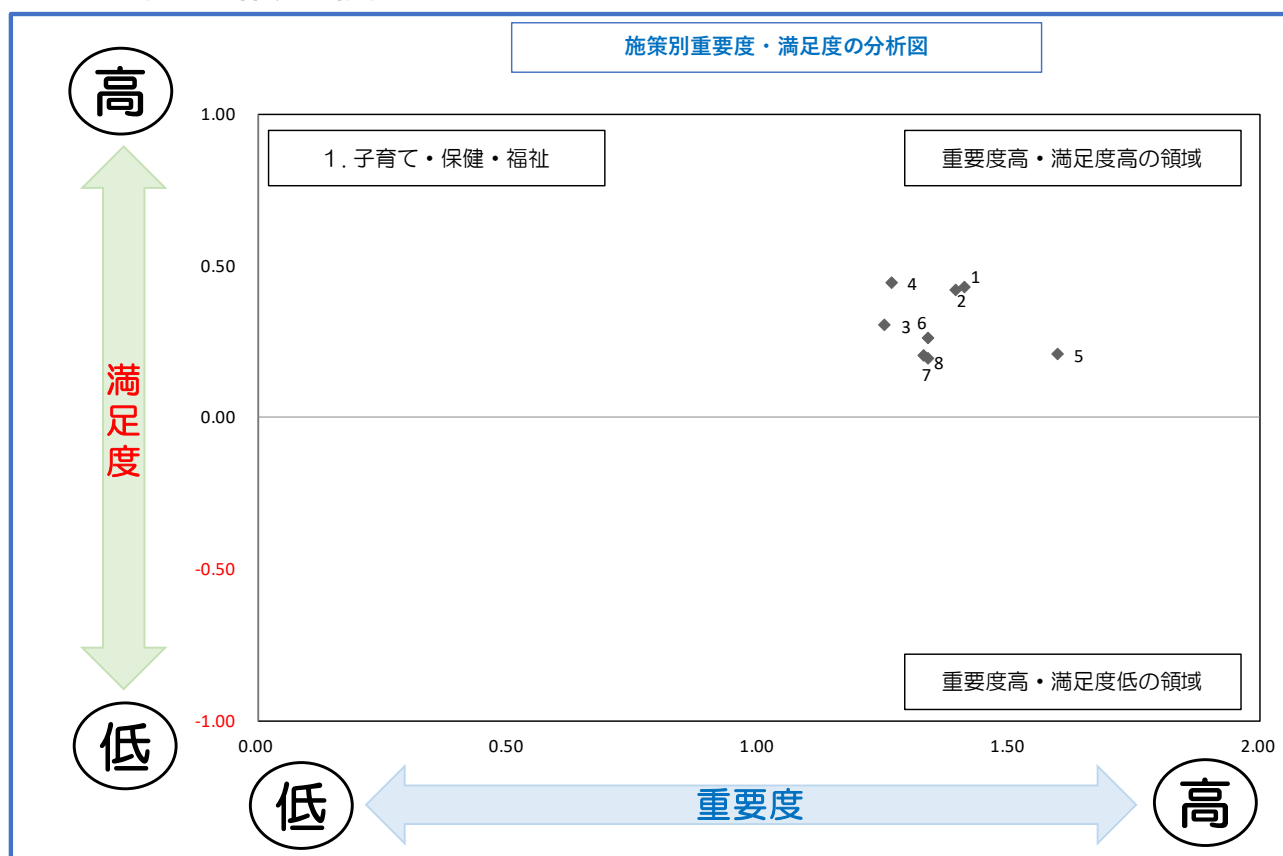
＜重要度高・満足度高＞に分類される施策分野は、
全施策分野のうち、相対的に重要度および満足度の双方が高い施策分野であり、
「1. 子育て・保健・福祉」の１分野が該当します。

＜重要度高・満足度低＞に分類される施策分野は、
全施策分野のうち、相対的に重要度は高いものの、満足度が低い施策分野であり、
「4. 暮らし・環境」、「5. 都市・生活基礎」の２分野が該当します。

＜重要度低・満足度高＞に分類される施策分野は、
全施策分野のうち、相対的に重要度は低いものの、満足度が高い施策分野であり、
「2. 教育・文化」の１分野が該当します。

＜重要度低・満足度低＞に分類される施策分野は、
全施策分野のうち、相対的に重要度および満足度の双方が低い施策分野であり、
「3. 産業振興」、「6. 協働・行政経営」の２分野が該当します。

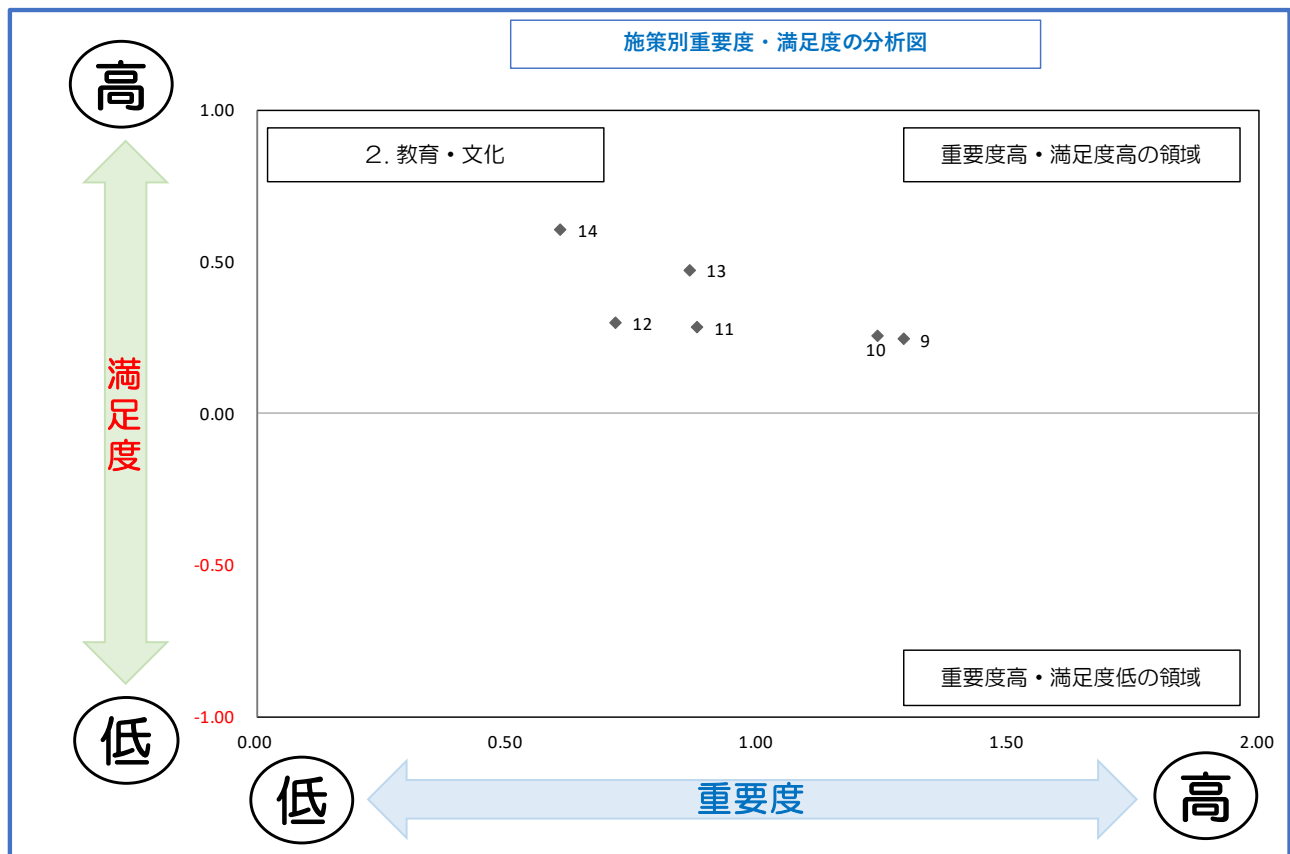
< 1. 子育て・保健・福祉 >



子育て・保健・福祉分野に係る施策は8施策あり、「1. 子育て支援の充実」、「2. 保育環境の充実」、「3. 青少年の健全育成の推進」、「4. 健康づくりの推進」、「5. 地域医療体制の充実」、「6. 地域福祉の推進」、「7. 高齢者福祉の推進」、「8. 障害者福祉の推進」、すべての施策が重要度高・満足度高に分類されています。

子育て・保健・福祉分野の中で、重要度が最も高かった施策は、「5. 地域医療体制の充実」、最も低かった施策は「3. 青少年の健全育成の推進」となりました。また、満足度が最も高かった施策は「4. 健康づくりの推進」、最も低かった施策は「7. 高齢者福祉の推進」となりました。

＜ 2. 教育・文化＞

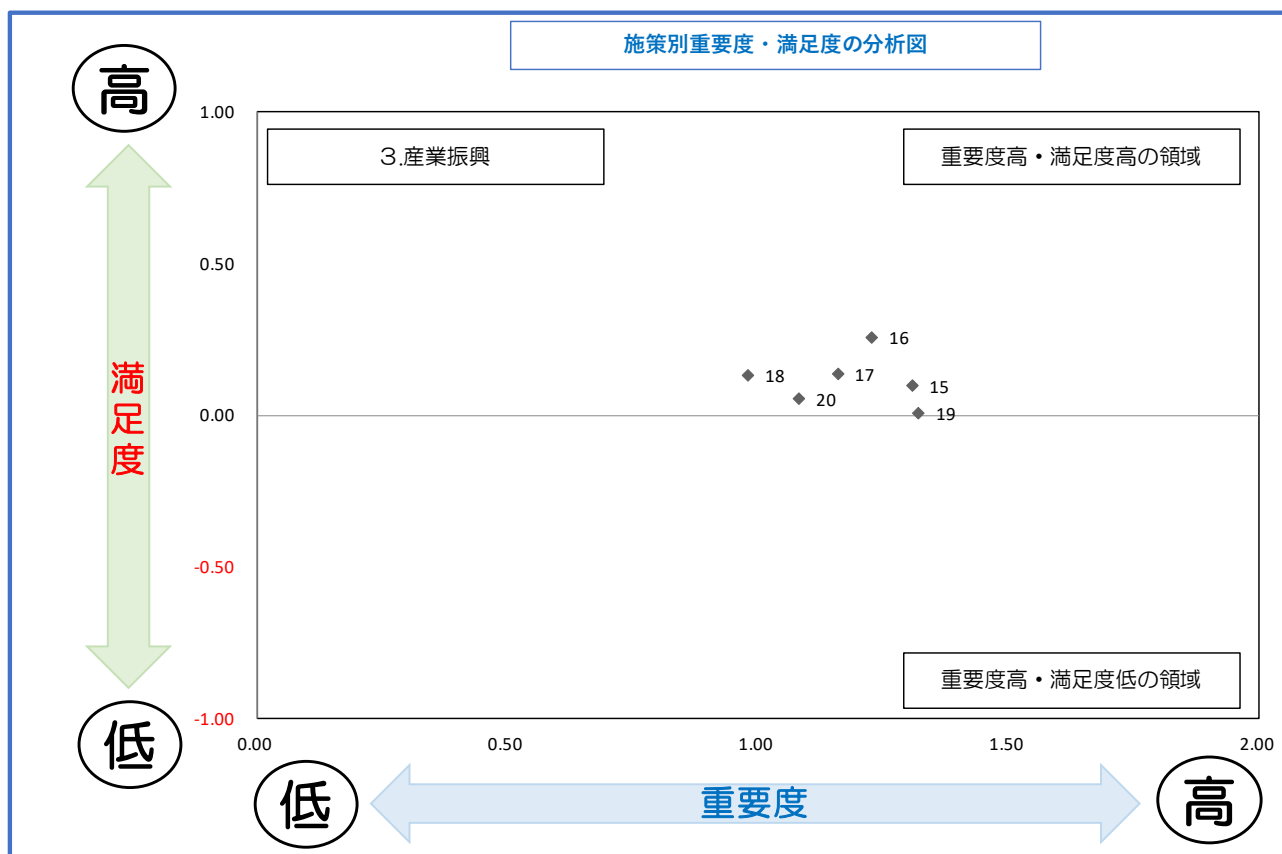


教育・文化分野に係る施策は6施策あり、「9. 「生きる力」を育む学校教育の推進」、「10. 家庭・地域・学校の連携と協働による教育力の向上」、「11. 生涯学習の推進」、「12. スポーツ・レクリエーションの推進」、「13. 郷土の歴史・文化の継承と活用」、「14. 渋沢栄一の顕彰と精神の継承」、すべての施策が重要度高・満足度高に分類されています。

教育・文化分野の中で、重要度が最も高かった施策は、「9. 「生きる力」を育む学校教育の推進」、最も低かった施策は「14. 渋沢栄一の顕彰と精神の継承」となりました。また、満足度が最も高かった施策は「14. 渋沢栄一の顕彰と精神の継承」、最も低かった施策は「9. 「生きる力」を育む学校教育の推進」となりました。

「9. 「生きる力」を育む学校教育の推進」は重要度が高い施策であるものの、満足度は低いことがうかがえます。また、「14. 渋沢栄一の顕彰と精神の継承」は満足度が高い施策であるものの、重要度は低いことがうかがえます。

< 3. 産業振興 >



産業振興分野に係る施策は6施策あり、「15. 農地の保全・活用と安定した農業経営の支援」、「16. 農畜産物の販売流通体制の充実」、「17. 商工業の振興」、「18. 観光資源の整備と活用」、「19. 就労環境の整備」、「20. 産業価値の創出」、すべての施策が重要度高・満足度高に分類されています。

産業振興分野の中で、重要度が最も高かった施策は、「19. 就労環境の整備」、最も低かった施策は「18. 観光資源の整備と活用」となりました。また、満足度が最も高かった施策は「16. 農畜産物の販売流通体制の充実」、最も低かった施策は「19. 就労環境の整備」となりました。

「19. 就労環境の整備」は重要度が高い施策であるものの、満足度は低いことがうかがえます。

< 4. 暮らし・環境 >

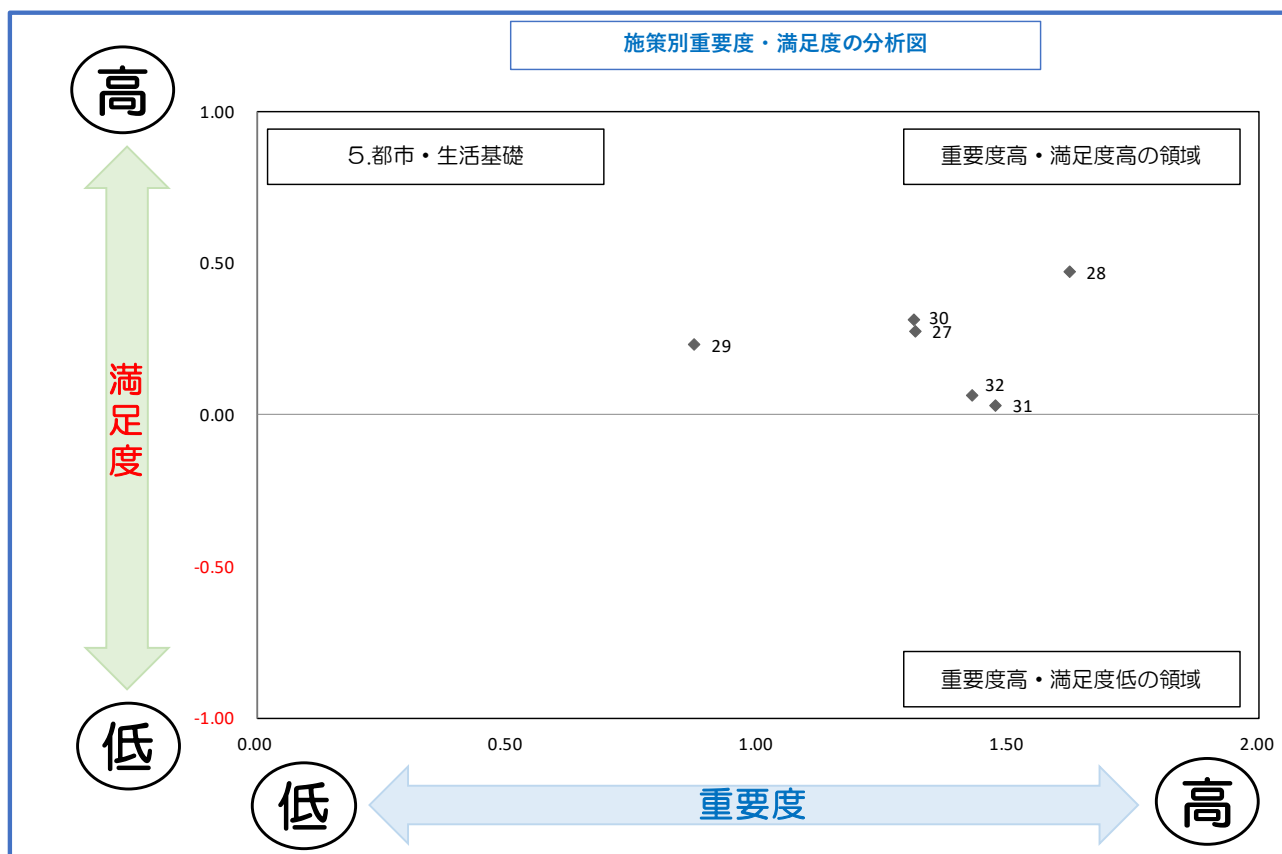


暮らし・環境分野に係る施策は6施策あり、「21. 災害に強い防災体制の推進」、「22. 消防・救急体制の充実」、「24. 地域コミュニティの推進」、「25. 自然・生活環境の保全」、「26. 環境衛生の推進」の5施策が重要度高・満足度高に分類されています。また、「23. 防犯・空き家対策の推進」の1施策は重要度高・満足度低に分類されています。

暮らし・環境分野の中で、重要度が最も高かった施策は、「22. 消防・救急体制の充実」、最も低かった施策は「24. 地域コミュニティの推進」となりました。また、満足度が最も高かった施策は「22. 消防・救急体制の充実」、最も低かった施策は「23. 防犯・空き家対策の推進」となりました。

「22. 消防・救急体制の充実」は重要度および満足度の双方が高い施策であることがうかがえます。

< 5. 都市・生活基礎 >

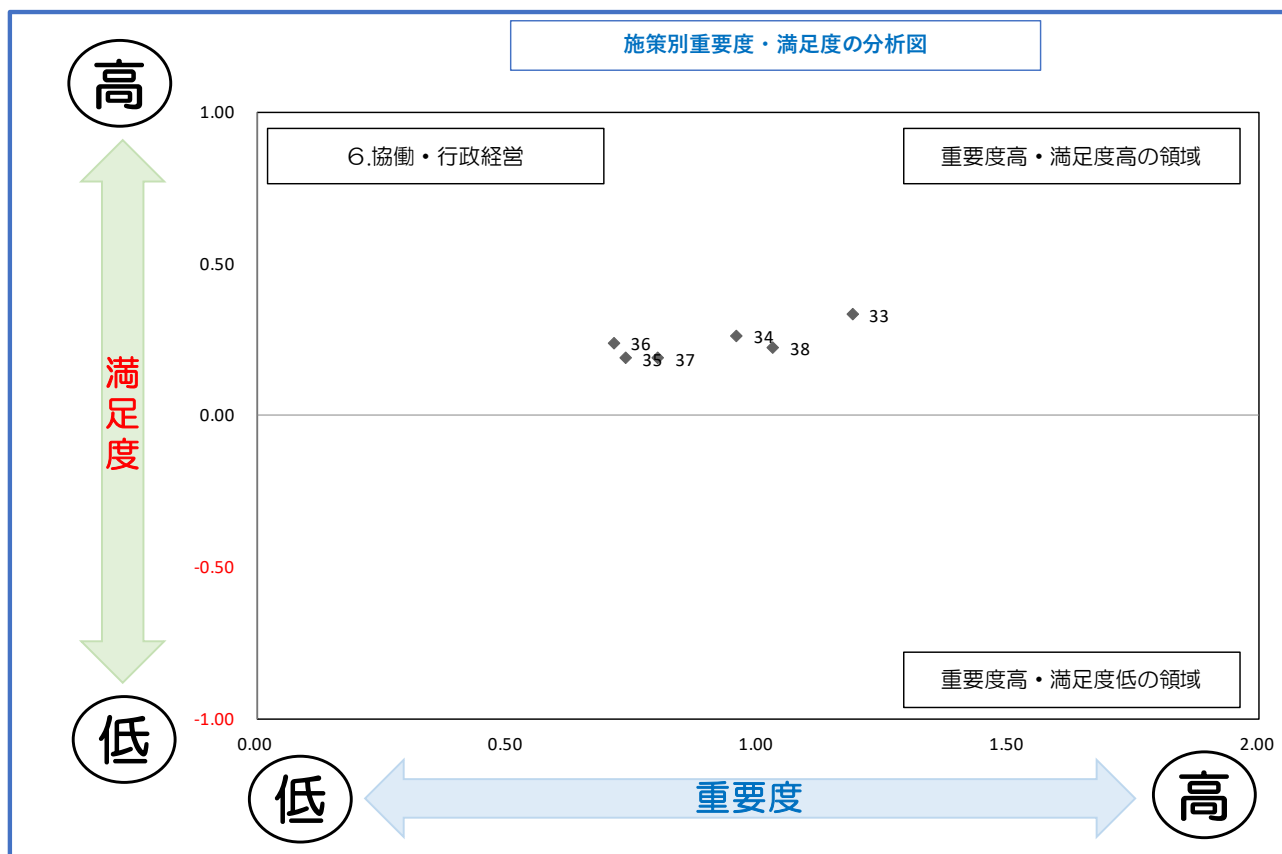


都市・生活基礎分野に係る施策は6施策あり、「27. 良好な市街地・住環境形成の推進」、「28. 水の安定供給と下水処理の適正化」、「29. 地域の特色を生かした魅力ある景観形成」、「30. 治水対策の推進」、「31. 道路・交通環境整備の推進」、「32. 公共交通の維持確保と交通安全の推進」、すべての施策が重要度高・満足度高に分類されています。

都市・生活基礎分野の中で、重要度が最も高かった施策は、「28. 水の安定供給と下水処理の適正化」、最も低かった施策は「29. 地域の特色を生かした魅力ある景観形成」となりました。また、満足度が最も高かった施策は「28. 水の安定供給と下水処理の適正化」、最も低かった施策は「31. 道路・交通環境整備の推進」となりました。

「28. 水の安定供給と下水処理の適正化」は重要度および満足度の双方が高い施策であることがうかがえます。

< 6. 協働・行政経営 >



協働・行政経営分野に係る施策は6施策あり、「33. 人権・個性が尊重される社会づくりの推進」、「34. 男女共同参画の実現」、「35. 移住・定住の推進」、「36. 市民との協働・交流の推進」、「37. 行政デジタル化の推進」、「38. 行財政運営の推進」、すべての施策が重要度高・満足度高に分類されています。

協働・行政経営分野の中で、重要度が最も高かった施策は、「33. 人権・個性が尊重される社会づくりの推進」、最も低かった施策は「36. 市民との協働・交流の推進」となりました。また、満足度が最も高かった施策は「33. 人権・個性が尊重される社会づくりの推進」、最も低かった施策は「35. 移住・定住の推進」、「37. 行政デジタル化の推進」の2施策となりました。

「33. 人権・個性が尊重される社会づくりの推進」は重要度および満足度の双方が高い施策であることがうかがえます。

(2) 地区別

➤ 深谷地区

【重要度・満足度マトリックス表】

＜重要度低・満足度高＞		＜重要度高・満足度高＞	
4	健康づくりの推進	1	子育て支援の充実
11	生涯学習の推進	2	保育環境の充実
12	スポーツ・レクリエーションの推進	3	青少年の健全育成の推進
13	郷土の歴史・文化の継承と活用	5	地域医療体制の充実
14	渋沢栄一の顕彰と精神の継承	6	地域福祉の推進
24	地域コミュニティの推進	9	「生きる力」を育む学校教育の推進
29	地域の特色を生かした魅力ある景観形成	10	家庭・地域・学校の連携と協働による教育力の向上
33	人権・個性が尊重される社会づくりの推進	16	農畜産物の販売流通体制の充実
34	男女共同参画の実現	21	災害に強い防災体制の推進
		22	消防・救急体制の充実
		26	環境衛生の推進
		27	良好な市街地・住環境形成の推進
		28	水の安定供給と下水処理の適正化
		30	治水対策の推進
＜重要度低・満足度低＞		＜重要度高・満足度低＞	
17	商工業の振興	7	高齢者福祉の推進
18	観光資源の整備と活用	8	障害者福祉の推進
20	産業価値の創出	15	農地の保全・活用と安定した農業経営の支援
35	移住・定住の推進	19	就労環境の整備
36	市民との協働・交流の推進	23	防犯・空き家対策の推進
37	行政デジタル化の推進	25	自然・生活環境の保全
38	行財政運営の推進	31	道路・交通環境整備の推進
		32	公共交通の維持確保と交通安全の推進

深谷地区では、重要度が高い施策として、「21. 災害に強い防災体制の推進」、「22. 消防・救急体制の充実」、「23. 防犯・空き家対策の推進」、「28. 水の安定供給と下水処理の適正化」、「31. 道路・交通環境整備の推進」、「32. 公共交通の維持確保と交通安全の推進」などの施策が挙げられ、このうち、「23. 防犯・空き家対策の推進」、「31. 道路・交通環境整備の推進」、「32. 公共交通の維持確保と交通安全の推進」に関しては、満足度が低いことから、施策の充実が求められます。

また、重要度・満足度がともに低い施策として、「18. 観光資源の整備と活用」、「35. 移住・定住の推進」、「36. 市民との協働・交流の推進」などの施策が挙げられます。これらの施策については、深谷地区の市民は、重要視しておらず、かつ、満足もしていないことがうかがえます。

➤ 藤沢地区

【重要度・満足度マトリックス表】

＜重要度低・満足度高＞		＜重要度高・満足度高＞	
11	生涯学習の推進	1	子育て支援の充実
13	郷土の歴史・文化の継承と活用	3	青少年の健全育成の推進
14	渋沢栄一の顕彰と精神の継承	4	健康づくりの推進
24	地域コミュニティの推進	6	地域福祉の推進
29	地域の特色を生かした魅力ある景観形成	22	消防・救急体制の充実
30	治水対策の推進	26	環境衛生の推進
33	人権・個性が尊重される社会づくりの推進	28	水の安定供給と下水処理の適正化
34	男女共同参画の実現		
36	市民との協働・交流の推進		
37	行政デジタル化の推進		
38	行財政運営の推進		
＜重要度低・満足度低＞		＜重要度高・満足度低＞	
10	家庭・地域・学校の連携と協働による教育力の向上	2	保育環境の充実
12	スポーツ・レクリエーションの推進	5	地域医療体制の充実
18	観光資源の整備と活用	7	高齢者福祉の推進
20	産業価値の創出	8	障害者福祉の推進
25	自然・生活環境の保全	9	「生きる力」を育む学校教育の推進
27	良好な市街地・住環境形成の推進	15	農地の保全・活用と安定した農業経営の支援
35	移住・定住の推進	16	農畜産物の販売流通体制の充実
		17	商工業の振興
		19	就労環境の整備
		21	災害に強い防災体制の推進
		23	防犯・空き家対策の推進
		31	道路・交通環境整備の推進
		32	公共交通の維持確保と交通安全の推進

藤沢地区では、重要度が高い施策として、「1. 子育て支援の充実」、「5. 地域医療体制の充実」、「21. 災害に強い防災体制の推進」、「22. 消防・救急体制の充実」、「23. 防犯・空き家対策の推進」、「28. 水の安定供給と下水処理の適正化」などの施策が挙げられ、このうち、「5. 地域医療体制の充実」、「21. 災害に強い防災体制の推進」、「23. 防犯・空き家対策の推進」に関しては、満足度が低いことから、施策の充実が求められます。

また、重要度、満足度がともに低い施策として、「12. スポーツ・レクリエーションの推進」、「18. 観光資源の整備と活用」、「35. 移住・定住の推進」が挙げられます。これらの施策については、藤沢地区の市民は、重要視しておらず、かつ、満足もしていないことがうかがえます。

➤ 幡羅地区

【重要度・満足度マトリックス表】

＜重要度低・満足度高＞		＜重要度高・満足度高＞	
11	生涯学習の推進	1	子育て支援の充実
13	郷土の歴史・文化の継承と活用	2	保育環境の充実
14	渋沢栄一の顕彰と精神の継承	3	青少年の健全育成の推進
35	移住・定住の推進	4	健康づくりの推進
38	行財政運営の推進	6	地域福祉の推進
		16	農畜産物の販売流通体制の充実
		21	災害に強い防災体制の推進
		22	消防・救急体制の充実
		25	自然・生活環境の保全
		27	良好な市街地・住環境形成の推進
		28	水の安定供給と下水処理の適正化
		30	治水対策の推進
		33	人権・個性が尊重される社会づくりの推進
＜重要度低・満足度低＞		＜重要度高・満足度低＞	
9	「生きる力」を育む学校教育の推進	5	地域医療体制の充実
12	スポーツ・レクリエーションの推進	7	高齢者福祉の推進
17	商工業の振興	8	障害者福祉の推進
18	観光資源の整備と活用	10	家庭・地域・学校の連携と協働による教育力の向上
20	産業価値の創出	15	農地の保全・活用と安定した農業経営の支援
24	地域コミュニティの推進	19	就労環境の整備
29	地域の特色を生かした魅力ある景観形成	23	防犯・空き家対策の推進
34	男女共同参画の実現	26	環境衛生の推進
36	市民との協働・交流の推進	31	道路・交通環境整備の推進
37	行政デジタル化の推進	32	公共交通の維持確保と交通安全の推進

幡羅地区では、重要度が高い施策として、「5. 地域医療体制の充実」、「21. 災害に強い防災体制の推進」、「22. 消防・救急体制の充実」、「23. 防犯・空き家対策の推進」、「28. 水の安定供給と下水処理の適正化」、「31. 道路・交通環境整備の推進」などの施策が挙げられ、このうち、「5. 地域医療体制の充実」、「23. 防犯・空き家対策の推進」、「31. 道路・交通環境整備の推進」に関しては、満足度が低いことから、施策の充実が求められます。

また、重要度、満足度がともに低い施策として、「12. スポーツ・レクリエーションの推進」、「24. 地域コミュニティの推進」、「36. 市民との協働・交流の推進」などの施策が挙げられます。これらの施策については、幡羅地区の市民は、重要視しておらず、かつ、満足もしていないことがうかがえます。

➤ 明戸地区

【重要度・満足度マトリックス表】

＜重要度低・満足度高＞		＜重要度高・満足度高＞	
3	青少年の健全育成の推進	1	子育て支援の充実
9	「生きる力」を育む学校教育の推進	2	保育環境の充実
10	家庭・地域・学校の連携と協働による教育力の向上	4	健康づくりの推進
11	生涯学習の推進	5	地域医療体制の充実
12	スポーツ・レクリエーションの推進	6	地域福祉の推進
13	郷土の歴史・文化の継承と活用	22	消防・救急体制の充実
14	渋沢栄一の顕彰と精神の継承	38	行財政運営の推進
17	商工業の振興		
18	観光資源の整備と活用		
19	就労環境の整備		
＜重要度低・満足度低＞		＜重要度高・満足度低＞	
7	高齢者福祉の推進	15	農地の保全・活用と安定した農業経営の支援
8	障害者福祉の推進	21	災害に強い防災体制の推進
16	農畜産物の販売流通体制の充実	23	防犯・空き家対策の推進
20	産業価値の創出	26	環境衛生の推進
24	地域コミュニティの推進	28	水の安定供給と下水処理の適正化
25	自然・生活環境の保全	30	治水対策の推進
27	良好な市街地・住環境形成の推進	31	道路・交通環境整備の推進
29	地域の特色を生かした魅力ある景観形成	32	公共交通の維持確保と交通安全の推進
34	男女共同参画の実現	33	人権・個性が尊重される社会づくりの推進
36	市民との協働・交流の推進	35	移住・定住の推進
37	行政デジタル化の推進		

明戸地区では、重要度が高い施策として、「5. 地域医療体制の充実」、「6. 地域福祉の推進」、「15. 農地の保全・活用と安定した農業経営の支援」、「22. 消防・救急体制の充実」、「23. 防犯・空き家対策の推進」、「31. 道路・交通環境整備の推進」などの施策が挙げられ、このうち、「15. 農地の保全・活用と安定した農業経営の支援」、「23. 防犯・空き家対策の推進」、「31. 道路・交通環境整備の推進」に関しては、満足度が低いことから、施策の充実が求められます。

また、重要度、満足度がともに低い施策として、「24. 地域コミュニティの推進」、「27. 良好な市街地・住環境形成の推進」、「37. 行政デジタル化の推進」などの施策が挙げられます。これらの施策については、明戸地区の市民は、重要視しておらず、かつ、満足もしていないことがうかがえます。

➤ 大寄地区

【重要度・満足度マトリックス表】

＜重要度低・満足度高＞		＜重要度高・満足度高＞	
10	家庭・地域・学校の連携と協働による教育力の向上	1	子育て支援の充実
12	スポーツ・レクリエーションの推進	3	青少年の健全育成の推進
13	郷土の歴史・文化の継承と活用	4	健康づくりの推進
14	渋沢栄一の顕彰と精神の継承	5	地域医療体制の充実
16	農畜産物の販売流通体制の充実	6	地域福祉の推進
29	地域の特色を生かした魅力ある景観形成	22	消防・救急体制の充実
34	男女共同参画の実現	25	自然・生活環境の保全
		27	良好な市街地・住環境形成の推進
		28	水の安定供給と下水処理の適正化
		30	治水対策の推進
		33	人権・個性が尊重される社会づくりの推進
＜重要度低・満足度低＞		＜重要度高・満足度低＞	
11	生涯学習の推進	2	保育環境の充実
15	農地の保全・活用と安定した農業経営の支援	7	高齢者福祉の推進
17	商工業の振興	8	障害者福祉の推進
18	観光資源の整備と活用	9	「生きる力」を育む学校教育の推進
24	地域コミュニティの推進	19	就労環境の整備
35	移住・定住の推進	20	産業価値の創出
36	市民との協働・交流の推進	21	災害に強い防災体制の推進
37	行政デジタル化の推進	23	防犯・空き家対策の推進
		26	環境衛生の推進
		31	道路・交通環境整備の推進
		32	公共交通の維持確保と交通安全の推進
		38	行財政運営の推進

大寄地区では、重要度が高い施策として、「5. 地域医療体制の充実」、「21. 災害に強い防災体制の推進」、「22. 消防・救急体制の充実」、「23. 防犯・空き家対策の推進」、「26. 環境衛生の推進」、「28. 水の安定供給と下水処理の適正化」などの施策が挙げられ、このうち、「21. 災害に強い防災体制の推進」、「23. 防犯・空き家対策の推進」、「26. 環境衛生の推進」に関しては満足度が低いことから、施策の充実が求められます。

また、重要度、満足度がともに低い施策として、「11. 生涯学習の推進」、「36. 市民との協働・交流の推進」、「37. 行政デジタル化の推進」などの施策が挙げられます。これらの施策については、大寄地区の市民は、重要視しておらず、かつ、満足もしていないことがうかがえます。

➤ 八基地区

【重要度・満足度マトリックス表】

	＜重要度低・満足度高＞		＜重要度高・満足度高＞
10	家庭・地域・学校の連携と協働による教育力の向上	1	子育て支援の充実
11	生涯学習の推進	2	保育環境の充実
13	郷土の歴史・文化の継承と活用	4	健康づくりの推進
14	渋沢栄一の顕彰と精神の継承	5	地域医療体制の充実
29	地域の特色を生かした魅力ある景観形成	6	地域福祉の推進
32	公共交通の維持確保と交通安全の推進	7	高齢者福祉の推進
33	人権・個性が尊重される社会づくりの推進	8	障害者福祉の推進
34	男女共同参画の実現	22	消防・救急体制の充実
35	移住・定住の推進	28	水の安定供給と下水処理の適正化
36	市民との協働・交流の推進		
	＜重要度低・満足度低＞		＜重要度高・満足度低＞
9	「生きる力」を育む学校教育の推進	3	青少年の健全育成の推進
12	スポーツ・レクリエーションの推進	15	農地の保全・活用と安定した農業経営の支援
18	観光資源の整備と活用	16	農畜産物の販売流通体制の充実
24	地域コミュニティの推進	17	商工業の振興
27	良好な市街地・住環境形成の推進	19	就労環境の整備
37	行政デジタル化の推進	20	産業価値の創出
38	行財政運営の推進	21	災害に強い防災体制の推進
		23	防犯・空き家対策の推進
		25	自然・生活環境の保全
		26	環境衛生の推進
		30	治水対策の推進
		31	道路・交通環境整備の推進

八基地区では、重要度が高い施策として、「5. 地域医療体制の充実」、「15. 農地の保全・活用と安定した農業経営の支援」、「21. 災害に強い防災体制の推進」、「22. 消防・救急体制の充実」、「23. 防犯・空き家対策の推進」、「28. 水の安定供給と下水処理の適正化」などの施策が挙げられ、このうち、「15. 農地の保全・活用と安定した農業経営の支援」、「21. 災害に強い防災体制の推進」、「23. 防犯・空き家対策の推進」に関しては、満足度が低いことから、施策の充実が求められます。

また、重要度、満足度がともに低い施策として、「12. スポーツ・レクリエーションの推進」、「18. 観光資源の整備と活用」、「37. 行政デジタル化の推進」などの施策が挙げられます。これらの施策については、八基地区の市民は、重要視しておらず、かつ、満足もしていないことがうかがえます。

➤ 豊里地区

【重要度・満足度マトリックス表】

＜重要度低・満足度高＞		＜重要度高・満足度高＞	
10	家庭・地域・学校の連携と協働による教育力の向上	1	子育て支援の充実
11	生涯学習の推進	2	保育環境の充実
12	スポーツ・レクリエーションの推進	3	青少年の健全育成の推進
13	郷土の歴史・文化の継承と活用	4	健康づくりの推進
14	渋沢栄一の顕彰と精神の継承	6	地域福祉の推進
24	地域コミュニティの推進	9	「生きる力」を育む学校教育の推進
25	自然・生活環境の保全	22	消防・救急体制の充実
29	地域の特色を生かした魅力ある景観形成	26	環境衛生の推進
34	男女共同参画の実現	28	水の安定供給と下水処理の適正化
		33	人権・個性が尊重される社会づくりの推進
＜重要度低・満足度低＞		＜重要度高・満足度低＞	
17	商工業の振興	5	地域医療体制の充実
18	観光資源の整備と活用	7	高齢者福祉の推進
20	産業価値の創出	8	障害者福祉の推進
32	公共交通の維持確保と交通安全の推進	15	農地の保全・活用と安定した農業経営の支援
35	移住・定住の推進	16	農畜産物の販売流通体制の充実
36	市民との協働・交流の推進	19	就労環境の整備
37	行政デジタル化の推進	21	災害に強い防災体制の推進
38	行財政運営の推進	23	防犯・空き家対策の推進
		27	良好な市街地・住環境形成の推進
		30	治水対策の推進
		31	道路・交通環境整備の推進

豊里地区では、重要度が高い施策として、「2. 保育環境の充実」、「4. 健康づくりの推進」、「5. 地域医療体制の充実」、「21. 災害に強い防災体制の推進」、「22. 消防・救急体制の充実」、「23. 防犯・空き家対策の推進」などの施策が挙げられ、このうち、「5. 地域医療体制の充実」、「21. 災害に強い防災体制の推進」、「23. 防犯・空き家対策の推進」に関しては、満足度が低いことから、施策の充実が求められます。

また、重要度、満足度がともに低い施策として、「17. 商工業の振興」、「36. 市民との協働・交流の推進」、「37. 行政デジタル化の推進」などの施策が挙げられます。これらの施策については、豊里地区の市民は、重要視しておらず、かつ、満足もしていないことがうかがえます。

➤ 上柴地区

【重要度・満足度マトリックス表】

＜重要度低・満足度高＞		＜重要度高・満足度高＞	
4	健康づくりの推進	1	子育て支援の充実
12	スポーツ・レクリエーションの推進	2	保育環境の充実
13	郷土の歴史・文化の継承と活用	5	地域医療体制の充実
14	渋沢栄一の顕彰と精神の継承	16	農畜産物の販売流通体制の充実
33	人権・個性が尊重される社会づくりの推進	21	災害に強い防災体制の推進
36	市民との協働・交流の推進	22	消防・救急体制の充実
38	行財政運営の推進	26	環境衛生の推進
		27	良好な市街地・住環境形成の推進
		28	水の安定供給と下水処理の適正化
		30	治水対策の推進
＜重要度低・満足度低＞		＜重要度高・満足度低＞	
11	生涯学習の推進	3	青少年の健全育成の推進
17	商工業の振興	6	地域福祉の推進
18	観光資源の整備と活用	7	高齢者福祉の推進
20	産業価値の創出	8	障害者福祉の推進
24	地域コミュニティの推進	9	「生きる力」を育む学校教育の推進
29	地域の特色を生かした魅力ある景観形成	10	家庭・地域・学校の連携と協働による教育力の向上
34	男女共同参画の実現	15	農地の保全・活用と安定した農業経営の支援
35	移住・定住の推進	19	就労環境の整備
37	行政デジタル化の推進	23	防犯・空き家対策の推進
		25	自然・生活環境の保全
		31	道路・交通環境整備の推進
		32	公共交通の維持確保と交通安全の推進

上柴地区では、重要度が高い施策として、「5. 地域医療体制の充実」、「15. 農地の保全・活用と安定した農業経営の支援」、「21. 災害に強い防災体制の推進」、「22. 消防・救急体制の充実」、「23. 防犯・空き家対策の推進」、「32. 公共交通の維持確保と交通安全の推進」などの施策が挙げられ、このうち、「15. 農地の保全・活用と安定した農業経営の支援」、「23. 防犯・空き家対策の推進」、「32. 公共交通の維持確保と交通安全の推進」に関しては、満足度が低いことから、施策の充実が求められます。

また、重要度、満足度がともに低い施策として、「29. 地域の特色を生かした魅力ある景観形成」、「35. 移住・定住の推進」、「37. 行政デジタル化の推進」などの施策が挙げられます。これらの施策については、上柴地区の市民は、重要視しておらず、かつ、満足もしていないことがうかがえます。

➤ 南地区

【重要度・満足度マトリックス表】

＜重要度低・満足度高＞		＜重要度高・満足度高＞	
12	スポーツ・レクリエーションの推進	1	子育て支援の充実
13	郷土の歴史・文化の継承と活用	2	保育環境の充実
14	渋沢栄一の顕彰と精神の継承	3	青少年の健全育成の推進
24	地域コミュニティの推進	4	健康づくりの推進
25	自然・生活環境の保全	6	地域福祉の推進
36	市民との協働・交流の推進	8	障害者福祉の推進
		21	災害に強い防災体制の推進
		22	消防・救急体制の充実
		26	環境衛生の推進
		28	水の安定供給と下水処理の適正化
		30	治水対策の推進
		33	人権・個性が尊重される社会づくりの推進
＜重要度低・満足度低＞		＜重要度高・満足度低＞	
11	生涯学習の推進	5	地域医療体制の充実
18	観光資源の整備と活用	7	高齢者福祉の推進
20	産業価値の創出	9	「生きる力」を育む学校教育の推進
29	地域の特色を生かした魅力ある景観形成	10	家庭・地域・学校の連携と協働による教育力の向上
34	男女共同参画の実現	15	農地の保全・活用と安定した農業経営の支援
35	移住・定住の推進	16	農畜産物の販売流通体制の充実
37	行政デジタル化の推進	17	商工業の振興
38	行財政運営の推進	19	就労環境の整備
		23	防犯・空き家対策の推進
		27	良好な市街地・住環境形成の推進
		31	道路・交通環境整備の推進
		32	公共交通の維持確保と交通安全の推進

南地区では、重要度が高い施策として、「5. 地域医療体制の充実」、「21. 災害に強い防災体制の推進」、「22. 消防・救急体制の充実」、「23. 防犯・空き家対策の推進」、「28. 水の安定供給と下水処理の適正化」、「32. 公共交通の維持確保と交通安全の推進」などの施策が挙げられ、このうち、「5. 地域医療体制の充実」、「23. 防犯・空き家対策の推進」、「32. 公共交通の維持確保と交通安全の推進」に関しては、満足度が低いことから、施策の充実が求められます。

また、重要度、満足度がともに低い施策として、「29. 地域の特色を生かした魅力ある景観形成」、「35. 移住・定住の推進」、「37. 行政デジタル化の推進」などの施策が挙げられます。これらの施策については、南地区の市民は、重要視しておらず、かつ、満足もしていないことがうかがえます。

➤ 岡部地区

【重要度・満足度マトリックス表】

＜重要度低・満足度高＞		＜重要度高・満足度高＞	
3	青少年の健全育成の推進	1	子育て支援の充実
12	スポーツ・レクリエーションの推進	2	保育環境の充実
13	郷土の歴史・文化の継承と活用	4	健康づくりの推進
14	渋沢栄一の顕彰と精神の継承	6	地域福祉の推進
16	農畜産物の販売流通体制の充実	21	災害に強い防災体制の推進
34	男女共同参画の実現	22	消防・救急体制の充実
36	市民との協働・交流の推進	26	環境衛生の推進
37	行政デジタル化の推進	28	水の安定供給と下水処理の適正化
		30	治水対策の推進
		33	人権・個性が尊重される社会づくりの推進
＜重要度低・満足度低＞		＜重要度高・満足度低＞	
11	生涯学習の推進	5	地域医療体制の充実
15	農地の保全・活用と安定した農業経営の支援	7	高齢者福祉の推進
17	商工業の振興	8	障害者福祉の推進
18	観光資源の整備と活用	9	「生きる力」を育む学校教育の推進
20	産業価値の創出	10	家庭・地域・学校の連携と協働による教育力の向上
24	地域コミュニティの推進	19	就労環境の整備
29	地域の特色を生かした魅力ある景観形成	23	防犯・空き家対策の推進
35	移住・定住の推進	25	自然・生活環境の保全
38	行財政運営の推進	27	良好な市街地・住環境形成の推進
		31	道路・交通環境整備の推進
		32	公共交通の維持確保と交通安全の推進

岡部地区では、重要度が高い施策として、「5. 地域医療体制の充実」、「21. 災害に強い防災体制の推進」、「22. 消防・救急体制の充実」、「23. 防犯・空き家対策の推進」、「28. 水の安定供給と下水処理の適正化」、「31. 道路・交通環境整備の推進」などの施策が挙げられ、このうち、「5. 地域医療体制の充実」、「23. 防犯・空き家対策の推進」、「31. 道路・交通環境整備の推進」に関しては、満足度が低いことから、施策の充実が求められます。

また、重要度、満足度がともに低い施策として、「18. 観光資源の整備と活用」、「29. 地域の特色を生かした魅力ある景観形成」、「35. 移住・定住の推進」などの施策が挙げられます。これらの施策については、岡部地区の市民は、重要視しておらず、かつ、満足もしていないことがうかがえます。

➤ 川本地区

【重要度・満足度マトリックス表】

＜重要度低・満足度高＞		＜重要度高・満足度高＞	
10	家庭・地域・学校の連携と協働による教育力の向上	1	子育て支援の充実
11	生涯学習の推進	2	保育環境の充実
12	スポーツ・レクリエーションの推進	4	健康づくりの推進
13	郷土の歴史・文化の継承と活用	7	高齢者福祉の推進
14	渋沢栄一の顕彰と精神の継承	9	「生きる力」を育む学校教育の推進
24	地域コミュニティの推進	16	農畜産物の販売流通体制の充実
34	男女共同参画の実現	21	災害に強い防災体制の推進
38	行財政運営の推進	22	消防・救急体制の充実
		26	環境衛生の推進
		28	水の安定供給と下水処理の適正化
		33	人権・個性が尊重される社会づくりの推進
＜重要度低・満足度低＞		＜重要度高・満足度低＞	
18	観光資源の整備と活用	3	青少年の健全育成の推進
20	産業価値の創出	5	地域医療体制の充実
29	地域の特色を生かした魅力ある景観形成	6	地域福祉の推進
35	移住・定住の推進	8	障害者福祉の推進
36	市民との協働・交流の推進	15	農地の保全・活用と安定した農業経営の支援
37	行政デジタル化の推進	17	商工業の振興
		19	就労環境の整備
		23	防犯・空き家対策の推進
		25	自然・生活環境の保全
		27	良好な市街地・住環境形成の推進
		30	治水対策の推進
		31	道路・交通環境整備の推進
		32	公共交通の維持確保と交通安全の推進

川本地区では、重要度が高い施策として、「5. 地域医療体制の充実」、「21. 災害に強い防災体制の推進」、「22. 消防・救急体制の充実」、「23. 防犯・空き家対策の推進」、「28. 水の安定供給と下水処理の適正化」、「32. 公共交通の維持確保と交通安全の推進」などの施策が挙げられ、このうち、「5. 地域医療体制の充実」、「23. 防犯・空き家対策の推進」、「32. 公共交通の維持確保と交通安全の推進」に関しては、満足度が低いことから、施策の充実が求められます。

また、重要度、満足度がともに低い施策として、「35. 移住・定住の推進」、「36. 市民との協働・交流の推進」、「37. 行政デジタル化の推進」が挙げられます。これらの施策については、川本地区の市民は、重要視しておらず、かつ、満足もしていないことがうかがえます。

➤ 花園地区

【重要度・満足度マトリックス表】

＜重要度低・満足度高＞		＜重要度高・満足度高＞	
11	生涯学習の推進	1	子育て支援の充実
12	スポーツ・レクリエーションの推進	2	保育環境の充実
13	郷土の歴史・文化の継承と活用	3	青少年の健全育成の推進
14	渋沢栄一の顕彰と精神の継承	4	健康づくりの推進
16	農畜産物の販売流通体制の充実	5	地域医療体制の充実
30	治水対策の推進	8	障害者福祉の推進
33	人権・個性が尊重される社会づくりの推進	9	「生きる力」を育む学校教育の推進
37	行政デジタル化の推進	10	家庭・地域・学校の連携と協働による教育力の向上
38	行財政運営の推進	22	消防・救急体制の充実
		26	環境衛生の推進
		27	良好な市街地・住環境形成の推進
		28	水の安定供給と下水処理の適正化
＜重要度低・満足度低＞		＜重要度高・満足度低＞	
18	観光資源の整備と活用	6	地域福祉の推進
20	産業価値の創出	7	高齢者福祉の推進
24	地域コミュニティの推進	15	農地の保全・活用と安定した農業経営の支援
29	地域の特色を生かした魅力ある景観形成	17	商工業の振興
34	男女共同参画の実現	19	就労環境の整備
35	移住・定住の推進	21	災害に強い防災体制の推進
36	市民との協働・交流の推進	23	防犯・空き家対策の推進
		25	自然・生活環境の保全
		31	道路・交通環境整備の推進
		32	公共交通の維持確保と交通安全の推進

花園地区では、重要度が高い施策として、「5. 地域医療体制の充実」、「7. 高齢者福祉の推進」、「21. 災害に強い防災体制の推進」、「22. 消防・救急体制の充実」、「28. 水の安定供給と下水処理の適正化」、「31. 道路・交通環境整備の推進」などの施策が挙げられ、このうち、「7. 高齢者福祉の推進」、「21. 災害に強い防災体制の推進」、「31. 道路・交通環境整備の推進」に関しては、満足度が低いことから、施策の充実が求められます。

また、重要度、満足度がともに低い施策として、「29. 地域の特色を生かした魅力ある景観形成」、「35. 移住・定住の推進」、「36. 市民との協働・交流の推進」が挙げられます。これらの施策については、花園地区の市民は、重要視しておらず、かつ、満足もしていないことがうかがえます。

4. 自由記入欄（まちづくり全般について）

自由意見から主要な意見を抽出し、施策分野ごとに分類しました。

（１）＜子育て・保健・福祉＞に関する意見

- ・ 地区格差が大きく、自分の住む藤沢地区では、買物するにも遠方まで行く必要があり、農地保護しつつも商業施設や住宅の新規建築の要件の緩和等をしていかないと人口が減る一方になると思う。 また、今年度から幼稚園の統合に伴う新園の運用が始まったが、金銭的理由から公立しか通わせられない家庭も増えてる中で、近隣に公立幼稚園がない為、遠くまで送迎する必要がある、子育て世代に住みづらい環境になっている。 市内のどの地域でも同等に住みやすく、生活しやすい、特に子育て世代が暮らしやすい環境作りをしてもらいたい。
- ・ 子育て世帯や、高齢者には手厚いイメージがある。独身で、税金を多く納めている人の事も考えてほしい。（人権がなさすぎる） 偏りなく、どの市民も同じような生活ができるようにして欲しいです。
- ・ 弟が中学生です。給食無償化が実現されたことはとても素晴らしく、大変ありがたいことを感じております。しかし、「量がへってしまった」との意見も、弟や周りの方からもお話がありました。それについては、各学校で工夫をすれば解決できることなのでしょうか。
- ・ 市の乳がん検診はマンモグラフィのみなので、超音波検査（エコー）も受けられるようにしてほしい。（有料でもよいので）
- ・ 残念ながら深谷市が医療過疎地である事を実感しています。救急車を利用した時の事です。一度目は行田の病院へ。二度目は太田の病院へ運ばれました。しかも２度共、救急車内で２時間以上待ち。ようやく市外の病院へ………といった状況です。命が守られるのか心配なまちであってほしくないと思います。救える命が救われる町であってほしい。
- ・ 大きな病院（総合的な病院）、日赤しかありません。大学病院のような大きな病院があるといいです。なかなか障害の方など病院にかかりにくい人でもかかりやすい病院があるといいなと思います。現在アウトレットになってしまいましたがアウトレットではなく病院だったらよかったのにな。と思います。
- ・ 高齢者が自家用車がなくても安心、安楽な生活ができるような環境作りをお願いします。
- ・ 高齢者の方々が安心して暮らせるまちづくりをお願いします。空き家も目立ち、それらを活用して、地域の皆さんが交流できる場を、行政が中心になって立ち上げてほしい。

いです。こども食堂もすばらしい取組ですが、民間の努力や善意に頼れば地域格差が大きくなり、参加したくともできないということにもなりがちです。自治会もありますが、こちらでも活動に地域差が大きく、疑問に思うような活動に力を置いているところもあるように見受けられます。

- ・ 高齢化がすすむなかで、子育て支援に重点しすぎている感じがします。年金生活を送っている方々を見てると医療機関の受診をひかえたり、薬代も払うのを苦労している高齢者を見ています。この物価高で年金だけでは生活できない方々がいます。高齢者雇用で元気で働ける方は良いですが、そうでない方は、大変生活をきりつめて日々暮らしています。そのうち市内 65 歳以上の割合がますます、深谷以外でもどんどんすすむと思います。高齢者に対して住みよい環境作りをお願いいたします。
- ・ 介護についてもっと詳しく配信してほしいです。自分で調べたり、聞いたりしないと誰も教えてくれない事などが多く。自分から請求しないともらえない支給があり、わからない人がいると思います

(2) <教育・文化>に関する意見

- ・ 老朽化により、パティオとわんぱくランドが、廃止になったのは残念です。子供達の為に、小規模でも、常設プールとか、野菜の仲間たちファーム程度の遊具とか、あると助かります。安全で、安心して遊べる場所があると良いと思います。
- ・ 空いてる土地の活用 公園が少ないかと 公園などに体を動かせる運動ができるような用具を置いてくれたら、“スポーツジムなど お金をかけず”に運動、体を動かせる場があるといいと思う！！
- ・ 子どもの為の遊具が公園にありますが、老人が軽い運動ができる遊具も設置していただけると嬉しいと思います。シニア用健康遊具というのでしょうか。そんな公園が近くにできるといいなあと思います。
- ・ 公園や公民館などに誰でも利用できるような運動器具の設置（ステッパーやベンチプレスなど）
- ・ 川本地区のスポーツや室内体操等を通じて地域のコミュニティや活性化、青少年の健全育成に多くの市民の利用がみられます 川本トレーニングセンターの継続使用をお願いすると共に温暖化による影響が大きく 利用者の健康上からもサービス機器の設置を検討していただければ幸いです。
- ・ 深谷中心部分の整備に力を入れていると感じます。例えば、公園の整備はまったくされておらず、子供が遊べる所がない。ふれあいセンターで、ボール遊びをしていると

怒られるなどがあります。子育てに力を入れている所は、評価できる所ではありません。が、少しお金をかけすぎている施設もあると思います。

- ・私がひとつ提案したいのは、公民館等の多目的室を増やしていただけないかということです。調整会議に行くと、体育室や多目的室はなかなか取れない状況です。全体的に、使用したい団体が増えて、不足している状態だと思います。ぜひ検討していただけたらと思います。
- ・地域の新しい環境の整備ももちろん大切であるが 伝統的建造物や深谷市独自の景観や文化の継承等も一度失ってしまうと、二度と再生できないものなので 大切にしていきたいと思う。新旧バランスのとれた、都市計画や街づくりが急務であると思う。戦災や大きな震災を受けていない深谷市であるので……。
- ・渋沢栄一やふっかちゃんをもっとおしていいと思う
- ・ベッドタウンとして暮らしやすい環境を整えつつ、渋沢栄一の精神の継承、ふっかちゃん、深谷ネギなどの特色も PR するまちになってほしい。

(3) <産業振興>に関する意見

- ・農地の土地利用に活用できる市策や、事業を提案してほしい。
- ・農業で生計をたてているが、燃料費や肥料等の価格高騰で年々大変な思いをしています。手あつい支援を市からも国にお願いしたい。
- ・深谷は農地が多いですが、荒れている所が多いです。後継者問題とかもあると思いますが、農地→宅地化が多い。農業が継続できる支援が必要かと思います
- ・農業を継ぐ人がいない為、畑がどんどんあいていきます。私達が生きていく為に重要な事です。これから若い人が会社を作り、継いでいって頂きたい。その為に市としても支援をぜひお願いしたいです。日々現状を見ていると、とても悲しくなります。なんとかして下さい。
- ・深谷市の美味しい野菜をもっと拡めて欲しい。深谷市内の野菜を深谷市民がもっと食べられる、食べやすく、買えるよう市が販促活動をして欲しい
- ・最近深谷市のご尽力もあり 市に訪れる方も大変増えているように思いますが、深谷駅周辺に商業施設がないので、訪れる方が何もないと感じる事が多いと耳にします。市役所通りもきれいに整備されたので、駅周辺の発展と中仙道周辺の発展を希望します。

- ・企業の誘致（商施設ではない）に力を入れてください。
- ・駅前の再開発はしないのか？空きビルや今にも壊れそうなビルばかりで観光客に対して見目がよくないと思う。あと治安もよくなるし、単純に危ない。
- ・深谷には中山道の宿場町の面影があります。栗の町の小布施に以前行ってきた時に町ぐるみで盛り上げて観光地として頑張っていました。せっかく深谷にも昔ながらの素敵な風景があります。観光への力を注いでみたらどうですか？中山道の古いお店を使ってカフェや、雑貨屋さんを作ってみたらどうですか？たとえば若い人達にお店を借すとか 新しい風を取り込んで、深谷を盛り上げて欲しいです。
- ・深谷市は生活しやすいまちだと思います。ゴミの回収、地域通貨ネギーの活用、市役所のデジタルによる書類の手続きの早さ、各地区に体育館と公民館がありいろんな活動ができる。各種イベントによる盛り上が等、とてもすごいと思います。

（４）＜暮らし・環境＞に関する意見

- ・矢島大橋 土石が蓄積しているのか以前よりも水位が上がるのが早くなったと感じる。台風以外にも線状降水帯の影響で土手が決壊しないように、土石の堀出しをしてほしい
- ・唐沢川の水質や川沿いの景観があまりきれいではないので、水質もきれいになって、川沿いの風景が変われば、春の桜だけでなく、四季を通じて市民の散歩コースの１つになるのではと思います。唐沢川周辺の清掃ボランティア等あれば、参加して、少しでも唐沢川や深谷全体が美しい街になればいいなと思います。
- ・公園の整備：いこいの場となるように草木の手入れ 地域の交流が少なくなり、行事も特定の人たちの集まりとなっている。お互い顔を知らないことも多くなり隣り近所の助け合いの考えがうすれている。安全に暮らしていくには、自治会がまとまることも重要では…
- ・まち並は良いと思うがここ最近、空家、住んでいる家でも雑草がよく生えてる荒れた敷地の場所を見かけることが多い。害虫なども多く 付近を歩いていても迷惑な事もあるので 敷地内の乱れを注意喚起するような活動をしてもらいたい
- ・道路に出ている大きな木の枝もそうですが、あき家で伸び過ぎている木もあぶないです。風が強い深谷市ですので、倒木が気になります。大きな木がトラックの荷台の形で、道路に出ています。トラック会社の人もトラックにキズがついてしまいます。どうにからないのですか。1cm も出ない様に上の方まで全部切って下さい。よろしく

お願いします。

- ・ 深谷は緑が少ないですね。特に深谷地区。緑の王国とかは別として都市部の緑化が必要かと。少し高い所から見てみると深谷地区にはほとんど木がない。道路の整備など都市計画で木を切ってしまい、日陰がありません。温暖化が激しい昨今、緑地化の整備をお願いします。（緑の王国とかレジャーではなく、生活していく上で必要な緑地です。）
- ・ 救急医療が弱すぎると思います。周辺地域に頼りすぎている様に思います。
- ・ 通学路の整備。街灯が少なすぎて、夜まっくら。信号のない横断歩道で、停まらない車が多いので、何か対策してほしい。
- ・ 防犯カメラを増加して欲しい。犯罪抑制のため
- ・ カーブミラーが劣化してる場所を多々見かけるので交換してほしい。

（５）＜都市・生活基盤＞に関する意見

- ・ 運転免許を取ってからまだ１年経っていませんが、深谷市内を運転していると白線が消えていて、中央の線がどこなのか分からないことがよくあります。そのため、道路の整備を行っていただけると大変ありがたいです。
- ・ 交通量の多い道路で自転車が安全に走れる様に自転車専用レーンなど対策をお願いします。
- ・ 歩道を整備してほしい。通学路や主要道路沿いの農地の路片の除草をちゃんとやってほしい。
- ・ 歩道に雑草が生えていることが多いため定期的に除草するか、その頻度を多くしてほしいです。
- ・ 市内循環バス、路線バスが路線、時間が少なく とにかく利用しづらいので改善してほしい。
- ・ くるりんバスを普通のバスのように運行してほしい。市民はお得に乗れる回数券発行などあれば利用したい！！絶対助かる人多いと思います。（区間短いのであれば見直すなどして）使いやすくしてもらいたいです。

- ・デマントバスについて 病院に行く為に予約の TEL をしても予約がとれなくて タクシーでの通院でたいへん困っている（近所の方の意見）との事です 私免許証返納がそう遠くないので 病院、買物と生活に不安があります。もっと、便利に利用出来る様に検討をお願いします
- ・今は自動車運転ができるため、不便に思うことはほとんどないが、高齢になった時、交通手段が心配。買い物、病院への通院など。駅前が交通手段が充実しているのかな、駅から離れた地域での交通手段を充実化 シェアサイクル？ レンタルの自転車を、駅前だけでなく離れた所にもあるといいな。車がなくても（自家用車がなくても）、暮らしやすいまちづくりをお願いします。深谷の観光地なども回る循環バスがあったらいいな（土日だけでも）
- ・今ある公園をしっかりと整備して欲しい 遊具を増やしたり、きれいにしたり 砂場からくぎやたばこが出てきたり、子どもにとって危険な場所もある。よろしくお願いします。
- ・あまり高低が無く、障害者、健常者、老人、子供等が安心して長く歩ける公園があると良いと思います。
- ・畑やハウスが多いので、電柱を増やして欲しい。（防犯の為） 道路がガタガタが多すぎ、整備して欲しい。畑がある道路は、どちらが優先なのかわからない。白線や止まれがわからない場合が多い。
- ・水道管の老朽化が不安なので、もっともっと市民にわかりやすく教えてほしいのと、水質検査の結果もマメに教えてほしい。（不便を感じない踏切にアンダーパスを作るよりも）

（６）＜協働・行政経営＞に関する意見

- ・ふるさと納税に力を入れて税収をあげて市民のために使ってほしい。
- ・行政の活動が分かり易く、デジタルで見える運営をして頂きたい。現状が見える市政が不足している様に思います。
- ・行政のデジタル化は必要だと思いますが、デジタル化に対応できない人へのフォローもいっしょに進めることが SDGs のひとつではないでしょうか。
- ・アンケートのデジタル化を進めてみるのはどうでしょうか。国政調査は、デジタルとアナログの２段がまえでしたが、集計行務のかんい化はできるかもしれません。

- ・ アンケートについて 回答項目に「わからない」とは別に「どちらとも言えない」があったら良かったように思いました。今後は国勢調査のようにインターネットによる回答ができれば良いのではと思います。
- ・ 位置情報を利用したサービスがあると良い 例えば くるりんバスの乗り場 オープンガーデンの家 飲食店、イベント会場 など、マップで確認して近くであれば、ついでに利用できるし行動範囲が広がると思う
- ・ 外国人と共存していくためには、ルール作りが必要と感じます。言語や習慣の違いはありますが、生活におけるルール（ゴミ出し等）は守ってほしい。差別するわけではなく、日本で生活するルールを守ってほしい。
- ・ 公共料金の支払方法 下水道等の引きおとしを銀行だけでなく、「クレジットカード支払」ができるようにしてもらいたい。 ☆市町村によっては、クレジットを実施している 深谷市は、今は「クレジットのポイント」は生活の一部として考えてほしい。
- ・ こども館が出来たが、子どもがいないので関係がない。もっと貧困層へ税金を使ってほしい。子どもと年寄りへの negi 配付ばかりで税を収める現役世代には何も無い。
- ・ 花園道の駅にあるふっかちゃんミュージアムがわりとひっそりとしていて、残念に思いました。見栄えがしないのか、陳列などの問題なのか、もう少し華やかになってほしいですね。

3. Ⅲ. アンケート調査結果の単純集計結果

1. 深谷市のまちづくりについて

深谷市の現状を把握し、今後のまちづくりの参考とします。該当する番号に○をつけてください。

1. 深谷市のまち全体の印象について

問1. これからもずっと深谷市に住み続けたいと思いますか。

- | | |
|---------------|-------|
| 1. ずっと住み続けたい | 66.6% |
| 2. 当分の間は住みたい | 28.1% |
| 3. できれば転居したい | 4.1% |
| 4. すぐにでも転居したい | 0.3% |

2. 子育て・保健・福祉について

問1. 地域で子どもを育む活動に参加していますか。(例：ボランティア活動、スポーツの指導、子ども会やPTA活動、青少年相談員やボーイスカウト等の活動など)

- | | |
|---------------|-------|
| 1. 参加している | 11.4% |
| 2. ときどき参加している | 6.9% |
| 3. あまり参加していない | 10.6% |
| 4. 参加していない | 68.9% |

問2. 小学生以下（小学校6年生まで）のお子さんを持つ保護者の方にお尋ねします。仕事と子育てを両立できていると思いますか。

- | | |
|--------------------|-------|
| 1. 両立できていると思う | 20.5% |
| 2. ある程度は両立できていると思う | 53.0% |
| 3. あまり両立できていないと思う | 15.9% |
| 4. 両立できていないと思う | 10.6% |

問3. 中学生以下（中学校3年生まで）のお子さんを持つ保護者の方にお尋ねします。深谷市が子育てのしやすいまちだと思いますか。

- | | |
|--------------|-------|
| 1. たいへんそう思う | 28.8% |
| 2. ある程度はそう思う | 56.3% |
| 3. あまりそう思わない | 11.9% |
| 4. そう思わない | 3.1% |

問4. 普段の生活で健康づくり（運動や歩くことなど）に取り組んでいますか。

- | | |
|----------------|-------|
| 1. 日常的に取り組んでいる | 29.6% |
| 2. ときどき取り組んでいる | 34.1% |
| 3. あまり取り組んでいない | 24.2% |
| 4. 取り組んでいない | 11.7% |

問5. 定期的に健康診断や人間ドック、がん検診のいずれかを受けていますか。

- | | |
|-----------|-------|
| 1. 受けている | 79.4% |
| 2. 受けていない | 19.7% |

問6. かかりつけのお医者さんはいますか。

- | | |
|--------|-------|
| 1. いる | 75.7% |
| 2. いない | 23.2% |

問7. 健康的な食生活に気をつけていますか。

- | | |
|----------------|-------|
| 1. 日常的に気をつけている | 45.6% |
| 2. ときどき気をつけている | 38.9% |
| 3. あまり気をつけていない | 13.4% |
| 4. 気をつけていない | 1.4% |

問8. 悩みごとを相談できる人（家族や友人など）はいますか。

- | | |
|--------|-------|
| 1. いる | 87.0% |
| 2. いない | 11.8% |

問9. 日常生活で困ったことがあった時に、手助けしてくれる人（民生委員・児童委員や自治会など）はいますか。

- | | |
|--------|-------|
| 1. いる | 42.0% |
| 2. いない | 55.3% |

3. 教育・文化について

問1. 生涯学習（自発的な学習、自己啓発活動など）を実践していますか。

- | | |
|---------------|-------|
| 1. 日常的に実践している | 11.3% |
| 2. ときどき実践している | 22.2% |
| 3. あまり実践していない | 26.2% |
| 4. 実践していない | 38.2% |

問2. この1年間に芸術文化や多様な文化活動に親しむ機会がありましたか。

- | | |
|-------------|-------|
| 1. たいへんあった | 7.2% |
| 2. ある程度はあった | 23.0% |
| 3. あまりなかった | 30.9% |
| 4. なかった | 38.0% |

問3. スポーツやレクリエーション活動をどの程度行っていますか。

※スポーツ・レクリエーション活動は、以下のよう
な活動も含まれます。

散歩・ウォーキング、ジョギング・ランニング、
軽い体操、筋力トレーニング、ヨガ、ゲートボ
ール、フォークダンス、民謡踊りなど

- | | |
|--------------|-------|
| 1. 日常的に行っている | 25.9% |
| 2. ときどき行っている | 27.6% |
| 3. あまり行っていない | 17.3% |
| 4. 行っていない | 28.7% |

4. 産業振興について

問1. 市外の店舗で深谷産の農畜産物の販売
を目にすることがありますか。

- | | |
|-------------|-------|
| 1. よく目にする | 20.0% |
| 2. たまに目にする | 46.7% |
| 3. あまり目にしない | 21.9% |
| 4. 目にしない | 10.7% |

問2. 食材等の購入の際に、深谷産の農畜産
物を購入することを心掛けていますか。

- | | |
|---------------|-------|
| 1. いつも心掛けています | 19.6% |
| 2. たまに心掛けています | 40.8% |
| 3. あまり心掛けていない | 28.9% |
| 4. 心掛けていない | 10.3% |

問3. ご自身またはご家族の仕事と生活のバ
ランスは取れていますか(休暇の取得状況や家
族と過ごす時間の確保などは十分ですか)。

- | | |
|-------------------|-------|
| 1. とてもバランスが取れている | 20.1% |
| 2. ややバランスが取れている | 50.1% |
| 3. あまりバランスが取れていない | 21.7% |
| 4. バランスが取れていない | 6.2% |

5. 暮らし・環境について

問1. ハザードマップで自宅等の災害の危
険性(自宅等の浸水想定が地震時の揺れやす
さなど)について確認しましたか。

- | | |
|------------|-------|
| 1. 確認した | 63.6% |
| 2. 確認していない | 36.1% |

問2. ご自宅に災害に対する備え(備蓄品な
ど)はありますか。

- | | |
|------------|-------|
| 1. 十分ある | 3.4% |
| 2. ある程度はある | 44.9% |
| 3. あまりない | 41.4% |
| 4. ない | 9.8% |

問3. この1年間で消費者トラブルに巻き込
まれたことはありますか。

- | | |
|-------|-------|
| 1. ある | 3.2% |
| 2. ない | 96.0% |

問4. 日ごろ、防犯対策を行っていますか。

- | | |
|---------------|-------|
| 1. 十分行っている | 5.3% |
| 2. ある程度は行っている | 58.0% |
| 3. あまり行っていない | 30.3% |
| 4. 行っていない | 5.9% |

問5. 地域活動(自治会での活動など)へど
の程度参加していますか。

- | | |
|---------------|-------|
| 1. 日常的に参加している | 12.7% |
| 2. ときどき参加している | 29.1% |
| 3. あまり参加していない | 25.6% |
| 4. 参加していない | 31.9% |

問6. 環境に配慮した取組(省エネ(節電を
含みます)、自然や川の保全活動など)を行
っていますか。

- | | |
|--------------|-------|
| 1. 日常的に行っている | 18.3% |
| 2. ときどき行っている | 38.6% |
| 3. あまり行っていない | 27.4% |
| 4. 行っていない | 15.1% |

問7. 環境問題(地球温暖化問題、エネルギ
ー問題、生態系の問題など)を以前より意識
するようになりましたか。

- | | |
|-------------------|-------|
| 1. 以前より意識するようになった | 50.8% |
| 2. 変わらない | 46.7% |
| 3. 以前より意識しなくなった | 2.1% |

問 8. 普段からごみの減量化やリサイクルを心がけていますか。

- | | |
|----------------|-------|
| 1. いつも心がけている | 31.0% |
| 2. ある程度は心がけている | 54.3% |
| 3. あまり心がけていない | 11.6% |
| 4. 心がけていない | 2.6% |

6. 都市・生活基盤について

問 1. 市内の住宅、商業、工業、農業、自然などの土地利用において、相互に調和がとれていると思いますか。

- | | |
|---------------|-------|
| 1. たいへんとれている | 3.8% |
| 2. ある程度はとれている | 57.2% |
| 3. あまりとれていない | 29.4% |
| 4. とれていない | 7.4% |

問 2. お住まい周辺の住環境に満足していますか。

- | | |
|---------------|-------|
| 1. とても満足している | 17.9% |
| 2. やや満足している | 54.2% |
| 3. あまり満足していない | 19.4% |
| 4. 満足していない | 7.6% |

問 3. あなたの身近に、自然に親しむことができる環境はありますか。

- | | |
|------------|-------|
| 1. たいへんある | 23.6% |
| 2. ある程度はある | 54.2% |
| 3. あまりない | 21.4% |

問 4. 市内に魅力的なまち並みや景観があると思いますか。

- | | |
|------------|-------|
| 1. たいへんある | 7.2% |
| 2. ある程度はある | 43.1% |
| 3. あまりない | 39.8% |
| 4. ない | 9.1% |

問 5. 水害に対して安心した生活を送ることができていますか。

- | | |
|---------------|-------|
| 1. たいへんできている | 21.0% |
| 2. ある程度はできている | 56.1% |
| 3. あまりできていない | 16.8% |
| 4. できていない | 4.9% |

問 6. 市内の道路を普段利用する際に、特に不便を感じることはありませんか。

- | | |
|------------|-------|
| 1. 感じない | 12.7% |
| 2. あまり感じない | 39.7% |
| 3. ときどき感じる | 37.2% |
| 4. いつも感じる | 9.4% |

問 7. 市内の公共交通機関の利便性（時間・本数・路線・サービス）に不便を感じていますか。

- | | |
|------------|-------|
| 1. 感じない | 15.3% |
| 2. あまり感じない | 33.2% |
| 3. ときどき感じる | 31.8% |
| 4. いつも感じる | 17.6% |

7. 協働・行政経営について

問 1. 深谷市が人権と個性の尊重されているまちであると思いますか。

- | | |
|--------------|-------|
| 1. たいへんそう思う | 4.9% |
| 2. ある程度はそう思う | 61.6% |
| 3. あまりそう思わない | 24.8% |
| 4. そう思わない | 5.1% |

問 2. この1年間に自分の人権が侵害されたと思ったことはありますか。

- | | |
|-------|-------|
| 1. ある | 7.9% |
| 2. ない | 90.9% |

問 3. お互いの人権について意識をして生活をしていますか。

- | | |
|---------------|-------|
| 1. 日常的に意識している | 27.6% |
| 2. ときどき意識している | 33.1% |
| 3. あまり意識していない | 30.0% |
| 4. 意識していない | 7.9% |

問 4. 市内で、外国人とのトラブルなどを聞いたことはありますか。

- | | |
|-------------|-------|
| 1. よく聞く | 2.2% |
| 2. ときどき聞く | 12.6% |
| 3. あまり聞かない | 45.3% |
| 4. 聞いたことがない | 38.8% |

問５．性別に関係なく、家庭、地域、職場で
対等な役割分担がされていると思いますか。

- | | |
|-------------|-------|
| １．たいへんそう思う | ５．４％ |
| ２．ある程度はそう思う | ５６．３％ |
| ３．あまりそう思わない | ２８．４％ |
| ４．そう思わない | ７．３％ |

問６．男女共同参画の意識は以前と比べて変
化していますか。

- | | |
|------------------|-------|
| １．以前より意識するようになった | ２４．６％ |
| ２．変わらない | ６９．６％ |
| ３．以前より意識しなくなった | ３．１％ |

問７．配偶者などによる「電話、メール等の
細かい監視」「生活費を渡さない」などの行
為が暴力であると思いますか。

- | | |
|--------------------|-------|
| １．どんな場合でも暴力にあたると思う | ３６．１％ |
| ２．暴力の場合とそうでない場合がある | ４４．９％ |
| ３．暴力にあたるとは思わない | ７．２％ |
| ４．分からない | ９．６％ |

問８．市役所における窓口対応についての満
足度をお聞かせください。

- | | |
|------------|-------|
| １．とても満足である | ３２．３％ |
| ２．やや満足している | ５４．９％ |
| ３．やや不満である | ７．７％ |
| ４．不満である | ３．０％ |

問９．市内において、市民と行政が互いに力
を出し合い地域課題を解決すること（協働の
まちづくり）ができていると思いますか。

- | | |
|-------------|-------|
| １．大変そう思う | ４．４％ |
| ２．ある程度はそう思う | ５７．７％ |
| ３．あまりそう思わない | ２９．０％ |
| ４．そう思わない | ５．９％ |

問１０．市民ガーデニングボランティア、王
国ボランティアを知っていますか。

- | | |
|---------|-------|
| １．知っている | ３９．９％ |
| ２．知らない | ５９．０％ |

問１１．花と緑をいかしたまちづくり活動に
興味はありますか。

- | | |
|---------|-------|
| １．興味がある | ６３．１％ |
| ２．興味がない | ３４．７％ |

問１２．花と緑をいかしたまちづくり活動に
参加したいですか。

- | | |
|-----------|-------|
| １．参加したい | ３４．３％ |
| ２．参加したくない | ６１．９％ |

問１３．市のオンラインサービスを利用した
ことがありますか。（例：各種申請手続き、
相談、イベント参加、コンビニ交付など）

- | | |
|-------------|-------|
| １．利用したことがある | ４１．３％ |
| ２．利用したことがない | ５７．１％ |

問１４．「ＳＤＧｓ」という言葉を知ってい
ますか。

- | | |
|------------|-------|
| １．よく理解している | ３６．１％ |
| ２．聞いたことはある | ４９．４％ |
| ３．存在を知らない | １３．０％ |

※ＳＤＧｓ（Sustainable Development Goals）は、２０３０
年を期限とする国際社会全体の開発目標であり、「誰一人取
り残さない」社会の実現を目指すための目標として、１７の
ゴール（目標）が設定されています。

2. 深谷市の施策について

あなたは、深谷市の次の各分野別の行政施策について、どのくらい重要だと思いますか？また、現在の深谷市の取り組みについて、どのくらい満足していますか？
それぞれあてはまるものを1つずつ選び、○をつけてください。

●重要度に関する回答

	重要度（％）					無回答（％）	重要度（点数）
	重要である	まあ重要である	あまり重要でない	まったく重要でない	わからない		
<記入例>	①	2	3	4	5		

◆＜子育て・保健・福祉＞に関すること

子育て支援の充実	61.7	22.3	2.6	1.1	7.4	4.9	1.41
保育環境の充実	59.8	24.4	2.1	1.3	7.2	5.1	1.39
青少年の健全育成の推進	49.6	31.9	3.9	1.0	8.3	5.3	1.25
健康づくりの推進	48.4	36.9	5.7	0.9	4.0	4.1	1.26
地域医療体制の充実	70.7	20.1	1.2	0.3	3.2	4.4	1.60
地域福祉の推進	53.1	32.6	3.6	0.8	5.0	5.0	1.34
高齢者福祉の推進	55.7	30.1	5.0	1.3	3.9	4.0	1.34
障害者福祉の推進	53.9	31.6	4.1	1.2	4.8	4.4	1.33

◆＜教育・文化＞に関すること

「生きる力」を育む学校教育の推進	51.8	30.6	3.4	0.8	7.2	6.2	1.29
家庭・地域・学校の連携と協働による教育力の向上	46.0	37.7	4.7	0.6	6.3	4.8	1.24
生涯学習の推進	29.2	45.0	12.2	1.7	6.9	5.0	0.88
スポーツ・レクリエーションの推進	24.7	43.8	17.1	2.2	7.4	4.8	0.72
郷土の歴史・文化の継承と活用	26.9	48.0	12.1	1.7	6.6	4.8	0.86
渋沢栄一の顕彰と精神の継承	22.8	42.4	17.8	4.8	7.7	4.6	0.61

◆＜産業振興＞に関すること

農地の保全・活用と安定した農業経営の支援	52.6	30.3	2.9	0.9	8.9	4.4	1.31
農畜産物の販売流通体制の充実	46.0	35.9	3.6	0.8	8.8	5.0	1.23
商工業の振興	41.2	39.6	4.1	1.0	8.8	5.3	1.16
観光資源の整備と活用	33.9	42.8	8.6	2.0	8.1	4.7	0.98
就労環境の整備	51.9	32.1	2.7	0.6	7.8	5.0	1.32
産業価値の創出	38.3	38.6	5.2	0.9	11.7	5.3	1.08

重要度（％）					無回答（％）	重要度（点数）
重要である	まあ重要である	あまり重要でない	まったく重要でない	わからない		

◆＜暮らし・環境＞に関すること

災害に強い防災体制の推進	72.0	20.4	1.0	0.0	2.2	4.3	1.63
消防・救急体制の充実	76.3	17.3	0.6	0.0	1.6	4.2	1.69
防犯・空き家対策の推進	66.3	25.1	1.2	0.2	2.6	4.6	1.56
地域コミュニティの推進	33.0	44.7	12.3	1.4	3.9	4.7	0.95
自然・生活環境の保全	44.9	41.3	5.2	0.4	3.3	4.8	1.25
環境衛生の推進	51.4	36.7	3.7	0.2	3.4	4.6	1.35

◆＜都市・生活基盤＞に関すること

良好な市街地・住環境形成の推進	47.4	40.1	2.8	0.4	4.0	5.2	1.31
水の安定供給と下水処理の適正化	70.7	21.8	1.0	0.0	2.0	4.6	1.62
地域の特色を生かした魅力ある景観形成	31.3	42.0	14.2	1.6	5.7	5.2	0.87
治水対策の推進	51.4	32.3	3.9	0.1	7.1	5.1	1.31
道路・交通環境整備の推進	60.2	29.9	2.9	0.0	2.2	4.8	1.47
公共交通の維持確保と交通安全の推進	56.2	33.0	2.6	0.1	3.1	5.0	1.43

◆＜協働・行政経営＞に関すること

人権・個性が尊重される社会づくりの推進	45.2	36.4	6.1	1.0	6.4	4.8	1.19
男女共同参画の実現	34.9	40.8	11.0	1.9	6.4	5.0	0.96
移住・定住の推進	29.1	38.3	16.6	3.2	8.1	4.7	0.74
市民との協働・交流の推進	24.9	42.2	17.2	1.8	8.6	5.3	0.71
行政デジタル化の推進	31.2	38.0	15.0	2.7	8.1	5.0	0.80
行財政運営の推進	36.9	38.7	6.6	1.4	11.2	5.2	1.03

●満足度に関する回答

	満足度（％）					無回答（％）	満足度（点数）
	満足である	まあ満足である	やや不満である	不満である	わからない		
<記入例>	①	2	3	4	5		

◆＜子育て・保健・福祉＞に関すること

子育て支援の充実	10.9	39.0	10.6	3.7	27.8	8.1	0.43
保育環境の充実	9.2	38.6	9.1	3.0	31.6	8.6	0.42
青少年の健全育成の推進	4.3	36.0	11.0	1.8	38.1	8.8	0.30
健康づくりの推進	7.1	47.4	11.4	3.0	23.4	7.6	0.44
地域医療体制の充実	7.0	42.6	21.0	7.4	14.9	7.1	0.21
地域福祉の推進	5.6	37.0	13.4	4.4	31.8	7.8	0.26
高齢者福祉の推進	5.2	36.2	16.0	5.8	29.7	7.1	0.19
障害者福祉の推進	5.1	31.7	13.1	4.3	38.0	7.8	0.20

◆＜教育・文化＞に関すること

「生きる力」を育む学校教育の推進	5.0	31.4	11.9	2.6	38.3	10.8	0.24
家庭・地域・学校の連携と協働による教育力の向上	4.7	34.2	13.0	2.4	36.4	9.2	0.26
生涯学習の推進	4.0	36.4	10.3	2.9	36.7	9.7	0.28
スポーツ・レクリエーションの推進	5.0	38.1	11.4	3.3	32.7	9.4	0.30
郷土の歴史・文化の継承と活用	8.6	43.9	8.8	2.4	27.3	9.0	0.47
渋沢栄一の顕彰と精神の継承	13.7	43.8	6.9	1.9	25.3	8.4	0.60

◆＜産業振興＞に関すること

農地の保全・活用と安定した農業経営の支援	2.9	30.0	12.9	6.6	39.2	8.4	0.10
農畜産物の販売流通体制の充実	4.4	35.7	10.3	4.2	36.7	8.7	0.26
商工業の振興	2.9	31.3	12.4	5.4	38.8	9.1	0.14
観光資源の整備と活用	4.0	30.9	15.0	5.3	36.1	8.7	0.13
就労環境の整備	2.3	27.4	16.1	7.7	37.9	8.6	0.01
産業価値の創出	2.2	26.4	13.2	6.1	43.2	8.8	0.05

満足度（％）					無回答（％）	満足度（点数）
満足である	まあ満足である	やや不満である	不満である	わからない		

◆＜暮らし・環境＞に関すること

災害に強い防災体制の推進	5.0	40.8	15.4	3.8	26.4	8.6	0.28
消防・救急体制の充実	9.6	47.1	10.9	3.4	21.1	7.9	0.48
防犯・空き家対策の推進	3.3	29.2	20.2	11.8	27.1	8.3	-0.08
地域コミュニティの推進	4.6	37.2	12.9	4.6	32.4	8.3	0.24
自然・生活環境の保全	4.4	38.9	14.0	5.3	29.3	8.0	0.23
環境衛生の推進	6.8	38.9	13.4	4.7	27.8	8.4	0.30

◆＜都市・生活基盤＞に関すること

良好な市街地・住環境形成の推進	5.8	42.3	13.9	6.2	22.0	9.8	0.28
水の安定供給と下水処理の適正化	13.8	44.1	11.4	6.6	15.0	9.1	0.47
地域の特色を生かした魅力ある景観形成	4.4	39.0	14.7	5.0	27.3	9.6	0.23
治水対策の推進	5.7	37.2	9.6	3.9	34.4	9.2	0.31
道路・交通環境整備の推進	5.3	37.6	19.9	12.6	16.0	8.7	0.03
公共交通の維持確保と交通安全の推進	5.0	37.7	18.2	11.4	18.6	9.1	0.07

◆＜協働・行政経営＞に関すること

人権・個性が尊重される社会づくりの推進	6.0	37.1	9.7	3.2	34.6	9.4	0.33
男女共同参画の実現	4.3	35.6	10.2	4.0	36.8	9.1	0.26
移住・定住の推進	4.0	32.1	11.3	5.1	39.0	8.4	0.19
市民との協働・交流の推進	3.4	34.1	10.2	3.6	39.9	8.8	0.24
行政デジタル化の推進	5.2	35.2	14.2	6.4	30.4	8.4	0.19
行財政運営の推進	4.8	32.0	10.1	4.7	39.6	8.9	0.22

3. 自由記入欄（まちづくり全般について）

これからの深谷市のまちづくりについて、ご意見などがありましたら自由にお書き下さい。

4. 最後に、あなた自身のことについておたずねします。

次のア～ウについて、あてはまる番号に○をつけてください。

ア. 性別	1	男性	37.4%	2	女性	55.0%	3	回答しない	7.6%
イ. 年齢 (無回答 1.2%)	1	10 歳代	0.8%	2	20 歳代	5.6%	3	30 歳代	11.1%
	4	40 歳代	13.2%	5	50 歳代	20.7%	6	60 歳代	19.2%
	7	70 歳以上	28.2%						
ウ. お住まいの地区 (公民館の区域) (無回答 1.9%)	1	深谷地区	25.9%	2	藤沢地区	7.4%	3	幡羅地区	10.8%
	4	明戸地区	1.9%	5	大寄地区	2.3%	6	八基地区	2.6%
	7	豊里地区	2.8%	8	上柴地区	12.1%	9	南地区	7.2%
	10	岡部地区	11.4%	11	川本地区	5.9%	12	花園地区	7.8%